

# 人権・男女共同参画に関する市民意識調査 結果報告書

令和6年12月

津 島 市



# 目次

<b>I</b>	<b>調査概要</b>	<b>1</b>
1	調査の目的	1
2	調査項目	1
3	調査方法等	2
4	回収結果	2
5	報告書の見方	2
6	回答者の属性	3
<b>II</b>	<b>調査結果</b>	<b>6</b>
1	人権に関する市民意識調査項目	6
(1)	人権意識について	6
(2)	女性の人権について	14
(3)	こどもの人権について	17
(4)	高齢者の人権について	20
(5)	障がいのある人の人権について	22
(6)	外国人の人権について	25
(7)	エイズ患者・HIV(エイズウイルス)感染者、ハンセン病回復者等の人権について	28
(8)	インターネットによる人権侵害について	32
(9)	職場における人権について	38
(10)	身元調査について	41
(11)	部落差別(同和問題)について	44
(12)	性的少数者の人権について	55
(13)	人権尊重の取組及び啓発活動への参加、認知について	61
2	男女共同参画に関する市民意識調査項目	68
(1)	男女の平等感について	68
(2)	仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について	87
(3)	男女の働き方について	96
(4)	配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)について	108
(5)	こどもへの男女共同参画教育について	113
(6)	男女共同参画社会について	116
3	自由意見のまとめ	125
<b>III</b>	<b>調査票</b>	<b>127</b>



# I 調査概要

## 1 調査の目的

---

本業務は、令和3年度から令和12年度の10年間を計画期間とする「津島市人権施策推進プラン2030」及び「津島市男女共同参画プラン2030」の中間年における改定にあたり、市民の人権と男女共同参画に関する意識や実態を把握し、効果的な施策の推進を図るための基礎資料を得ることを目的とします。

## 2 調査項目

---

### 《 人権に関する市民意識調査項目 》

- (1) 人権意識について
- (2) 女性の人権について
- (3) こどもの人権について
- (4) 高齢者の人権について
- (5) 障がいのある人の人権について
- (6) 外国人の人権について
- (7) エイズ患者・HIV(エイズウイルス)感染者、ハンセン病回復者等の人権について
- (8) インターネットによる人権侵害について
- (9) 職場における人権について
- (10) 身元調査について
- (11) 部落差別(同和問題)について
- (12) 性的少数者の人権について
- (13) 人権尊重の取組及び啓発活動への参加、認知について

### 《 男女共同参画に関する市民意識調査項目 》

- (1) 男女の平等感について
- (2) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について
- (3) 男女の働き方について
- (4) 配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)について
- (5) こどもへの男女共同参画教育について
- (6) 男女共同参画社会について

### 3 調査方法等

---

(1)調査地域	津島市全域
(2)調査対象	津島市内に居住する18歳以上の人
(3)標本数	2,000人
(4)抽出方法	住民基本台帳をもとに無作為抽出
(5)調査方法	郵送による配布、郵送及びインターネットによる回収
(6)調査期間	令和6年7月3日(水)～7月31日(水)

### 4 回収結果

---

(1)配布数	2,000票
(2)有効回収数	836票(うちインターネット回答150票)
(3)有効回収率	41.8%

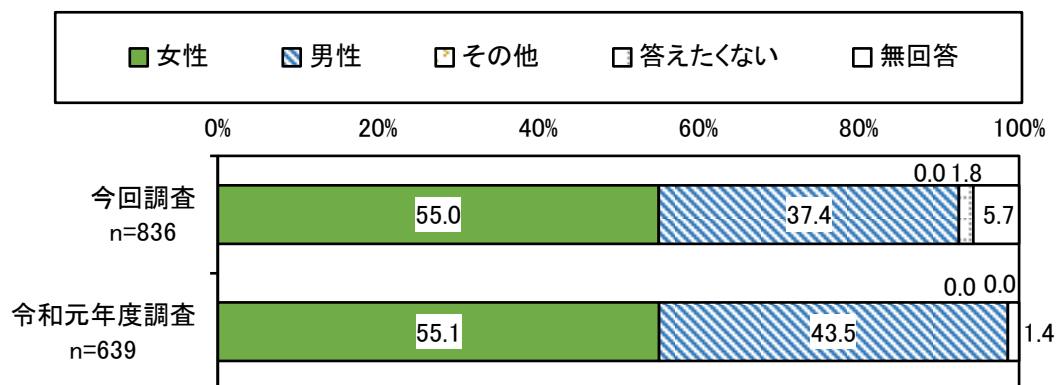
### 5 報告書の見方

---

- (1)グラフに表示されているn値はサンプル数(有効回答数)を示します。比率はすべてパーセント(%)で表し、n値を100%として算出しています。
- (2)比率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため合計が100%にならないこともあります。
- (3)複数回答が可能な質問では、各項目の比率の合計は100%を超える場合があります。
- (4)性別、性・年齢別のサンプル数(有効回答数)は、無回答がある場合、合計が全体数より少なくなります。
- (5)本報告書の文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。
- (6)経年比較については「令和元年度津島市人権・男女共同参画に関する市民意識調査」の結果と比較しています。
- (7)調査結果の表について、最も数値の高いものは 、二番目に数値の高いものは  で網掛けをしています。

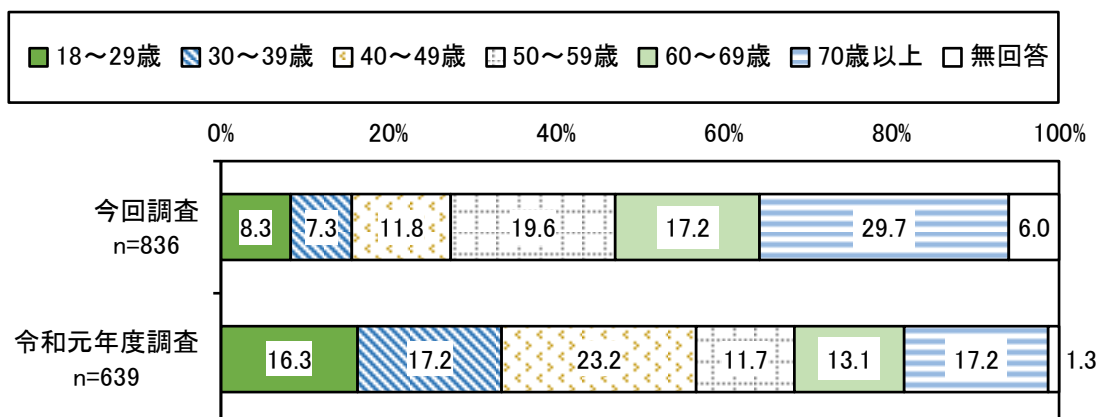
## 6 回答者の属性

### 【 性別 】

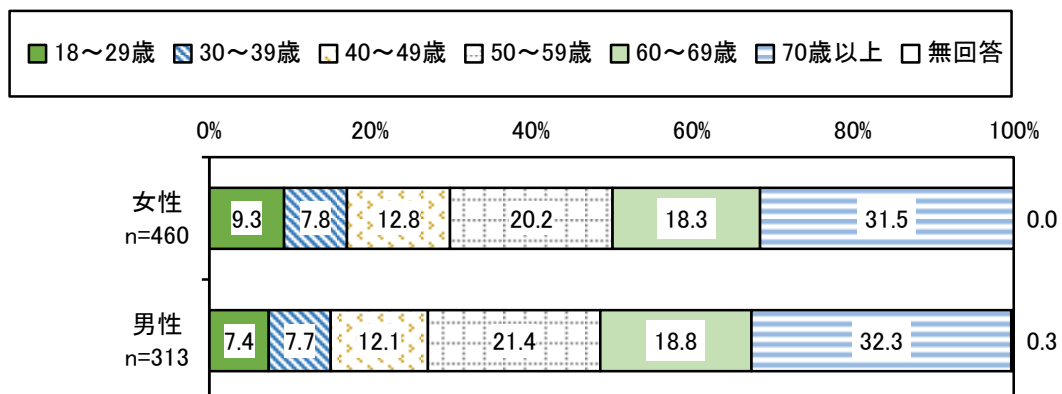


※令和元年度調査に「その他」「答えたくない」の選択肢なし

### 【 年齢 】

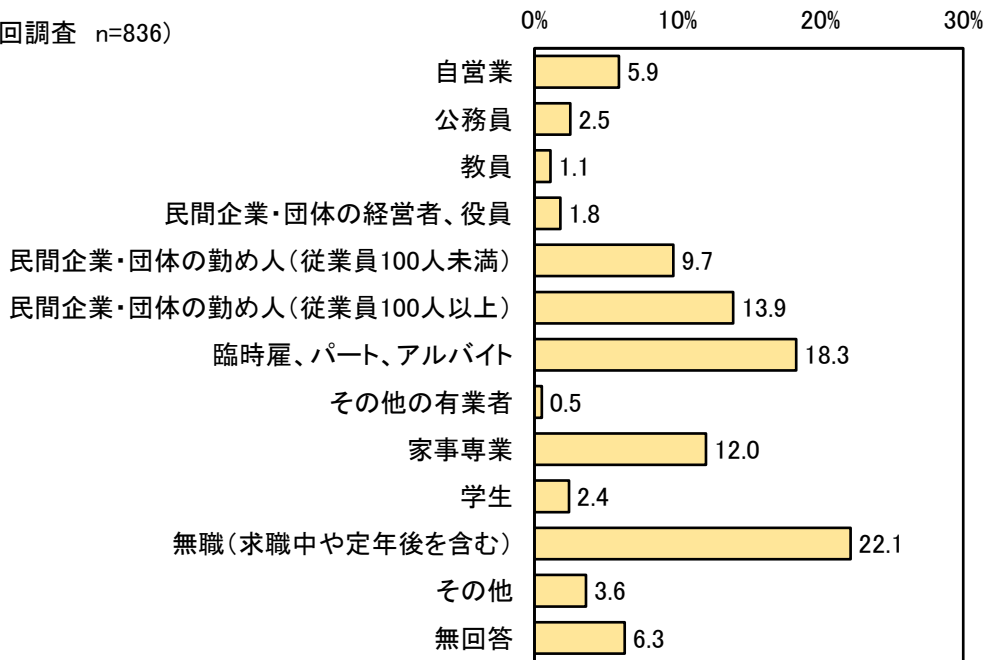


### 【 性・年齢別 】

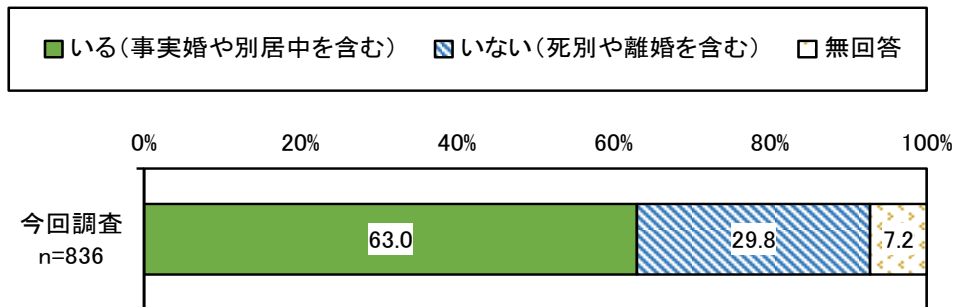


## 【 職業 】

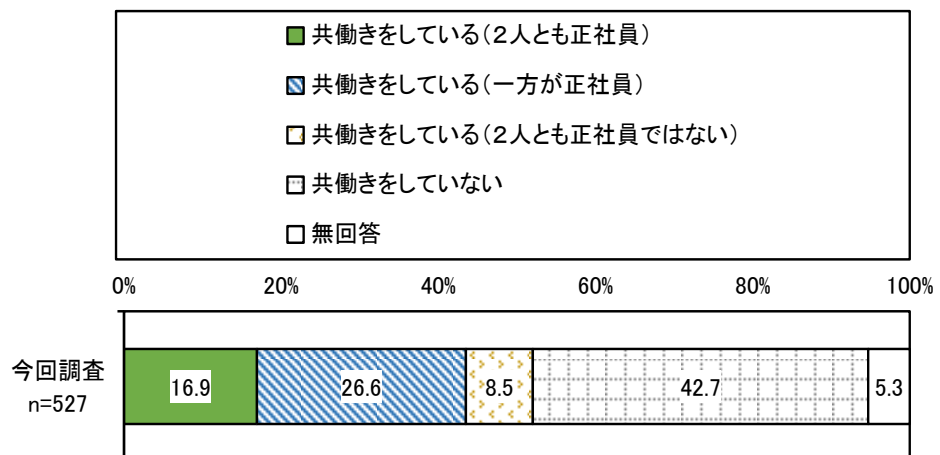
(今回調査 n=836)



## 【 未婚・既婚の別 】

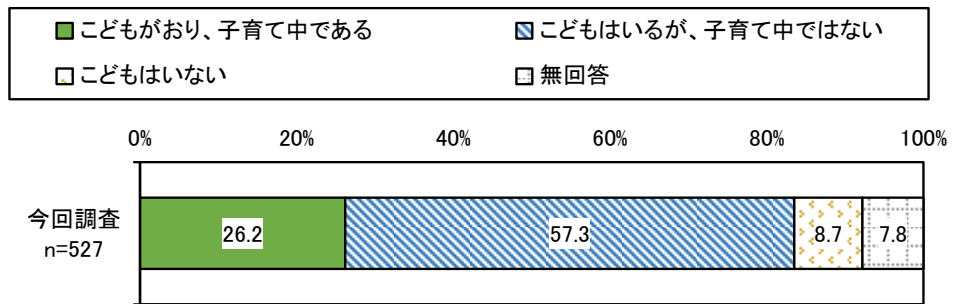


## 【 共働きの有無 】

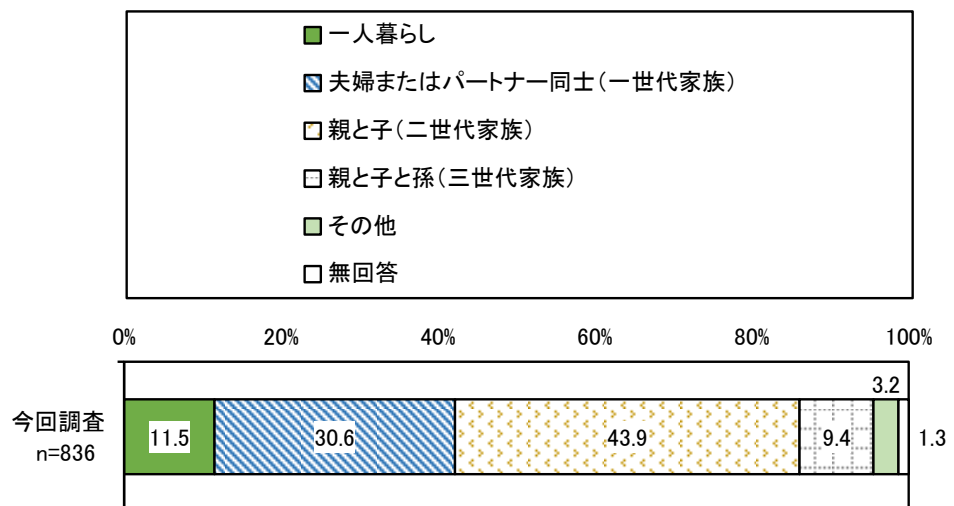




【 こどもの有無 】



【 家族構成 】



## II 調査結果

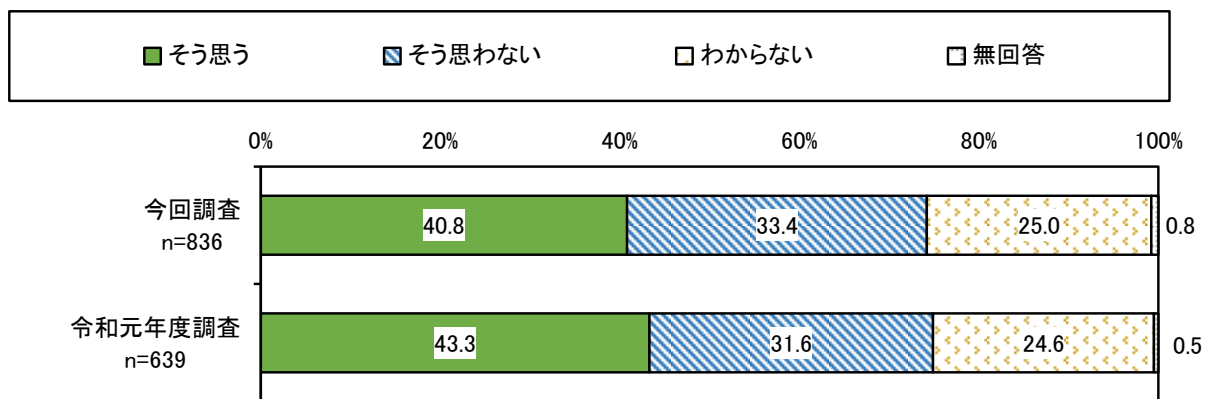
### 1 人権に関する市民意識調査項目

#### (1) 人権意識について

問1 今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。(○は1つ)

今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思うかについて、全体では、「そう思う」が40.8%、「そう思わない」が33.4%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「そう思う」が減少しています。



		有効回答数 (件)	そう思う (%)	そう思わない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体		836	40.8	33.4	25.0	0.8
女性		460	36.7	33.5	29.1	0.7
男性		313	47.0	34.5	18.2	0.3
答えたくない		15	26.7	26.7	40.0	6.7
女性	18～29歳	43	41.9	25.6	32.6	0.0
	30～39歳	36	33.3	44.4	22.2	0.0
	40～49歳	59	39.0	27.1	33.9	0.0
	50～59歳	93	31.2	37.6	29.0	2.2
	60～69歳	84	33.3	38.1	28.6	0.0
	70歳以上	145	40.7	30.3	28.3	0.7
男性	18～29歳	23	65.2	17.4	17.4	0.0
	30～39歳	24	37.5	41.7	20.8	0.0
	40～49歳	38	47.4	34.2	18.4	0.0
	50～59歳	67	41.8	34.3	23.9	0.0
	60～69歳	59	44.1	37.3	16.9	1.7
	70歳以上	101	49.5	35.6	14.9	0.0

性別にみると、「そう思う」は、男性の方が女性より10.3ポイント高く、「そう思わない」は、1.0ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「そう思う」は、男性の「18～29歳」が65.2%と最も高く、次いで男性の「70歳以上」が49.5%、男性の「40～49歳」が47.4%となっています。

「そう思わない」は、女性の「30～39歳」が44.4%と最も高く、次いで男性の「30～39歳」が41.7%、女性の「60～69歳」が38.1%となっています。

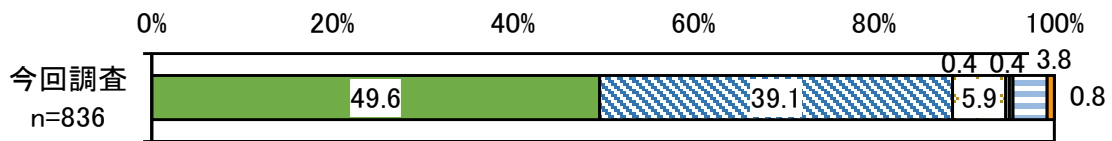
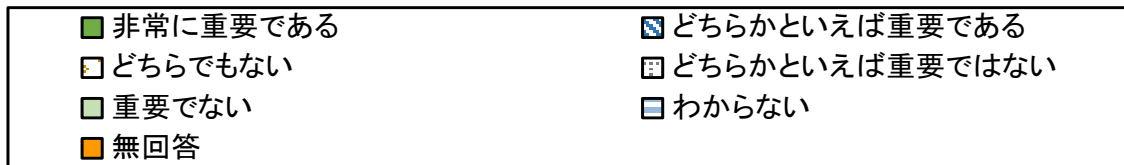
問2 人権についてあなたの考えに近いものはどれですか。(〇は1つ)

人権について、全体では、『重要である』が88.7%となっています。

※問2の選択肢にかかる表現については、以下のように区分しています。

『重要である』:「非常に重要である」+「どちらかといえば重要である」

『重要ではない』:「どちらかといえば重要ではない」+「重要でない」



	有効回答数(件)	重要である			重要ではない			わからない	無回答
		非常に重要である	どちらかといえば重要である	どちらでもない	どちらかといえば重要ではない	重要でない			
全体	836	49.6	39.1	5.9	0.4	0.4	3.8	0.8	
女性	460	51.3	38.5	4.8	0.4	0.2	4.3	0.4	
男性	313	49.5	39.0	6.4	0.3	0.6	3.5	0.6	
答えたくない	15	46.7	20.0	26.7	0.0	0	0	6.7	
女性	18~29歳	43	67.4	27.9	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0
	30~39歳	36	47.2	47.2	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0
	40~49歳	59	62.7	28.8	6.8	0.0	0.0	1.7	0.0
	50~59歳	93	50.5	39.8	5.4	0.0	0.0	2.2	2.2
	60~69歳	84	57.1	36.9	3.6	0.0	1.2	1.2	0.0
	70歳以上	145	40.0	43.4	6.9	1.4	0.0	8.3	0.0
男性	18~29歳	23	43.5	43.5	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0
	30~39歳	24	54.2	25.0	8.3	4.2	4.2	4.2	0.0
	40~49歳	38	50.0	36.8	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	50~59歳	67	55.2	37.3	3.0	0.0	0.0	4.5	0.0
	60~69歳	59	49.2	40.7	6.8	0.0	0.0	1.7	1.7
	70歳以上	101	46.5	41.6	5.0	0.0	0.0	5.9	1.0

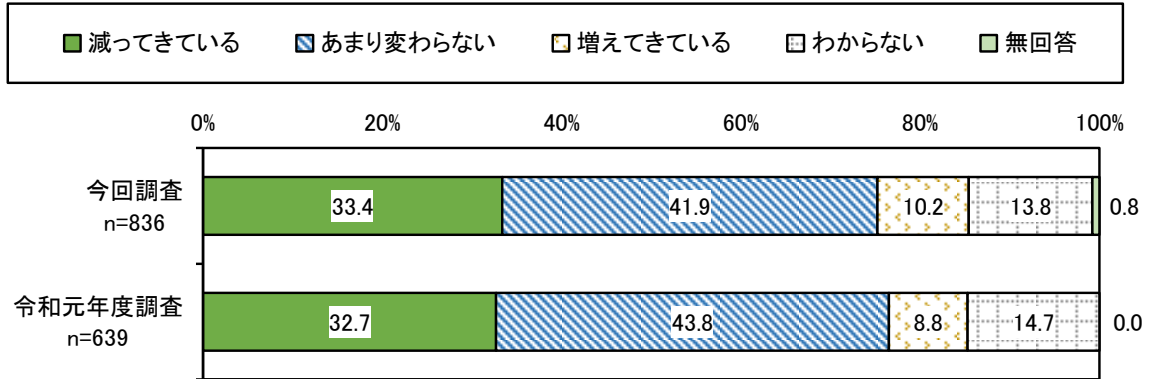
性別にみると、『重要である』は、女性の方が男性より1.3ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、『重要である』は、女性の「18~29歳」が95.3%と最も高く、次いで女性の「30~39歳」が94.4%、女性の「60~69歳」が94.0%となっています。

問3 日本社会における人権侵害や差別は、10年前(平成26年)に比べてどのようになってきていると思いますか。(〇は1つ)

10年前と比べた日本社会における人権侵害や差別について、全体では、「あまり変わらない」が41.9%で最も高く、次いで「減ってきている」が33.4%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「減ってきている」が増加傾向にあります。



		有効回答数(件)	減ってきている	あまり変わらない	増えてきている	わからない	無回答
全体		836	33.4	41.9	10.2	13.8	0.8
女性		460	32.8	40.2	10.0	16.5	0.4
男性		313	34.2	44.1	11.2	9.9	0.6
答えたくない		15	20.0	46.7	13.3	13.3	6.7
女性	18～29歳	43	32.6	25.6	11.6	30.2	0.0
	30～39歳	36	27.8	38.9	13.9	19.4	0.0
	40～49歳	59	37.3	42.4	10.2	10.2	0.0
	50～59歳	93	35.5	38.7	8.6	15.1	2.2
	60～69歳	84	29.8	41.7	13.1	15.5	0.0
	70歳以上	145	32.4	44.1	7.6	15.9	0.0
男性	18～29歳	23	30.4	39.1	0.0	30.4	0.0
	30～39歳	24	20.8	58.3	12.5	8.3	0.0
	40～49歳	38	50.0	31.6	15.8	2.6	0.0
	50～59歳	67	34.3	43.3	11.9	10.4	0.0
	60～69歳	59	30.5	45.8	13.6	8.5	1.7
	70歳以上	101	33.7	46.5	9.9	8.9	1.0

性別にみると、「減ってきている」は、男性の方が女性より1.4ポイント高く、「あまり変わらない」は、3.9ポイント高くなっています。

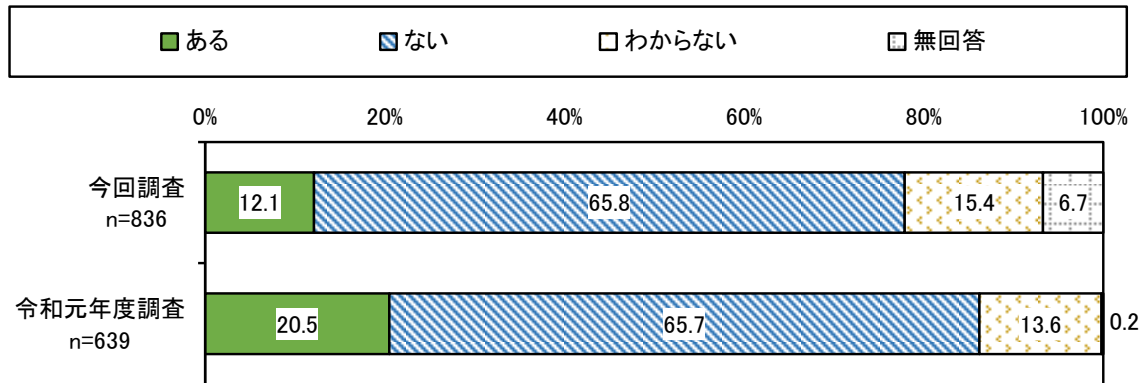
性年齢別にみると、「減ってきている」は、男性の「40～49歳」が50.0%と最も高く、次いで女性の「40～49歳」が37.3%、女性の「50～59歳」が35.5%となっています。

「あまり変わらない」は、男性の「30～39歳」が58.3%と最も高く、次いで男性の「70歳以上」が46.5%、男性の「60～69歳」が45.8%となっています。

問4 この10年ほどの間に、自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(○は1つ)

この10年ほどの間に、自分の人権が侵害されたと思ったことがあるかについて、全体では、「ある」が12.1%、「ない」が65.8%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「ある」が減少傾向にあります。



(%)

		有効回答数 (件)	ある	ない	わからない	無回答
全体		836	12.1	65.8	15.4	6.7
女性		460	14.6	63.5	16.1	5.9
男性		313	8.6	70.6	14.4	6.4
答えたくない		15	26.7	33.3	26.7	13.3
女性	18～29歳	43	16.3	53.5	16.3	14.0
	30～39歳	36	27.8	52.8	13.9	5.6
	40～49歳	59	20.3	61.0	15.3	3.4
	50～59歳	93	14.0	67.7	17.2	1.1
	60～69歳	84	21.4	59.5	14.3	4.8
	70歳以上	145	4.8	69.7	17.2	8.3
男性	18～29歳	23	8.7	69.6	21.7	0.0
	30～39歳	24	25.0	62.5	4.2	8.3
	40～49歳	38	7.9	76.3	10.5	5.3
	50～59歳	67	9.0	70.1	13.4	7.5
	60～69歳	59	8.5	76.3	11.9	3.4
	70歳以上	101	5.0	67.3	18.8	8.9

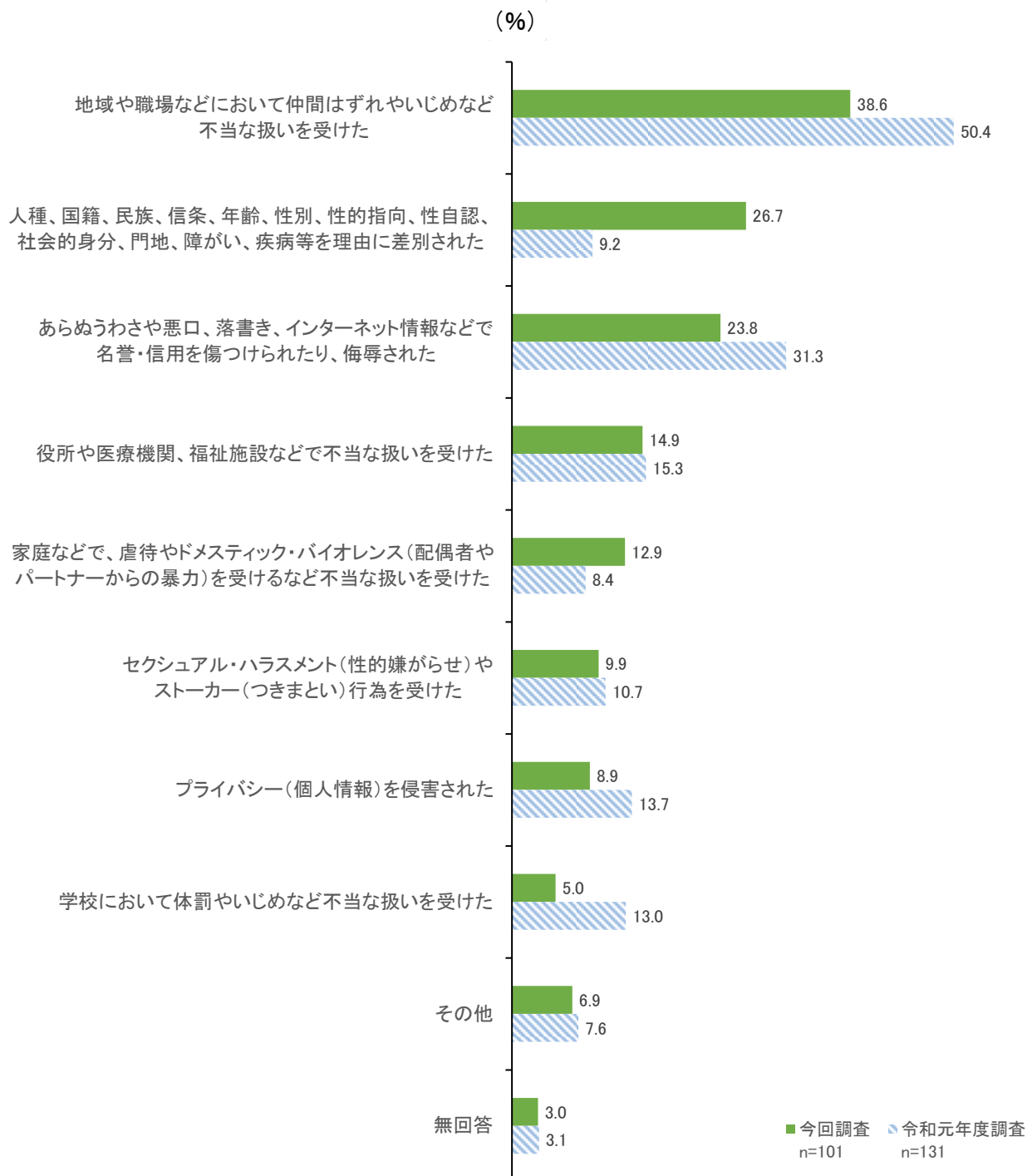
性別にみると、「ある」は、女性の方が男性より6.0ポイント高く、「ない」は、男性の方が女性より7.1ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「ある」は、女性の「30～39歳」が27.8%と最も高く、次いで男性の「30～39歳」が25.0%、女性の「60～69歳」が21.4%となっています。

「ない」は、男性の「40～49歳」と男性の「60～69歳」がともに76.3%と最も高く、次いで男性の「50～59歳」が70.1%、女性の「70歳以上」が69.7%となっています。

**問4で「1. ある」と答えた方にお聞きします。**

問4-1 自分の人権を侵害されたと思ったのは、特にどんな場合であったかお聞かせください。(〇はいくつでも)



	有効回答数（件）	地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた	差別された	人種、国籍、民族、信条、年齢、性別、性的指向、性自認、社会的身分、門地、障がい、疾病等を理由に	インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された	あらゆるわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を	役所や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた	家庭などで、虐待やドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）を受けるなど不当な扱いを受けた	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）やストーカ（つきまと	プライバシー（個人情報）を侵害された	学校において体罰やいじめなど不当な扱いを受けた	その他	無回答
全体	101	38.6	26.7	23.8	14.9	12.9	9.9	8.9	5.0	6.9	3.0		
女性	67	44.8	25.4	29.9	10.4	16.4	13.4	11.9	3.0	7.5	0.0		
男性	27	25.9	33.3	11.1	25.9	0.0	3.7	0.0	7.4	7.4	11.1		
答えたくない	4	25.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
18～29歳	10	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	30.0	10.0	20.0	0.0	0.0		
30～39歳	16	37.5	31.3	25.0	6.3	6.3	18.8	12.5	6.3	6.3	0.0		
40～49歳	16	43.8	37.5	31.3	18.8	0.0	6.3	6.3	0.0	18.8	0.0		
50～59歳	21	47.6	9.5	23.8	9.5	19.0	9.5	9.5	4.8	9.5	9.5		
60～69歳	23	52.2	21.7	13.0	21.7	8.7	4.3	13.0	0.0	4.3	4.3		
70歳以上	12	16.7	33.3	41.7	25.0	25.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0		

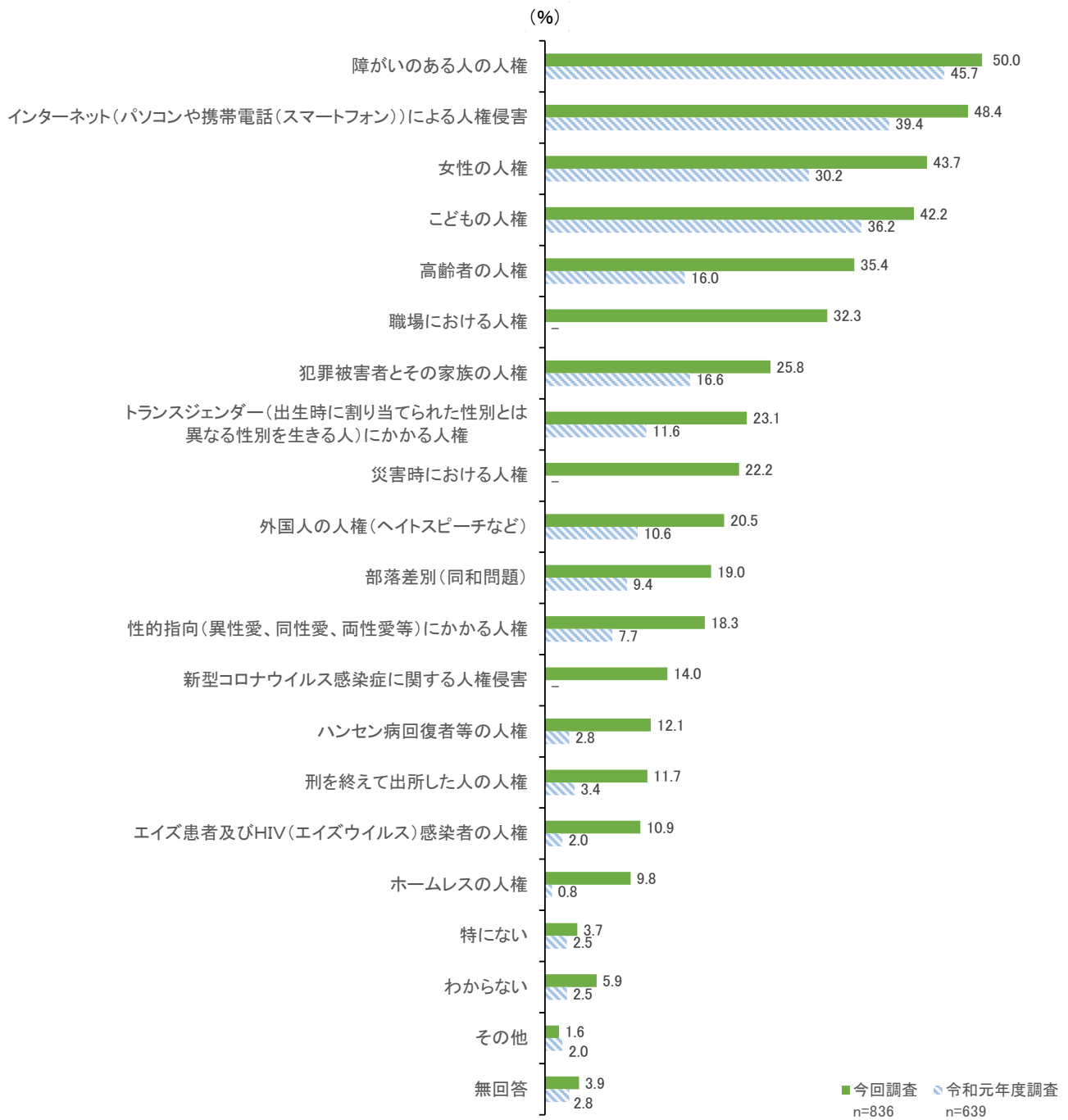
自分の人権が侵害されたと思ったことについて、全体では「地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた」が38.6%と最も高く、次いで「人種、国籍、民族、信条、年齢、性別、性的指向、性自認、社会的身分、門地、障がい、疾病等を理由に差別された」が26.7%、「あらゆるわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された」が23.8%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「人種、国籍、民族、信条、年齢、性別、性的指向、性自認、社会的身分、門地、障がい、疾病等を理由に差別された」と「家庭などで、虐待やドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）を受けるなど不当な扱いを受けた」が増加傾向にあります。

性別にみると、「地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた」は女性の方が男性より18.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた」は「60～69歳」が52.2%と最も高く、次いで「50～59歳」が47.6%、「40～49歳」が43.8%となっています。

問5 人権にかかわる問題として、特に重要な問題は、どれだと思いますか。(〇はいくつでも)





(%)

	有効回答数（件）	障がいのある人の人権	インターネット（パソコンや携帯電話（スマートフォン）による人権侵害	女性の人権	こどもの人権	高齢者の人権	職場における人権	犯罪被害者とその家族の人権	性別を生きる人（性別とは異なる性別を生きる人）にかかる人権	トランスジェンダー（出生時に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人）にかかる人権	災害時における人権	外国人の人権（ヘイトスピーチなど）	部落差別（同和問題）
全体	836	50.0	48.4	43.7	42.2	35.4	32.3	25.8	23.1	22.2	20.5	19.0	
女性	460	51.3	51.7	47.6	44.1	37.8	34.1	27.0	27.8	22.2	20.7	17.8	
男性	313	51.1	46.6	39.3	40.9	32.3	30.7	25.2	18.2	23.0	20.8	22.7	
答えたくない	15	20.0	40.0	20.0	33.3	0.0	6.7	6.7	13.3	0.0	20.0	40.0	
18～29歳	70	51.4	45.7	42.9	42.9	24.3	31.4	28.6	35.7	25.7	28.6	15.7	
30～39歳	61	45.9	65.6	55.7	52.5	27.9	47.5	27.9	37.7	26.2	23.0	19.7	
40～49歳	99	48.5	61.6	44.4	50.5	26.3	41.4	24.2	25.3	27.3	23.2	21.2	
50～59歳	164	51.2	62.8	48.2	43.3	29.3	36.0	26.2	29.3	23.2	19.5	19.5	
60～69歳	144	54.9	52.8	44.4	44.4	41.7	35.4	27.1	20.8	22.9	21.5	18.1	
70歳以上	248	50.4	30.6	37.9	35.9	44.4	22.2	25.4	14.1	18.1	16.5	20.6	

(%)

	有効回答数（件）	性的指向（異性愛、同性愛、両性愛等）にかかる人権	新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害	ハンセン病回復者等のの人権	刑を終えて出所した人の人権	エイズ患者及びHIV（エイズウイルス）感染者の人権	ホームレスの人権	特にな	わからない	その他	無回答
全体	836	18.3	14.0	12.1	11.7	10.9	9.8	3.7	5.9	1.6	3.9
女性	460	22.0	15.2	13.3	12.4	12.4	9.6	2.8	7.2	1.3	3.5
男性	313	14.4	14.4	11.5	11.8	9.6	10.9	4.2	2.6	1.9	4.5
答えたくない	15	6.7	6.7	13.3	6.7	33.3	20.0	6.7	6.7	13.3	6.7
18～29歳	70	31.4	14.3	15.7	8.6	14.3	15.7	4.3	4.3	7.1	4.3
30～39歳	61	29.5	18.0	13.1	14.8	11.5	11.5	3.3	1.6	1.6	4.9
40～49歳	99	19.2	16.2	10.1	7.1	13.1	14.1	1.0	5.1	2.0	2.0
50～59歳	164	22.6	13.4	12.2	7.9	10.4	6.1	1.8	4.3	1.2	2.4
60～69歳	144	17.4	16.7	11.8	11.8	9.7	10.4	2.1	1.4	0.7	2.8
70歳以上	248	10.9	13.3	13.3	16.9	10.9	8.9	6.0	10.1	0.8	6.0

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている

※令和元年度調査に「職場における人権」「災害時における人権」「新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害」の選択肢なし

人権にかかわる特に重要な問題について、全体では「障がいのある人の人権」が 50.0%と最も高く、次いで「インターネット（パソコンや携帯電話（スマートフォン）による人権侵害」が 48.4%、「女性の人権」が 43.7%となっています。

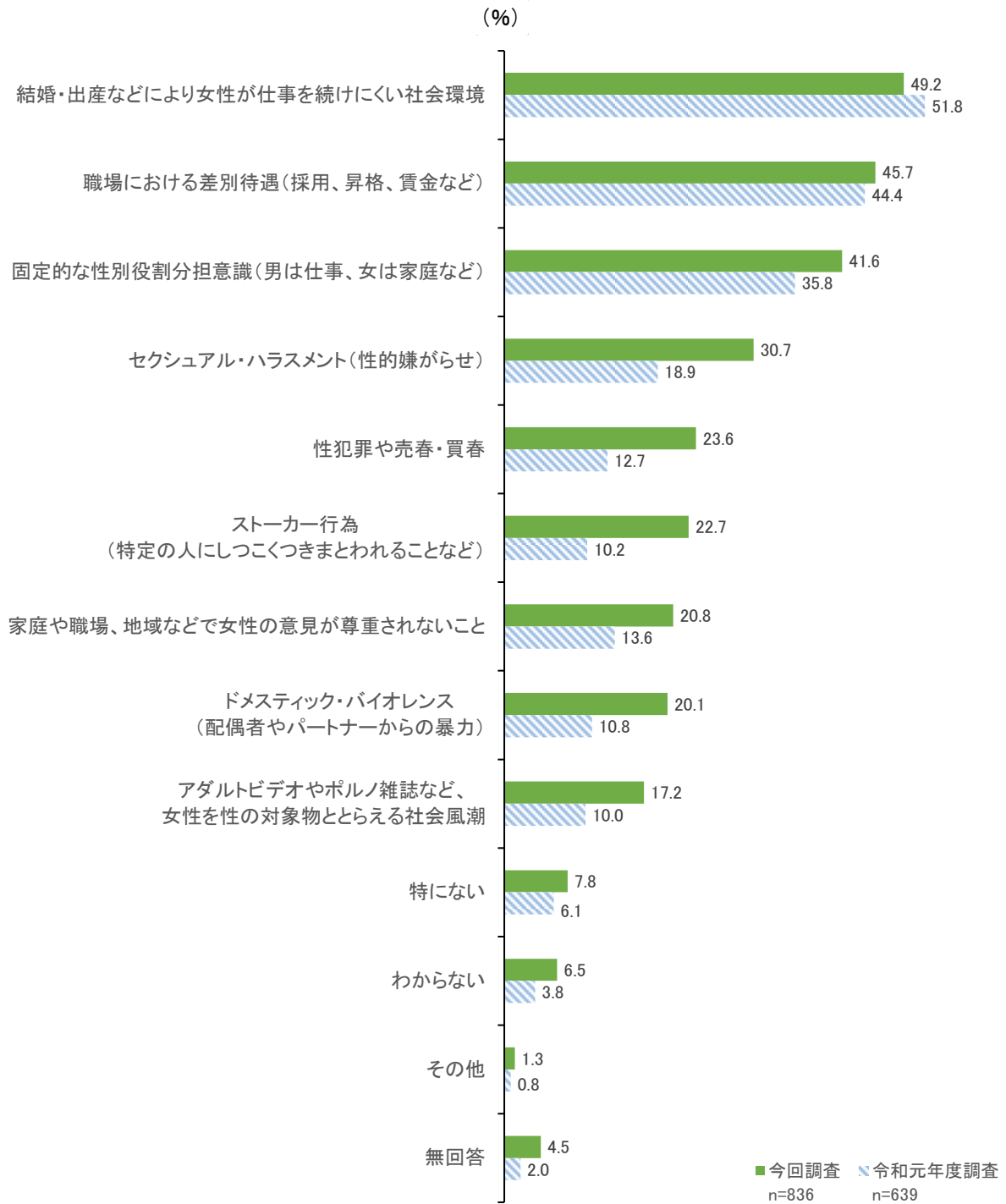
今回調査と令和元年度調査を比較すると、全体を通じて今回調査の割合が高くなっています。

性別にみると、「トランスジェンダー（出生時に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人）にかかる人権」は女性の方が男性より 9.6 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「障がいのある人の人権」は、「60～69歳」が 54.9%と最も高く、次いで「18～29歳」が 51.4%、「50～59歳」がともに 51.2%となっています。

## (2) 女性の人権について

問6 女性の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数(件)	女性が仕事を続けるに 社会環境	結婚・出産などに よる	職場における差別待遇 (採用、昇格、賃金 など)	固定的な性別役割分 担(男は仕事、女は 家庭など)	セクシュアル・ハラ ース(性的嫌がら せ)	性犯罪や売春・買 春	ストーカー行為(特 定のしつこくつき ま)	家庭や職場、地域な どで女性の意見が 尊重されないこと
全体	836	49.2	45.7	41.6	30.7	23.6	22.7	20.8	
女性	460	52.4	48.3	43.0	31.7	26.1	22.6	23.9	
男性	313	45.0	43.1	39.9	31.0	19.8	24.0	16.3	
答えたくない	15	40.0	40.0	33.3	60.0	26.7	20.0	6.7	
女性	18～29歳	43	69.8	51.2	23.3	37.2	25.6	20.9	23.3
	30～39歳	36	75.0	50.0	63.9	38.9	27.8	19.4	30.6
	40～49歳	59	55.9	47.5	50.8	45.8	37.3	30.5	39.0
	50～59歳	93	55.9	43.0	47.3	39.8	30.1	31.2	25.8
	60～69歳	84	47.6	65.5	41.7	29.8	23.8	17.9	23.8
	70歳以上	145	40.7	40.7	38.6	18.6	20.0	17.9	15.2
男性	18～29歳	23	34.8	34.8	34.8	30.4	26.1	26.1	17.4
	30～39歳	24	37.5	37.5	33.3	37.5	16.7	25.0	20.8
	40～49歳	38	52.6	28.9	21.1	28.9	13.2	26.3	10.5
	50～59歳	67	38.8	43.3	41.8	34.3	22.4	23.9	11.9
	60～69歳	59	45.8	47.5	47.5	32.2	18.6	28.8	15.3
	70歳以上	101	50.5	49.5	44.6	27.7	19.8	19.8	20.8

(%)

	有効回答数(件)	パートナーからの暴 力	ドメスティック・バ イ	会風潮	の対 象物 とと らえ る性 社	ノ ダ ルト ビ デオ やポ ル ン	ア ダ ルト ビ デオ やポ ル ン	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体	836	20.1	17.2	7.8	6.5	1.3	4.5				
女性	460	20.9	22.2	5.7	7.4	2.2	4.3				
男性	313	20.4	11.5	10.2	4.2	0.3	4.5				
答えたくない	15	26.7	20.0	0.0	6.7	6.7	6.7				
女性	18～29歳	43	20.9	27.9	2.3	2.3	7.0	7.0			
	30～39歳	36	19.4	25.0	2.8	0.0	2.8	5.6			
	40～49歳	59	23.7	32.2	3.4	3.4	5.1	3.4			
	50～59歳	93	20.4	20.4	1.1	7.5	1.1	1.1			
	60～69歳	84	20.2	16.7	6.0	1.2	1.2	3.6			
	70歳以上	145	20.7	20.0	11.0	15.9	0.7	6.2			
男性	18～29歳	23	21.7	17.4	17.4	4.3	0.0	0.0			
	30～39歳	24	33.3	8.3	12.5	0.0	0.0	4.2			
	40～49歳	38	10.5	7.9	13.2	7.9	0.0	2.6			
	50～59歳	67	20.9	9.0	10.4	1.5	0.0	6.0			
	60～69歳	59	20.3	10.2	10.2	1.7	0.0	1.7			
	70歳以上	101	20.8	14.9	6.9	6.9	1.0	6.9			

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている

女性の人権問題について、全体では「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」が49.2%と最も高く、次いで「職場における差別待遇（採用、昇格、賃金など）」が45.7%、「固定的な性別役割分担意識（男は仕事、女は家庭など）」が41.6%となっています。

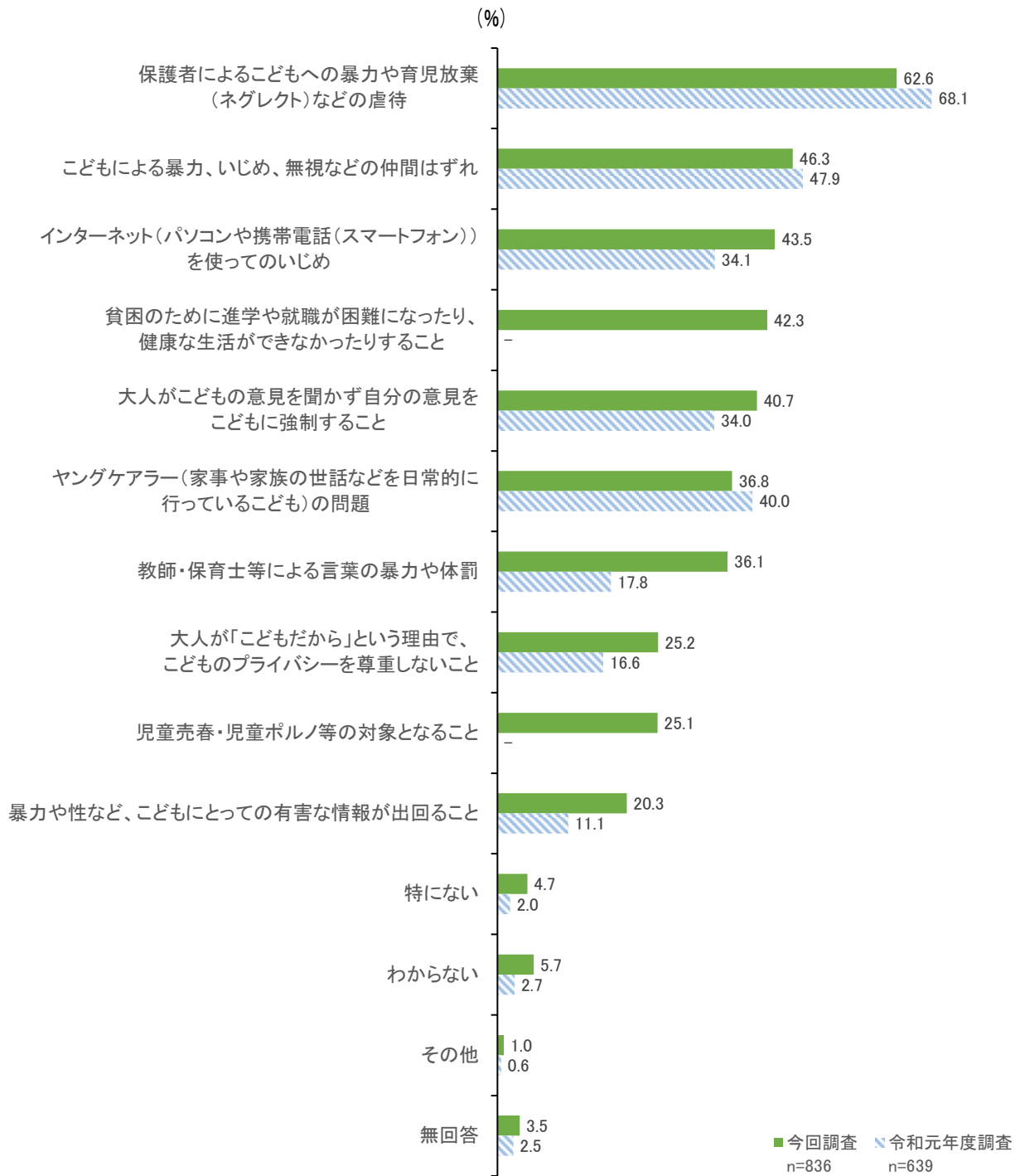
今回調査と令和元年度調査を比較すると、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が増加傾向にあります。

性別にみると、「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」は女性の方が男性より7.4ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境」は、女性の「30～39歳」が75.0%と最も高く、次いで女性の「18～29歳」が69.8%、女性の「40～49歳」と女性の「50～59歳」がともに55.9%となっています。

### (3) こどもの人権について

問7 こどもの人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
(○はいくつでも)



(%)

	有効回答数(件)	保護者による子どもへの暴力や虐待(ネグレクト)	無視などの仲間はずれ	インターネット(スマートフォン)を使ったいじめ	貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができないこと	大人が子どもの意見を聞かずに自分の意見を子どもに強制すること	の世話を日常的に行っていること	教師・保育士等による言葉の暴力や体罰
全体	836	62.6	46.3	43.5	42.3	40.7	36.8	36.1
女性	460	65.0	50.4	47.6	47.4	43.5	45.4	41.5
男性	313	61.3	40.3	40.3	36.4	38.7	25.9	28.8
答えたくない	15	53.3	40.0	20.0	53.3	53.3	40.0	6.7
18～29歳	70	70.0	38.6	38.6	51.4	47.1	47.1	38.6
30～39歳	61	62.3	57.4	67.2	47.5	47.5	42.6	39.3
40～49歳	99	65.7	51.5	59.6	45.5	37.4	36.4	34.3
50～59歳	164	67.1	51.8	53.0	42.1	40.2	41.5	34.8
60～69歳	144	66.7	43.8	45.8	43.8	42.4	36.8	33.3
70歳以上	248	56.0	42.3	29.0	38.3	40.3	31.9	38.7

(%)

	有効回答数(件)	大人が「子どもだから」という理由で、子どもを尊重しないこと	児童売春・児童ポルノ等の対象となること	暴力や性など、有害な情報が出ること	特になし	わからない	その他	無回答
全体	836	25.2	25.1	20.3	4.7	5.7	1.0	3.5
女性	460	28.3	28.0	23.0	4.3	5.9	1.3	1.5
男性	313	22.4	22.7	17.6	4.8	4.5	0.6	5.1
答えたくない	15	26.7	40.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
18～29歳	70	38.6	25.7	18.6	2.9	7.1	2.9	0.0
30～39歳	61	34.4	32.8	24.6	1.6	0.0	1.6	1.6
40～49歳	99	27.3	38.4	24.2	3.0	3.0	1.0	1.0
50～59歳	164	24.4	29.3	25.0	2.4	4.9	1.2	2.4
60～69歳	144	22.2	21.5	16.0	2.8	2.8	1.4	3.5
70歳以上	248	22.6	19.8	18.5	8.5	9.7	0.0	4.8

※令和元年度調査は「○は3つまで」の設問となっている

※令和元年度調査に「貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかったりすること」「児童売春・児童ポルノ等の対象となること」の選択肢なし

こどもの人権問題について、全体では「保護者によるこどもへの暴力や育児放棄（ネグレクト）などの虐待」が 62.6%と最も高く、次いで「こどもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ」が 46.3%、「インターネット（パソコンや携帯電話（スマートフォン））を使ってのいじめ」が 43.5%となっています。

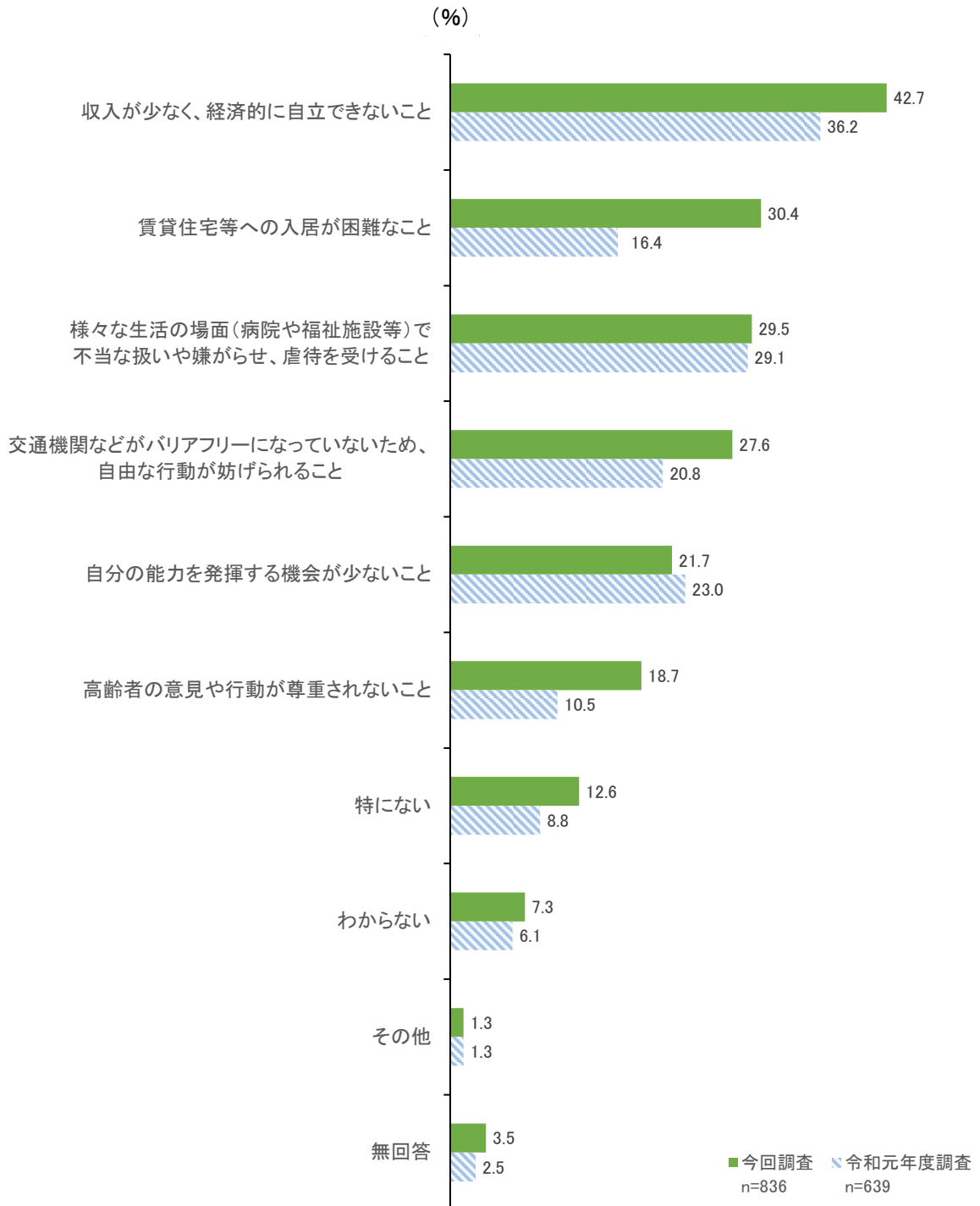
今回調査と令和元年度調査を比較すると、「教師・保育士等による言葉の暴力や体罰」が増加傾向にあります。

性別にみると、「ヤングケアラー（家事や家族の世話などを日常的に行っているこども）の問題」は女性の方が男性より 19.5 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「保護者によるこどもへの暴力や育児放棄（ネグレクト）などの虐待」は、「18～29 歳」が 70.0%と最も高く、次いで「50～59 歳」が 67.1%、「60～69 歳」が 66.7%となっています。

#### (4) 高齢者の人権について

問8 高齢者の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
(〇はいくつでも)





(%)

	有効回答数 (件)	収入が少なく、 経済的に自立 できないこと	賃貸住宅等への 入居が困難な こと	様々な生活の場面 (病院や福祉施設等) で不当な扱いや嫌 がらせ、虐待を受け ること	行動が妨げられる こと	交通機関などがバ リアフリーな	自分の能力を發揮 する機会が 少ないこと	高齢者の意見や行 動が尊重されな いこと	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体	836	42.7	30.4	29.5	27.6	21.7	18.7	12.6	7.3	1.3	3.5	
女性	460	46.3	34.8	33.3	31.1	23.3	17.6	8.9	8.3	1.7	1.7	
男性	313	39.0	24.6	26.5	23.3	19.2	19.5	16.9	4.8	1.0	5.4	
答えたくない	15	26.7	13.3	13.3	20.0	33.3	33.3	0.0	6.7	33.3	0.0	
18～29歳	70	24.3	30.0	35.7	31.4	14.3	14.3	7.1	12.9	2.9	0.0	
30～39歳	61	45.9	34.4	34.4	21.3	16.4	23.0	16.4	6.6	0.0	1.6	
40～49歳	99	43.4	34.3	27.3	32.3	27.3	10.1	11.1	8.1	2.0	2.0	
50～59歳	164	41.5	37.8	32.3	29.3	23.8	13.4	9.8	6.7	1.2	2.4	
60～69歳	144	50.7	32.6	34.7	32.6	22.2	18.8	11.8	2.8	1.4	2.1	
70歳以上	248	44.4	22.6	25.4	23.4	20.2	24.6	14.5	8.9	1.2	6.0	

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている

※今回調査の「賃貸住宅等への入居が困難なこと」の選択肢は、令和元年度調査では「アパートなどの住宅への入居が困難なこと」となっている

高齢者の人権問題について、全体では「収入が少なく、経済的に自立できないこと」が42.7%と最も高く、次いで「賃貸住宅等への入居が困難なこと」が30.4%、「様々な生活の場面（病院や福祉施設等）で不当な扱いや嫌がらせ、虐待を受けること」が29.5%となっています。

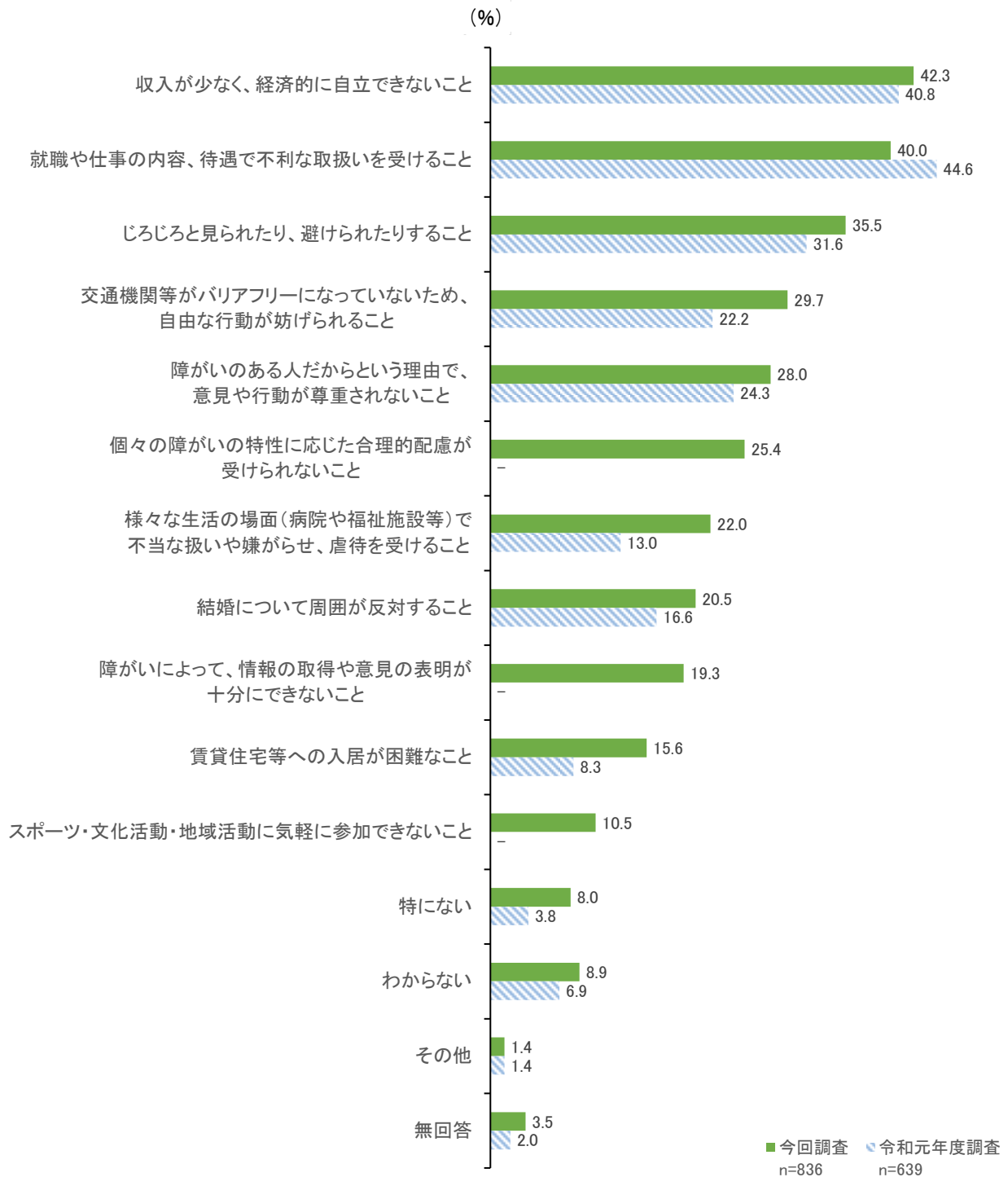
今回調査と令和元年度調査を比較すると、「賃貸住宅等への入居が困難なこと」が増加傾向にあります。

性別にみると、「収入が少なく、経済的に自立できないこと」は女性の方が男性より7.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「収入が少なく、経済的に自立できないこと」は、「60～69歳」が50.7%と最も高く、次いで「30～39歳」が45.9%、「70歳以上」が44.4%となっています。

## (5) 障がいのある人の人権について

問9 障がいのある人の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
(○はいくつでも)



(%)

	有効回答数 (件)	収入が少なく、 経済的に自立 できないこと	就職や仕事の 内容、待遇で 不利な取扱いを 受けること	けろろと見られ たり、避けられ たりすること	な行動が妨げら れること、自由 になつていない ため、自由に交 通機関等がバ リアフリーでな らぬこと	重さや理由で、 意図しない行 動が尊重され ないこと	障がいのある 人だからとい う理由で、意 図しない行 動が尊重され ないこと	合理的配慮が 受けられない こと	個々の障がい の特性に応じ た配慮が受け られないこと	ことや嫌がらせ 、虐待を受け ること	様々な生活の 場面（病院や 福祉施設等） で不当な扱い を受けること	結婚について 周囲が反対す ること
全体	836	42.3	40.0	35.5	29.7	28.0	25.4	22.0	20.5			
女性	460	44.3	41.1	40.2	32.4	30.2	27.2	25.0	18.9			
男性	313	42.2	39.9	31.0	27.2	26.5	23.3	18.8	23.0			
答えたくない	15	13.3	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0	33.3	26.7			
18～29歳	70	38.6	41.4	45.7	27.1	37.1	30.0	38.6	15.7			
30～39歳	61	42.6	47.5	42.6	29.5	42.6	31.1	24.6	26.2			
40～49歳	99	42.4	42.4	36.4	29.3	35.4	23.2	17.2	25.3			
50～59歳	164	43.3	40.2	42.1	32.9	25.0	29.3	26.2	20.7			
60～69歳	144	48.6	40.3	31.9	31.3	27.8	28.5	23.6	15.3			
70歳以上	248	42.3	38.3	30.6	29.0	22.6	20.6	16.5	21.4			

(%)

	有効回答数 (件)	十分にできない こと	障がいで、情 報の取得や意 見の表明が 困難なこと	賃貸住宅等 への入居が 困難なこと	地域活動に 気軽に参加 できないこと	スポーツ・文 化活動に参 加できない こと	特にな い	わから ない	そ 他	無 回 答
全体	836	19.3	15.6	10.5	8.0	8.9	1.4	3.5		
女性	460	21.3	16.3	11.5	6.3	9.6	1.7	1.7		
男性	313	16.9	15.3	9.6	9.6	6.4	1.3	4.8		
答えたくない	15	13.3	13.3	26.7	0.0	0.0	33.3	0.0		
18～29歳	70	24.3	17.1	14.3	4.3	7.1	2.9	0.0		
30～39歳	61	23.0	16.4	13.1	11.5	3.3	1.6	1.6		
40～49歳	99	24.2	16.2	10.1	7.1	10.1	2.0	2.0		
50～59歳	164	25.0	17.1	9.8	4.3	5.5	1.2	2.4		
60～69歳	144	13.9	18.8	9.7	9.0	4.2	1.4	2.1		
70歳以上	248	15.3	12.9	10.9	8.9	14.9	1.2	5.2		

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている

※今回調査の「賃貸住宅等への入居が困難なこと」の選択肢は、令和元年度調査では「アパートなどの住宅への入居が困難なこと」となっている

※令和元年度調査に「個々の障がいの特性に応じた合理的配慮が受けられないこと」「障がいで、情報の取得や意見の表明が十分にできないこと」「スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと」の選択肢なし

障がいのある人の人権問題について、全体では「収入が少なく、経済的に自立できないこと」が42.3%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること」が40.0%、「じろじろと見られたり、避けられたりすること」が35.5%となっています。

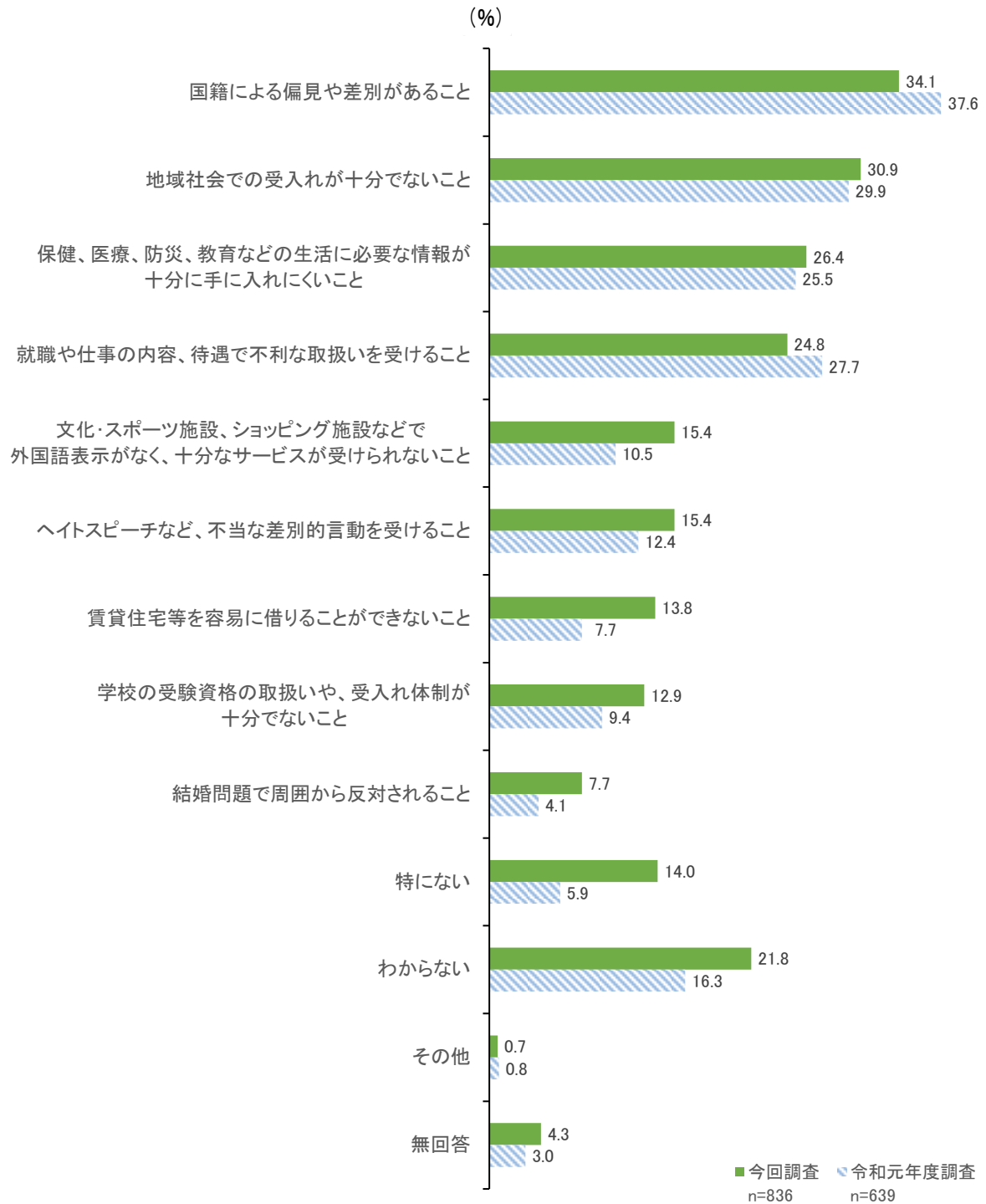
今回調査と令和元年度調査を比較すると、「様々な生活の場面（病院や福祉施設等）で不当な扱いや嫌がらせ、虐待を受けること」が増加傾向にあります。

性別にみると、「じろじろと見られたり、避けられたりすること」は女性の方が男性より9.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「収入が少なく、経済的に自立できないこと」は、「60～69歳」が48.6%と最も高く、次いで「50～59歳」が43.3%、女性の「30～39歳」が42.6%となっています。

## (6) 外国人の人権について

問10 外国人の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数 (件)	国籍による偏見や差別があること	地域社会での受入れが十分でないこと	保健、医療、防災、教育などの生活に必要十分な情報が十分に手に入れないこと	就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること	施設などで外国語表示がなく、十分なサービスが受けられないこと	文化・スポーツ施設、ショッピングなど	ヘイトスピーチなど、不当な差別的言動を受けること	賃貸住宅等を容易に借りることができないこと
全体	836	34.1	30.9	26.4	24.8	15.4	15.4	13.8	
女性	460	37.0	31.5	24.6	25.7	16.3	15.9	14.1	
男性	313	31.9	31.6	29.7	24.3	15.3	15.7	13.7	
答えたくない	15	13.3	13.3	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	
18～29歳	70	57.1	31.4	30.0	25.7	20.0	37.1	18.6	
30～39歳	61	41.0	26.2	21.3	31.1	18.0	19.7	16.4	
40～49歳	99	41.4	38.4	27.3	24.2	16.2	12.1	19.2	
50～59歳	164	31.1	31.1	25.6	22.0	13.4	15.9	11.0	
60～69歳	144	34.7	29.9	25.0	29.2	13.9	13.2	9.0	
70歳以上	248	26.6	30.2	27.8	22.2	16.1	10.9	14.5	

(%)

	有効回答数 (件)	学校の受験資格の取扱いや受入れの制限が十分でないこと	結婚問題で周囲から反対されること	特になし	わからない	その他	無回答
全体	836	12.9	7.7	14.0	21.8	0.7	4.3
女性	460	13.0	7.6	10.4	26.1	0.7	2.8
男性	313	12.8	8.3	18.8	14.7	0.6	5.1
答えたくない	15	33.3	0.0	0.0	13.3	46.7	0.0
18～29歳	70	10.0	7.1	10.0	10.0	1.4	0.0
30～39歳	61	14.8	14.8	21.3	11.5	0.0	3.3
40～49歳	99	17.2	11.1	13.1	20.2	1.0	3.0
50～59歳	164	12.2	7.3	14.6	20.7	1.8	3.7
60～69歳	144	14.6	4.2	17.4	16.7	0.0	2.1
70歳以上	248	10.5	7.3	10.9	32.7	0.0	6.0

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設定となっている

※今回調査の「賃貸住宅等を容易に借りることができないこと」の選択肢は、令和元年度調査では「アパートなどの住宅への入居が困難なこと」となっている

外国人の人権問題について、全体では「国籍による偏見や差別があること」が 34.1%と最も高く、次いで「地域社会での受入れが十分でないこと」が 30.9%、「保健、医療、防災、教育などの生活に必要な情報が十分に手に入れにくいこと」が 26.4%となっています。

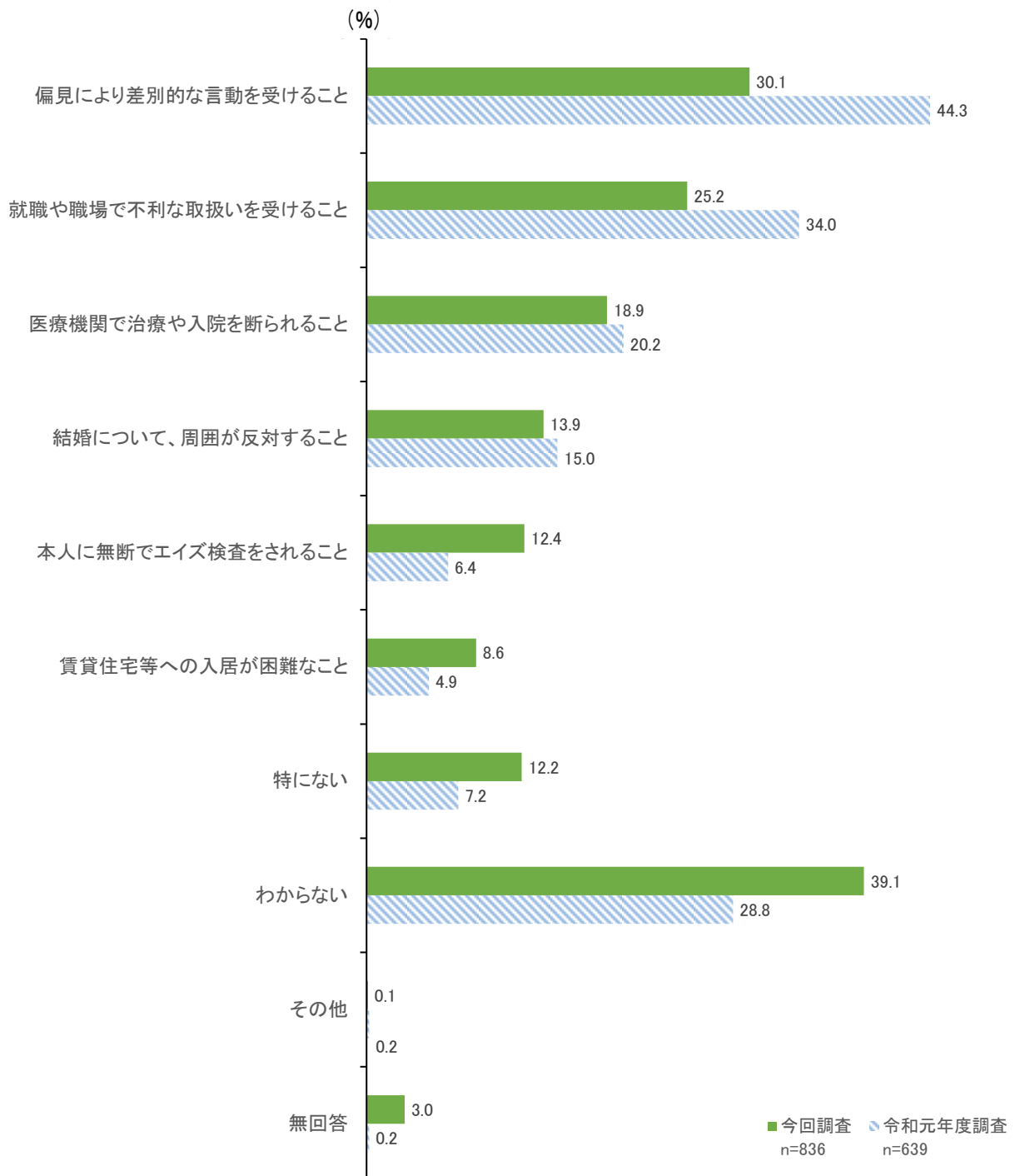
今回調査と令和元年度調査を比較すると、「国籍による偏見や差別があること」が減少傾向にあります。

性別にみると、「国籍による偏見や差別があること」は女性の方が男性より 5.1 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「国籍による偏見や差別があること」は、「18～29 歳」が 57.1%と最も高く、次いで「40～49 歳」が 41.4%、「30～39 歳」が 41.0%となっています。

(7) エイズ患者・H I V(エイズウイルス)感染者、ハンセン病回復者等の人権について

問 11 エイズ患者・H I V(エイズウイルス)感染者の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。(〇はいくつでも)





(%)

	有効回答数 (件)	偏見により差別的な言動を受けること	就職や職場で不利な取扱いを受けること	医療機関で治療や入院を断られること	結婚について、周囲が反対すること	本人に無断でエイズ検査をされること	賃貸住宅等への入居が困難なこと	特になし	わからない	その他	無回答
全体	836	30.1	25.2	18.9	13.9	12.4	8.6	12.2	39.1	0.1	3.0
女性	460	32.6	26.5	20.4	13.3	12.0	8.7	8.7	42.8	0.2	2.4
男性	313	27.5	24.9	17.3	13.4	12.5	8.6	17.9	32.9	0.0	2.9
答えたくない	15	13.3	20.0	13.3	33.3	13.3	20.0	0.0	6.7	53.3	0.0
18～29歳	70	42.9	25.7	17.1	12.9	17.1	11.4	11.4	31.4	0.0	1.4
30～39歳	61	34.4	19.7	19.7	14.8	11.5	8.2	16.4	29.5	0.0	1.6
40～49歳	99	33.3	18.2	22.2	14.1	11.1	8.1	8.1	45.5	1.0	2.0
50～59歳	164	31.7	25.6	23.2	12.8	15.9	9.8	14.0	37.2	0.0	2.4
60～69歳	144	31.9	26.4	18.1	11.8	12.5	8.3	13.2	34.7	0.0	1.4
70歳以上	248	23.0	29.8	16.5	14.1	8.9	8.1	11.7	45.2	0.0	4.0

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている

※今回調査の「賃貸住宅等への入居が困難なこと」の選択肢は、令和元年度調査では「アパートなどの住宅への入居が困難なこと」となっている

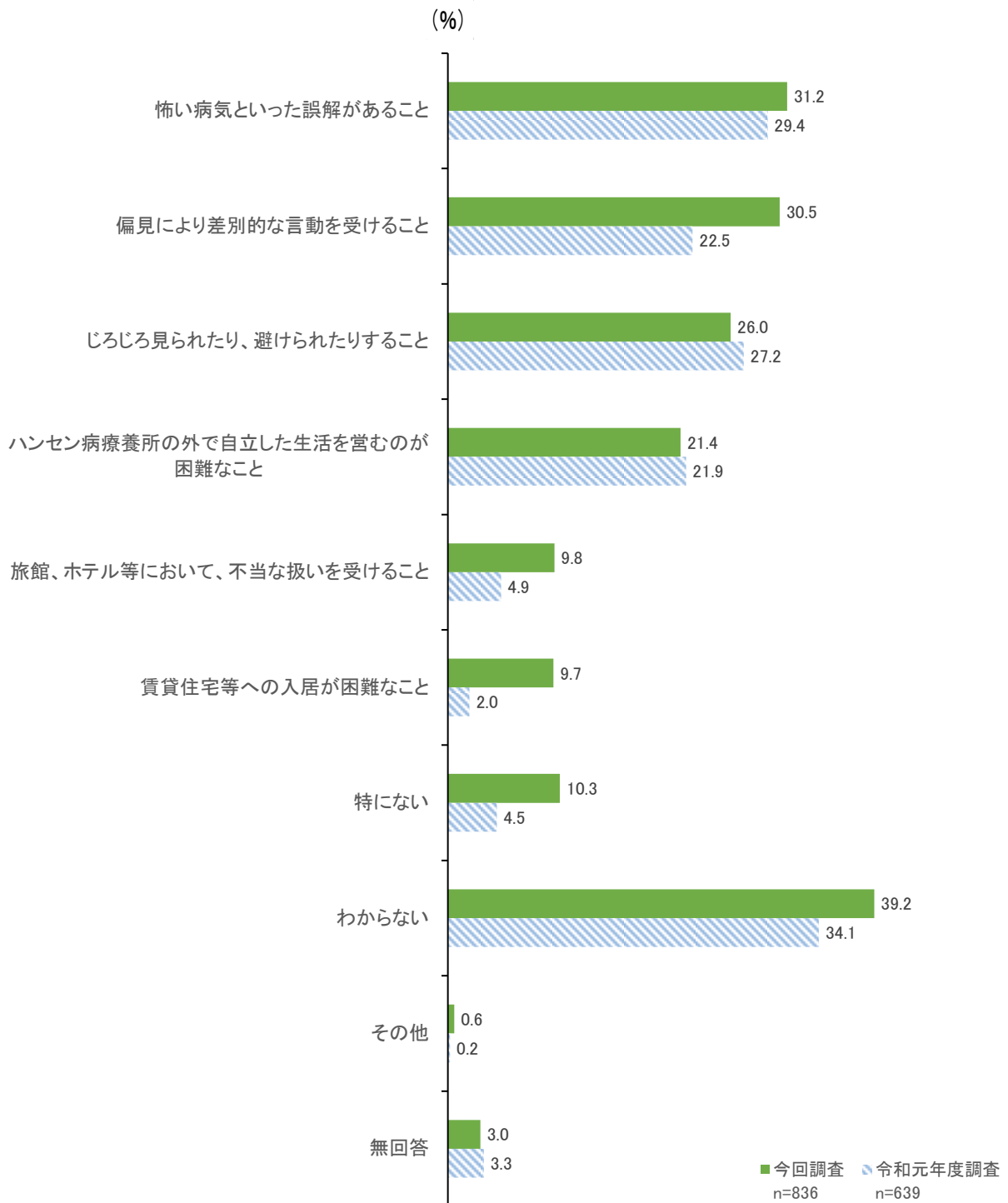
エイズ患者・HIV(エイズウイルス)感染者の人権問題について、全体では「偏見により差別的な言動を受けること」が30.1%と最も高く、次いで「就職や職場で不利な取扱いを受けること」が25.2%、「医療機関で治療や入院を断られること」が18.9%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「偏見により差別的な言動を受けること」が減少傾向にありますが、「わからない」が増加傾向にあります。

性別にみると、「偏見により差別的な言動を受けること」は女性の方が男性より5.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「偏見により差別的な言動を受けること」は、「18～29歳」が42.9%と最も高く、次いで「30～39歳」が34.4%、「40～49歳」が33.3%となっています。

問 12 ハンセン病回復者等の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
 (〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数 (件)	怖い病気といった誤解があること	偏見により差別的な言動を受けること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと	旅館、ホテル等において、不当な扱いを受けること	賃貸住宅等への入居が困難なこと	特になし	わからない	その他	無回答
全体	836	31.2	30.5	26.0	21.4	9.8	9.7	10.3	39.2	0.6	3.0
女性	460	32.4	33.3	26.3	23.9	10.4	10.0	6.5	42.0	0.9	2.6
男性	313	30.7	27.5	27.2	19.2	8.3	9.3	16.0	33.9	0.3	2.2
答えたくない	15	13.3	13.3	26.7	13.3	13.3	13.3	0.0	6.7	73.3	0.0
18～29歳	70	30.0	35.7	20.0	12.9	11.4	8.6	11.4	34.3	1.4	2.9
30～39歳	61	24.6	31.1	21.3	19.7	11.5	8.2	18.0	41.0	0.0	1.6
40～49歳	99	31.3	32.3	26.3	24.2	15.2	13.1	5.1	45.5	1.0	2.0
50～59歳	164	29.9	32.3	26.2	22.0	9.8	9.1	11.6	39.0	0.0	2.4
60～69歳	144	33.3	31.3	27.1	20.8	6.9	8.3	11.8	32.6	1.4	1.4
70歳以上	248	33.5	27.0	29.4	24.6	8.1	10.5	8.5	41.9	0.4	3.2

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている

※今回調査の「賃貸住宅等への入居が困難なこと」の選択肢は、令和元年度調査では「アパートなどの住宅への入居が困難なこと」となっている

ハンセン病回復者等の人権問題について、全体では「怖い病気といった誤解があること」が31.2%と最も高く、次いで「偏見により差別的な言動を受けること」が30.5%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が26.0%となっています。

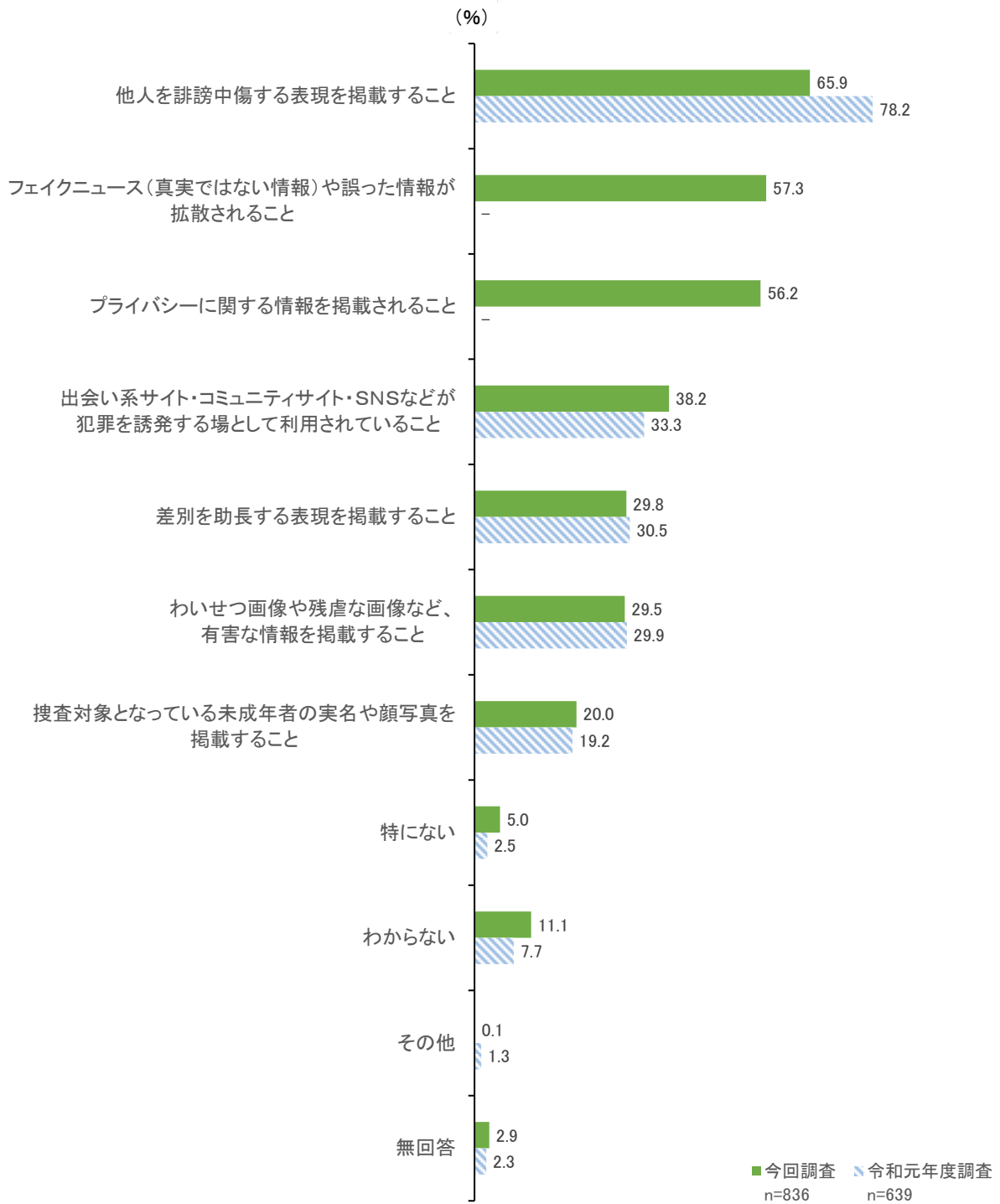
今回調査と令和元年度調査を比較すると、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が減少傾向にあります。一方、「わからない」が増加傾向にあります。

性別にみると、「偏見により差別的な言動を受けること」は女性の方が男性より5.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「怖い病気といった誤解があること」は、「70歳以上」が33.5%と最も高く、次いで「60～69歳」が33.3%、「40～49歳」が31.3%となっています。

## (8) インターネットによる人権侵害について

問13 インターネット上で、人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数 (件)	他人を誹謗中傷する表現を掲載すること	フェイクニュース(真実ではない情報)や誤った情報が拡散されること	プライバシーに関する情報を掲載されること	出会い系サイト・SNSなどを利用して利用されていること	差別を助長する表現を掲載すること	わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること	捜査対象となつていない未成年者の実名や顔写真を掲載すること	特になし	わからない	その他	無回答
全体	836	65.9	57.3	56.2	38.2	29.8	29.5	20.0	5.0	11.1	0.1	2.9
女性	460	69.3	58.7	58.0	38.5	29.3	33.0	22.4	2.6	10.9	0.0	2.6
男性	313	63.6	56.9	55.9	38.7	31.9	24.0	15.3	8.0	8.9	0.3	2.6
答えたくない	15	46.7	60.0	26.7	46.7	33.3	40.0	53.3	0.0	6.7	20.0	6.7
18～29歳	70	65.7	58.6	58.6	31.4	41.4	40.0	14.3	4.3	5.7	0.0	1.4
30～39歳	61	73.8	72.1	73.8	49.2	27.9	36.1	29.5	1.6	1.6	0.0	0.0
40～49歳	99	81.8	64.6	69.7	48.5	43.4	36.4	28.3	0.0	2.0	0.0	2.0
50～59歳	164	76.8	62.8	64.6	42.7	31.1	34.1	22.0	3.0	5.5	0.0	2.4
60～69歳	144	68.8	63.2	52.1	36.8	32.6	26.4	17.4	6.9	6.3	0.0	2.1
70歳以上	248	52.0	44.8	45.2	32.7	21.0	21.0	15.7	7.7	22.6	0.4	4.4

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている。

※令和元年度調査に「フェイクニュース(真実ではない情報)や誤った情報が拡散されること」「プライバシーに関する情報を掲載されること」の選択肢なし

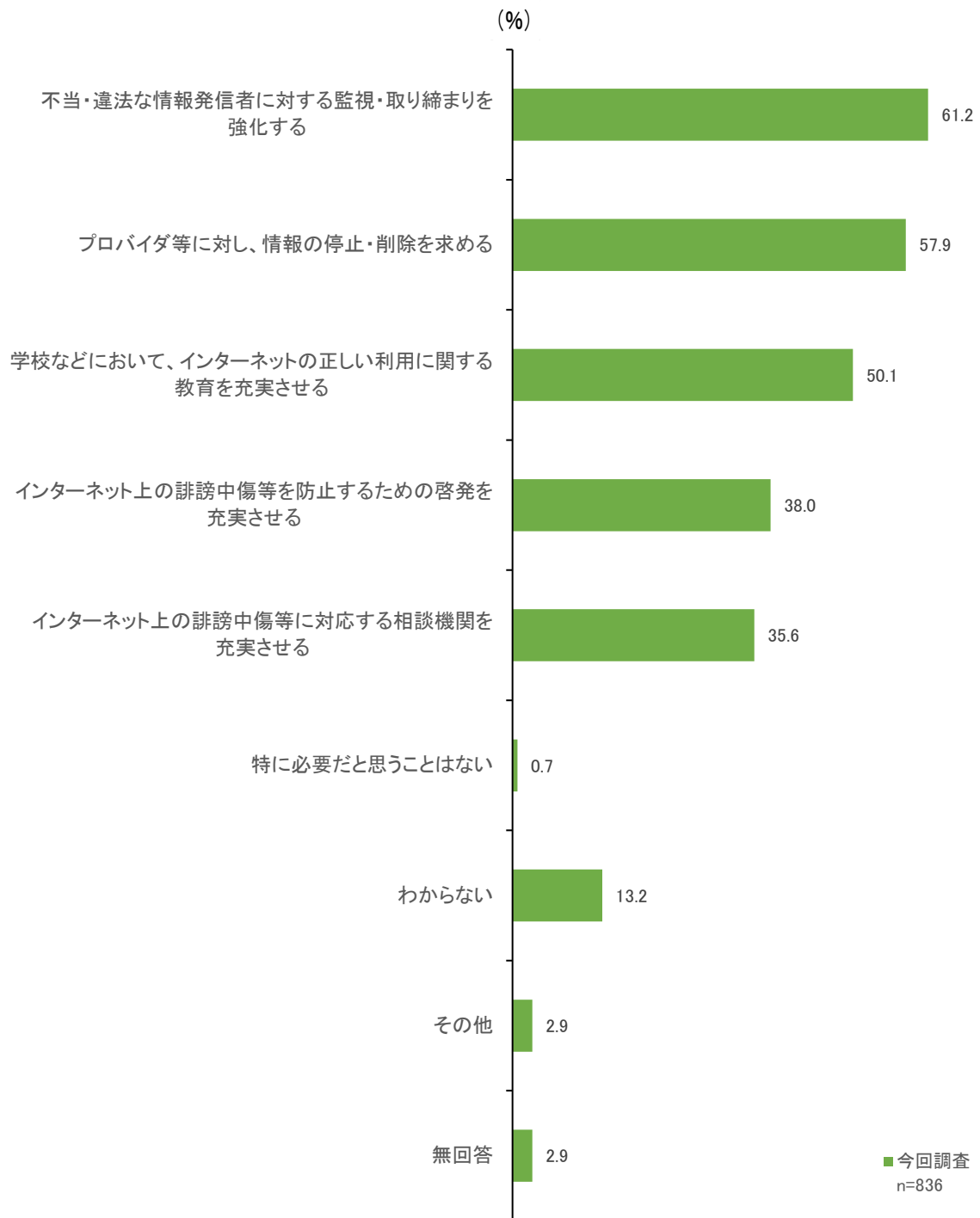
インターネットによる人権侵害について、全体では「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」が 65.9%と最も高く、次いで「フェイクニュース(真実ではない情報)や誤った情報が拡散されること」が 57.3%、「プライバシーに関する情報を掲載されること」が 56.2%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」が減少傾向にあります。

性別にみると、「わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること」は女性の方が男性より 9.0 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」は、「40～49歳」が 81.8%と最も高く、次いで「50～59歳」が 76.8%、「30～39歳」が 73.8%となっています。

問 14 インターネット上の誹謗中傷等を防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



(%)

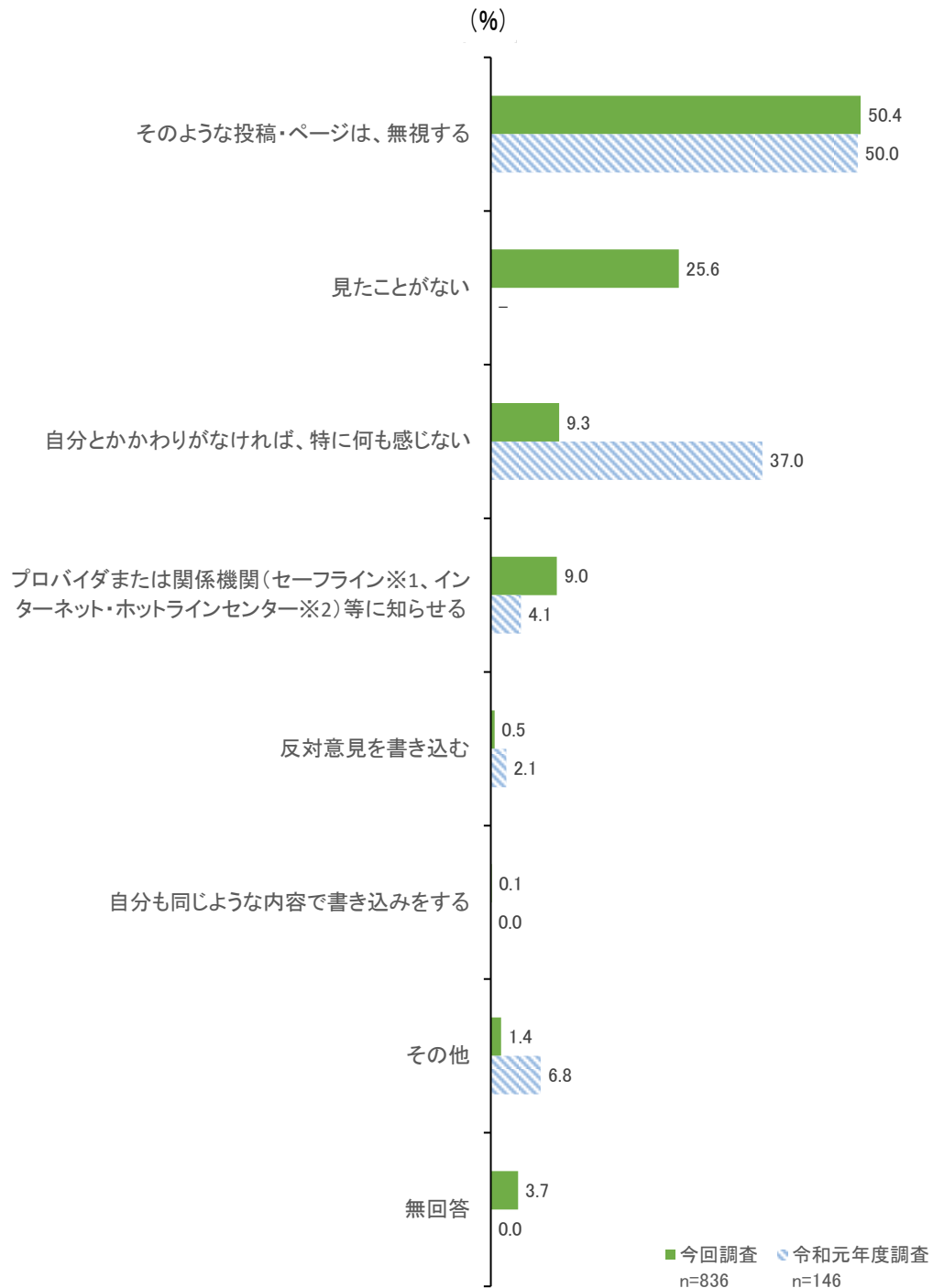
	有効回答数 (件)	不正・違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する	プロバイダ等に対し、情報の停止・削除を求める	学校などにおいて、インターネットの正しい利用に関する教育を充実させる	インターネット上の誹謗中傷等を防止するための啓発を充実させる	インターネット上の誹謗中傷等に対応する相談機能を充実させる	特に必要だと思うことはない	わからない	その他	無回答
全体	836	61.2	57.9	50.1	38.0	35.6	0.7	13.2	2.9	2.9
女性	460	63.0	57.8	53.9	41.5	38.3	0.4	2.8	12.6	2.6
男性	313	61.0	60.1	45.4	35.1	32.9	1.0	3.5	12.1	2.6
答えたくない	15	20.0	46.7	13.3	53.3	53.3	0.0	0.0	26.7	6.7
18～29歳	70	71.4	54.3	52.9	25.7	32.9	1.4	7.1	4.3	1.4
30～39歳	61	67.2	62.3	68.9	42.6	44.3	3.3	4.9	3.3	0.0
40～49歳	99	70.7	69.7	53.5	41.4	37.4	0.0	5.1	10.1	1.0
50～59歳	164	68.3	70.1	47.6	43.9	37.2	0.0	6.7	2.4	3.0
60～69歳	144	66.0	64.6	52.8	36.8	34.0	0.0	9.7	0.7	2.1
70歳以上	248	48.4	43.1	44.4	37.5	33.9	0.8	25.0	1.6	4.4

インターネット上の誹謗中傷等を防止するために必要だと思うことについて、全体では「不正・違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」が61.2%と最も高く、次いで「プロバイダ等に対し、情報の停止・削除を求める」が57.9%、「学校などにおいて、インターネットの正しい利用に関する教育を充実させる」が50.1%となっています。

性別にみると、「学校などにおいて、インターネットの正しい利用に関する教育を充実させる」は女性の方が男性より8.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「不正・違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」は、「18～29歳」が71.4%と最も高く、次いで「40～49歳」が70.7%、「50～59歳」が68.3%となっています。

問 15 インターネット上で、誹謗中傷等、人権侵害と思われるような投稿やウェブページを発見したとき、あなたはどのようにしますか。(〇は1つ)



※1 セーフライン(一般社団法人セーフアインターネット協会)…インターネット企業有志による運営により、違法情報や有害な情報の通報を受け付け、国内外のサイトへの削除要請や、警察等への通報を行う。  
 ※2 インターネット・ホットラインセンター(警察庁委託)…違法情報や自殺誘引等情報、重要犯罪密接関連情報の通報を受けて、ガイドラインに基づいて該当性の判断を行い、警察への情報提供とサイトへの削除依頼を行う。



(%)

	有効回答数 (件)	そのような投稿・ページは、無視する	見たことがない	自分とかかわりがなければ、特に何も感じない	プロバイダまたは関係機関(セー トラインセンター)等に知らせる	反対意見を書き込む	自分も同じような内容で書き込みをする	その他	無回答
全体	836	50.4	25.6	9.3	9.0	0.5	0.1	1.4	3.7
女性	460	51.1	27.8	7.4	8.0	0.4	0.0	1.7	3.5
男性	313	49.8	20.8	13.1	10.9	0.6	0.3	1.3	3.2
答えたくない	15	0.0	46.7	0.0	0.0	13.3	0.0	33.3	6.7
18～29歳	70	58.6	12.9	8.6	15.7	0.0	0.0	1.4	2.9
30～39歳	61	68.9	4.9	4.9	18.0	0.0	1.6	1.6	0.0
40～49歳	99	57.6	15.2	13.1	9.1	0.0	0.0	4.0	1.0
50～59歳	164	56.7	21.3	11.0	6.1	0.6	0.0	1.2	3.0
60～69歳	144	52.1	33.3	7.6	4.2	0.7	0.0	0.0	2.1
70歳以上	248	35.9	35.5	9.7	10.1	0.8	0.0	1.6	6.5

※令和元年度調査に「見たことがない」の選択肢なし

インターネット上で人権侵害と思われるものを発見したときの行動について、全体では「そのような投稿・ページは、無視する」が50.4%と最も高く、次いで「見たことがない」が25.6%、「自分とかかわりがなければ、特に何も感じない」が9.3%となっています。

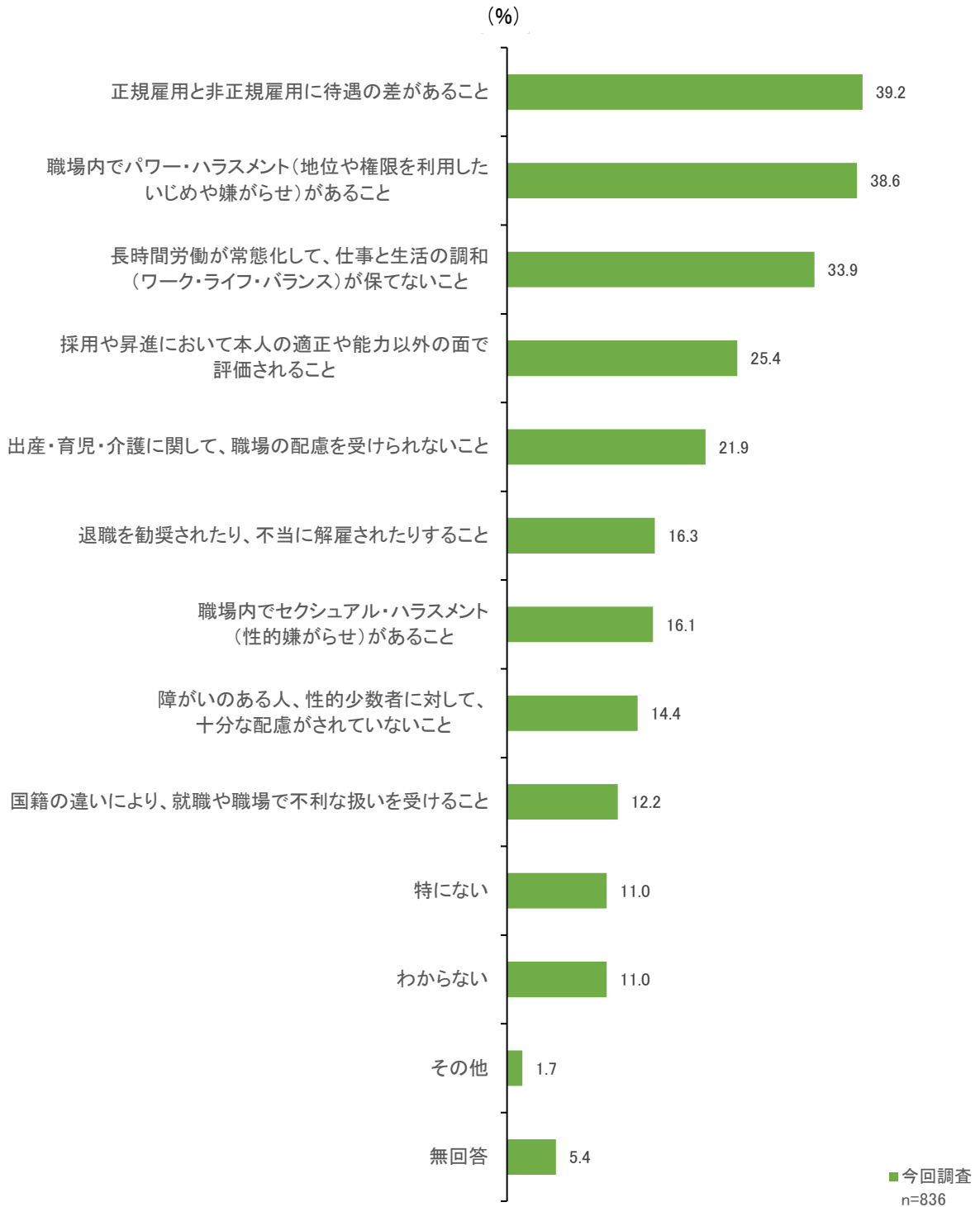
今回調査と令和元年度調査を比較すると、「自分とかかわりがなければ、特に何も感じない」が減少傾向にあります。

性別にみると、「見たことがない」は女性の方が男性より7.0ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「そのような投稿・ページは、無視する」は、「30～39歳」が68.9%と最も高く、次いで「18～29歳」が58.6%、「40～49歳」が57.6%となっています。

## (9) 職場における人権について

問 16 職場における人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数(件)	正規雇用と非正規雇用 に待遇の 差があること	職場内でパワー・ハラ スメント(性的嫌がらせ) があること	長時間労働が常態化して、 仕事と生活の調和(ワーク・ ライフ)が保てないこと	採用や昇進において本人の適 正な能力以外の面で評価さ れること	出産・育児・介護に関して、 職場の配慮を受けられない こと	退職を勧奨されたり、不当に 解雇されたりすること	職場内でセクシュアル・ハラ スメント(性的嫌がらせ)が あること	
全体	836	39.2	38.6	33.9	25.4	21.9	16.3	16.1	
女性	460	39.6	41.3	35.4	23.5	24.6	16.5	18.5	
男性	313	41.5	36.7	33.5	30.0	19.2	16.9	14.1	
答えたくない	15	26.7	13.3	26.7	13.3	13.3	13.3	20.0	
女性	18～29歳	43	27.9	51.2	62.8	25.6	39.5	14.0	23.3
	30～39歳	36	33.3	58.3	61.1	38.9	55.6	19.4	33.3
	40～49歳	59	37.3	47.5	40.7	30.5	22.0	15.3	22.0
	50～59歳	93	37.6	46.2	38.7	23.7	25.8	22.6	17.2
	60～69歳	84	52.4	45.2	29.8	20.2	19.0	15.5	21.4
	70歳以上	145	39.3	26.2	20.0	17.9	15.9	13.8	11.0
男性	18～29歳	23	39.1	39.1	47.8	30.4	30.4	21.7	21.7
	30～39歳	24	45.8	58.3	54.2	20.8	20.8	20.8	29.2
	40～49歳	38	18.4	31.6	26.3	23.7	10.5	13.2	7.9
	50～59歳	67	31.3	47.8	40.3	38.8	23.9	13.4	16.4
	60～69歳	59	45.8	33.9	25.4	27.1	15.3	11.9	8.5
	70歳以上	101	54.5	27.7	28.7	30.7	18.8	21.8	12.9
共働き	274	37.6	40.9	38.3	27.4	23.4	13.5	16.1	
共働きではない	225	50.2	39.1	31.6	28.9	21.8	22.7	19.1	

(%)

	有効回答数(件)	障がいのある人、性的 少数者に対する配慮が されていないこと	国籍の異なる人、就 業場の違いにより扱い を差別的に受けること	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体	836	14.4	12.2	11.0	11.0	1.7	5.4
女性	460	13.5	12.6	10.4	12.4	2.0	3.5
男性	313	16.3	11.8	11.2	7.7	1.6	6.1
答えたくない	15	6.7	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0
女性	18～29歳	43	9.3	16.3	4.7	4.7	4.7
	30～39歳	36	19.4	25.0	8.3	2.8	0.0
	40～49歳	59	28.8	27.1	8.5	8.5	6.8
	50～59歳	93	14.0	8.6	8.6	10.8	0.0
	60～69歳	84	7.1	9.5	6.0	10.7	3.6
	70歳以上	145	10.3	6.9	17.2	20.7	0.0
男性	18～29歳	23	34.8	26.1	8.7	8.7	4.3
	30～39歳	24	8.3	12.5	4.2	4.2	0.0
	40～49歳	38	10.5	7.9	18.4	2.6	5.3
	50～59歳	67	17.9	11.9	13.4	3.0	1.5
	60～69歳	59	10.2	3.4	8.5	8.5	1.7
	70歳以上	101	18.8	14.9	10.9	12.9	0.0
共働き	274	14.6	13.9	11.3	6.9	1.8	2.2
共働きではない	225	17.3	12.9	10.2	13.8	1.3	3.6

職場における人権問題について、全体では「正規雇用と非正規雇用に待遇の差があること」が39.2%と最も高く、次いで「職場内でパワー・ハラスメント（地位や権限を利用したいじめや嫌がらせ）があること」が38.6%、「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと」が33.9%となっています。

性別にみると、「出産・育児・介護に関して、職場の配慮を受けられないこと」は女性の方が男性より5.4ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「正規雇用と非正規雇用に待遇の差があること」は、男性の「70歳以上」が54.5%と最も高く、次いで女性の「60～69歳」が52.4%、男性「30～39歳」と男性の「60～69歳」がともに45.8%となっています。

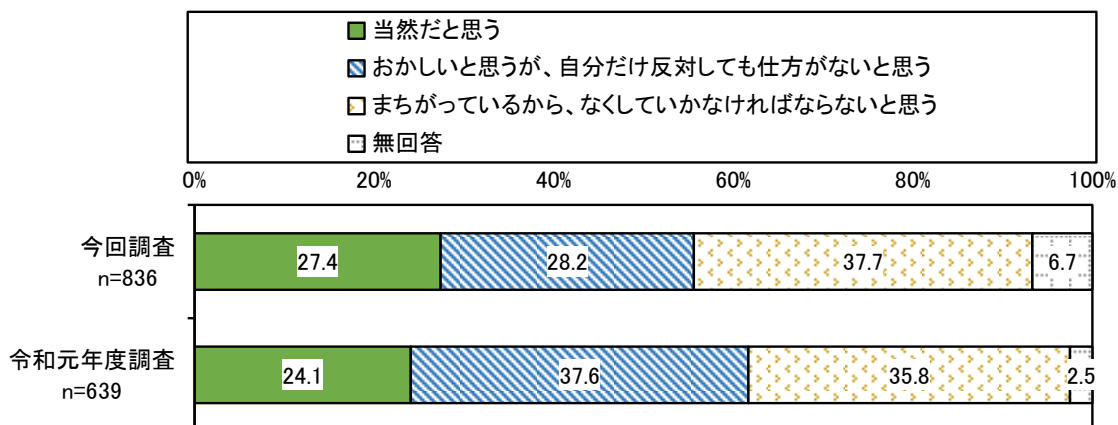
共働きの有無別にみると、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「正規雇用と非正規雇用に待遇の差があること」が12.6ポイント高くなっています。

## (10) 身元調査について

問 17 結婚相手を決めるとき、家柄を問題にすることについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

結婚相手を決めるとき、家柄を問題にすることについて、全体では、「まちがっているから、なくしていかねばならないと思う」が 37.7%と最も高く、次いで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が 28.2%、「当然だと思ふ」が 27.4%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「当然だと思ふ」が増加傾向にあります。



		有効回答数(件)	当然だと思ふ	おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う	まちがっているから、なくしていかねばならないと思う	無回答
全体		836	27.4	28.2	37.7	6.7
女性		460	27.4	32.0	35.2	5.4
男性		313	27.2	24.9	41.5	6.4
答えたくない		15	26.7	6.7	53.3	13.3
女性	18～29歳	43	37.2	34.9	20.9	7.0
	30～39歳	36	25.0	38.9	33.3	2.8
	40～49歳	59	33.9	25.4	39.0	1.7
	50～59歳	93	22.6	37.6	36.6	3.2
	60～69歳	84	28.6	28.6	35.7	7.1
	70歳以上	145	24.8	30.3	37.2	7.6
男性	18～29歳	23	26.1	39.1	26.1	8.7
	30～39歳	24	33.3	20.8	45.8	0.0
	40～49歳	38	31.6	23.7	36.8	7.9
	50～59歳	67	35.8	25.4	35.8	3.0
	60～69歳	59	23.7	30.5	39.0	6.8
	70歳以上	101	20.8	19.8	51.5	7.9

性別にみると、「まちがっているから、なくしていかねばならないと思う」は、男性の方が女性より 6.3 ポイント高く、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」は、女性の方が男性より 7.1 ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「まちがっているから、なくしていかねばならないと思う」は、男性の「70歳以上」が 51.5%と最も高く、次いで男性の「30～39歳」が 45.8%、女性の「40～49歳」と男性の「60～69歳」がともに 39.0%となっています。

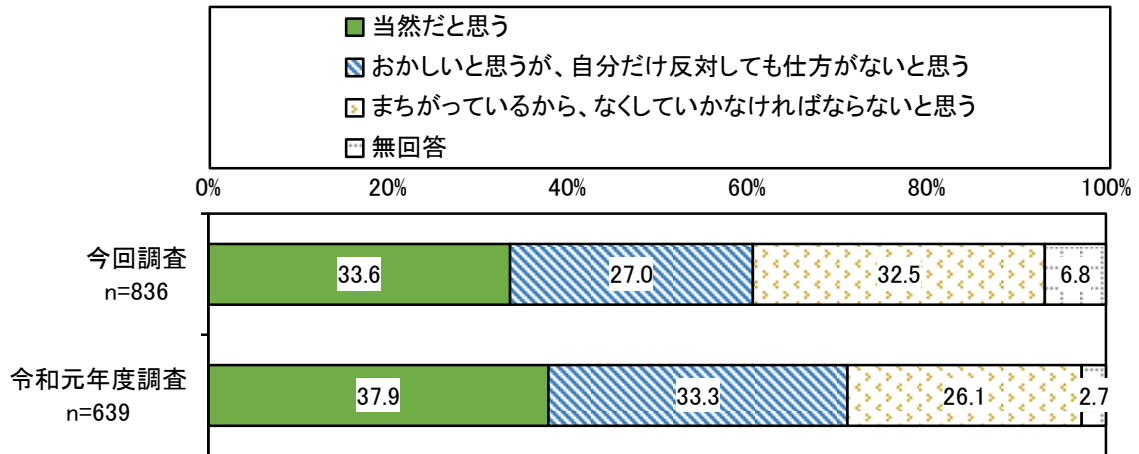
「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」は、男性の「18～29歳」が 39.1%と最も高く、次いで女性の「30～39歳」が 38.9%、女性の「50～59歳」が 37.6%となっています。

「当然だと思ふ」は、女性の「18～29歳」が 37.2%で最も高く、次いで男性の「50～59歳」が 35.8%、女性の「40～49歳」が 33.9%となっています。

問 18 結婚にあたり、家柄や家族状況を調べること(身元調査、聞き合わせ)について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

結婚にあたり、家柄や家族状況を調べることについて、全体では、「当然だと思ふ」が33.6%と最も高く、次いで「まちがっているから、なくしていかなければならないと思ふ」が32.5%、「おかしいと思ふが、自分だけ反対しても仕方がないと思ふ」が27.0%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「まちがっているから、なくしていかなければならないと思ふ」が増加傾向にあります。



(%)

	有効回答数(件)	当然だと思ふ	おかしいと思ふが、自分だけ反対しても仕方がないと思ふ	まちがっているから、なくしていかなければならないと思ふ	無回答	
全体	836	33.6	27.0	32.5	6.8	
女性	460	33.7	28.5	32.2	5.7	
男性	313	34.5	26.8	32.3	6.4	
答えたくない	15	26.7	6.7	53.3	13.3	
女性	18～29歳	43	51.2	25.6	16.3	7.0
	30～39歳	36	44.4	22.2	30.6	2.8
	40～49歳	59	30.5	39.0	28.8	1.7
	50～59歳	93	31.2	32.3	35.5	1.1
	60～69歳	84	32.1	22.6	38.1	7.1
	70歳以上	145	29.7	27.6	33.1	9.7
男性	18～29歳	23	43.5	26.1	21.7	8.7
	30～39歳	24	50.0	20.8	29.2	0.0
	40～49歳	38	36.8	26.3	26.3	10.5
	50～59歳	67	40.3	29.9	26.9	3.0
	60～69歳	59	30.5	33.9	28.8	6.8
	70歳以上	101	26.7	22.8	43.6	6.9

性別にみると、「おかしいと思ふが、自分だけ反対しても仕方がないと思ふ」は、女性の方が男性より1.7ポイント高くなっています。

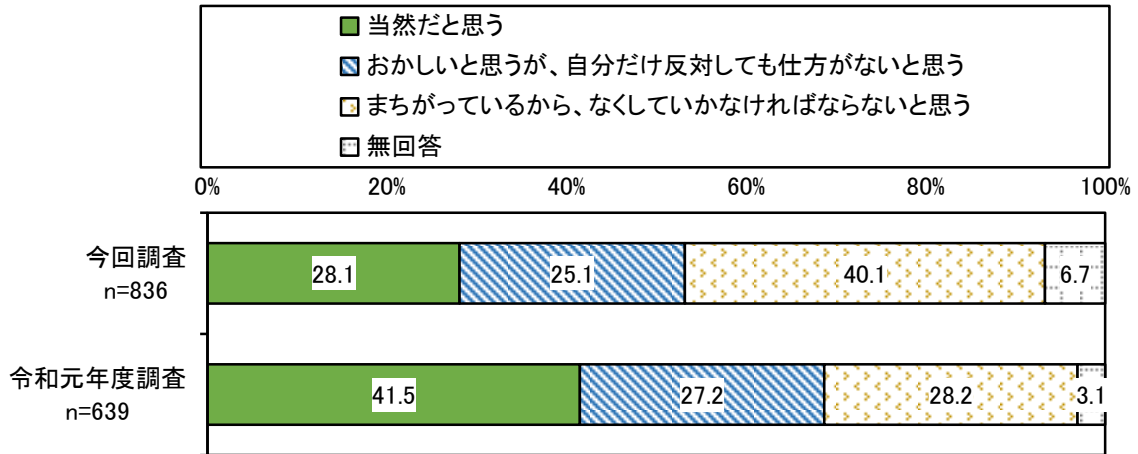
性年齢別にみると、「当然だと思ふ」は、女性の「18～29歳」が51.2%と最も高く、次いで男性の「30～39歳」が50.0%、女性の「30～39歳」が44.4%となっています。

「まちがっているから、なくしていかなければならないと思ふ」は、男性の「70歳以上」が43.6%と最も高く、次いで女性の「60～69歳」が38.1%、女性の「50～59歳」が35.5%となっています。

問 19 企業が採用選考のとき本籍地や家庭環境等を身元調査することについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

企業が採用選考のとき本籍地や家庭環境等を身元調査することについて、全体では、「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」が40.1%と最も高く、次いで「当然だと思う」が28.1%、「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」が25.1%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」が増加傾向にあります。



		有効回答数(件)	当然だと思う	おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う	まちがっているから、なくしていかなければならないと思う	無回答
全体		836	28.1	25.1	40.1	6.7
女性		460	26.3	26.7	41.7	5.2
男性		313	31.6	25.2	36.4	6.7
答えたくない		15	26.7	0.0	60.0	13.3
女性	18～29歳	43	25.6	32.6	34.9	7.0
	30～39歳	36	30.6	30.6	36.1	2.8
	40～49歳	59	23.7	16.9	57.6	1.7
	50～59歳	93	24.7	32.3	41.9	1.1
	60～69歳	84	21.4	28.6	46.4	3.6
	70歳以上	145	30.3	23.4	35.9	10.3
男性	18～29歳	23	34.8	26.1	30.4	8.7
	30～39歳	24	50.0	20.8	29.2	0.0
	40～49歳	38	34.2	23.7	31.6	10.5
	50～59歳	67	26.9	32.8	35.8	4.5
	60～69歳	59	30.5	27.1	35.6	6.8
	70歳以上	101	29.7	20.8	42.6	6.9

性別にみると、「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」は、女性の方が男性より5.3ポイント高く、当然だと思う」は、男性の方が女性より5.3ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「まちがっているから、なくしていかなければならないと思う」は、女性の「40～49歳」が57.6%と最も高く、次いで女性の「60～69歳」が46.4%、男性の「70歳以上」が42.6%となっています。

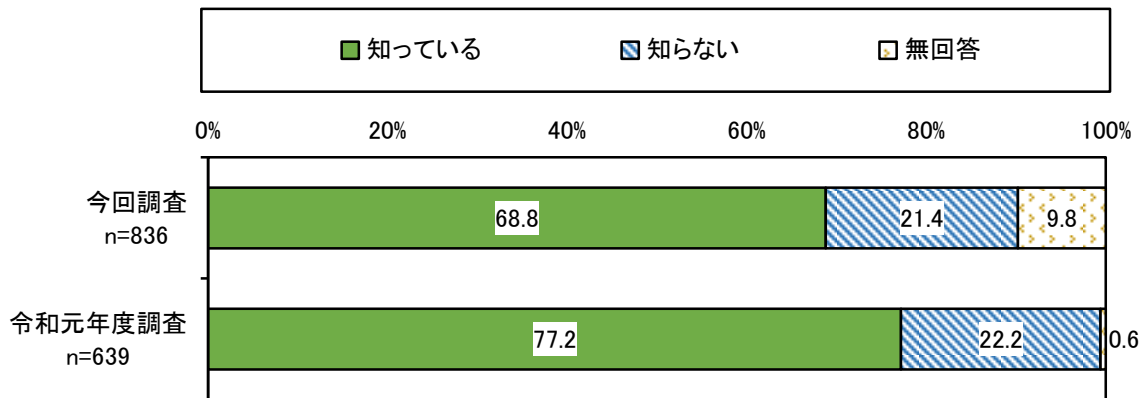
「当然だと思う」は、男性の「30～39歳」が50.0%と最も高く、次いで男性の「18～29歳」が34.8%、男性の「40～49歳」が34.2%となっています。

## (11) 部落差別(同和問題)について

問 20 あなたは、日本社会に「同和地区」、「被差別部落」などと呼ばれ、差別を受けてきた地区があること、あるいは「部落差別」「部落問題」「同和問題」といわれる問題があることを知っていますか。(〇は1つ)

「部落差別」「部落問題」「同和問題」といわれる問題について、全体では、「知っている」が68.8%、「知らない」が21.4%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「知っている」が減少傾向にあります。



		有効回答数 (件)	知っている (%)	知らない (%)	無回答 (%)
全体		836	68.8	21.4	9.8
女性		460	69.8	22.4	7.8
男性		313	70.3	19.8	9.9
答えたくない		15	60.0	33.3	6.7
女性	18～29歳	43	44.2	44.2	11.6
	30～39歳	36	63.9	33.3	2.8
	40～49歳	59	76.3	20.3	3.4
	50～59歳	93	81.7	15.1	3.2
	60～69歳	84	75.0	16.7	8.3
	70歳以上	145	65.5	22.1	12.4
男性	18～29歳	23	39.1	52.2	8.7
	30～39歳	24	62.5	37.5	0.0
	40～49歳	38	78.9	13.2	7.9
	50～59歳	67	71.6	19.4	9.0
	60～69歳	59	83.1	10.2	6.8
	70歳以上	101	68.3	16.8	14.9

性別にみると、「知らない」は、女性の方が男性より 2.6 ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「知っている」は、男性の「60～69歳」が83.1%と最も高く、次いで女性の「50～59歳」が81.7%、男性の「40～49歳」が78.9%となっています。

「知らない」は、男性の「18～29歳」が52.2%と最も高く、次いで女性の「18～29歳」が44.2%、男性の「30～39歳」が37.5%となっています。

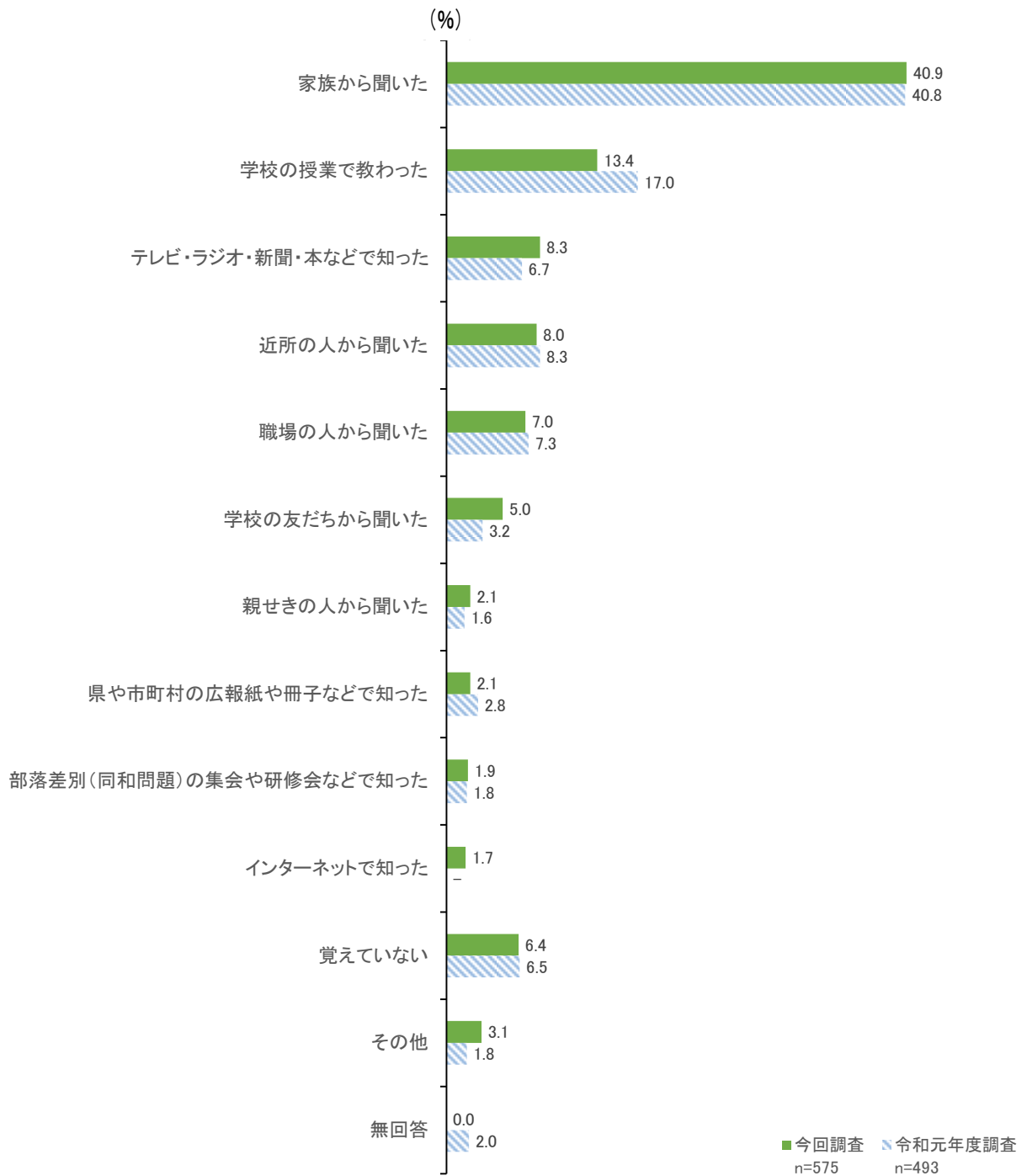
### ◆部落差別(同和問題)とは・・・

「同和地区」や「被差別部落」と呼ばれる特定の地域の出身者であること等を理由にして、結婚や就職において不利な扱いを受けたり、差別的な言動を受けたりするという日本固有の人権問題です。平成28年(2016年)には、部落差別のない社会を実現することを目的とした「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されています。



問 21 から問 22 までは、問 20 で「1. 知っている」とお答えになった方にお聞きします。

問 21 あなたが、部落差別(同和問題)や同和地区について、はじめて知ったきっかけは、何(誰)からですか。(〇は1つ)



(%)

	有効回答数（件）	家族から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	学校の友だちから聞いた	親せきの人から聞いた	県や市町村の広報紙や冊子などで知った	研修会などで知った	部落差別（同和問題）の集会やインターネットで知った	覚えていない	その他	無回答
全体	575	40.9	13.4	8.3	8.0	7.0	5.0	2.1	2.1	1.9	1.7	6.4	3.1	0.0
女性	321	43.6	14.0	7.2	8.7	6.9	2.8	1.6	2.5	1.9	1.6	7.5	1.9	0.0
男性	220	36.4	13.2	10.9	6.8	6.4	8.6	3.2	0.9	1.8	1.8	5.5	4.5	0.0
答えたくない	9	55.6	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0
18～29歳	30	30.0	33.3	10.0	6.7	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0	10.0	3.3	0.0	0.0
30～39歳	39	46.2	17.9	5.1	2.6	5.1	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	7.7	2.6	0.0
40～49歳	76	36.8	26.3	5.3	2.6	7.9	5.3	0.0	0.0	1.3	2.6	7.9	3.9	0.0
50～59歳	127	46.5	15.0	7.9	4.7	7.1	3.9	1.6	1.6	0.8	0.8	7.9	2.4	0.0
60～69歳	112	43.8	9.8	8.9	4.5	7.1	9.8	0.9	0.9	2.7	2.7	4.5	4.5	0.0
70歳以上	165	37.6	4.8	10.9	16.4	6.7	3.6	4.8	3.0	2.4	0.0	7.3	2.4	0.0

※令和元年度調査に「インターネットで知った」の選択肢なし

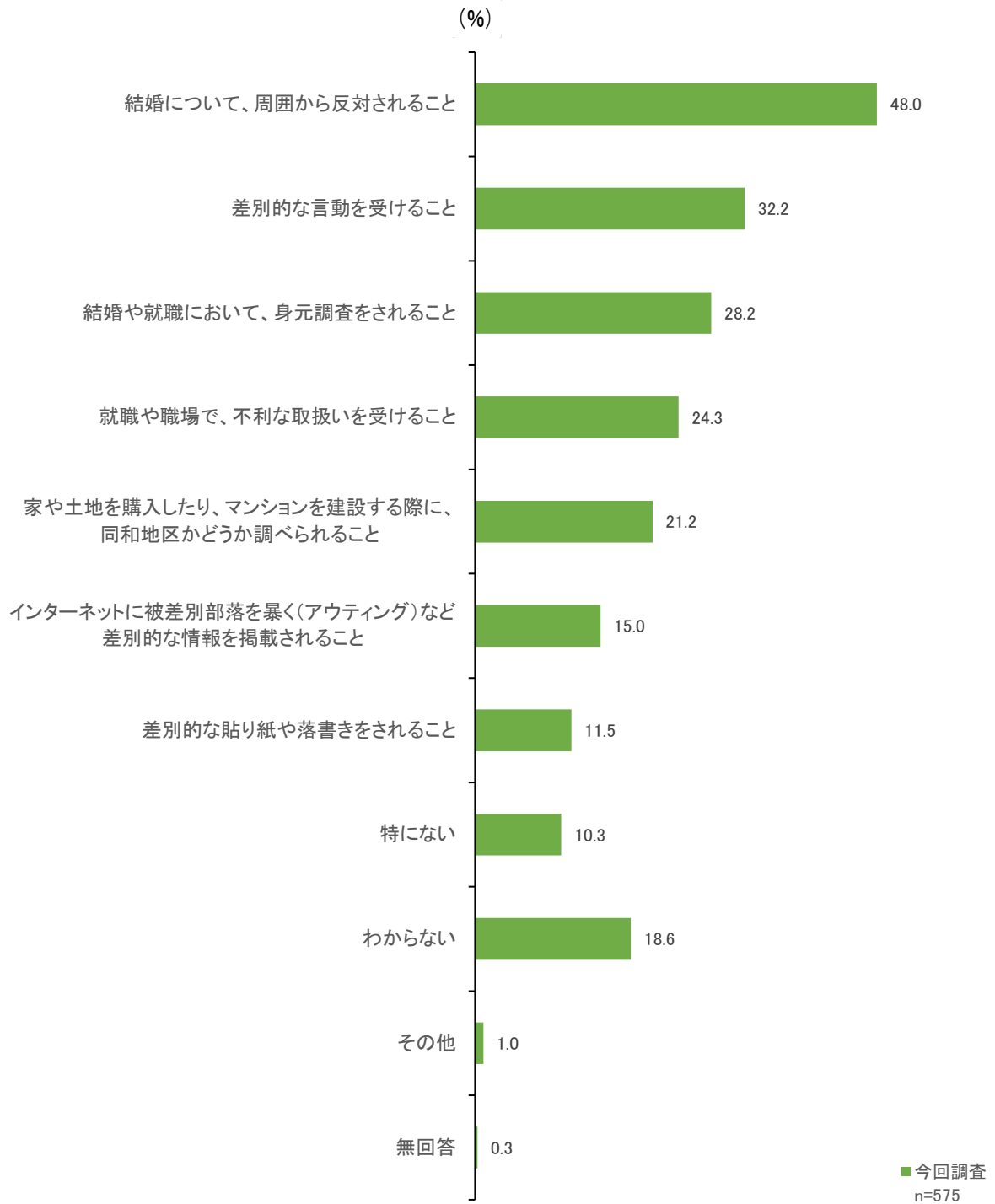
部落差別（同和問題）や同和地区を知ったきっかけについて、全体では「家族から聞いた」が40.9%と最も高く、次いで「学校の授業で教わった」が13.4%、「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」が8.3%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「家族から聞いた」が増加傾向にあります。

性別にみると、「家族から聞いた」は女性の方が男性より7.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「家族から聞いた」は、「50～59歳」が46.5%と最も高く、次いで「30～39歳」が46.2%、「60～69歳」が43.8%となっています。

問 22 部落差別(同和問題)について人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数(件)	結婚について、周囲から反対されること	差別的な言動を受けること	結婚や就職において、身元調査をされること	就職や職場で、不利な取扱いを受けること	家や土地を購入したり、マンションを建設する際に、同和地区かどうか調べられること	インターネットに被差別的な情報を掲載されること	差別的な貼り紙や落書きをされること	特になし	わからない	その他	無回答
全体	575	48.0	32.2	28.2	24.3	21.2	15.0	11.5	10.3	18.6	1.0	0.3
女性	321	48.3	30.5	27.4	25.2	20.9	15.0	12.5	8.7	21.2	1.2	0.6
男性	220	45.9	35.0	27.3	23.6	20.0	14.5	10.5	13.6	15.0	0.5	0.0
答えたくない	9	22.2	22.2	33.3	22.2	11.1	22.2	33.3	11.1	0.0	44.4	0.0
18～29歳	30	46.7	50.0	26.7	43.3	26.7	36.7	30.0	6.7	3.3	0.0	0.0
30～39歳	39	41.0	46.2	15.4	25.6	25.6	20.5	23.1	12.8	25.6	0.0	0.0
40～49歳	76	47.4	43.4	27.6	31.6	23.7	21.1	22.4	10.5	19.7	1.3	1.3
50～59歳	127	46.5	31.5	25.2	19.7	17.3	18.9	12.6	9.4	21.3	1.6	0.0
60～69歳	112	51.8	28.6	19.6	24.1	17.0	10.7	5.4	8.0	15.2	0.9	0.0
70歳以上	165	45.5	23.6	36.4	21.8	21.8	6.7	4.8	13.3	21.2	1.2	0.6

部落差別(同和問題)について、全体では「結婚について、周囲から反対されること」が48.0%と最も高く、次いで「差別的な言動を受けること」が32.2%、「結婚や就職において、身元調査をされること」が28.2%となっています。

性別にみると、「差別的な言動を受けること」は男性の方が女性より4.5ポイント高くなっています。

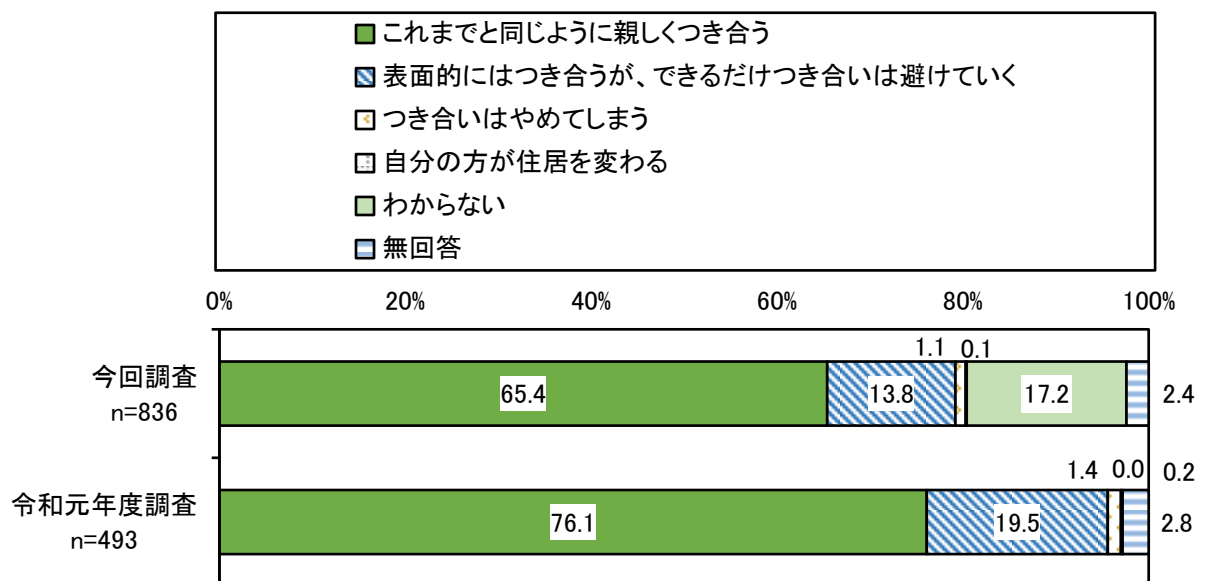
年齢別にみると、「結婚について、周囲から反対されること」は、「60～69歳」が51.8%と最も高く、次いで「40～49歳」が47.4%、「18～29歳」が46.7%となっています。

ここからは全ての方がお答えください。

問 23 仮に、日ごろ親しくつき合っている隣近所の人、なにかのことで、同和地区の人であることがわかった場合、あなたはどうしますか。(〇は1つ)

隣近所の人、同和地区の人であることがわかった場合について、全体では、「これまでと同じように親しくつき合う」が65.4%と最も高く、次いで「わからない」が17.2%、「表面的にはつき合うが、できるだけつき合いは避けていく」が13.8%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「これまでと同じように親しく付きあう」と「表面的には付きあうが、できるだけ付きあいは避けていく」がともに減少傾向にあります。



※令和元年度調査に「わからない」の選択肢なし

	有効回答数 (件)	これまでと同じように親しくつき合う	表面的にはつき合うが、できるだけつき合いは避けていく	つき合いはやめてしまう	自分の方が住居を変える	わからない	無回答
全体	836	65.4	13.8	1.1	0.1	17.2	2.4
女性	460	63.7	14.8	0.7	0.0	18.9	2.0
男性	313	70.0	13.4	1.0	0.0	13.7	1.9
答えたくない	15	33.3	0.0	6.7	6.7	53.3	0.0
18～29歳	70	65.7	5.7	1.4	0.0	24.3	2.9
30～39歳	61	67.2	14.8	0.0	0.0	18.0	0.0
40～49歳	99	67.7	15.2	0.0	0.0	17.2	0.0
50～59歳	164	68.9	12.2	1.8	0.0	16.5	0.6
60～69歳	144	59.0	14.6	0.7	0.0	20.8	4.9
70歳以上	248	66.1	16.1	0.8	0.4	14.5	2.0

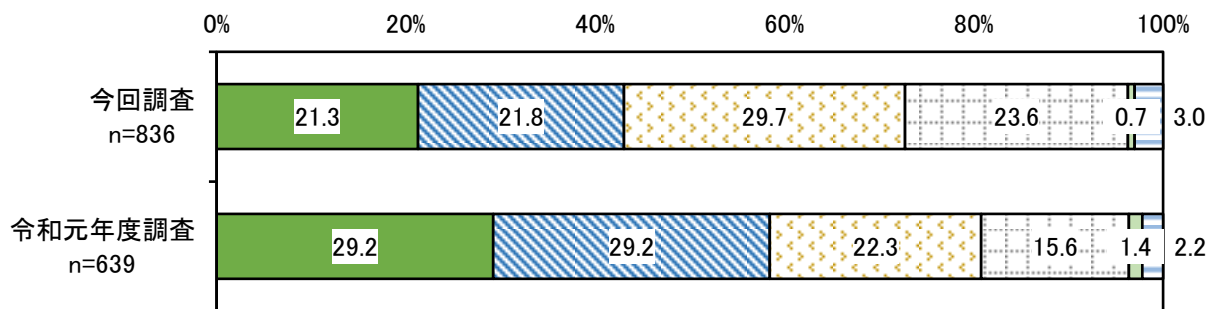
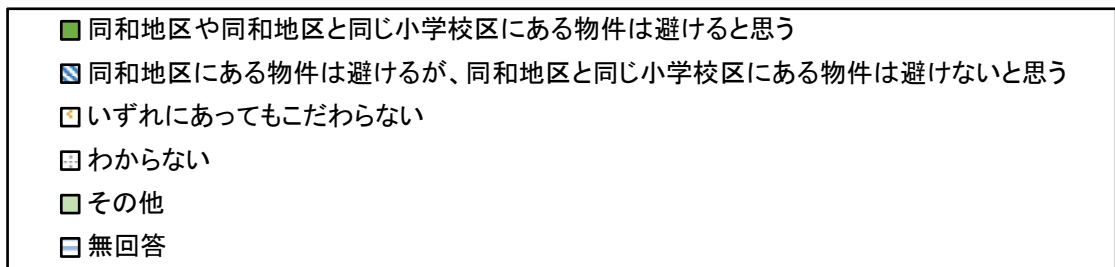
性別にみると、「これまでと同じように親しくつき合う」は、男性の方が女性より6.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「これまでと同じように親しくつき合う」は、「50～59歳」が68.9%と最も高く、次いで「40～49歳」が67.7%、「30～39歳」が67.2%となっています。

問 24 あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件を避けることがありますか。(○は1つ)

家の購入等の際に、同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件を避けることがあると思うかについて、全体では、「いずれにあってもこだわらない」が29.7%と最も高く、次いで「同和地区にある物件は避けるが、同和地区と同じ小学校区にある物件は避けないと思う」が21.8%、「同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件は避けると思う」が21.3%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「いずれにあってもこだわらない」が増加傾向にあります。



	有効回答数(件)	同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件は避けると思う	同和地区にある物件は避けるが、同和地区と同じ小学校区にある物件は避けないと思う	いずれにあってもこだわらない	わからない	その他	無回答
全体	836	21.3	21.8	29.7	23.6	0.7	3.0
女性	460	22.8	21.5	27.2	25.7	0.4	2.4
男性	313	21.1	23.0	33.2	19.8	0.6	2.2
答えたくない	15	6.7	0.0	26.7	13.3	46.7	6.7
18～29歳	70	21.4	15.7	24.3	34.3	1.4	2.9
30～39歳	61	24.6	14.8	42.6	16.4	0.0	1.6
40～49歳	99	23.2	22.2	34.3	19.2	1.0	0.0
50～59歳	164	25.0	19.5	29.9	22.6	1.8	1.2
60～69歳	144	27.1	22.9	21.5	24.3	0.7	3.5
70歳以上	248	15.7	25.4	30.6	24.6	0.0	3.6

性別にみると、「いずれにあってもこだわらない」は、男性の方が女性より6.0ポイント高くなっています。

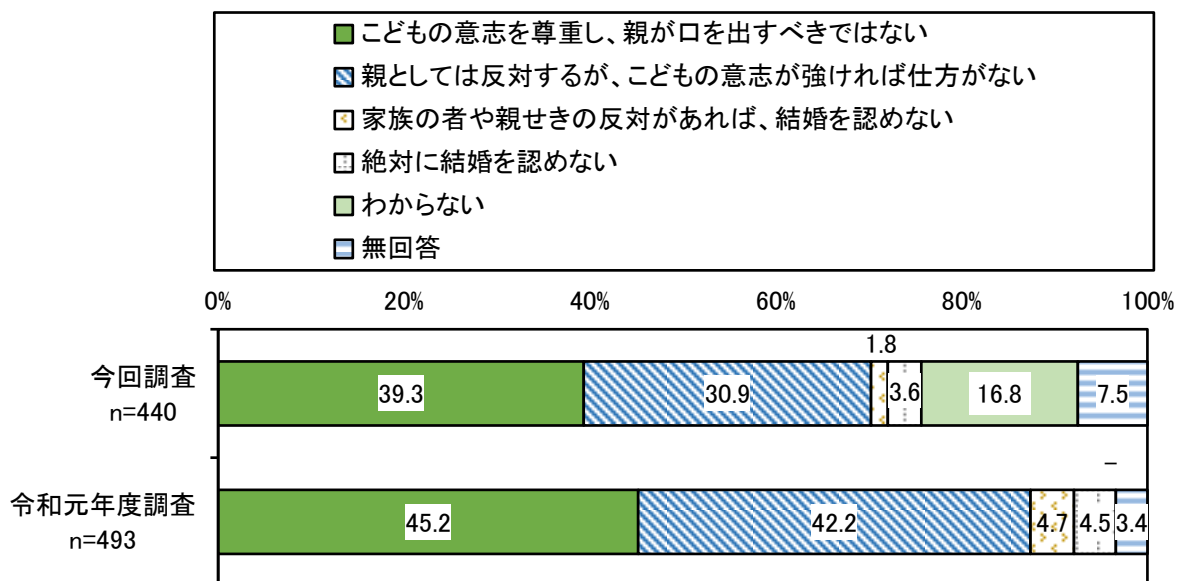
年齢別にみると、「いずれにあってもこだわらない」は、「30～39歳」が42.6%と最も高く、次いで「40～49歳」が34.3%、「70歳以上」が30.6%となっています。

**お子さんのいる方にお聞きします。**

問 25 あなたのお子さんが結婚しようとする相手が同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどのようにしますか。(〇は1つ)

自分の子どもが結婚しようとする相手が同和地区の人であるとわかった場合について、全体では、「子どもの意志を尊重し、親が口を出すべきではない」が39.3%と最も高く、次いで「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ仕方がない」が30.9%、「わからない」が16.8%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「子どもの意志を尊重し、親が口を出すべきではない」と「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ仕方がない」がともに減少傾向にあります。



※令和元年度調査に「わからない」の選択肢なし

	有効回答数 (件)	子どもの意志を尊重し、親が口を出すべきではない	親としては反対するが、子どもの意志が強ければ仕方がない	家族の者や親せきの反対があれば、結婚を認めない	絶対に結婚を認めない	わからない	無回答
全体	440	39.3	30.9	1.8	3.6	16.8	7.5
女性	259	35.5	30.9	1.9	2.7	20.5	8.5
男性	177	44.6	31.6	1.7	4.5	11.3	6.2
答えたくない	4	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
18～29歳	7	57.1	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
30～39歳	29	48.3	13.8	3.4	10.3	24.1	0.0
40～49歳	67	47.8	23.9	0.0	1.5	26.9	0.0
50～59歳	115	36.5	38.3	1.7	3.5	17.4	2.6
60～69歳	93	32.3	37.6	0.0	3.2	21.5	5.4
70歳以上	128	39.8	28.1	3.9	3.1	6.3	18.8

性別にみると、「子どもの意志を尊重し、親が口を出すべきではない」は、男性の方が女性より9.1ポイント高くなっています。

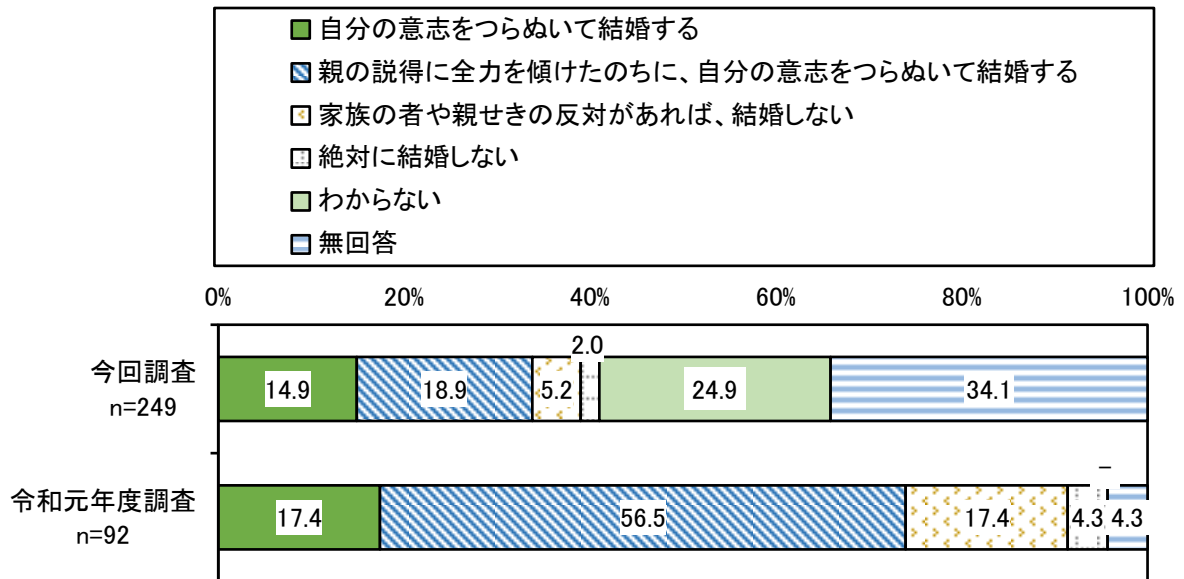
年齢別にみると、「子どもの意志を尊重し、親が口を出すべきではない」は、「18～29歳」が57.1%と最も高く、次いで「30～39歳」が48.3%、「40～49歳」が47.8%となっています。

**未婚の方にお聞きします。**

問 26 あなたが同和地区の人と恋愛し、結婚しようとするとき、親や親せきから強い反対を受けたら、あなたはどうしますか。(〇は1つ)

同和地区の人との恋愛・結婚を親や親せきから強い反対を受けた時について、全体では、「わからない」が24.9%と最も高く、次いで「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志をつらぬいて結婚する」が18.9%、「自分の意志をつらぬいて結婚する」が14.9%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「自分の意志をつらぬいて結婚する」が減少傾向にあります。



※令和元年度調査に「わからない」の選択肢なし

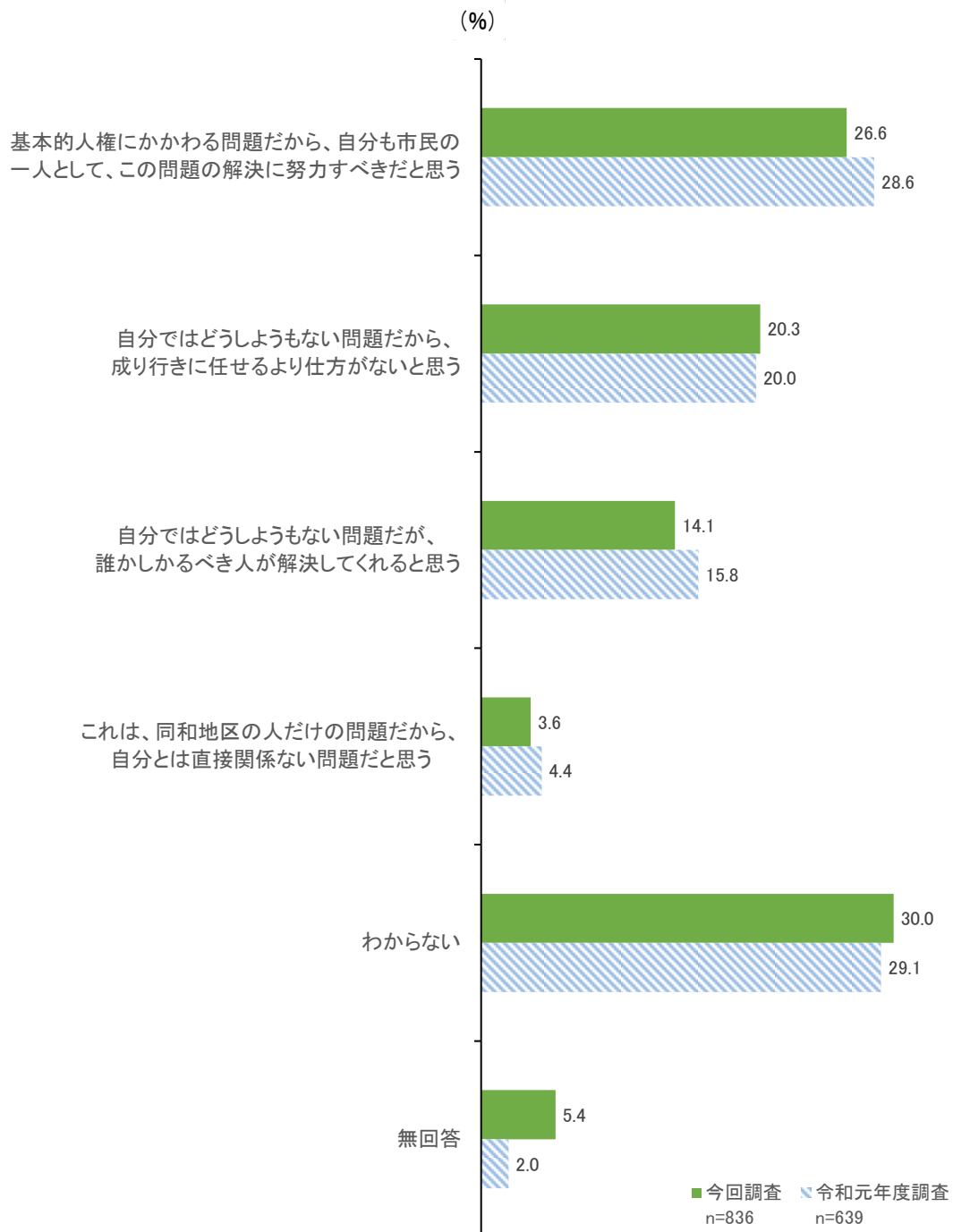
	有効回答数 (件)	自分の意志をつらぬいて結婚する	親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志をつらぬいて結婚する	家族の者や親せきの反対があれば、結婚しない	絶対に結婚しない	わからない	無回答
全体	249	14.9	18.9	5.2	2.0	24.9	34.1
女性	152	9.9	19.1	4.6	2.6	21.7	42.1
男性	92	22.8	19.6	6.5	1.1	28.3	21.7
答えたくない	5	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0
18～29歳	54	14.8	35.2	5.6	3.7	35.2	5.6
30～39歳	26	15.4	34.6	3.8	3.8	34.6	7.7
40～49歳	18	27.8	22.2	11.1	5.6	27.8	5.6
50～59歳	37	18.9	21.6	8.1	0.0	27.0	24.3
60～69歳	36	25.0	8.3	8.3	2.8	16.7	38.9
70歳以上	78	5.1	5.1	1.3	0.0	16.7	71.8

性別にみると、「自分の意志をつらぬいて結婚する」は、男性の方が女性より12.9ポイント高くなっています。また、男性・女性ともに「わからない」の回答が最も多くなっています。

年齢別にみると、「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志をつらぬいて結婚する」は、「18～29歳」が35.2%と最も高く、次いで「30～39歳」が34.6%、「40～49歳」が22.2%となっています。



問 27 部落差別(同和問題)の解決に対するあなたの考えに最も近いのはどれですか。  
(○は1つ)



(%)

	有効回答数 (件)	努力すべきだ と思う	基本的人権に かかわる問題 だから、自分 も市民の一人 として、この 問題の解決に 努力すべきだ と思う	基本的人権に かかわる問題 だから、自分 も市民の一人 として、この 問題の解決に 努力すべきだ と思う	自分ではどう しようもない 問題だから、 成り行きに 任せるより 仕方がない と思う	人間が解決し てくれない かと思う	自己解決が 難しいか と思う	接関係ない 問題だから 、自分とは 直接関係ない 問題だと思 う	この問題は、 同和地区の 人だけの問 題だと思 う	わからない	無回答
全体	836	26.6	20.3	14.1	3.6	30.0	5.4				
女性	460	25.4	22.2	14.6	1.7	30.2	5.9				
男性	313	29.4	19.5	15.3	6.1	26.5	3.2				
答えたくない	15	6.7	0.0	0.0	13.3	80.0	0.0				
女性	18～29歳	43	16.3	27.9	23.3	4.7	25.6	2.3			
	30～39歳	36	19.4	19.4	22.2	0.0	36.1	2.8			
	40～49歳	59	28.8	20.3	16.9	0.0	28.8	5.1			
	50～59歳	93	20.4	25.8	19.4	3.2	30.1	1.1			
	60～69歳	84	28.6	28.6	6.0	0.0	28.6	8.3			
	70歳以上	145	29.7	15.9	11.0	2.1	31.7	9.7			
男性	18～29歳	23	17.4	4.3	17.4	4.3	52.2	4.3			
	30～39歳	24	12.5	12.5	29.2	12.5	29.2	4.2			
	40～49歳	38	28.9	31.6	18.4	5.3	15.8	0.0			
	50～59歳	67	29.9	23.9	9.0	6.0	28.4	3.0			
	60～69歳	59	23.7	22.0	11.9	6.8	33.9	1.7			
	70歳以上	101	39.6	15.8	15.8	5.0	18.8	5.0			

部落差別(同和問題)の解決に対する考えについて、全体では「わからない」が 30.0%と最も高く、次いで「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が 26.6%、「自分ではどうしようもない問題だから、成り行きに任せるより仕方がないと思う」が 20.3%となっています。

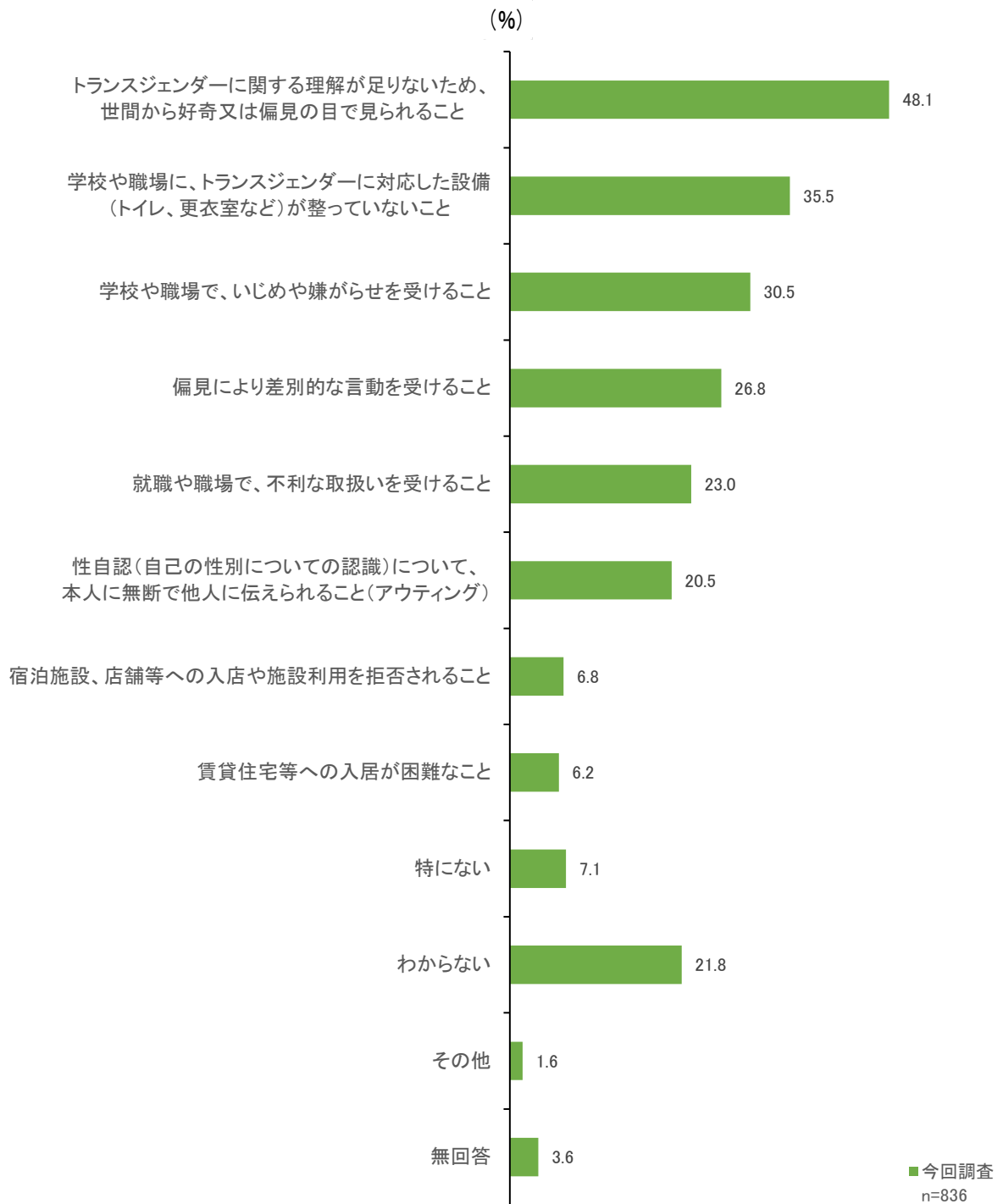
今回調査と令和元年度調査を比較すると、「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が減少傾向にあります。

性別にみると、「これは、同和地区の人だけの問題だから、自分とは直接関係ない問題だと思う」は男性の方が女性より 4.4 ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」は、男性の「70歳以上」が 39.6%と最も高く、次いで男性の「50～59歳」が 29.9%、女性の「70歳以上」が 29.7%となっています。

## (12) 性的少数者の人権について

問 28 出生時に割り当てられた性別とは異なる性別を生きるトランスジェンダーに関する人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。  
(〇はいくつでも)



(%)

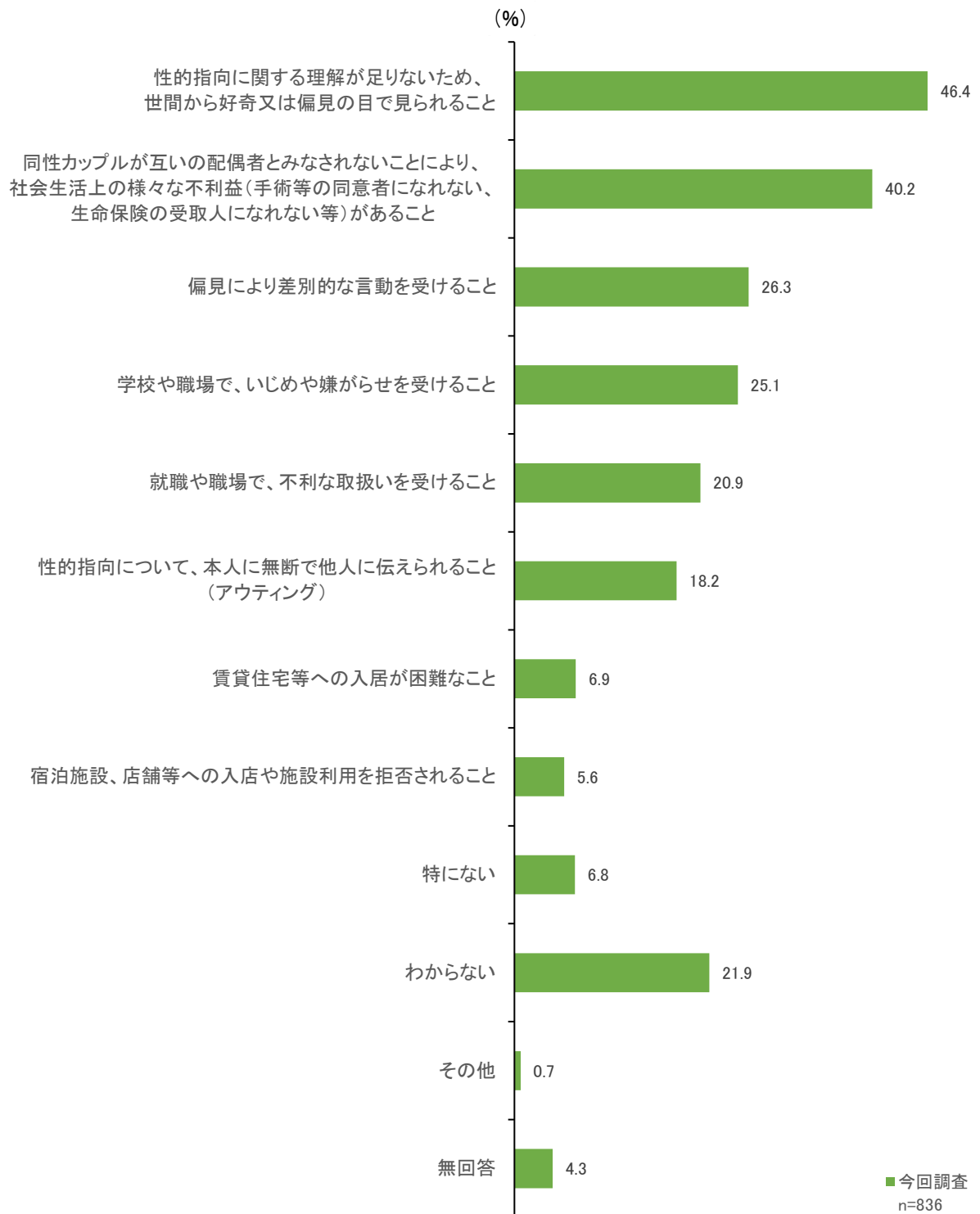
	有効回答数 (件)	見の目で見られること	足らないため、世間から好奇又は偏見が	トランスジェンダーに関する理解が	どが整っていないこと	学校や職場に、トランスジェンダーに対応した設備(トイレ、更衣室など)	学校や職場で、いじめや嫌がらせを受けること	と偏見により差別的な言動を受けること	就職や職場で、不利な取扱いを受けること	就職や職場で、不利な取扱いを受けること	伝えられること(本人に無断で他人に)	識(自己の性別について)	性自認(本人に無断で他人に)	用を拒否されること	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用	賃貸住宅等への入居が困難なこと	特にな	わからない	その他	無回答
全体	836	48.1	35.5	30.5	26.8	23.0	20.5	6.8	6.2	7.1	21.8	1.6	3.6							
女性	460	50.2	40.0	31.5	29.8	24.3	23.7	6.1	6.5	4.6	20.7	1.5	3.3							
男性	313	47.9	31.9	30.4	24.6	22.0	16.3	8.0	5.4	11.2	20.1	1.6	2.6							
答えたくない	15	33.3	33.3	20.0	26.7	33.3	13.3	13.3	26.7	6.7	13.3	33.3	0.0							
18～29歳	70	48.6	41.4	40.0	44.3	27.1	37.1	10.0	8.6	10.0	10.0	4.3	1.4							
30～39歳	61	54.1	49.2	47.5	45.9	34.4	36.1	18.0	9.8	4.9	11.5	1.6	1.6							
40～49歳	99	58.6	46.5	41.4	34.3	26.3	30.3	8.1	8.1	4.0	10.1	2.0	0.0							
50～59歳	164	50.6	42.1	34.1	29.3	28.0	18.9	6.7	9.1	5.5	15.9	2.4	1.2							
60～69歳	144	58.3	38.9	27.8	25.0	26.4	20.1	5.6	6.9	9.0	13.9	0.7	4.2							
70歳以上	248	37.5	23.0	20.2	16.5	13.7	10.1	4.0	1.6	8.9	37.5	0.8	5.2							

性的少数者(トランスジェンダー)の人権問題について、全体では「トランスジェンダーに関する理解が足りないため、世間から好奇又は偏見の目で見られること」が48.1%と最も高く、次いで「学校や職場に、トランスジェンダーに対応した設備(トイレ、更衣室など)が整っていないこと」が35.5%、「学校や職場で、いじめや嫌がらせを受けること」が30.5%となっています。

性別にみると、「学校や職場に、トランスジェンダーに対応した設備(トイレ、更衣室など)が整っていないこと」は女性の方が男性より8.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「トランスジェンダーに関する理解が足りないため、世間から好奇又は偏見の目で見られること」は、「40～49歳」が58.6%と最も高く、次いで「60～69歳」が58.3%、「30～39歳」が54.1%となっています。また、「わからない」は、他の年齢と比べて「70歳以上」が高くなっています。

問 29 性的指向(異性愛、同性愛、両性愛等)に関する人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)



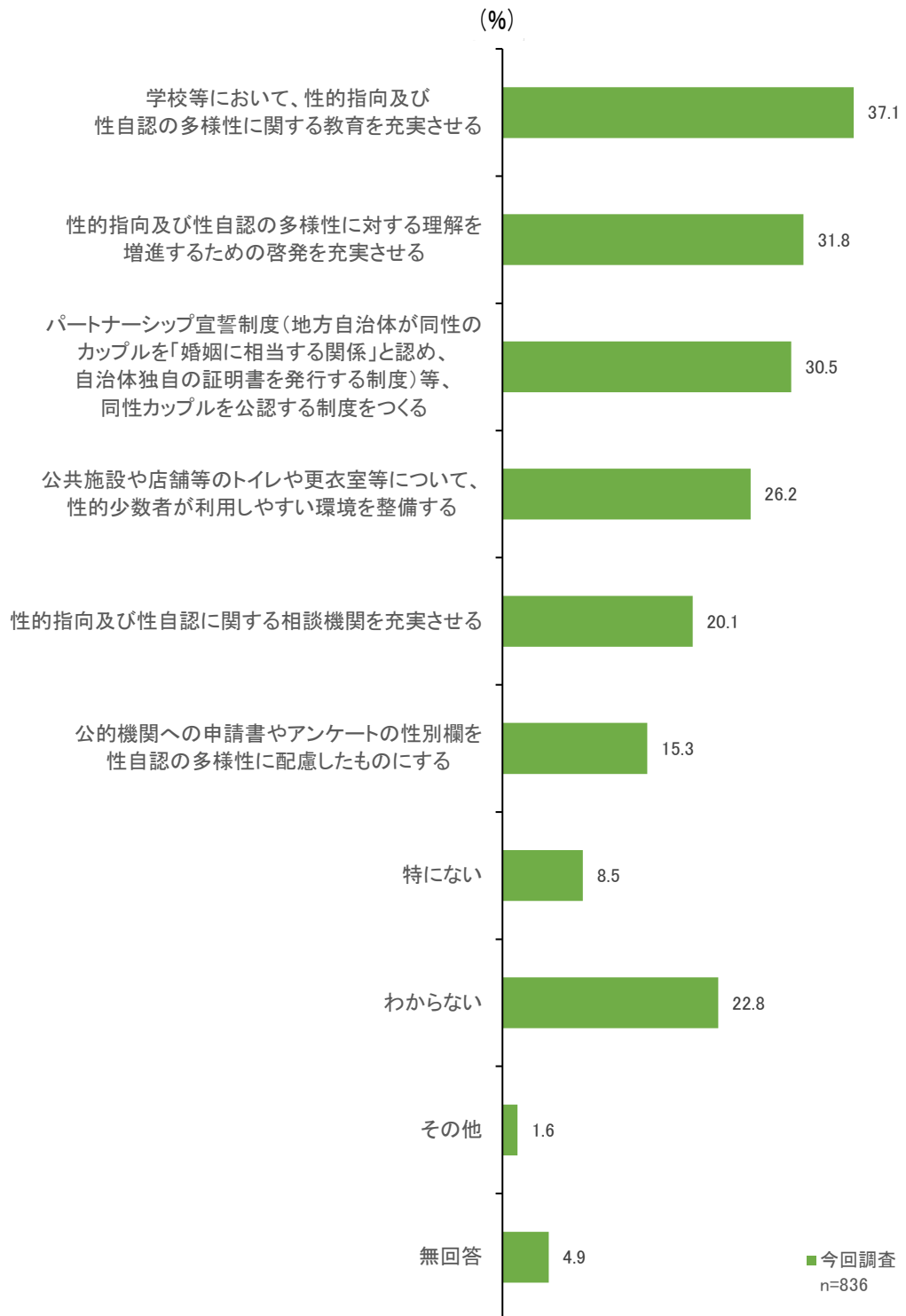
	有効回答数（件）	世間から好奇又は偏見の目で見られること	性的指向に関する理解が足りないため、世間から好奇又は偏見の目で見られること	同性カップルが互いの配偶者とみなされないことにより、社会生活上の様々な不利益（手術等の同意者になれない、生命保険の受取人になれない等）があること	偏見により差別的な言動を受けること	学校や職場で、いじめや嫌がらせを受けること	就職や職場で、不利な取扱いを受けること	性的指向について、本人に無断で他人に伝えられること（アウトティング）	賃貸住宅等への入居が困難なこと	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること	特にない	わからない	その他	無回答
全体	836	46.4	40.2	26.3	25.1	20.9	18.2	6.9	5.6	6.8	21.9	0.7	4.3	
女性	460	48.9	46.3	28.5	26.5	23.3	20.9	7.0	4.6	5.2	20.2	0.9	2.8	
男性	313	46.0	33.2	25.2	24.9	18.5	16.0	6.7	6.7	9.6	22.4	0.3	3.5	
答えたくない	15	33.3	40.0	26.7	40.0	33.3	20.0	20.0	20.0	6.7	13.3	26.7	6.7	
18～29歳	70	48.6	51.4	37.1	30.0	28.6	30.0	10.0	10.0	10.0	12.9	1.4	2.9	
30～39歳	61	47.5	63.9	37.7	49.2	32.8	27.9	8.2	13.1	6.6	11.5	1.6	0.0	
40～49歳	99	47.5	44.4	29.3	29.3	20.2	28.3	9.1	7.1	3.0	17.2	1.0	3.0	
50～59歳	164	50.0	46.3	30.5	27.4	23.2	17.1	10.4	6.7	4.9	18.9	0.6	1.8	
60～69歳	144	50.0	38.9	26.4	24.3	23.6	19.4	6.9	4.9	6.9	18.8	0.7	2.1	
70歳以上	248	43.5	28.6	19.4	18.1	14.9	10.9	3.2	2.0	9.7	30.6	0.4	5.6	

性的指向(異性愛、同性愛、両性愛等)に関する人権問題について、全体では「性的指向に関する理解が足りないため、世間から好奇又は偏見の目で見られること」が46.4%と最も高く、次いで「同性カップルが互いの配偶者とみなされないことにより、社会生活上の様々な不利益(手術等の同意者になれない、生命保険の受取人になれない等)があること」が40.2%、「偏見により差別的な言動を受けること」が26.3%となっています。

性別にみると、「同性カップルが互いの配偶者とみなされないことにより、社会生活上の様々な不利益(手術等の同意者になれない、生命保険の受取人になれない等)があること」は女性の方が男性より13.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「性的指向に関する理解が足りないため、世間から好奇又は偏見の目で見られること」は、「50～59歳」と「60～69歳」がともに50.0%と最も高く、次いで「18～29歳」が48.6%、「30～39歳」と「40～49歳」がともに47.5%となっています。また、「わからない」は、他の年齢と比べて「70歳以上」が高くなっています。

問 30 性的指向及び性自認の多様性に対する理解を深めるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数（件）	学校等において、性的指向及び性自認の多様性に関する教育を充実させる	性的指向及び性自認の多様性に対する理解を増進するための啓発を充実させる	カップルを公認する制度をつくる	パートナーシップ宣誓制度（地方自治体が同性のカップルを「婚姻に相当する関係」と認め、自治体独自の証明書を発行する制度）等、同性	公共施設や店舗等のトイレや更衣室等について、性的少数者が利用しやすい環境を整備する	性的指向及び性自認に関する相談機関を充実させる	公的機関への申請書やアンケートの性別欄を性的自認の多様性に配慮したものにする	特になし	わからない	その他	無回答
全体	836	37.1	31.8	30.5	26.2	20.1	15.3	8.5	22.8	1.6	4.9	
女性	460	39.6	32.0	35.4	30.4	19.3	17.0	5.9	21.5	2.2	3.9	
男性	313	36.4	33.9	25.6	21.7	23.6	15.0	12.8	22.0	1.0	3.5	
答えたくない	15	13.3	33.3	6.7	6.7	20.0	26.7	0.0	20.0	33.3	6.7	
18～29歳	70	48.6	30.0	42.9	32.9	27.1	24.3	8.6	12.9	4.3	1.4	
30～39歳	61	54.1	34.4	52.5	34.4	24.6	19.7	6.6	14.8	1.6	0.0	
40～49歳	99	39.4	41.4	37.4	37.4	25.3	20.2	9.1	12.1	5.1	3.0	
50～59歳	164	40.9	36.6	37.2	26.8	20.1	15.9	6.7	18.9	0.6	2.4	
60～69歳	144	38.2	31.9	30.6	27.1	20.1	10.4	10.4	18.8	0.7	3.5	
70歳以上	248	29.0	26.2	16.9	19.0	17.3	14.5	9.7	34.3	0.8	6.9	

性的指向及び性自認の多様性に対する理解を深めるために必要だと思うことについて、全体では「学校等において、性的指向及び性自認の高様性に関する教育を充実させる」が37.1%と最も高く、次いで「性的指向及び性自認の高様性に対する理解を増進するための啓発を充実させる」が31.8%、「パートナーシップ宣誓制度（地方自治体が同性のカップルを「婚姻に相当する関係」と認め、自治体独自の証明書を発行する制度）等、同性カップルを公認する制度をつくる」が30.5%となっています。

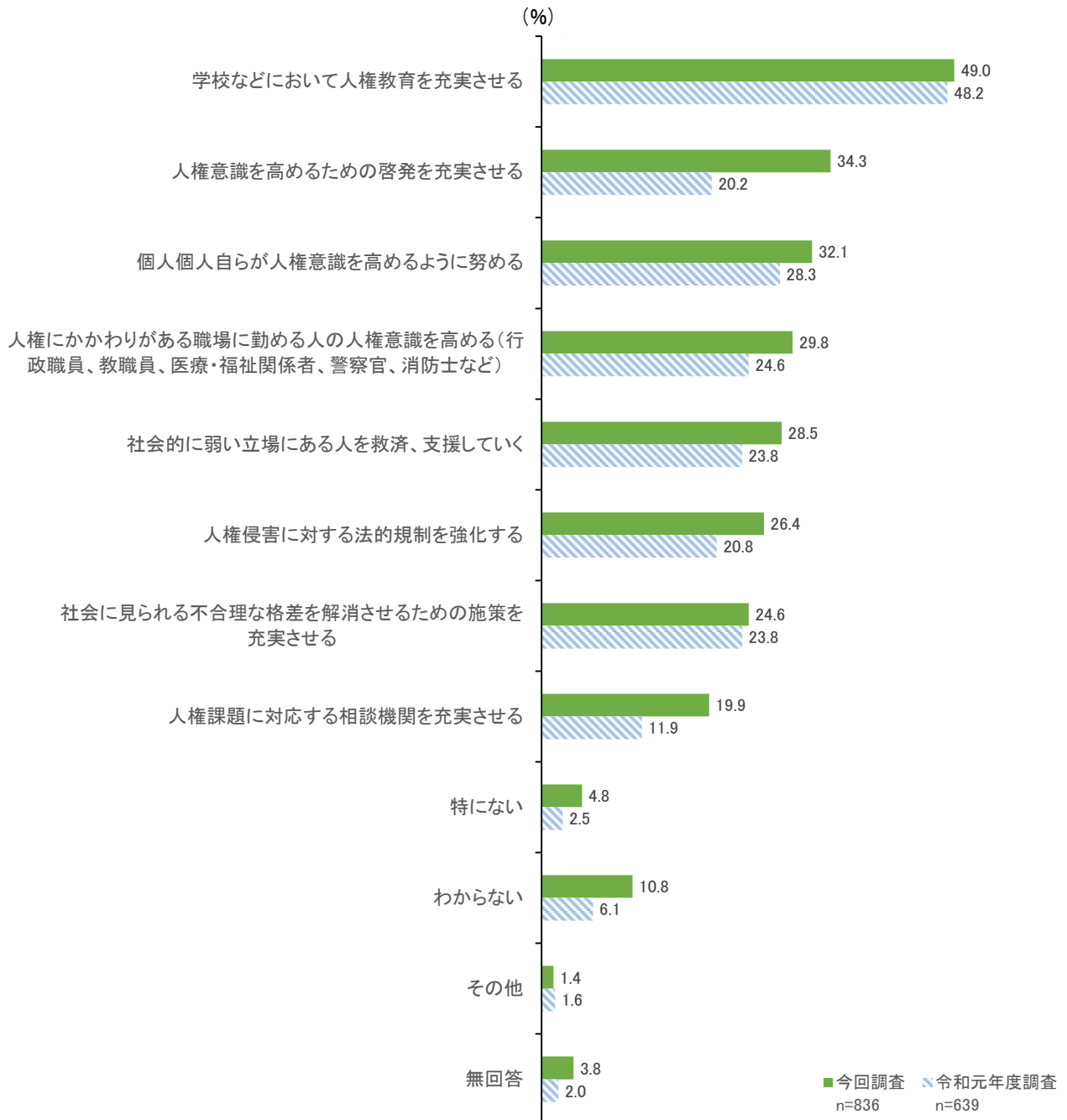
性別にみると、「パートナーシップ宣誓制度（地方自治体が同性のカップルを「婚姻に相当する関係）」は女性の方が男性より9.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「学校等において、性的指向及び性自認の高様性に関する教育を充実させる」は、「30～39歳」が54.1%と最も高く、次いで「18～29歳」が48.6%、「50～59歳」が40.9%となっています。また、「わからない」は、他の年齢と比べて「70歳以上」が高くなっています。



### (13) 人権尊重の取組及び啓発活動への参加、認知について

問 31 人権が尊重される社会を実現するには、特にどのような取組が必要だと思いますか。  
(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数（件）	学校などにおいて人権教育を充実させる	人権意識を高めるための啓発を充実させる	個人個人自らが人権意識を高めるように努める	人権にかかわりがある職場に勤める人の人権意識を高める（行政職員、教職員、医療・福祉関係者、警察官、消防士など）	社会的に弱い立場にある人を救済、支援していく	人権侵害に対する法的規制を強化する	社会に見られる不合理な格差を解消させるための施策を充実させる	人権課題に対応する相談機関を充実させる	特にない	わからない	その他	無回答
全体	836	49.0	34.3	32.1	29.8	28.5	26.4	24.6	19.9	4.8	10.8	1.4	3.8
女性	460	51.5	33.9	34.6	32.2	33.0	28.9	25.7	20.2	2.8	10.7	1.5	2.2
男性	313	48.6	38.0	29.7	28.4	24.3	26.5	29.7	21.4	7.0	8.6	1.3	3.2
答えたくない	15	6.7	33.3	20.0	6.7	20.0	13.3	20.0	6.7	6.7	13.3	33.3	6.7
18～29歳	70	50.0	18.6	40.0	28.6	32.9	34.3	34.3	18.6	4.3	11.4	2.9	1.4
30～39歳	61	57.4	37.7	39.3	36.1	39.3	44.3	49.2	32.8	4.9	4.9	3.3	0.0
40～49歳	99	44.4	34.3	40.4	25.3	27.3	31.3	23.2	21.2	3.0	11.1	3.0	3.0
50～59歳	164	49.4	40.2	31.1	28.0	28.0	29.3	23.2	14.6	4.3	9.8	0.6	0.6
60～69歳	144	56.9	39.6	26.4	29.9	28.5	25.7	24.3	20.8	3.5	6.3	2.1	2.1
70歳以上	248	46.8	33.5	29.8	33.1	27.4	20.6	19.4	21.4	6.5	13.7	0.4	5.2

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている

人権が尊重される社会を実現するために必要だと思う取組について、全体では「学校などにおいて人権教育を充実させる」が49.0%と最も高く、次いで「人権意識を高めるための啓発を充実させる」が34.3%、「個人個人自らが人権意識を高めるように努める」が32.1%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「人権意識を高めるための啓発を充実させる」が増加傾向にあります。

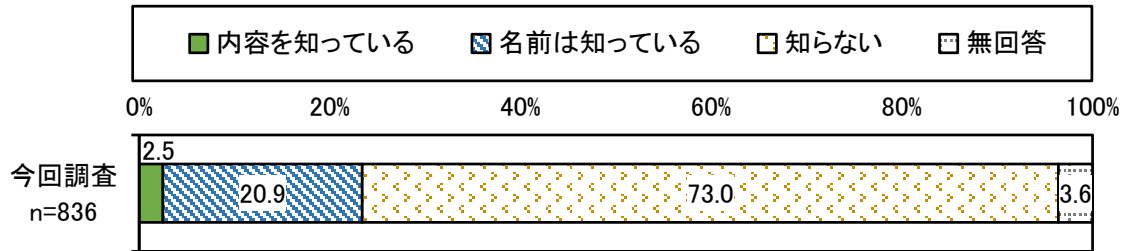
性別にみると、「社会的に弱い立場にある人を救済、支援していく」は女性の方が男性より8.7ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「学校などにおいて人権教育を充実させる」は、「30～39歳」が57.4%と最も高く、次いで「60～69歳」が56.9%、「18～29歳」が50.0%となっています。

問 32 人権問題について県や市町村などが行っている取組について、あなたが実際に参加したり、見たり、聞いたりしたことがあるものはどれですか。

【1】津島市人権が尊重されるまちづくり条例(○は1つ)

津島市人権が尊重されるまちづくり条例の認知度について、全体では、「内容を知っている」が2.5%、「名前は知っている」が20.9%、「知らない」が73.0%となっています。



	有効回答数 (件)	内容を知っている (%)	名前は知っている (%)	知らない (%)	無回答 (%)
全体	836	2.5	20.9	73.0	3.6
女性	460	2.6	22.2	73.0	2.2
男性	313	2.2	21.7	73.2	2.9
答えたくない	15	0.0	0.0	93.3	6.7
18～29歳	70	2.9	7.1	88.6	1.4
30～39歳	61	4.9	16.4	78.7	0.0
40～49歳	99	3.0	20.2	73.7	3.0
50～59歳	164	1.2	18.9	79.3	0.6
60～69歳	144	2.8	23.6	71.5	2.1
70歳以上	248	2.0	27.8	65.3	4.8

性別にみると、いずれの回答も男性と女性に大きな差はみられません。

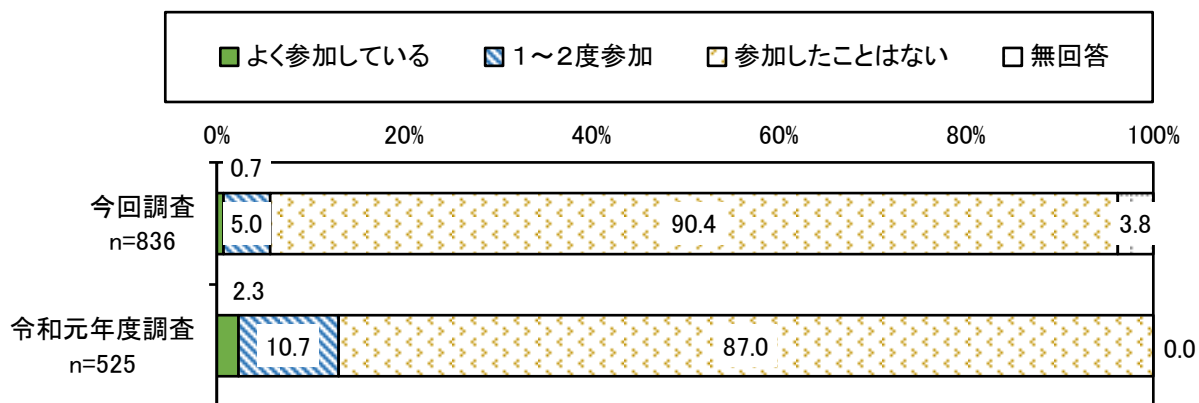
年齢別にみると、「名前は知っている」は、「70歳以上」が27.8%と最も高く、次いで「60～69歳」が23.6%、「40～49歳」が20.2%となっています。

「知らない」は、「18～29歳」が88.6%と最も高く、次いで「50～59歳」が79.3%、「30～39歳」が78.7%となっています。

【2】講演会、研修会、シンポジウム(〇は1つ)

講演会、研修会、シンポジウムの参加について、全体では、「よく参加している」が 0.7%、「1～2度参加」が 5.0%、「参加したことはない」が 90.4%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「よく参加している」と「1～2度参加」が減少傾向、「参加したことはない」が増加傾向にあります。



	有効回答数 (件)	よく参加している (%)	1～2度参加 (%)	参加したことはない (%)	無回答 (%)
全体	836	0.7	5.0	90.4	3.8
女性	460	0.0	5.7	91.7	2.6
男性	313	1.3	4.8	91.1	2.9
答えたくない	15	0.0	0.0	93.3	6.7
18～29歳	70	0.0	1.4	95.7	2.9
30～39歳	61	1.6	1.6	96.7	0.0
40～49歳	99	2.0	4.0	90.9	3.0
50～59歳	164	0.0	3.7	95.7	0.6
60～69歳	144	0.0	7.6	90.3	2.1
70歳以上	248	0.4	7.3	87.1	5.2

性別にみると、「よく参加している」は、男性の方が女性より 1.3 ポイント高く、「1～2度参加」は、女性の方が男性より 0.9 ポイント高くなっています。

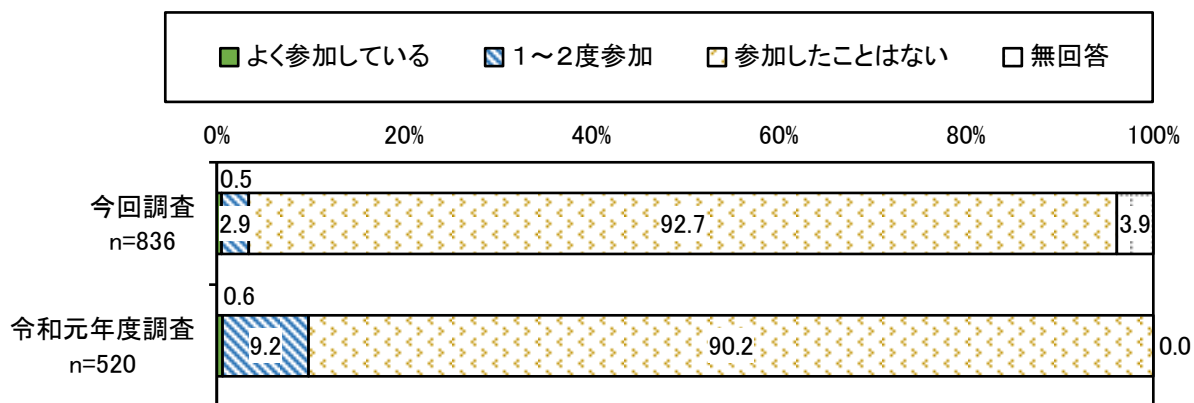
年齢別にみると、「1～2度参加」は、「60～69歳」が 7.6%と最も高く、次いで「70歳以上」が 7.3%、「40～49歳」が 4.0%となっています。

「参加したことはない」は、「30～39歳」が 96.7%と最も高く、次いで「18～29歳」と「50～59歳」がともに 95.7%、「40～49歳」が 90.9%となっています。

### 【3】啓発イベントや企画展示(〇は1つ)

啓発イベントや企画展示の参加について、全体では、「よく参加している」が0.5%、「1～2度参加」が2.9%、「参加したことはない」が92.7%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「よく参加している」と「1～2度参加」が減少傾向、「参加したことはない」が増加傾向にあります。



(%)

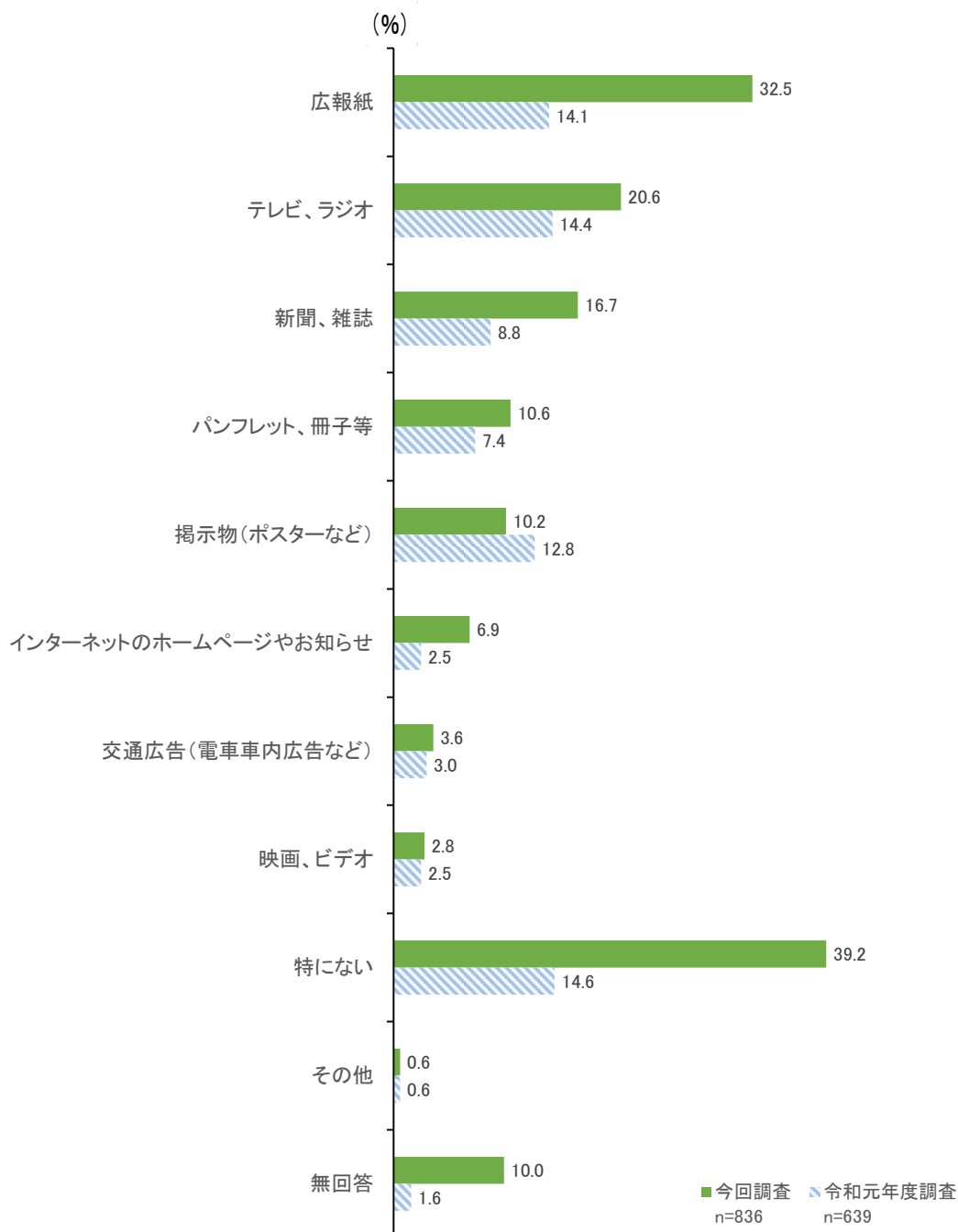
	有効回答数 (件)	よく参加している	1～2度参加	参加したことはない	無回答
全体	836	0.5	2.9	92.7	3.9
女性	460	0.2	2.6	94.8	2.4
男性	313	1.0	3.2	92.7	3.2
答えたくない	15	0.0	0.0	86.7	13.3
18～29歳	70	0.0	0.0	97.1	2.9
30～39歳	61	1.6	0.0	98.4	0.0
40～49歳	99	1.0	1.0	94.9	3.0
50～59歳	164	0.0	0.6	98.8	0.6
60～69歳	144	0.7	4.2	93.1	2.1
70歳以上	248	0.4	5.6	88.3	5.6

性別にみると、「よく参加している」は、男性の方が女性より0.8ポイント高く、「参加したことはない」は、女性の方が男性より2.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「1～2度参加」は、「70歳以上」が5.6%と最も高く、次いで「60～69歳」が4.2%、「40～49歳」が1.0%となっています。

「参加したことはない」は、「50～59歳」が98.8%と最も高く、次いで「30～39歳」が98.4%、「18～29歳」が97.1%となっています。

【4】 その他(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数 (件)	広報紙	テレビ、ラジオ	新聞、雑誌	パンフレット、冊子等	掲示物(ポスターなど)	インターネットのホームページやお知らせ	交通広告(電車車内広告など)	映画、ビデオ	特にない	その他	無回答
全体	836	32.5	20.6	16.7	10.6	10.2	6.9	3.6	2.8	39.2	0.6	10.0
女性	460	36.5	22.0	19.8	11.5	11.3	7.0	4.6	2.6	38.3	0.7	8.0
男性	313	29.1	18.5	12.5	9.9	9.3	7.3	2.2	2.6	39.6	0.6	10.5
答えたくない	15	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	73.3	13.3
18～29歳	70	17.1	10.0	8.6	12.9	12.9	12.9	10.0	2.9	54.3	1.4	11.4
30～39歳	61	27.9	11.5	8.2	14.8	18.0	13.1	9.8	3.3	54.1	0.0	6.6
40～49歳	99	27.3	14.1	8.1	8.1	11.1	8.1	3.0	2.0	47.5	1.0	10.1
50～59歳	164	26.8	17.1	7.3	6.1	6.7	8.5	2.4	1.2	48.2	1.8	7.3
60～69歳	144	38.2	26.4	19.4	13.9	6.9	5.6	2.1	6.3	30.6	0.0	5.6
70歳以上	248	42.3	26.6	28.6	11.3	11.7	3.2	2.0	1.2	27.4	0.0	12.1

人権問題に関する取組を見聞きしたその他の媒体について、全体では「特にない」が 39.2%と最も高く、次いで「広報紙」が 32.5%、「テレビ、ラジオ」が 20.6%となっています。

性別にみると、「広報紙」は女性の方が男性より 7.4 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「広報紙」は、「70 歳以上」が 42.3%と最も高く、次いで「60～69 歳」が 38.2%、「30～39 歳」が 27.9%となっています。

## 2 男女共同参画に関する市民意識調査項目

### (1) 男女の平等感について

問 33 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(ア～クについてそれぞれ○を1つ)

#### ●全体結果

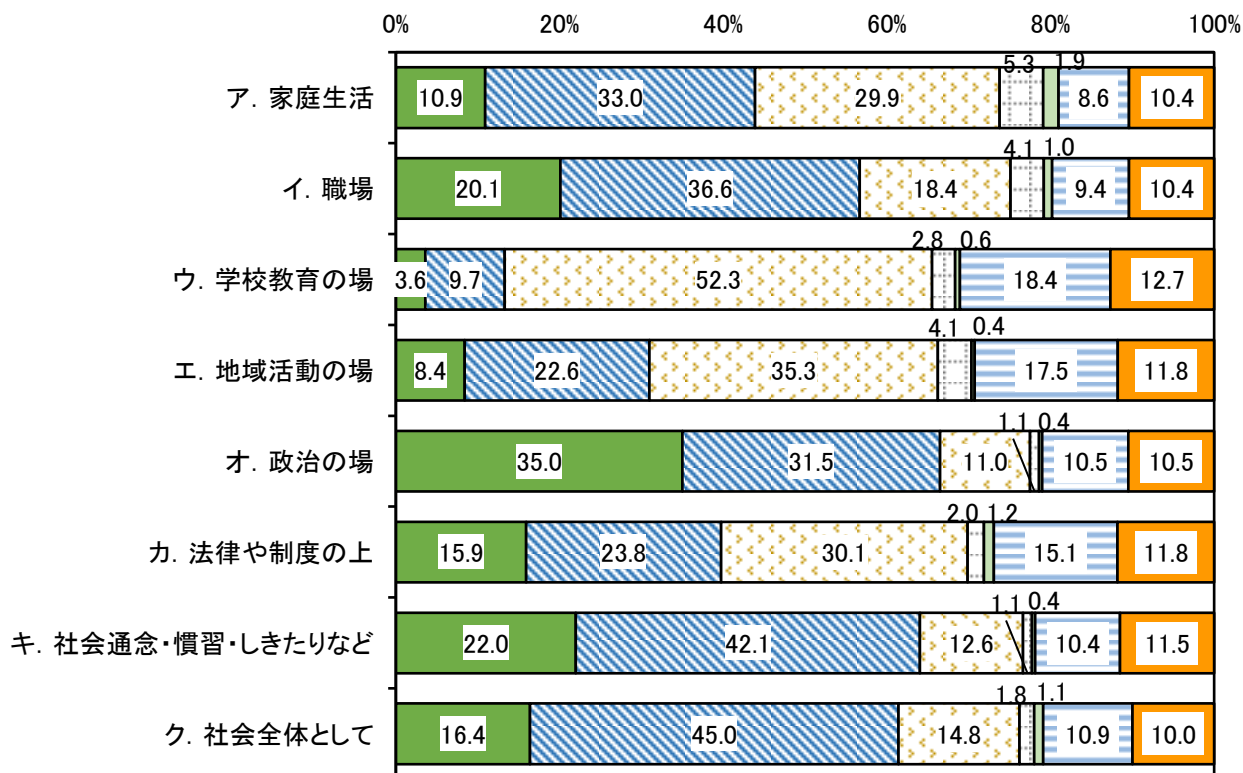
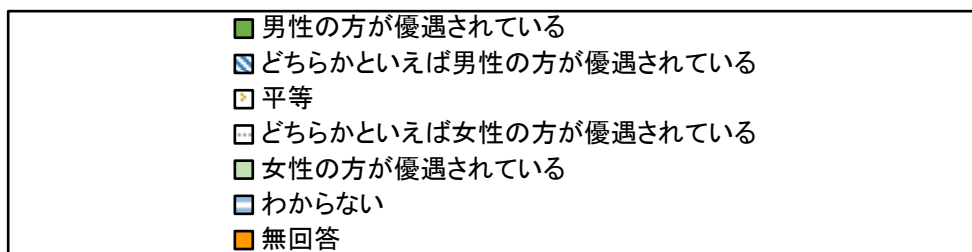
男女の地位の平等感について、設問全体では、『男性優遇』が最も高いのは「オ. 政治の場」(66.5%)、「平等」が最も高いのは「ウ. 学校教育の場」52.3%、『女性優遇』が最も高いのは「ア. 家庭生活」(7.2%)となっています。

※問 33 の選択肢にかかる表現については、以下のように区分しています。

『男性優遇』:「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」

『女性優遇』:「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

n=836

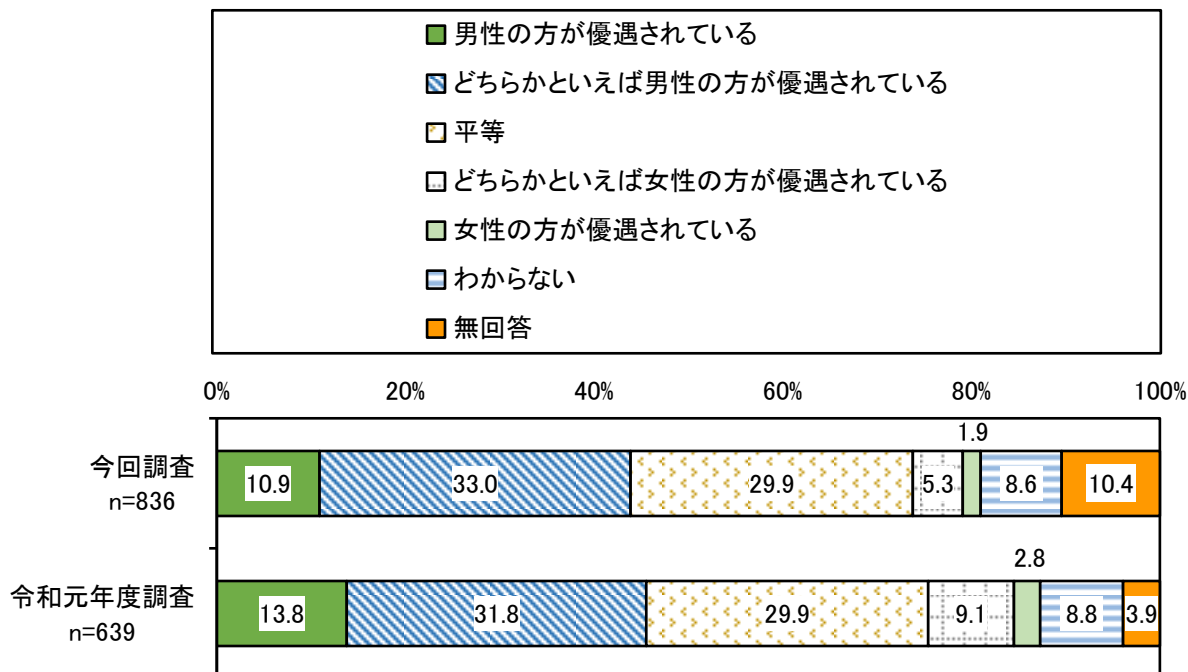




## ア. 家庭生活

家庭生活における平等感について、全体では『男性優遇』が43.9%、「平等」が29.9%、『女性優遇』が7.2%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、『男性優遇』が減少傾向にあります。



	有効回答数 (件)	男性優遇		平等	女性優遇		わからない	無回答
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている		女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている		
全体	836	10.9	33.0	29.9	5.3	1.9	8.6	10.4
女性	460	13.7	38.3	24.3	3.3	1.5	9.6	9.3
男性	313	6.1	28.8	40.9	7.3	2.9	7.0	7.0
答えたくない	15	13.3	6.7	26.7	6.7	0.0	26.7	20.0
18～29歳	70	5.7	45.7	22.9	5.7	0.0	17.1	2.9
30～39歳	61	13.1	23.0	41.0	8.2	8.2	4.9	1.6
40～49歳	99	12.1	28.3	34.3	8.1	3.0	11.1	3.0
50～59歳	164	9.8	36.0	30.5	2.4	3.7	11.6	6.1
60～69歳	144	10.4	36.8	34.7	4.2	0.0	5.6	8.3
70歳以上	248	11.3	32.3	27.8	4.8	0.8	6.9	16.1

性別にみると、「平等」は、男性の方が女性より16.6ポイント高く、『男性優遇』は、女性の方が男性より17.1ポイント高くなっています。

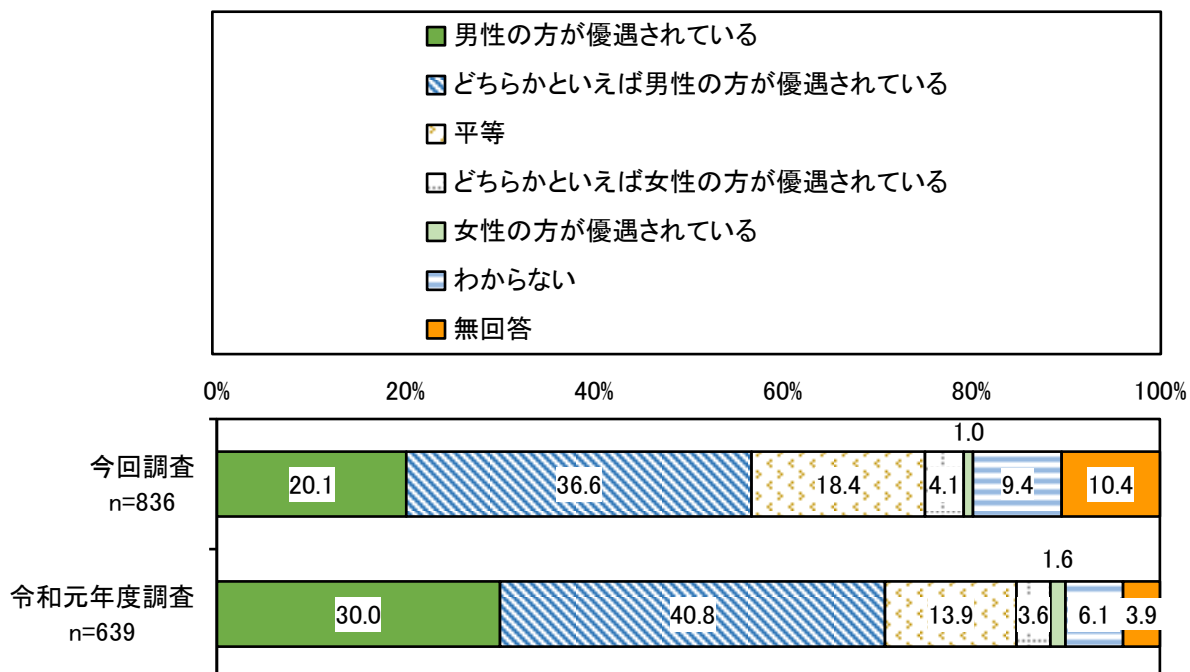
年齢別にみると、『男性優遇』は、「18～29歳」が51.4%と最も高く、次いで「60～69歳」が47.2%、「50～59歳」が45.8%となっています。

「平等」は、「30～39歳」が41.0%と最も高く、次いで「60～69歳」が34.7%、「40～49歳」が34.3%となっています。

## イ. 職場

職場における平等感について、全体では『男性優遇』が56.7%、「平等」が18.4%、『女性優遇』が5.1%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、『男性優遇』が減少傾向にあります。



	有効回答数 (件)	男性優遇		平等	女性優遇		わからない	無回答
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている		どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている		
全体	836	20.1	36.6	18.4	4.1	1.0	9.4	10.4
女性	460	23.9	36.7	17.0	3.5	0.2	9.8	8.9
男性	313	14.4	39.3	22.4	5.4	1.9	8.6	8.0
答えたくない	15	6.7	26.7	13.3	6.7	0.0	26.7	20.0
18～29歳	70	24.3	32.9	18.6	7.1	0.0	14.3	2.9
30～39歳	61	26.2	37.7	19.7	6.6	1.6	8.2	0.0
40～49歳	99	16.2	35.4	27.3	8.1	2.0	8.1	3.0
50～59歳	164	16.5	38.4	21.3	4.3	1.8	11.0	6.7
60～69歳	144	17.4	46.5	18.1	4.9	0.7	4.9	7.6
70歳以上	248	21.8	34.3	14.5	1.2	0.0	11.3	16.9

性別にみると、「平等」は、男性の方が女性より5.4ポイント高く、『男性優遇』は、女性の方が男性より6.9ポイント高くなっています。

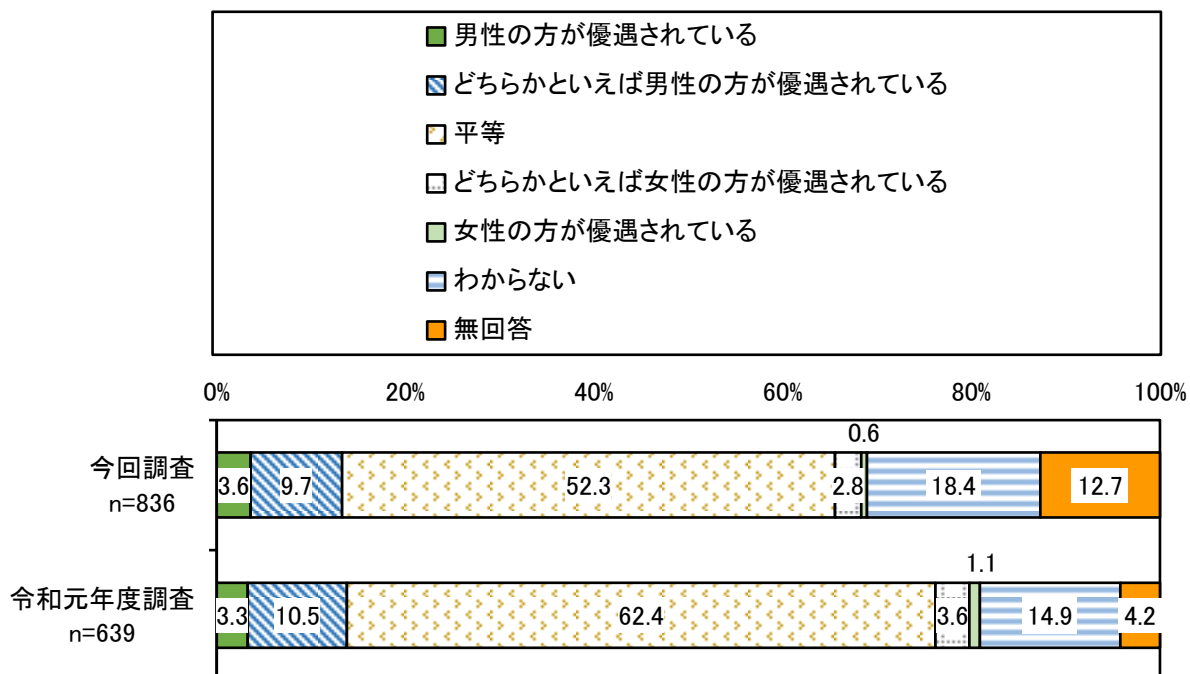
年齢別にみると、『男性優遇』は、「30～39歳」と「60～69歳」がともに63.9%と最も高く、次いで「18～29歳」が57.2%、「70歳以上」が56.1%となっています。

「平等」は、「40～49歳」が27.3%と最も高く、次いで「50～59歳」が21.3%、「30～39歳」が19.7%となっています。

## ウ. 学校教育の場

学校教育の場における平等感について、全体では「平等」が52.3%、『男性優遇』が13.3%、『女性優遇』が3.4%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「平等」が減少傾向にあります。



	有効回答数 (件)	男性優遇		平等	女性優遇		わからない	無回答
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている		どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている		
全体	836	3.6	9.7	52.3	2.8	0.6	18.4	12.7
女性	460	5.0	10.2	51.5	2.6	0.2	19.6	10.9
男性	313	1.6	9.6	57.5	3.5	1.3	16.6	9.9
答えたくない	15	6.7	6.7	33.3	0.0	0.0	33.3	20.0
18～29歳	70	4.3	10.0	67.1	2.9	0.0	11.4	4.3
30～39歳	61	1.6	9.8	63.9	3.3	3.3	18.0	0.0
40～49歳	99	2.0	2.0	67.7	8.1	1.0	16.2	3.0
50～59歳	164	2.4	11.6	53.0	3.7	0.0	22.6	6.7
60～69歳	144	4.2	14.6	56.9	1.4	0.0	14.6	8.3
70歳以上	248	4.8	9.3	39.9	1.2	0.8	21.8	22.2

性別にみると、「平等」は、男性の方が女性より6.0ポイント高く、『男性優遇』は、女性の方が男性より4.0ポイント高くなっています。

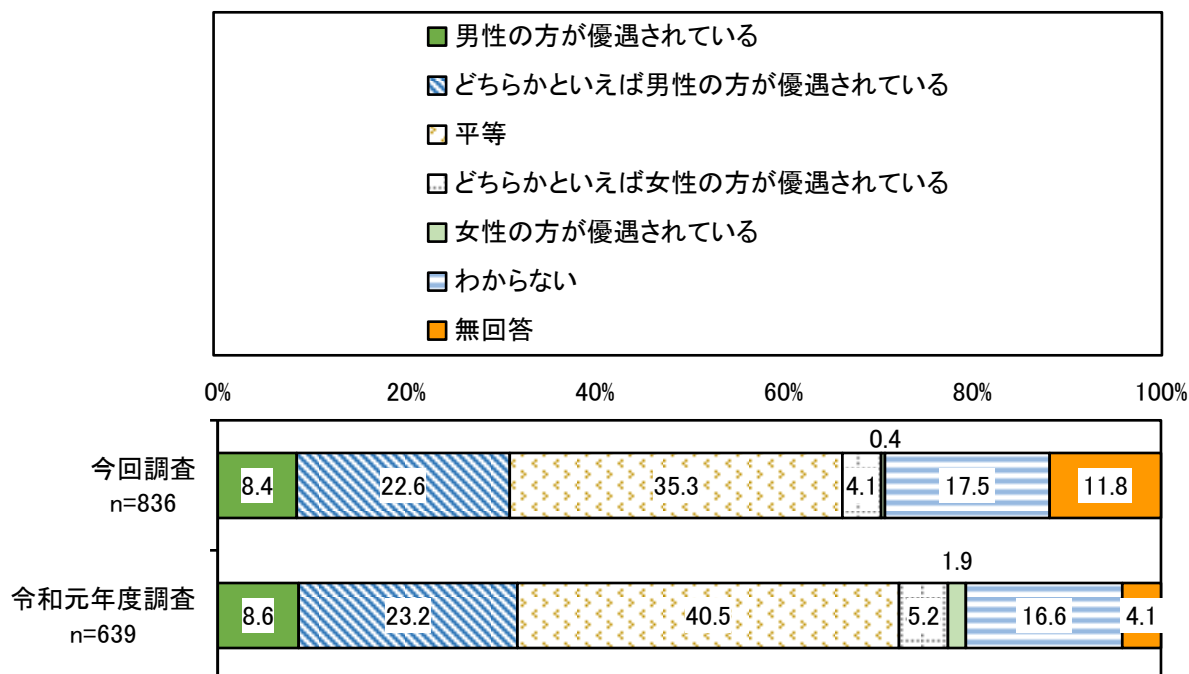
年齢別にみると、「平等」は、「40～49歳」が67.7%と最も高く、次いで「18～29歳」が67.1%、「30～39歳」が63.9%となっています。

『男性優遇』は、「60～69歳」が18.8%と最も高く、次いで「18～29歳」が14.3%、「70歳以上」が14.1%となっています。

## 工. 地域活動の場

地域活動の場における平等感について、全体では「平等」が35.3%、『男性優遇』が31.0%、『女性優遇』が4.5%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、『平等』が減少傾向にあります。



	有効回答数 (件)	男性優遇		平等	女性優遇		わからない	無回答
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている		どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている		
全体	836	8.4	22.6	35.3	4.1	0.4	17.5	11.8
女性	460	10.0	26.1	31.5	2.8	0.0	19.8	9.8
男性	313	6.4	19.8	43.5	5.8	1.0	14.1	9.6
答えたくない	15	0.0	6.7	20.0	13.3	0.0	40.0	20.0
18～29歳	70	5.7	22.9	37.1	2.9	0.0	28.6	2.9
30～39歳	61	9.8	18.0	45.9	3.3	3.3	16.4	3.3
40～49歳	99	4.0	22.2	48.5	5.1	0.0	17.2	3.0
50～59歳	164	7.3	28.7	35.4	3.7	0.0	18.9	6.1
60～69歳	144	9.0	24.3	38.9	5.6	0.0	13.2	9.0
70歳以上	248	10.9	21.0	27.0	4.0	0.4	17.3	19.4

性別にみると、「平等」は、男性の方が女性より12.0ポイント高く、『男性優遇』は、女性の方が男性より9.9ポイント高くなっています。

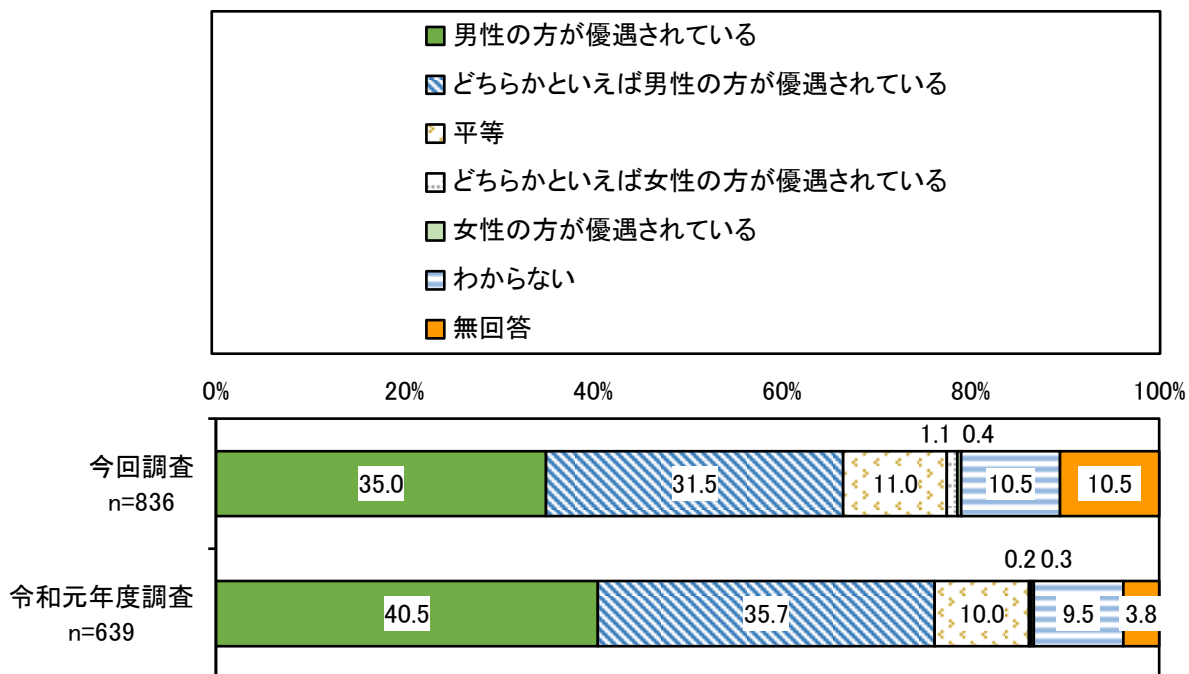
年齢別にみると、「平等」は、「40～49歳」が48.5%と最も高く、次いで「30～39歳」が45.9%、「60～69歳」が38.9%となっています。

『男性優遇』は、「50～59歳」が36.0%と最も高く、次いで「60～69歳」が33.3%、「70歳以上」が31.9%となっています。

## オ. 政治の場

政治の場における平等感について、全体では『男性優遇』が66.5%、「平等」が11.0%、『女性優遇』が1.5%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、『男性優遇』が減少傾向にあります。



	有効回答数 (件)	男性優遇		平等	女性優遇		わからない	無回答
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている		どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている		
全体	836	35.0	31.5	11.0	1.1	0.4	10.5	10.5
女性	460	38.9	31.7	6.3	0.7	0.2	13.0	9.1
男性	313	32.6	33.2	17.3	1.9	0.3	6.4	8.3
答えたくない	15	26.7	13.3	13.3	0.0	6.7	20.0	20.0
18～29歳	70	45.7	21.4	10.0	0.0	0.0	18.6	4.3
30～39歳	61	41.0	36.1	8.2	0.0	1.6	11.5	1.6
40～49歳	99	37.4	34.3	12.1	1.0	0.0	12.1	3.0
50～59歳	164	36.6	32.9	11.6	2.4	0.6	9.8	6.1
60～69歳	144	34.7	38.9	13.9	2.1	0.7	4.2	5.6
70歳以上	248	32.3	28.2	8.9	0.4	0.0	11.7	18.5

性別にみると、「平等」は、男性の方が女性より11.0ポイント高く、『男性優遇』は、女性の方が男性より4.8ポイント高くなっています。

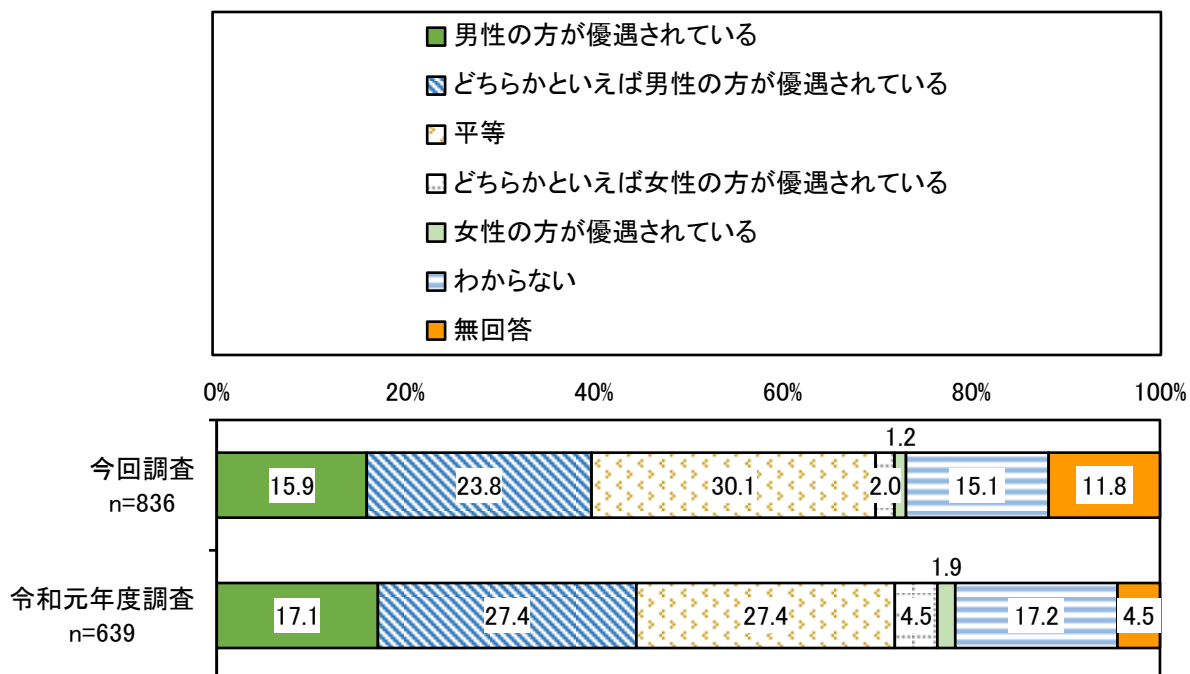
年齢別にみると、『男性優遇』は、「30～39歳」が77.1%と最も高く、次いで「60～69歳」が73.6%、「40～49歳」が71.7%となっています。

「平等」は、「60～69歳」が13.9%と最も高く、次いで「40～49歳」が12.1%、「50～59歳」が11.6%となっています。

カ. 法律や制度の上

法律や制度の上における平等感について、全体では『男性優遇』が39.7%、「平等」が30.1%、『女性優遇』が3.2%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「平等」が増加傾向にあります。



	有効回答数 (件)	男性優遇		平等	女性優遇		わからない	無回答
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている		どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている		
全体	836	15.9	23.8	30.1	2.0	1.2	15.1	11.8
女性	460	19.3	26.5	23.5	1.1	0.9	18.0	10.7
男性	313	12.1	22.0	41.9	3.5	1.6	10.5	8.3
答えたくない	15	13.3	0.0	33.3	6.7	6.7	20.0	20.0
18～29歳	70	17.1	20.0	25.7	2.9	2.9	27.1	4.3
30～39歳	61	21.3	27.9	24.6	6.6	3.3	14.8	1.6
40～49歳	99	16.2	29.3	35.4	4.0	2.0	10.1	3.0
50～59歳	164	18.9	25.6	31.1	1.8	0.0	15.9	6.7
60～69歳	144	13.9	29.9	34.7	1.4	1.4	11.1	7.6
70歳以上	248	14.5	18.5	29.8	0.8	0.8	15.7	19.8

性別にみると、「平等」は、男性の方が女性より18.4ポイント高く、『男性優遇』は、女性の方が男性より11.7ポイント高くなっています。

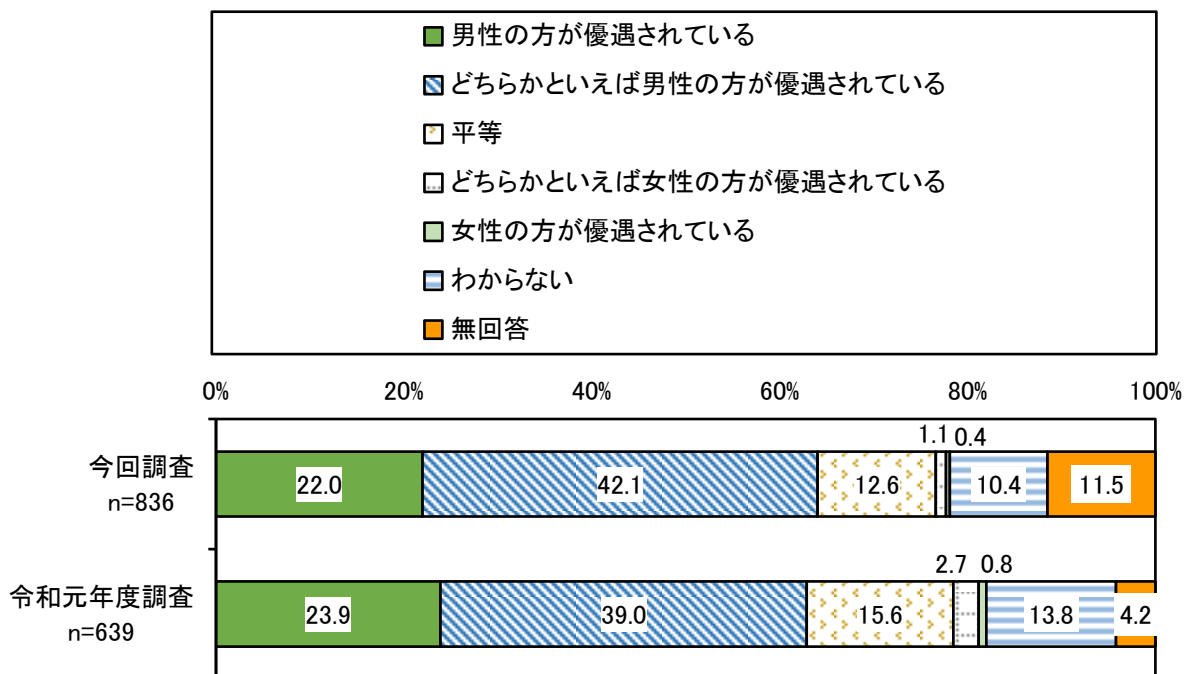
年齢別にみると、『男性優遇』は、「30～39歳」が49.2%と最も高く、次いで「40～49歳」が45.5%、「50～59歳」が44.5%となっています。

「平等」は、「40～49歳」が35.4%と最も高く、次いで「60～69歳」が34.7%、「50～59歳」が31.1%となっています。

キ. 社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりにおける平等感について、全体では『男性優遇』が64.1%、「平等」が12.6%、『女性優遇』が1.5%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「平等」が減少傾向にあります。



	有効回答数 (件)	男性優遇		平等	女性優遇		わからない	無回答
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている		どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている		
全体	836	22.0	42.1	12.6	1.1	0.4	10.4	11.5
女性	460	28.3	40.4	9.1	1.3	0.0	10.9	10.0
男性	313	15.0	48.6	16.9	0.6	0.6	9.9	8.3
答えたくない	15	13.3	20.0	20.0	0.0	6.7	20.0	20.0
18～29歳	70	32.9	38.6	10.0	0.0	1.4	14.3	2.9
30～39歳	61	31.1	34.4	14.8	1.6	3.3	14.8	0.0
40～49歳	99	28.3	45.5	12.1	2.0	0.0	9.1	3.0
50～59歳	164	25.0	48.2	10.4	1.2	0.0	7.9	7.3
60～69歳	144	20.1	54.2	10.4	0.0	0.0	8.3	6.9
70歳以上	248	15.3	36.7	14.9	1.2	0.0	12.5	19.4

性別にみると、「平等」は、男性の方が女性より7.8ポイント高く、『男性優遇』は、女性の方が男性より5.1ポイント高くなっています。

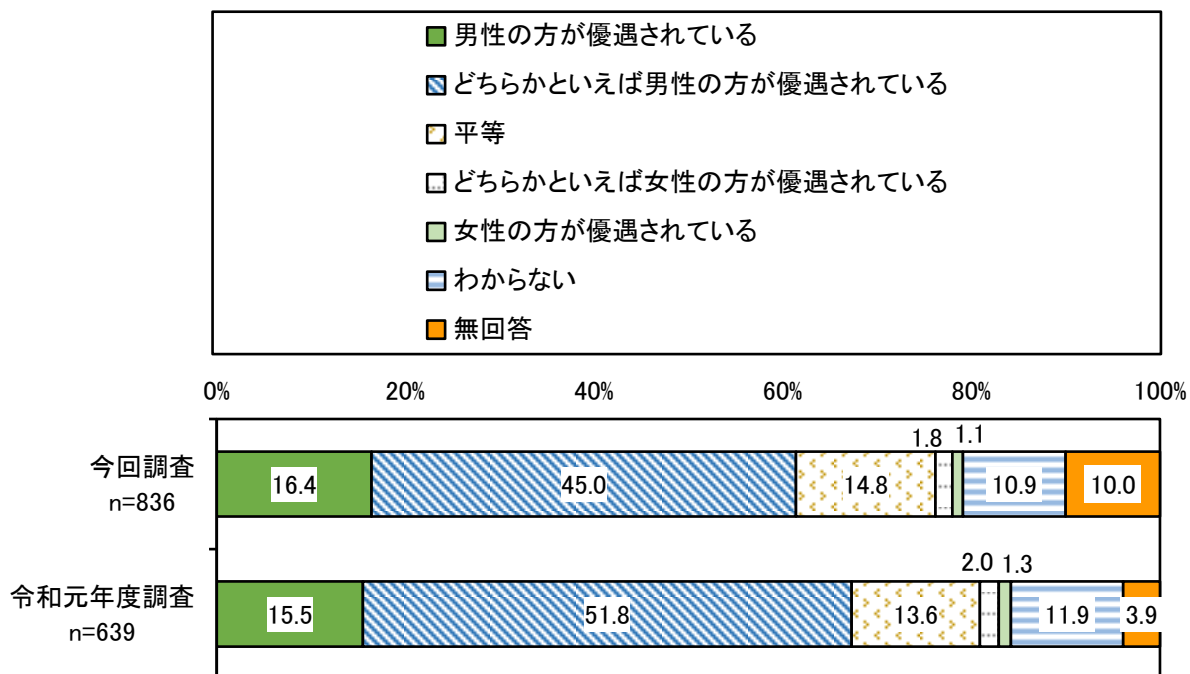
年齢別にみると、『男性優遇』は、「60～69歳」が74.3%と最も高く、次いで「40～49歳」が73.8%、「50～59歳」が73.2%となっています。

「平等」は、「70歳以上」が14.9%と最も高く、次いで「30～39歳」が14.8%、「40～49歳」が12.1%となっています。

ク. 社会全体として

社会全体における平等感について、全体では『男性優遇』が61.4%、「平等」が14.8%、『女性優遇』が2.9%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「平等」が増加傾向にあります。



	有効回答数 (件)	男性優遇		平等	女性優遇		わからない	無回答
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている		どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている		
全体	836	16.4	45.0	14.8	1.8	1.1	10.9	10.0
女性	460	20.2	46.5	10.4	0.7	0.7	13.3	8.3
男性	313	12.1	46.6	20.8	3.8	1.6	7.3	7.7
答えたくない	15	20.0	13.3	13.3	0.0	6.7	26.7	20.0
18～29歳	70	18.6	44.3	14.3	0.0	1.4	18.6	2.9
30～39歳	61	16.4	50.8	9.8	3.3	4.9	14.8	0.0
40～49歳	99	19.2	47.5	16.2	6.1	1.0	7.1	3.0
50～59歳	164	18.3	50.0	11.0	1.8	1.2	11.6	6.1
60～69歳	144	15.3	52.1	15.3	1.4	0.7	6.9	8.3
70歳以上	248	15.7	38.7	16.9	0.8	0.4	12.1	15.3

性別にみると、「平等」は、男性の方が女性より10.4ポイント高く、『男性優遇』は、女性の方が男性より8.0ポイント高くなっています。

年齢別にみると、『男性優遇』は、「50～59歳」が68.3%と最も高く、次いで「60～69歳」が67.4%、「30～39歳」が67.2%となっています。

「平等」は、「70歳以上」が16.9%と最も高く、次いで「40～49歳」が16.2%、「60～69歳」が15.3%となっています。



「現在結婚している方(又はパートナーと暮らしている方)」にお聞きます。

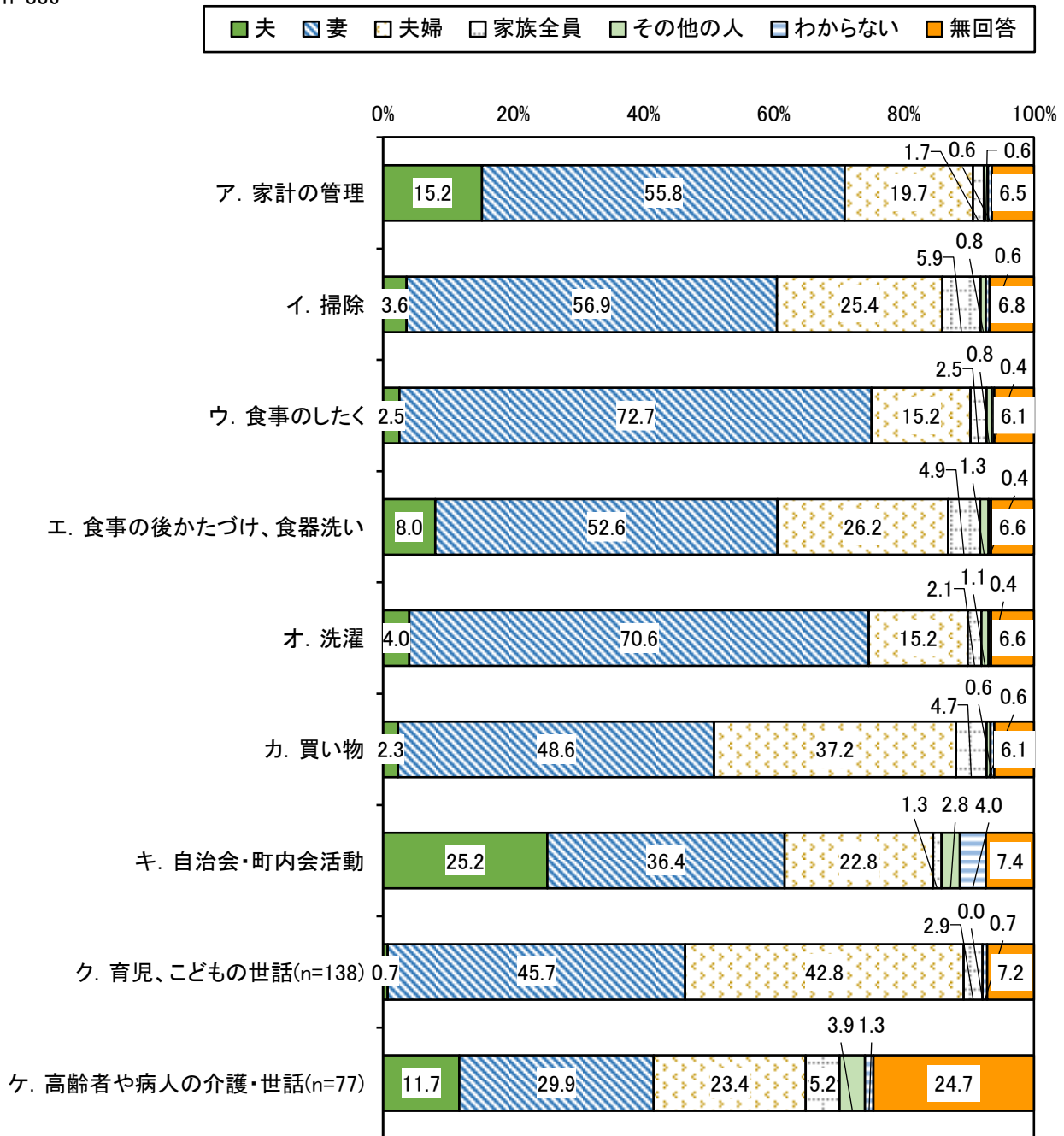
問 34 あなたの家庭では、次にあげる家事は主に誰が分担していますか。

(ア～キおよび子育て、介護中の方のみク・ケについてそれぞれ○を1つ)

●全体結果

家庭における家事の役割分担について、設問全体では、「夫」が主に担っている役割は「キ. 自治会・町内会活動」(25.2%)、「妻」が主に担っている役割は「ウ. 食事の支度」(72.7%)、「夫婦」が主に担っている役割は「ク. 育児、こどもの世話」(42.8%)がそれぞれ最も高くなっています。

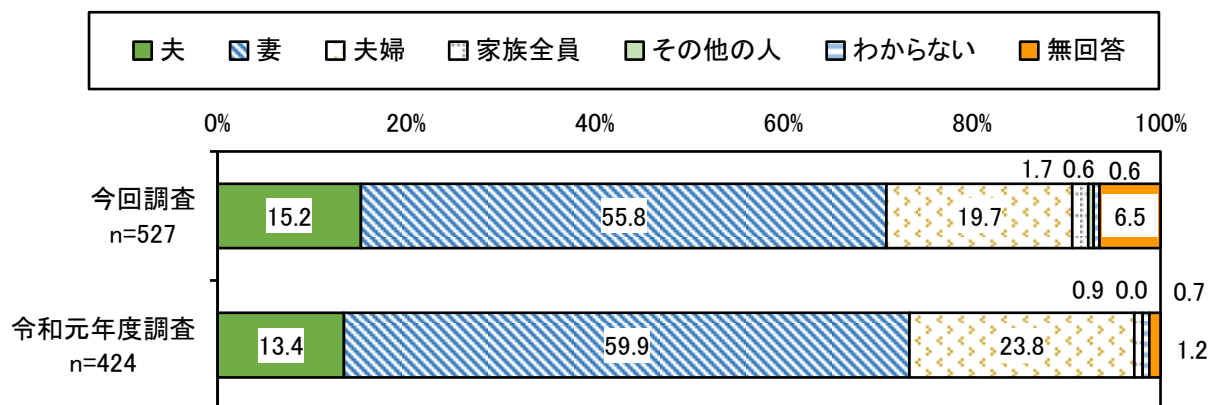
n=836



## ア. 家計の管理

家計の管理について、全体では、主に「妻」が担っている家庭が 55.8%と最も高く、次いで「夫婦」が 19.7%、「夫」が 15.2%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「夫」が増加傾向にあります。



	有効回答数 (件)	(%)						
		夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	無回答
全体	527	15.2	55.8	19.7	1.7	0.6	0.6	6.5
女性	303	12.5	61.1	18.8	1.0	0.7	0.7	5.3
男性	217	18.0	49.3	21.7	2.8	0.5	0.0	7.8
答えたくない	7	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3
18~29歳	14	35.7	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0	21.4
30~39歳	34	11.8	55.9	20.6	5.9	0.0	2.9	2.9
40~49歳	80	17.5	51.3	25.0	2.5	1.3	1.3	1.3
50~59歳	126	15.1	59.5	17.5	2.4	0.0	0.8	4.8
60~69歳	107	13.1	52.3	27.1	0.9	0.0	0.0	6.5
70歳以上	165	14.5	58.8	15.2	0.6	1.2	0.0	9.7
共働き	274	14.6	55.8	22.3	1.8	0.7	0.7	4.0
共働きではない	225	15.1	58.2	16.9	1.8	0.4	0.0	7.6

性別にみると、「夫」は、男性の方が女性より 5.5 ポイント高く、「妻」は、女性の方が男性より 11.8 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「妻」は、「50~59歳」が 59.5%と最も高く、次いで「70歳以上」が 58.8%、「30~39歳」が 55.9%となっています。

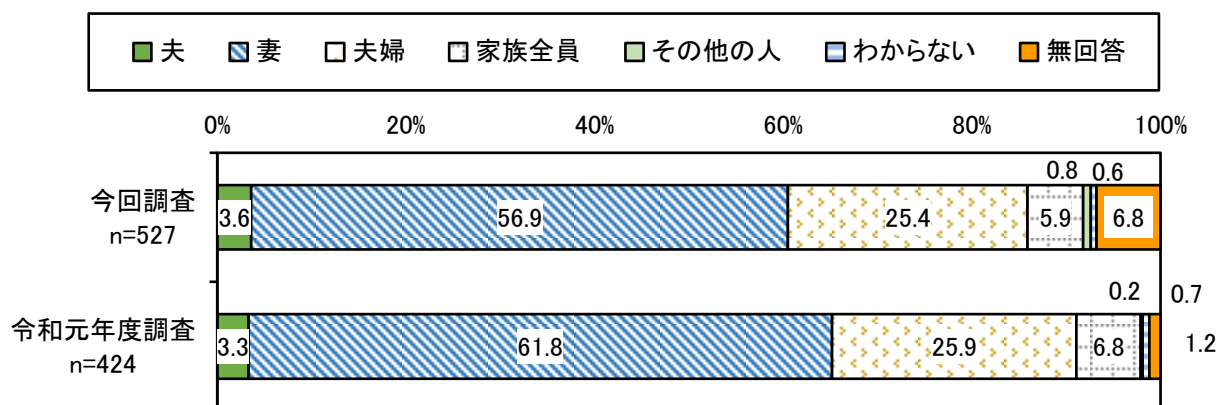
「夫婦」は、「60~69歳」が 27.1%と最も高く、次いで「40~49歳」が 25.0%、「30~39歳」が 20.6%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「夫婦」が 5.4 ポイント高く、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「妻」が 2.4 ポイント高くなっています。

## イ. 掃除

掃除について、全体では、主に「妻」が担っている家庭が 56.9%と最も高く、次いで「夫婦」が 25.4%、「家族全員」が 5.9%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「妻」が減少傾向にあります。



	有効回答数 (件)	(%)						
		夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	無回答
全体	527	3.6	56.9	25.4	5.9	0.8	0.6	6.8
女性	303	2.0	66.3	21.8	3.3	0.7	0.7	5.3
男性	217	5.5	44.2	30.9	9.7	0.9	0.0	8.8
答えたくない	7	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
18~29歳	14	7.1	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	21.4
30~39歳	34	5.9	38.2	41.2	8.8	2.9	2.9	0.0
40~49歳	80	3.8	57.5	28.8	7.5	0.0	1.3	1.3
50~59歳	126	4.0	61.9	24.6	3.2	0.0	0.0	6.3
60~69歳	107	2.8	62.6	24.3	3.7	0.0	0.0	6.5
70歳以上	165	3.0	52.7	23.0	8.5	1.8	0.6	10.3
共働き	274	4.0	55.5	27.7	6.9	0.7	0.7	4.4
共働きではない	225	2.7	61.8	21.3	5.3	0.9	0.4	7.6

性別にみると、「夫婦」は、男性の方が女性より 9.1 ポイント高く、「妻」は、女性の方が男性より 22.1 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「妻」は、「60~69歳」が 62.6%と最も高く、次いで「50~59歳」が 61.9%、「40~49歳」が 57.5%となっています。

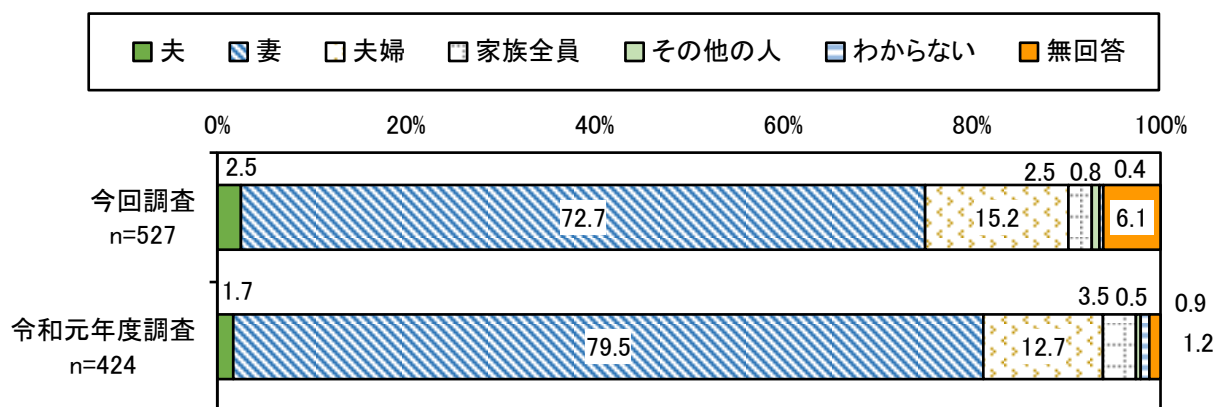
「夫婦」は、「30~39歳」が 41.2%と最も高く、次いで「40~49歳」が 28.8%、「50~59歳」が 24.6%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「夫婦」が 6.4 ポイント高く、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「妻」が 6.3 ポイント高くなっています。

### ウ. 食事のしたく

食事の支度について、全体では、主に「妻」が担っている家庭が 72.7%と最も高く、次いで「夫婦」が 15.2%、「夫」と「家族全員」がともに 2.5%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「夫婦」が増加傾向にあります。



	有効回答数 (件)	(%)						
		夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	無回答
全体	527	2.5	72.7	15.2	2.5	0.8	0.4	6.1
女性	303	2.0	80.2	10.6	1.0	1.0	0.3	5.0
男性	217	2.8	63.6	21.2	4.6	0.5	0.0	7.4
答えたくない	7	14.3	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3
18~29歳	14	7.1	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	21.4
30~39歳	34	8.8	52.9	29.4	5.9	0.0	2.9	0.0
40~49歳	80	1.3	70.0	25.0	1.3	0.0	1.3	1.3
50~59歳	126	1.6	74.6	15.1	2.4	0.8	0.0	5.6
60~69歳	107	4.7	73.8	11.2	4.7	0.0	0.0	5.6
70歳以上	165	0.6	77.0	10.3	1.2	1.8	0.0	9.1
共働き	274	3.3	67.2	21.2	2.9	0.7	0.7	4.0
共働きではない	225	1.3	82.7	6.7	2.2	0.9	0.0	6.2

性別にみると、「夫婦」は、男性の方が女性より 10.6 ポイント高く、「妻」は、女性の方が男性より 16.6 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「妻」は、「70歳以上」が 77.0%と最も高く、次いで「50~59歳」が 74.6%、「60~69歳」が 73.8%となっています。

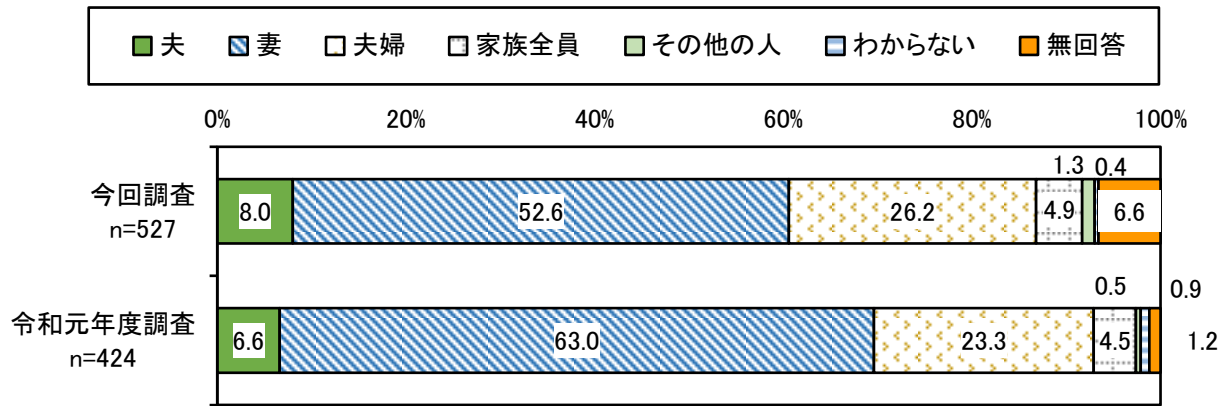
「夫婦」は、「30~39歳」が 29.4%と最も高く、次いで「40~49歳」が 25.0%、「50~59歳」が 15.1%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「夫婦」が 14.5 ポイント高く、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「妻」が 15.5 ポイント高くなっています。

## 工. 食事の後かたづけ、食器洗い

食事の後かたづけ、食器洗いについて、全体では、主に「妻」が担っている家庭が52.6%と最も高く、次いで「夫婦」が26.2%、「夫」が8.0%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「夫婦」が増加傾向にあります。



	有効回答数 (件)	(%)						
		夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	無回答
全体	527	8.0	52.6	26.2	4.9	1.3	0.4	6.6
女性	303	5.3	61.7	22.1	3.6	1.7	0.3	5.3
男性	217	11.1	40.6	32.3	6.9	0.9	0.0	8.3
答えたくない	7	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
18~29歳	14	21.4	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	21.4
30~39歳	34	20.6	26.5	41.2	2.9	2.9	2.9	2.9
40~49歳	80	2.5	48.8	35.0	11.3	0.0	1.3	1.3
50~59歳	126	8.7	56.3	23.0	4.8	1.6	0.0	5.6
60~69歳	107	9.3	57.9	24.3	2.8	0.0	0.0	5.6
70歳以上	165	5.5	55.2	22.4	4.2	2.4	0.0	10.3
共働き	274	9.1	49.6	28.5	6.2	1.5	0.7	4.4
共働きではない	225	6.7	58.7	22.2	4.0	1.3	0.0	7.1

性別にみると、「夫婦」は、男性の方が女性より10.2ポイント高く、「妻」は、女性の方が男性より21.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「妻」は、「60~69歳」が57.9%と最も高く、次いで「50~59歳」が56.3%、「70歳以上」が55.2%となっています。

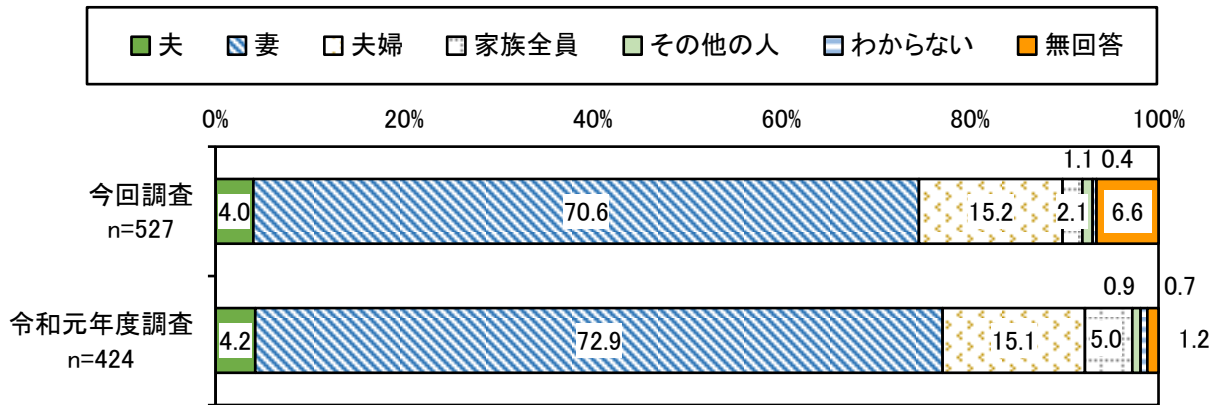
「夫婦」は、「30~39歳」が41.2%と最も高く、次いで「40~49歳」が35.0%、「18~29歳」が28.6%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「夫婦」が6.3ポイント高く、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「妻」が9.1ポイント高くなっています。

オ. 洗濯

洗濯について、全体では、主に「妻」が担っている家庭が70.6%と最も高く、次いで「夫婦」が15.2%、「夫」が4.0%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「夫婦」が増加傾向にあります。



(%)

	有効回答数 (件)	夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	無回答
全体	527	4.0	70.6	15.2	2.1	1.1	0.4	6.6
女性	303	2.6	76.6	13.5	1.3	0.7	0.3	5.0
男性	217	5.5	62.7	18.0	3.2	1.8	0.0	8.8
答えたくない	7	14.3	57.1	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3
18~29歳	14	7.1	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	21.4
30~39歳	34	8.8	67.6	17.6	2.9	0.0	2.9	0.0
40~49歳	80	3.8	66.3	23.8	1.3	2.5	1.3	1.3
50~59歳	126	3.2	73.8	13.5	3.2	0.8	0.0	5.6
60~69歳	107	3.7	73.8	14.0	1.9	0.0	0.0	6.5
70歳以上	165	3.6	70.9	11.5	1.8	1.8	0.0	10.3
共働き	274	3.6	69.7	17.9	2.6	1.5	0.7	4.0
共働きではない	225	4.9	72.9	12.0	1.8	0.9	0.0	7.6

性別にみると、「夫婦」は、男性の方が女性より4.5ポイント高く、「妻」は、女性の方が男性より13.9ポイント高くなっています。

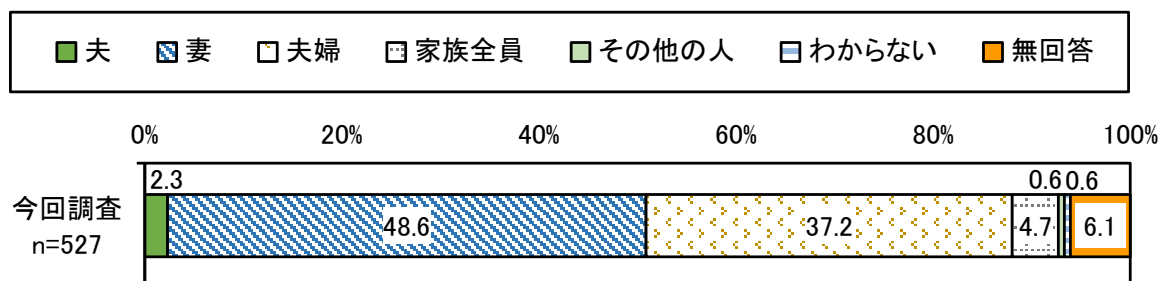
年齢別にみると、「妻」は、「50~59歳」と「60~69歳」がともに73.8%と最も高く、次いで「70歳以上」が70.9%、「30~39歳」が67.6%となっています。

「夫婦」は、「18~29歳」が28.6%と最も高く、次いで「40~49歳」が23.8%、「30~39歳」が17.6%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「夫婦」が5.9ポイント高く、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「妻」が3.2ポイント高くなっています。

## カ. 買い物

買い物について、全体では、主に「妻」が担っている家庭が 48.6%と最も高く、次いで「夫婦」が 37.2%、「家族全員」が 4.7%となっています。



	有効回答数 (件)	(% )						
		夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	無回答
全体	527	2.3	48.6	37.2	4.7	0.6	0.6	6.1
女性	303	0.3	57.1	32.3	4.0	0.7	0.3	5.3
男性	217	4.6	36.9	44.7	6.0	0.5	0.5	6.9
答えたくない	7	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
18~29歳	14	0.0	35.7	42.9	0.0	0.0	0.0	21.4
30~39歳	34	5.9	44.1	38.2	8.8	0.0	2.9	0.0
40~49歳	80	1.3	47.5	42.5	6.3	0.0	1.3	1.3
50~59歳	126	3.2	54.0	32.5	4.0	0.0	0.0	6.3
60~69歳	107	0.9	43.9	43.9	5.6	0.0	0.0	5.6
70歳以上	165	2.4	50.3	32.7	3.6	1.8	0.6	8.5
共働き	274	3.6	46.7	38.7	5.5	0.4	0.7	4.4
共働きではない	225	0.4	52.9	35.1	4.4	0.9	0.4	5.8

性別にみると、「夫婦」は、男性の方が女性より 12.4 ポイント高く、「妻」は、女性の方が男性より 20.2 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「妻」は、「50~59歳」が 54.0%と最も高く、次いで「70歳以上」が 50.3%、「40~49歳」が 47.5%となっています。

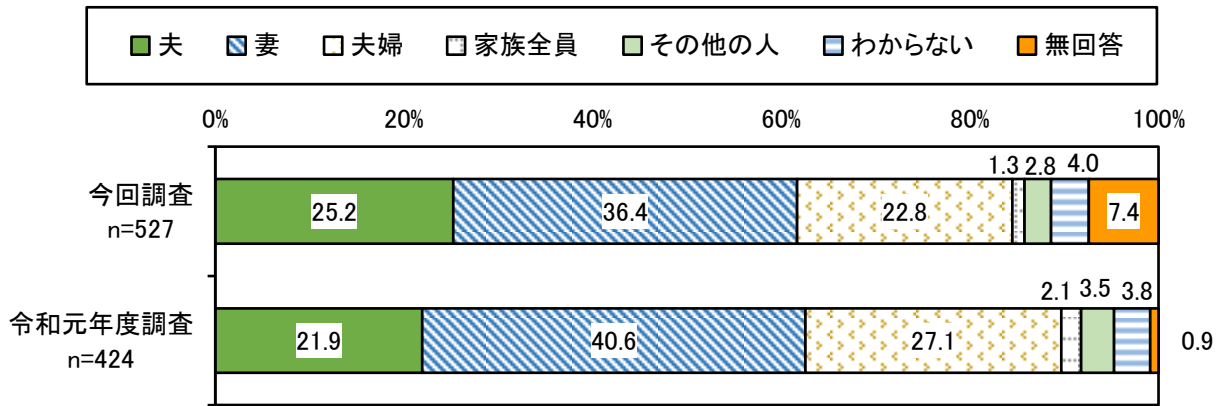
「夫婦」は、「60~69歳」が 43.9%と最も高く、次いで「18~29歳」が 42.9%、「40~49歳」が 42.5%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「夫婦」が 3.6 ポイント高く、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「妻」が 6.2 ポイント高くなっています。

キ. 自治会・町内会活動

自治会・町内会活動について、全体では、主に「妻」が担っている家庭が 36.4%と最も高く、次いで「夫」が 25.2%、「夫婦」が 22.8%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「夫」が増加傾向にあります。



		(%)						
	有効回答数 (件)	夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	無回答
全体	527	25.2	36.4	22.8	1.3	2.8	4.0	7.4
女性	303	19.1	41.9	24.1	1.3	4.0	3.6	5.9
男性	217	34.1	28.6	21.2	1.4	1.4	4.1	9.2
答えたくない	7	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
18~29歳	14	0.0	35.7	21.4	0.0	0.0	21.4	21.4
30~39歳	34	11.8	26.5	35.3	2.9	8.8	11.8	2.9
40~49歳	80	16.3	40.0	17.5	3.8	7.5	13.8	1.3
50~59歳	126	22.2	44.4	23.0	0.8	1.6	0.8	7.1
60~69歳	107	24.3	37.4	29.9	0.0	0.0	1.9	6.5
70歳以上	165	37.6	29.7	18.2	1.2	2.4	0.0	10.9
共働き	274	19.3	40.1	24.5	1.5	3.6	6.6	4.4
共働きではない	225	31.6	34.7	20.9	1.3	1.8	0.9	8.9

性別にみると、「夫」は、男性の方が女性より 15.0 ポイント高く、「妻」は、女性の方が男性より 13.3 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「妻」は、「50~59歳」が 44.4%と最も高く、次いで「40~49歳」が 40.0%、「60~69歳」が 37.4%となっています。

「夫」は、「70歳以上」が 37.6%と最も高く、次いで「60~69歳」が 24.3%、「50~59歳」が 22.2%となっています。

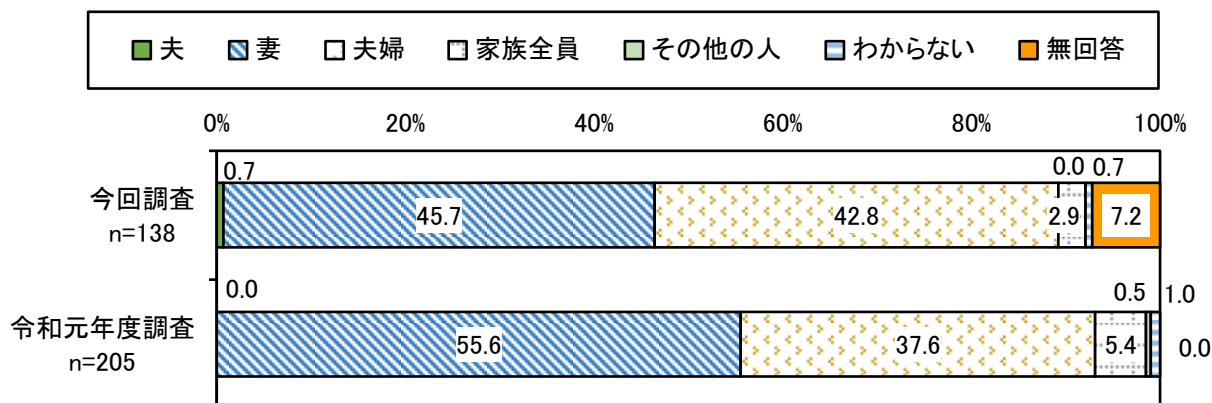
共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「妻」が 5.4 ポイント高く、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「夫」が 12.3 ポイント高くなっています。



## ク. 育児、こどもの世話

育児、こどもの世話について、全体では、主に「妻」が担っている家庭が45.7%と最も高く、次いで「夫婦」が42.8%、「家族全員」が2.9%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「夫婦」が増加傾向にあります。



		(%)						
	有効回答数（件）	夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	無回答
全体	138	0.7	45.7	42.8	2.9	0.0	0.7	7.2
女性	84	0.0	53.6	41.7	0.0	0.0	0.0	4.8
男性	52	1.9	32.7	46.2	7.7	0.0	0.0	11.5
答えたくない	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
18～29歳	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳	29	3.4	44.8	44.8	3.4	0.0	3.4	0.0
40～49歳	59	0.0	45.8	47.5	3.4	0.0	0.0	3.4
50～59歳	42	0.0	50.0	33.3	2.4	0.0	0.0	14.3
60～69歳	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
70歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
共働き	108	0.9	43.5	45.4	2.8	0.0	0.9	6.5
共働きではない	26	0.0	53.8	34.6	3.8	0.0	0.0	7.7

性別にみると、「夫婦」は、男性の方が女性より4.5ポイント高く、「妻」は、女性の方が男性より20.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「妻」は、「50～59歳」が50.0%と最も高く、次いで「40～49歳」が45.8%、「30～39歳」が44.8%となっています。

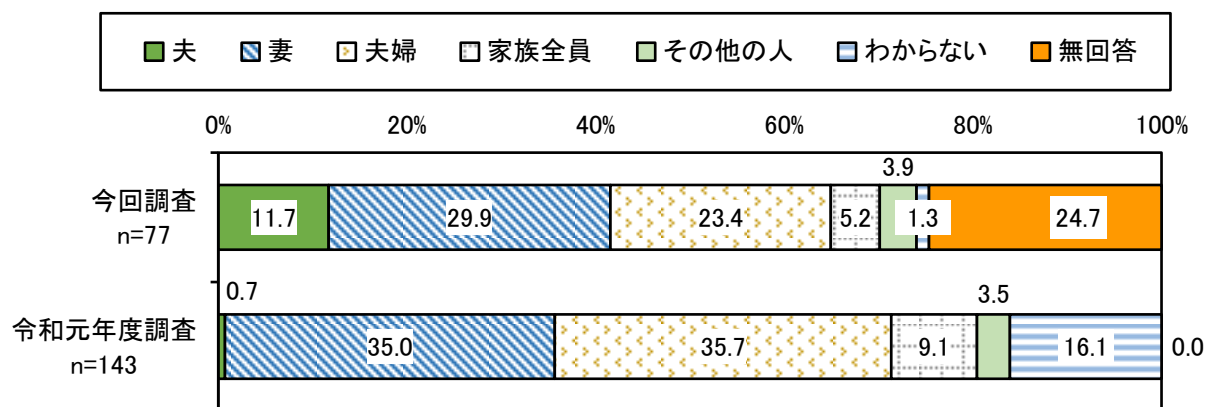
「夫婦」は、「18～29歳」が60.0%と最も高く、次いで「60～69歳」が50.0%、「40～49歳」が47.5%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「夫婦」が10.8ポイント高く、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「妻」が10.3ポイント高くなっています。

## ケ. 高齢者や病人の介護・世話

高齢者や病人の介護・世話について、全体では、主に「妻」が担っている家庭が 29.9%と最も高く、次いで「夫婦」が 23.4%、「夫」が 11.7%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「夫」が増加傾向にあります。



	有効回答数 (件)	(%)						
		夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない	無回答
全体	77	11.7	29.9	23.4	5.2	3.9	1.3	24.7
女性	46	4.3	37.0	19.6	2.2	4.3	2.2	30.4
男性	31	22.6	19.4	29.0	9.7	3.2	0.0	16.1
答えたくない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18~29歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30~39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40~49歳	6	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0
50~59歳	24	0.0	29.2	45.8	4.2	0.0	4.2	16.7
60~69歳	17	11.8	23.5	29.4	5.9	5.9	0.0	23.5
70歳以上	27	18.5	37.0	3.7	3.7	3.7	0.0	33.3
共働き	31	12.9	25.8	38.7	9.7	3.2	0.0	9.7
共働きではない	38	10.5	39.5	15.8	2.6	5.3	2.6	23.7

性別にみると、「夫」は、男性の方が女性より 18.3 ポイント高く、「妻」は、女性の方が男性より 17.6 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「妻」は、「70歳以上」が 37.0%と最も高く、次いで「40~49歳」が 33.3%、「50~59歳」が 29.2%となっています。

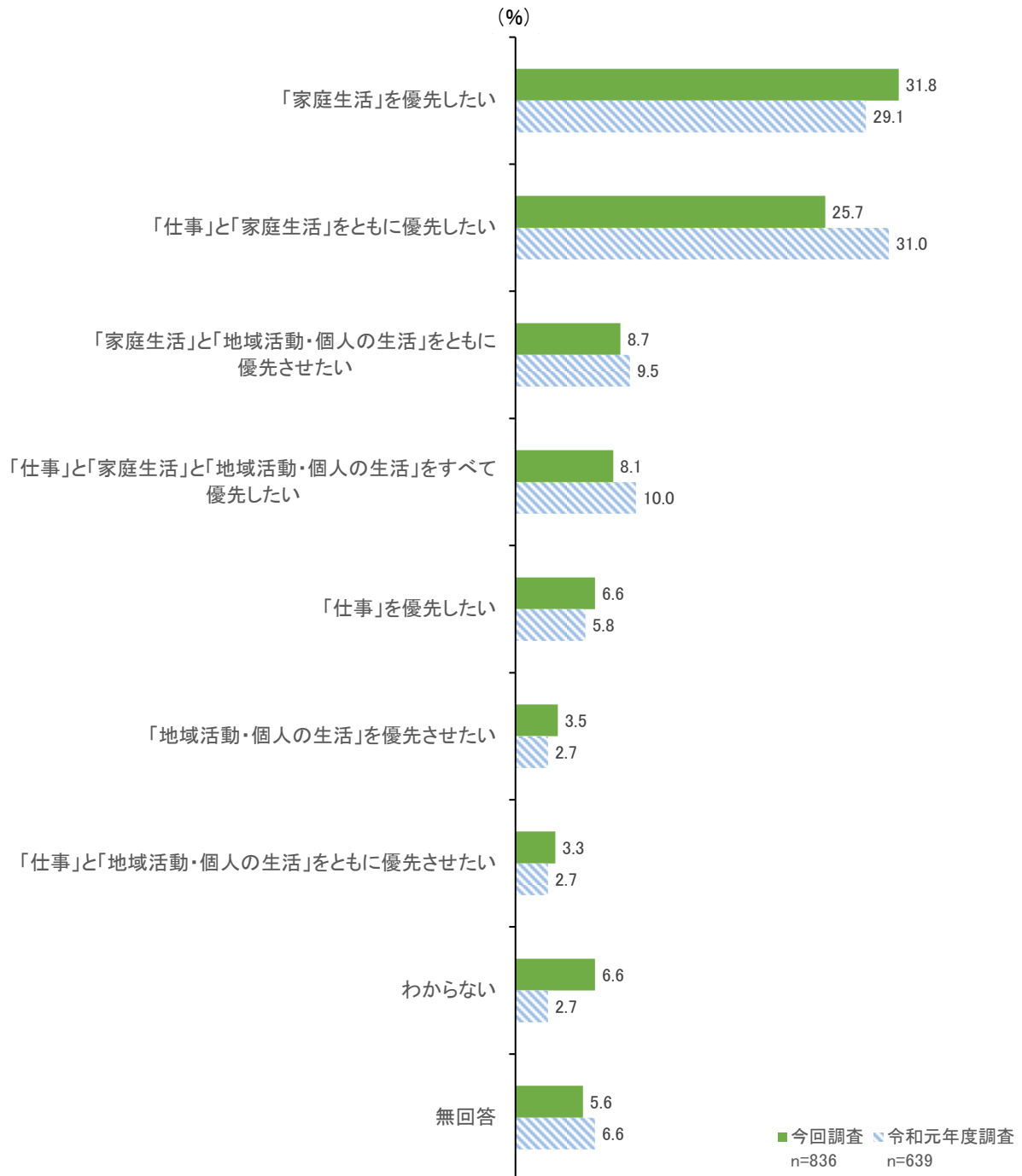
「夫婦」は、「50~59歳」が 45.8%と最も高く、次いで「60~69歳」が 29.4%、「40~49歳」が 16.7%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「夫婦」が 22.9 ポイント高く、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「妻」が 13.7 ポイント高くなっています。

## (2) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

問 35 あなたは、生活の中で仕事、家庭生活(家事、育児、介護など)、地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合いなど)で何を優先しますか。

【1】まず、あなたの希望にもっとも近いものはどれですか。(○は1つ)



(%)

	有効回答数 (件)	「家庭生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先させたい	「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をすべて優先したい	「仕事」を優先したい	「地域活動・個人の生活」を優先させたい	「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先させたい	わからない	無回答	
全体	836	31.8	25.7	8.7	8.1	6.6	3.5	3.3	6.6	5.6	
女性	460	33.5	28.9	8.9	7.0	3.3	3.5	3.7	6.5	4.8	
男性	313	31.6	22.4	7.3	9.6	12.1	4.2	3.2	6.7	2.9	
答えたくない	15	6.7	26.7	0.0	26.7	0.0	6.7	6.7	6.7	20.0	
女性	18～29歳	43	27.9	25.6	14.0	7.0	4.7	4.7	11.6	4.7	0.0
	30～39歳	36	25.0	52.8	5.6	8.3	2.8	2.8	2.8	0.0	0.0
	40～49歳	59	30.5	35.6	5.1	11.9	1.7	3.4	5.1	3.4	3.4
	50～59歳	93	38.7	24.7	5.4	7.5	2.2	2.2	7.5	5.4	6.5
	60～69歳	84	36.9	35.7	4.8	4.8	6.0	3.6	0.0	3.6	4.8
	70歳以上	145	33.1	20.0	14.5	5.5	2.8	4.1	0.7	12.4	6.9
男性	18～29歳	23	17.4	17.4	13.0	8.7	8.7	8.7	8.7	17.4	0.0
	30～39歳	24	29.2	20.8	4.2	20.8	8.3	4.2	8.3	4.2	0.0
	40～49歳	38	26.3	34.2	2.6	13.2	10.5	2.6	5.3	5.3	0.0
	50～59歳	67	26.9	29.9	0.0	9.0	13.4	4.5	3.0	9.0	4.5
	60～69歳	59	37.3	18.6	6.8	6.8	18.6	3.4	0.0	5.1	3.4
	70歳以上	101	37.6	16.8	13.9	7.9	8.9	4.0	2.0	5.0	4.0
共働き	274	35.4	36.9	3.3	9.1	6.6	1.5	1.8	2.6	2.9	
共働きではない	225	41.8	18.7	14.2	6.7	5.8	2.7	1.3	4.0	4.9	

希望する生活の優先度について、全体では「『家庭生活』を優先したい」が31.8%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が25.7%、「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先させたい」が8.7%となっています。

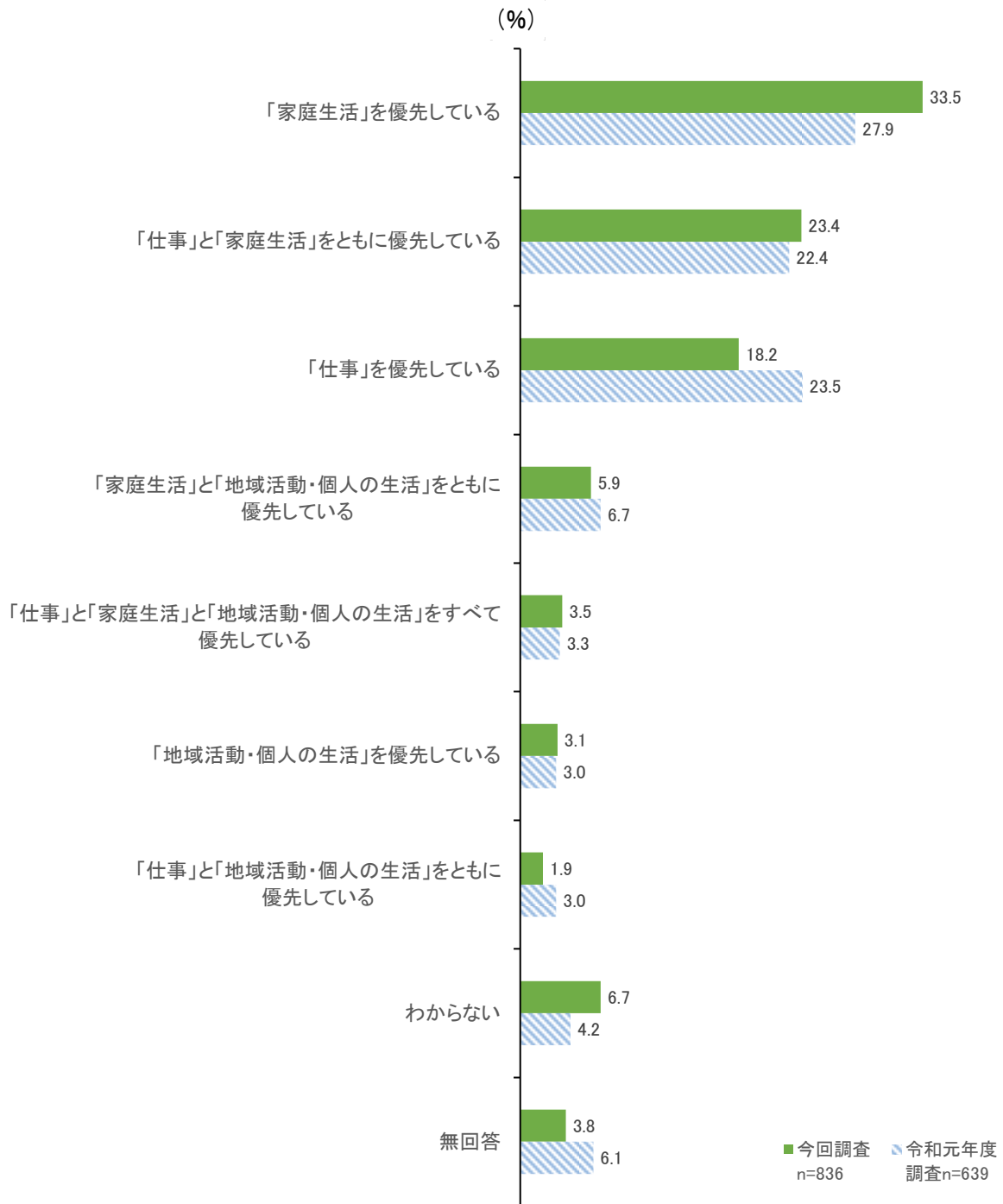
今回調査と令和元年度調査を比較すると、令和元年度調査では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」の割合が最も高くなっていましたが、今回調査では「『家庭生活』を優先したい」の割合が最も高くなっていました。

性別にみると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」は女性の方が男性より6.5ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「『家庭生活』を優先したい」は、女性の「50～59歳」が38.7%と最も高く、次いで男性の「70歳以上」が37.6%、男性の「60～69歳」が37.3%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が18.2ポイント高くなっています。

【2】 それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)



(%)

	有効回答数 (件)	「家庭生活」を優先している	先「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」を優先している	「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をすべて優先している	「地域活動・個人の生活」を優先している	「仕事」と「地域活動・個人の生活」を優先している	わからない	無回答	
全体	836	33.5	23.4	18.2	5.9	3.5	3.1	1.9	6.7	3.8	
女性	460	39.6	24.3	13.5	5.4	2.6	3.3	2.8	4.6	3.9	
男性	313	24.9	23.6	25.2	6.7	5.4	2.9	1.0	8.6	1.6	
答えたくない	15	26.7	33.3	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	
女性	18～29歳	43	18.6	14.0	34.9	2.3	7.0	9.3	4.7	9.3	0.0
	30～39歳	36	27.8	33.3	19.4	2.8	5.6	2.8	2.8	5.6	0.0
	40～49歳	59	39.0	30.5	16.9	3.4	5.1	1.7	1.7	1.7	0.0
	50～59歳	93	41.9	30.1	16.1	3.2	1.1	2.2	3.2	2.2	0.0
	60～69歳	84	41.7	34.5	9.5	3.6	0.0	1.2	4.8	1.2	3.6
	70歳以上	145	46.2	13.1	4.8	10.3	2.1	4.1	1.4	7.6	10.3
男性	18～29歳	23	17.4	13.0	26.1	0.0	4.3	4.3	0.0	30.4	4.3
	30～39歳	24	20.8	33.3	12.5	4.2	16.7	4.2	0.0	8.3	0.0
	40～49歳	38	10.5	34.2	42.1	0.0	2.6	5.3	2.6	2.6	0.0
	50～59歳	67	9.0	32.8	40.3	0.0	7.5	0.0	0.0	10.4	0.0
	60～69歳	59	35.6	22.0	23.7	6.8	3.4	5.1	0.0	1.7	1.7
	70歳以上	101	37.6	14.9	11.9	15.8	4.0	2.0	2.0	8.9	3.0
共働き	274	27.7	39.8	19.0	0.7	5.5	1.5	2.6	2.9	0.4	
共働きではない	225	56.9	12.9	7.1	11.6	0.9	2.2	1.3	4.0	3.1	

現実の生活の優先度について、全体では「『家庭生活』を優先している」が33.5%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が23.4%、「『仕事』を優先している」が18.2%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「『仕事』を優先している」が減少傾向にあり、「『家庭生活』を優先している」が増加傾向にあります。

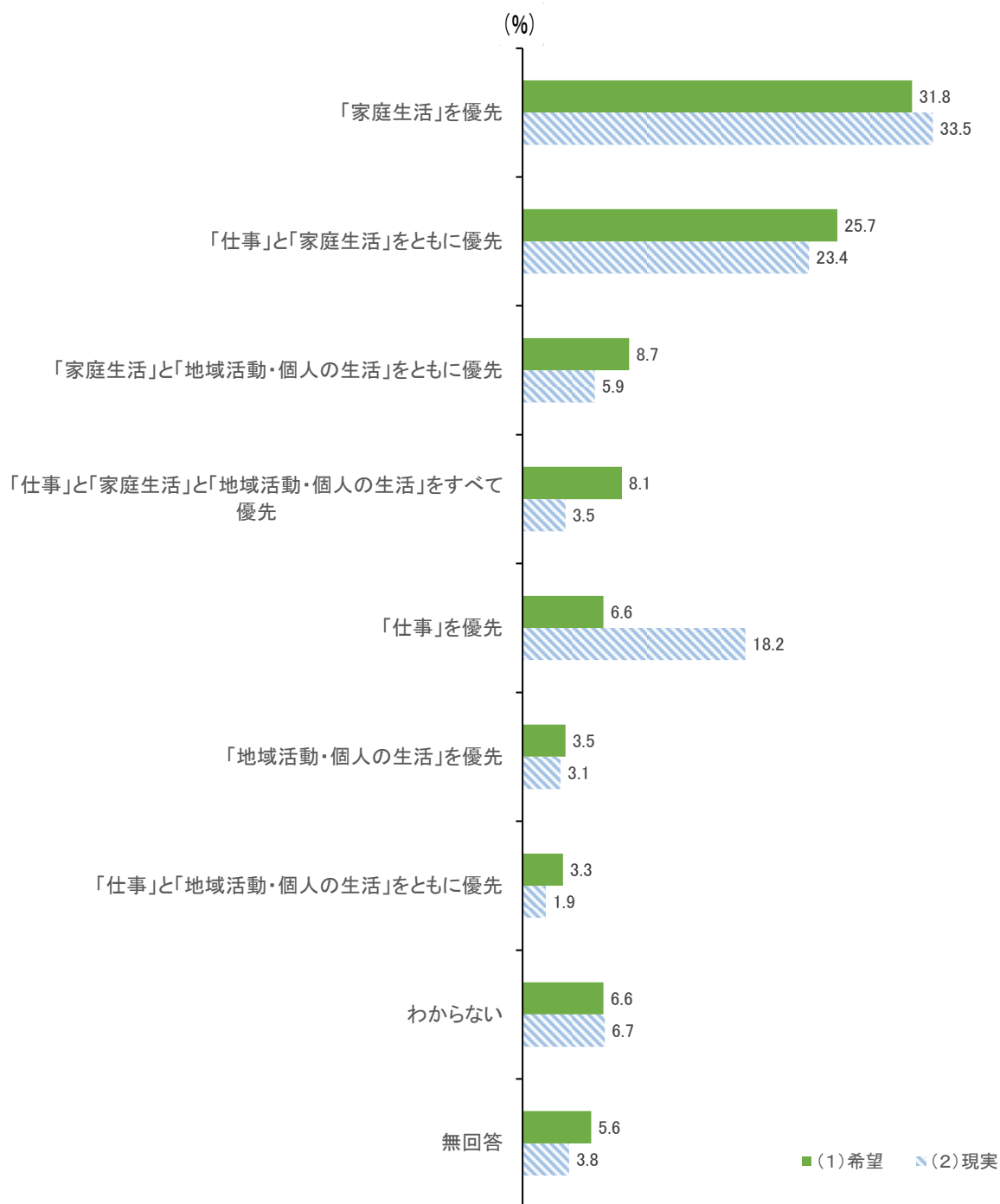
性別にみると、「『家庭生活』を優先している」は女性の方が男性より14.7ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「『家庭生活』を優先している」は、女性の「70歳以上」が46.2%と最も高く、次いで女性の「50～59歳」が41.9%、女性の「60～69歳」が41.7%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が26.9ポイント高くなっています。

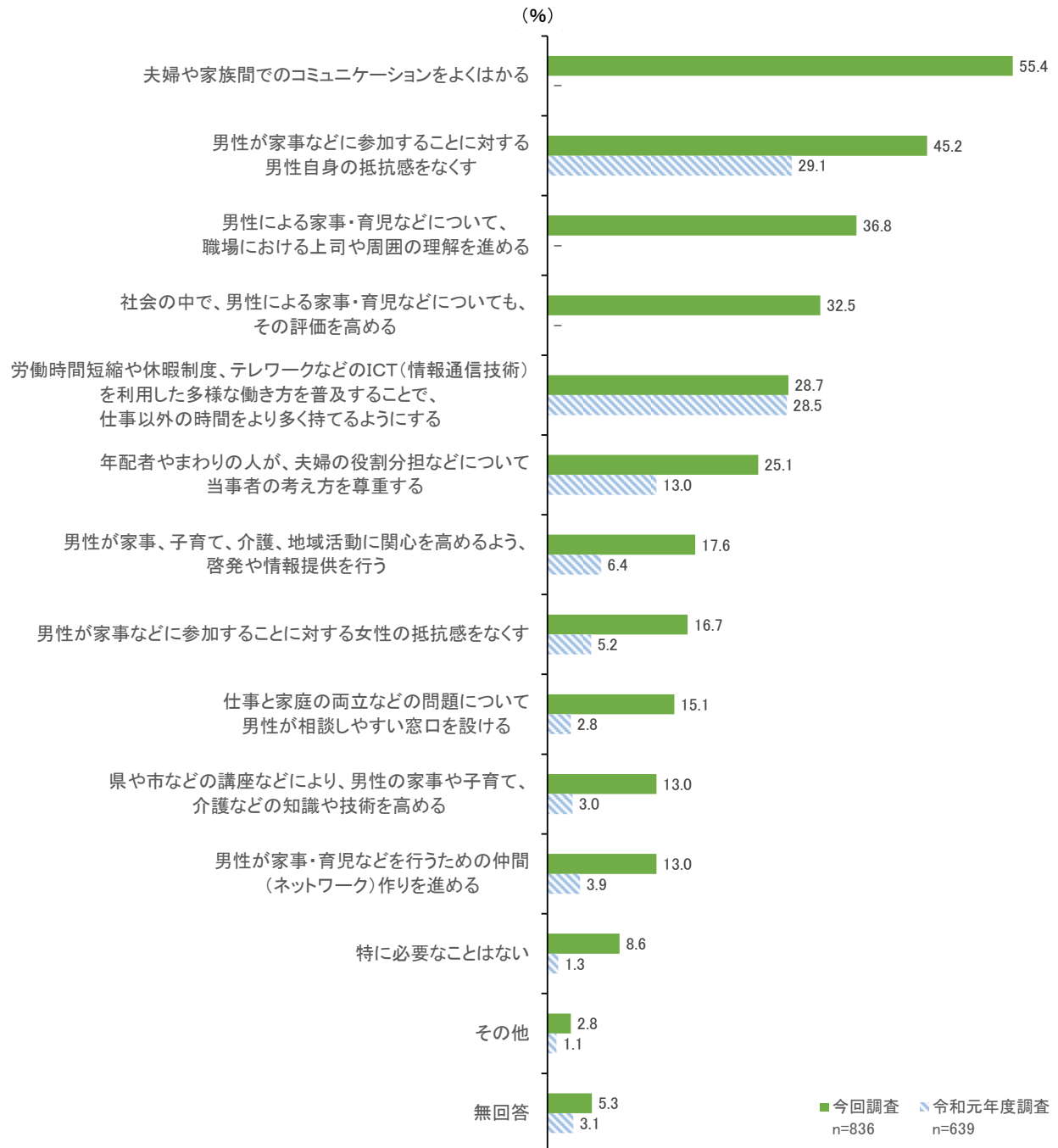
● 「希望」と「現実」の比較

n=836

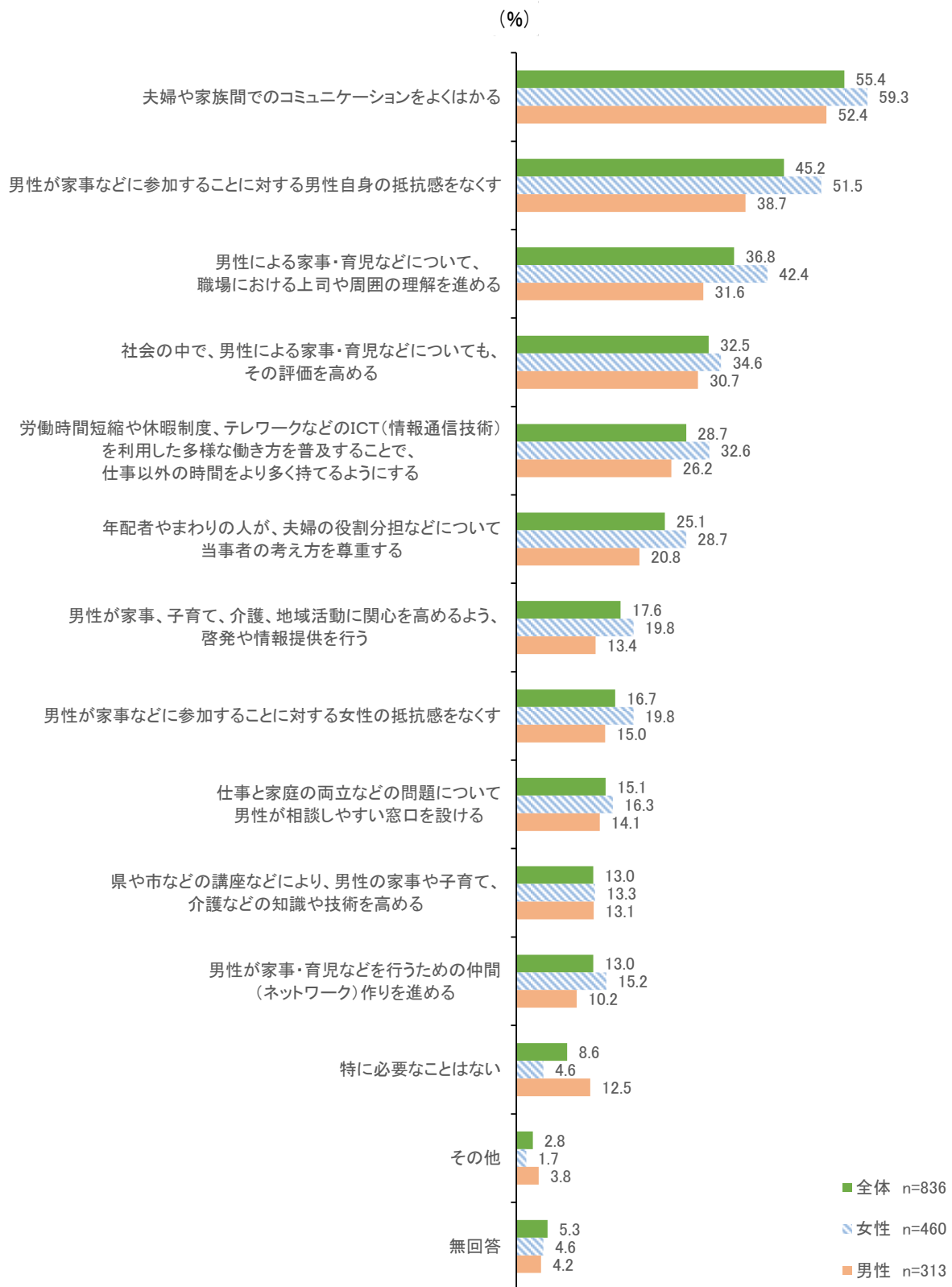


「希望」と「現実」を比較すると、「希望」は「現実」に比べて『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が2.3ポイント高くなっていますが、「現実」は「希望」に比べて『「仕事」を優先』が11.6ポイント高くなっています。

問 36 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)







(%)

	有効回答数（件）	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	男性が家事などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくす	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める	社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高める	ICT（情報通信技術）を利用した多様な働き方を普及すること、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの活用	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重する	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行う
全体	836	55.4	45.2	36.8	32.5	28.7	25.1	17.6	
女性	460	59.3	51.5	42.4	34.6	32.6	28.7	19.8	
男性	313	52.4	38.7	31.6	30.7	26.2	20.8	13.4	
答えたくない	15	20.0	6.7	53.3	20.0	20.0	40.0	0.0	
18～29歳	70	67.1	58.6	57.1	25.7	38.6	38.6	17.1	
30～39歳	61	63.9	45.9	45.9	47.5	44.3	34.4	24.6	
40～49歳	99	53.5	45.5	46.5	36.4	31.3	23.2	10.1	
50～59歳	164	54.3	40.9	37.8	30.5	32.3	23.2	14.6	
60～69歳	144	56.9	45.1	35.4	36.1	30.6	24.3	21.5	
70歳以上	248	54.4	46.0	29.0	29.0	21.0	22.6	18.5	

(%)

	有効回答数（件）	男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくす	仕事と家庭の両立などの問題に對して男性が相談しやすい窓口を設ける	県や市などの講座などによる、男性の家事や子育てに関する知識や技術の向上	男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーキング）の作りを進める	特に必要なことはない	その他	無回答
全体	836	16.7	15.1	13.0	13.0	8.6	2.8	5.3
女性	460	19.8	16.3	13.3	15.2	4.6	1.7	4.6
男性	313	15.0	14.1	13.1	10.2	12.5	3.8	4.2
答えたくない	15	20.0	13.3	6.7	13.3	13.3	26.7	0.0
18～29歳	70	22.9	27.1	22.9	32.9	8.6	0.0	2.9
30～39歳	61	23.0	19.7	18.0	24.6	4.9	8.2	0.0
40～49歳	99	20.2	11.1	7.1	13.1	10.1	3.0	1.0
50～59歳	164	15.2	12.2	7.9	7.3	7.3	5.5	2.4
60～69歳	144	17.4	18.1	11.8	11.1	7.6	2.1	2.1
70歳以上	248	13.7	13.3	16.1	9.7	8.9	0.8	9.7

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている

※令和元年度調査に「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」「社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高める」の選択肢なし

男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて、全体では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が 55.4%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が 45.2%、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」が 36.8%となっています。

性別にみると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」は女性の方が男性より 12.8 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」は、「18～29 歳」が 67.1%と最も高く、次いで「30～39 歳」が 63.9%、「60～69 歳」が 56.9%となっています。

### (3) 男女の働き方について

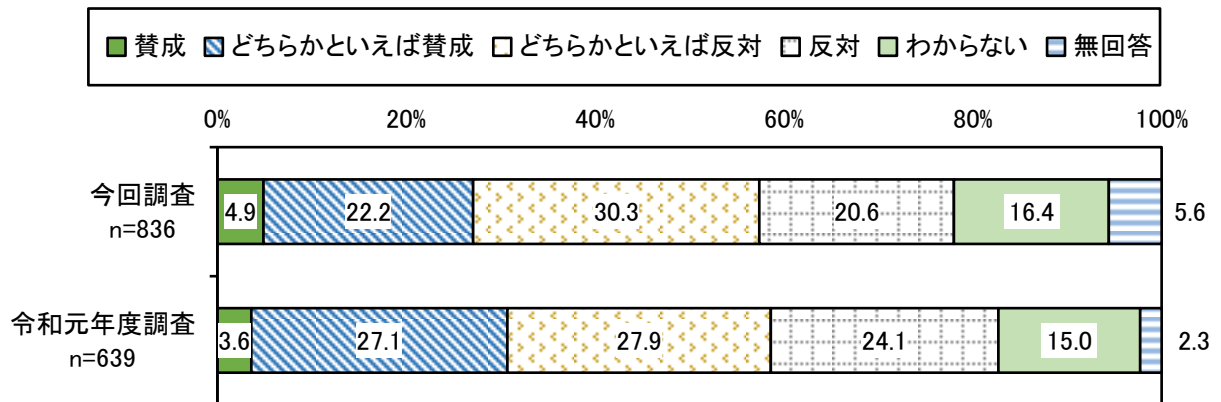
問 37 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、全体では、『反対』が 50.9%、『賛成』が 27.1%、「わからない」が 16.4%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、『賛成』が減少傾向にあります。

※問 37 の選択肢にかかる表現については、以下のように区分しています。

『賛成』:「賛成」+「どちらかといえば賛成」 『反対』:「反対」+「どちらかといえば反対」



	有効回答数(件)	賛成		反対		わからない	無回答
		賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対		
全体	836	4.9	22.2	30.3	20.6	16.4	5.6
女性	460	3.9	19.1	34.1	21.3	16.3	5.2
男性	313	5.8	27.8	27.5	19.5	15.7	3.8
答えたくない	15	13.3	20.0	6.7	33.3	20.0	6.7
女性	18～29歳	4.7	9.3	34.9	32.6	16.3	2.3
	30～39歳	2.8	16.7	27.8	38.9	13.9	0.0
	40～49歳	1.7	15.3	37.3	27.1	16.9	1.7
	50～59歳	2.2	19.4	38.7	17.2	21.5	1.1
	60～69歳	3.6	21.4	35.7	21.4	10.7	7.1
	70歳以上	6.2	22.8	30.3	13.8	16.6	10.3
男性	18～29歳	0.0	13.0	30.4	30.4	21.7	4.3
	30～39歳	4.2	16.7	33.3	33.3	12.5	0.0
	40～49歳	2.6	28.9	23.7	28.9	15.8	0.0
	50～59歳	4.5	25.4	32.8	14.9	19.4	3.0
	60～69歳	1.7	32.2	25.4	25.4	13.6	1.7
	70歳以上	11.9	31.7	24.8	9.9	13.9	7.9
共働き	274	2.6	26.6	30.3	26.3	12.8	1.5
共働きではない	225	8.0	25.8	32.4	16.0	12.4	5.3

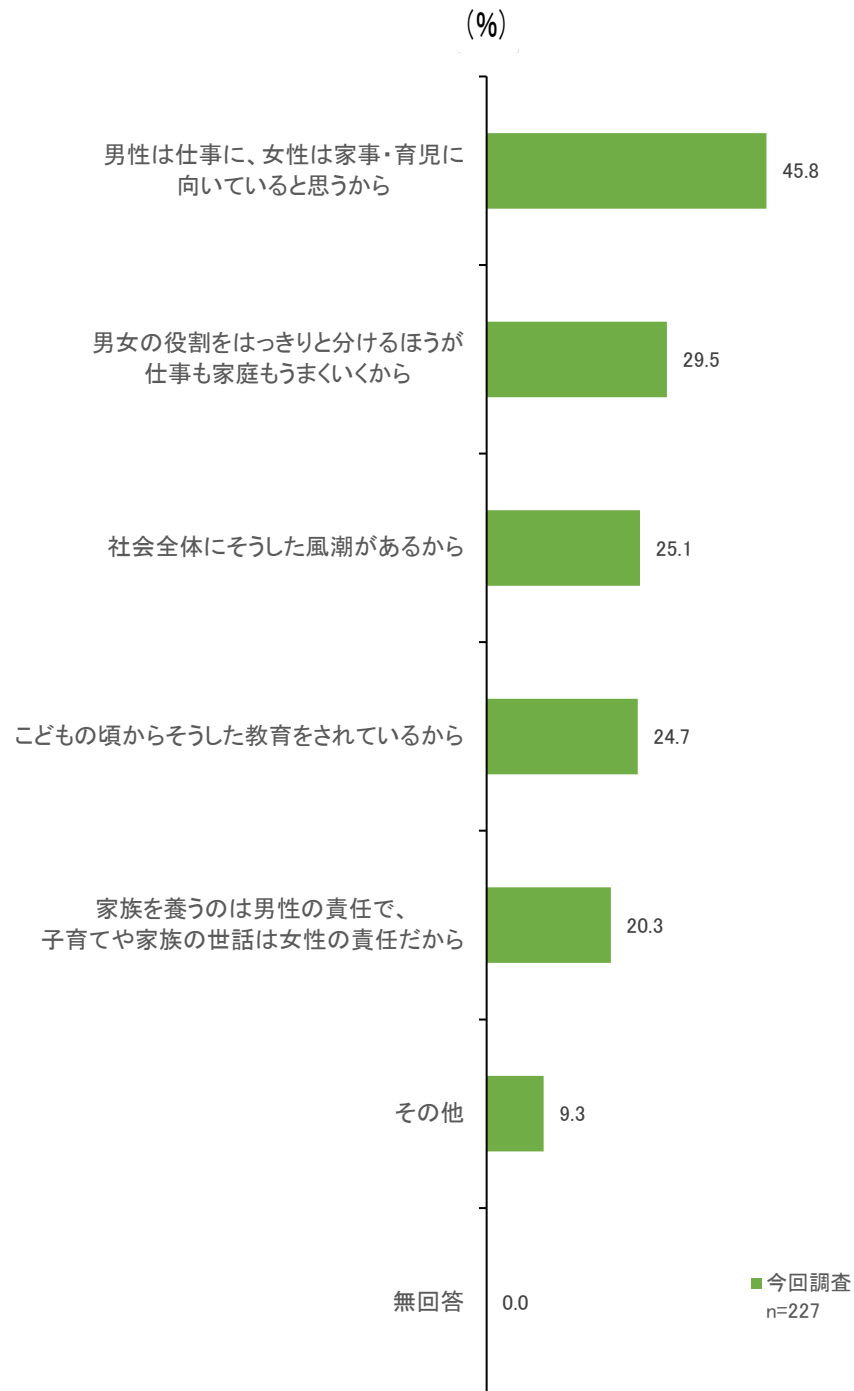
性別にみると、『賛成』は、男性の方が女性より 10.6 ポイント高く、『反対』は、女性の方が男性より 8.4 ポイント高くなっています。

年齢別にみると、『反対』は、女性の「18～29歳」が 67.5%と最も高く、次いで女性の「30～39歳」が 66.7%、男性の「30～39歳」が 66.6%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より『反対』が 8.2 ポイント高くなっています。

問 37 で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。

問 37-1 問 37 で、そう思われるのはなぜですか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数 (件)	育児は仕事に、女性 は家事・	男性は仕事に、女性 は家事・	いくから	男女の役割をは っきりと分ける ほうが仕事も家 庭もうまくいく から	社会全体にそう した風潮があ るから	をさだめられて いるから	こどもの頃から そうした教育 性の子育てか ら	家族を養うのは 男性の責任は 女性	その他	無回答
全体	227	45.8	29.5	25.1	24.7	20.3	9.3	0.0			
女性	106	41.5	25.5	28.3	28.3	22.6	8.5	0.0			
男性	105	49.5	34.3	24.8	22.9	18.1	8.6	0.0			
答えたくない	5	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0			
女性	18～29歳	6	16.7	50.0	66.7	33.3	0.0	16.7	0.0		
	30～39歳	7	42.9	28.6	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0		
	40～49歳	10	20.0	30.0	0.0	30.0	20.0	20.0	0.0		
	50～59歳	20	50.0	20.0	25.0	15.0	10.0	20.0	0.0		
	60～69歳	21	52.4	19.0	19.0	33.3	19.0	4.8	0.0		
	70歳以上	42	40.5	26.2	38.1	35.7	33.3	0.0	0.0		
男性	18～29歳	3	66.7	100.0	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0		
	30～39歳	5	40.0	40.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0		
	40～49歳	12	41.7	33.3	25.0	25.0	16.7	8.3	0.0		
	50～59歳	20	45.0	20.0	25.0	15.0	10.0	10.0	0.0		
	60～69歳	20	45.0	45.0	20.0	10.0	10.0	10.0	0.0		
	70歳以上	44	54.5	31.8	29.5	29.5	25.0	2.3	0.0		
共働き	80	38.8	26.3	17.5	21.3	16.3	12.5	0.0			
共働きではない	76	48.7	28.9	31.6	22.4	26.3	7.9	0.0			

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に『賛成』する理由について、全体では「男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから」が45.8%と最も高く、次いで「男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから」が29.5%、「社会全体にそうした風潮があるから」が25.1%となっています。

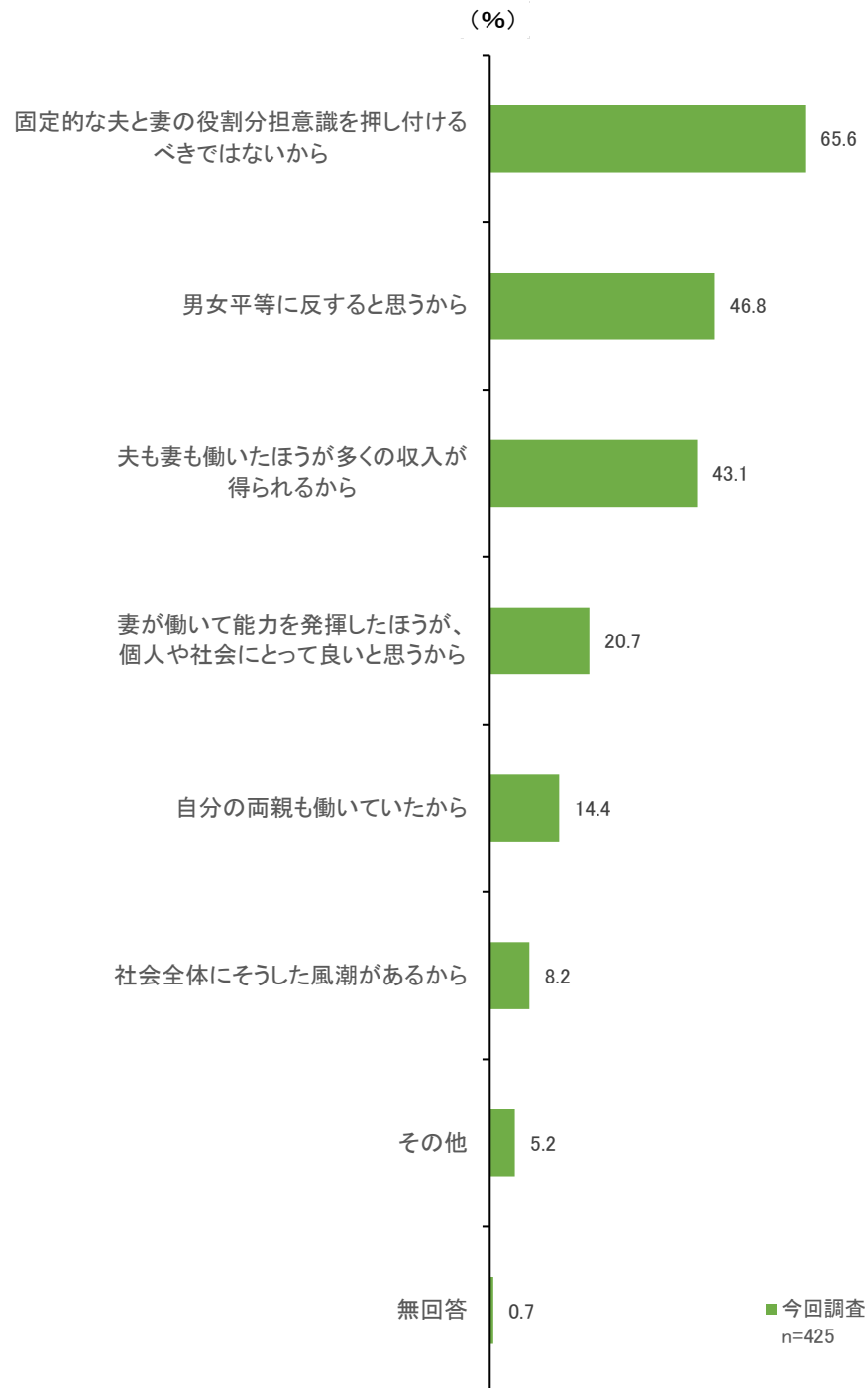
性別にみると、「男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから」は男性の方が女性より8.8ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから」は、男性の「18～29歳」が66.7%と最も高く、次いで男性の「70歳以上」が54.5%、女性の「60～69歳」が52.4%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから」が9.9ポイント高くなっています。

問37で「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方にお聞きします。

問37-2 問37で、そう思われるのはなぜですか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数 (件)	固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから	男女平等に反すると思うから	夫も妻も働いたほうが多くの収入が得られるから	妻が働いて能力を發揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	自分の両親も働いていたから	社会全体にそうした風潮があるから	その他	無回答	
全体	425	65.6	46.8	43.1	20.7	14.4	8.2	5.2	0.7	
女性	255	67.1	47.1	43.1	18.4	12.9	9.0	6.7	1.2	
男性	147	64.6	46.9	43.5	25.9	17.0	6.1	2.7	0.0	
答えたくない	6	33.3	16.7	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	
女性	18～29歳	29	72.4	51.7	41.4	10.3	17.2	3.4	13.8	0.0
	30～39歳	24	79.2	54.2	62.5	12.5	25.0	8.3	12.5	0.0
	40～49歳	38	68.4	47.4	47.4	26.3	18.4	10.5	10.5	0.0
	50～59歳	52	63.5	44.2	38.5	15.4	17.3	9.6	1.9	1.9
	60～69歳	48	70.8	37.5	41.7	14.6	4.2	8.3	8.3	0.0
	70歳以上	64	59.4	51.6	39.1	25.0	6.3	10.9	1.6	3.1
男性	18～29歳	14	64.3	50.0	50.0	14.3	21.4	7.1	0.0	0.0
	30～39歳	16	68.8	62.5	50.0	31.3	18.8	6.3	12.5	0.0
	40～49歳	20	55.0	30.0	30.0	10.0	20.0	10.0	10.0	0.0
	50～59歳	32	65.6	40.6	46.9	31.3	18.8	3.1	0.0	0.0
	60～69歳	30	63.3	50.0	33.3	26.7	20.0	3.3	0.0	0.0
	70歳以上	35	68.6	51.4	51.4	31.4	8.6	8.6	0.0	0.0
共働き	155	68.4	43.9	44.5	25.2	16.8	9.0	5.2	0.0	
共働きではない	109	63.3	45.9	44.0	20.2	11.0	8.3	4.6	0.9	

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に『反対』する理由について、全体では「固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」が 65.6%と最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」が 46.8%、「夫も妻も働いたほうが多くの収入が得られるから」が 43.1%となっています。

性別にみると、「妻が働いて能力を發揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」は男性の方が女性より 7.5 ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」は、女性の「30～39歳」が 79.2%と最も高く、次いで女性の「18～29歳」が 72.4%、女性の「60～69歳」が 70.8%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」が 5.1 ポイント高くなっています。



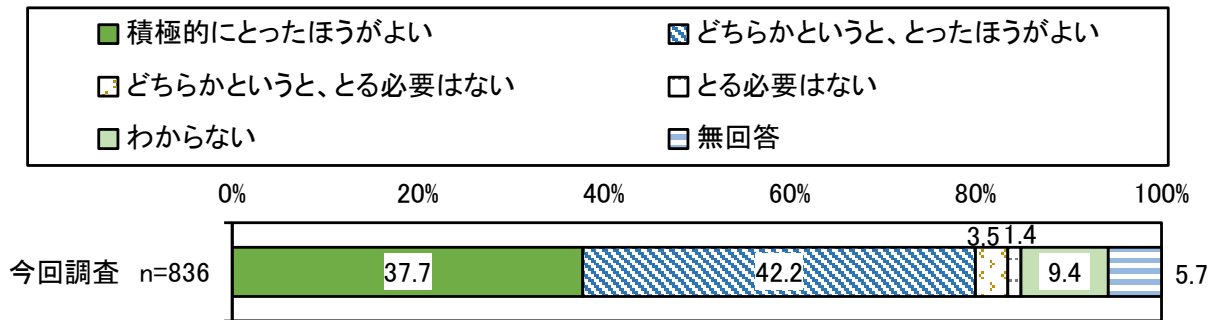
問 38 男性が育児や介護で休みをとることについて、どのように思いますか。(○は1つ)

男性が育児や介護で休みをとることについて、全体では、『とったほうがよい』が79.9%、『とる必要はない』が4.9%、「わからない」が9.4%となっています。

※問 38 の選択肢にかかる表現については、以下のように区分しています。

『とったほうがよい』:「積極的にとったほうがよい」+「どちらかという、とったほうがよい」

『とる必要はない』:「とる必要はない」+「どちらかという、とる必要はない」



	有効回答数 (件)	とったほうがよい				とる必要はない		わからない	無回答
		積極的にとったほうがよい	どちらかという、とったほうがよい	どちらかという、とる必要はない	とる必要はない				
全体	836	37.7	42.2	3.5	1.4	9.4	5.7		
女性	460	40.4	41.7	3.7	1.7	7.8	4.6		
男性	313	36.4	45.0	3.2	1.3	9.6	4.5		
答えたくない	15	33.3	26.7	6.7	0.0	26.7	6.7		
女性	18～29歳	43	62.8	25.6	2.3	2.3	7.0	0.0	
	30～39歳	36	52.8	36.1	2.8	2.8	0.0	5.6	
	40～49歳	59	44.1	40.7	1.7	3.4	8.5	1.7	
	50～59歳	93	37.6	43.0	6.5	3.2	8.6	1.1	
	60～69歳	84	41.7	47.6	6.0	0.0	2.4	2.4	
	70歳以上	145	30.3	44.1	2.1	0.7	12.4	10.3	
男性	18～29歳	23	34.8	39.1	0.0	0.0	17.4	8.7	
	30～39歳	24	62.5	20.8	4.2	0.0	8.3	4.2	
	40～49歳	38	50.0	42.1	2.6	0.0	2.6	2.6	
	50～59歳	67	35.8	44.8	1.5	1.5	14.9	1.5	
	60～69歳	59	33.9	54.2	1.7	1.7	5.1	3.4	
	70歳以上	101	27.7	48.5	5.0	2.0	9.9	6.9	
共働き	274	43.8	43.8	4.4	1.5	5.1	1.5		
共働きではない	225	36.9	46.2	4.0	1.3	6.7	4.9		

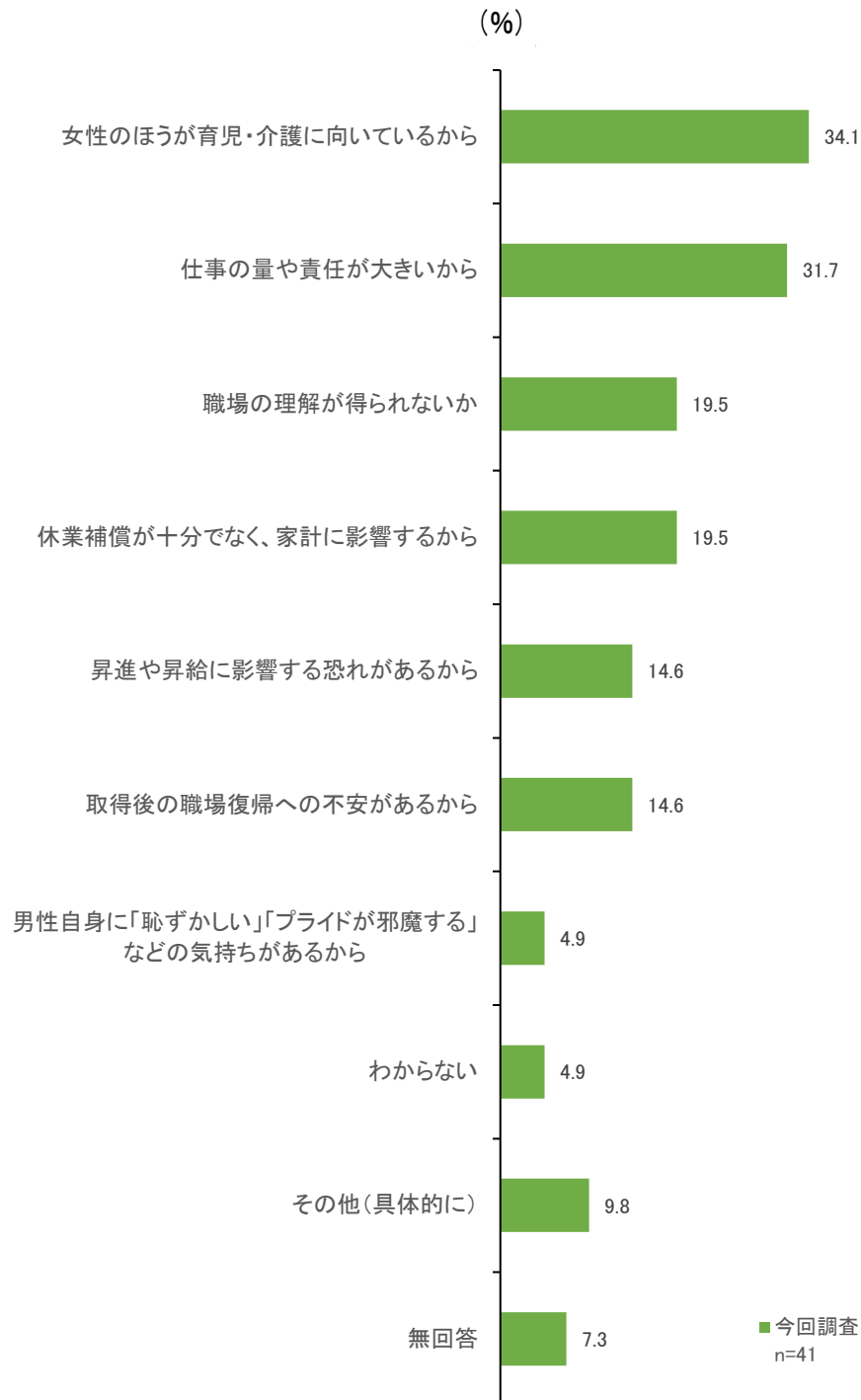
性別にみると、『とったほうがよい』は、男性と女性に大きな差はみられません。

年齢別にみると、『とったほうがよい』は、男性の「40～49歳」が92.1%と最も高く、次いで女性の「60～69歳」が89.3%、女性の「30～39歳」が88.9%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より『とったほうがよい』が4.5ポイント高くなっています。

問 38 で「3. どちらかという、とる必要はない」「4. とる必要はない」と答えた方にお聞き  
します。

問 38-1 そう思われるのはなぜですか。次の中から特にあてはまると思うものを選んでくだ  
さい。(〇はいくつでも)



(%)

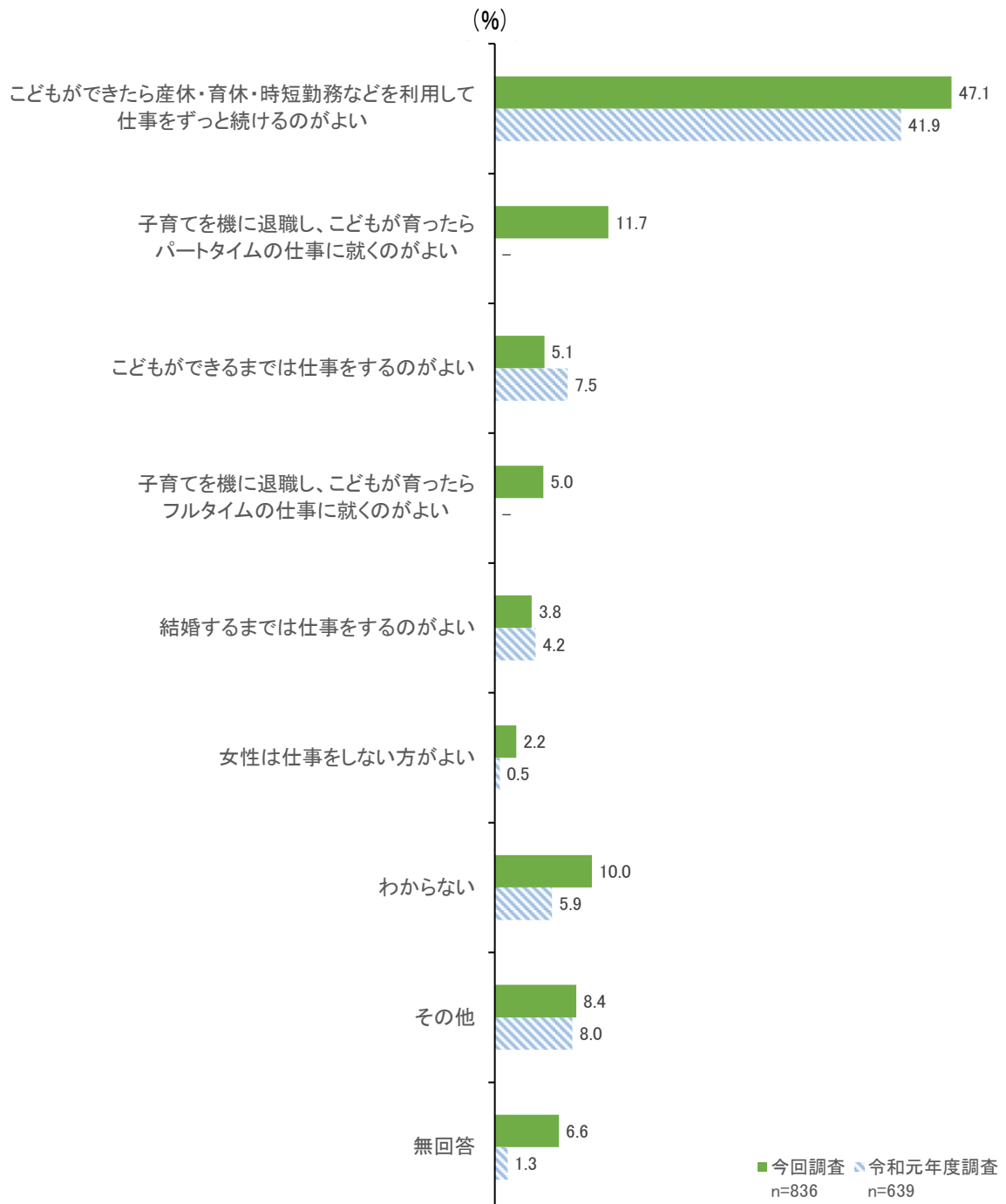
	有効回答数 (件)	女性のほうが 育児・介護に向 いているから	仕事の量や責任が大きいから	職場の理解が得られないから	休業補償が十分でなく、家計 に影響するから	昇進や昇給に影響する恐れが あるから	取得後の職場復帰への不安が あるから	男性自身に「恥ずかしい」など の気持ちがあるから	わからない	その他 (具体的に)	無回答	
全体	41	34.1	31.7	19.5	19.5	14.6	14.6	4.9	4.9	9.8	7.3	
女性	25	32.0	40.0	24.0	20.0	16.0	16.0	4.0	4.0	12.0	4.0	
男性	14	42.9	14.3	14.3	14.3	7.1	14.3	7.1	7.1	7.1	7.1	
答えたくない	1	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
女性	18～29歳	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	30～39歳	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	40～49歳	3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	50～59歳	9	44.4	44.4	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1
	60～69歳	5	40.0	20.0	40.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	4	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性	18～29歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	1	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～49歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	60～69歳	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	7	57.1	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0
共働き	16	37.5	43.8	6.3	25.0	12.5	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	
共働きではない	12	50.0	8.3	8.3	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	8.3	8.3	

「男性が育児や介護で休みを『とる必要はない』』と考える理由について、全体では「女性のほうが育児・介護に向いているから」が 34.1%と最も高く、次いで「仕事の量や責任が大きいから」が 31.7%、「職場の理解が得られないから」と「休業補償が十分でなく、家計に影響するから」がともに 19.5%となっています。

性別にみると、「仕事の量や責任が大きいから」は女性の方が男性より 25.7 ポイント高くなっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしていない人の方が共働きをしている人より「女性のほうが育児・介護に向いているから」が 12.5 ポイント高くなっています。

問 39 女性が仕事をするということについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)



	有効回答数 (件)	子どもができた ら産休・育休・ 時短勤務などを 利用するのがよ い	子育てを機に退 職し、パートタ イムの仕事を するのがよい	子どもが育つた らパートタイム の仕事に就くの がよい	子どもが育つた らフルタイムの 仕事に就くの がよい	結婚するまでは 仕事をしない方 がよい	女性は仕事をし ない方がよい	わからない	その他	無回答	
全体	836	47.1	11.7	5.1	5.0	3.8	2.2	10.0	8.4	6.6	
女性	460	50.2	13.3	4.8	4.8	3.0	2.0	8.3	8.7	5.0	
男性	313	46.0	9.9	6.1	4.8	5.4	1.9	10.9	8.6	6.4	
答えたくない	15	6.7	0.0	6.7	33.3	6.7	0.0	6.7	33.3	6.7	
女性	18～29歳	43	46.5	14.0	4.7	7.0	2.3	2.3	7.0	14.0	2.3
	30～39歳	36	63.9	16.7	0.0	5.6	0.0	0.0	2.8	11.1	0.0
	40～49歳	59	55.9	10.2	6.8	3.4	0.0	0.0	6.8	15.3	1.7
	50～59歳	93	51.6	14.0	2.2	4.3	2.2	1.1	14.0	8.6	2.2
	60～69歳	84	53.6	11.9	6.0	1.2	7.1	1.2	6.0	10.7	2.4
	70歳以上	145	42.8	13.8	6.2	6.9	3.4	4.1	8.3	2.8	11.7
男性	18～29歳	23	34.8	13.0	4.3	4.3	0.0	0.0	26.1	17.4	0.0
	30～39歳	24	45.8	12.5	4.2	8.3	0.0	8.3	8.3	8.3	4.2
	40～49歳	38	52.6	15.8	5.3	2.6	2.6	0.0	7.9	10.5	2.6
	50～59歳	67	47.8	6.0	3.0	3.0	0.0	1.5	17.9	14.9	6.0
	60～69歳	59	54.2	6.8	10.2	6.8	5.1	1.7	5.1	6.8	3.4
	70歳以上	101	40.6	10.9	6.9	5.0	11.9	2.0	7.9	3.0	11.9
パートナー有	527	51.4	13.3	4.4	4.0	4.4	1.5	7.0	8.3	5.7	
パートナー無	249	42.2	8.4	7.6	6.0	2.8	3.2	14.9	9.6	5.2	
共働き	274	57.3	11.3	2.9	3.6	3.3	2.2	4.7	11.7	2.9	
共働きではない	225	46.2	14.7	6.2	4.4	5.3	0.9	9.8	4.9	7.6	

※令和元年度調査に「子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイムの仕事に就くのがよい」「子育てを機に退職し、子どもが育ったらフルタイムの仕事に就くのがよい」の選択肢なし

「女性が仕事をする事」に対する考えについて、全体では「子どもができたら産休・育休・時短勤務などを利用して仕事をずっと続けるのがよい」が47.1%と最も高く、次いで「子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイムの仕事に就くのがよい」が11.7%、「子どもができるまでは仕事をするのがよい」が5.1%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「子どもができたら産休・育休・時短勤務などを利用して仕事をずっと続けるのがよい」が増加傾向にあります。

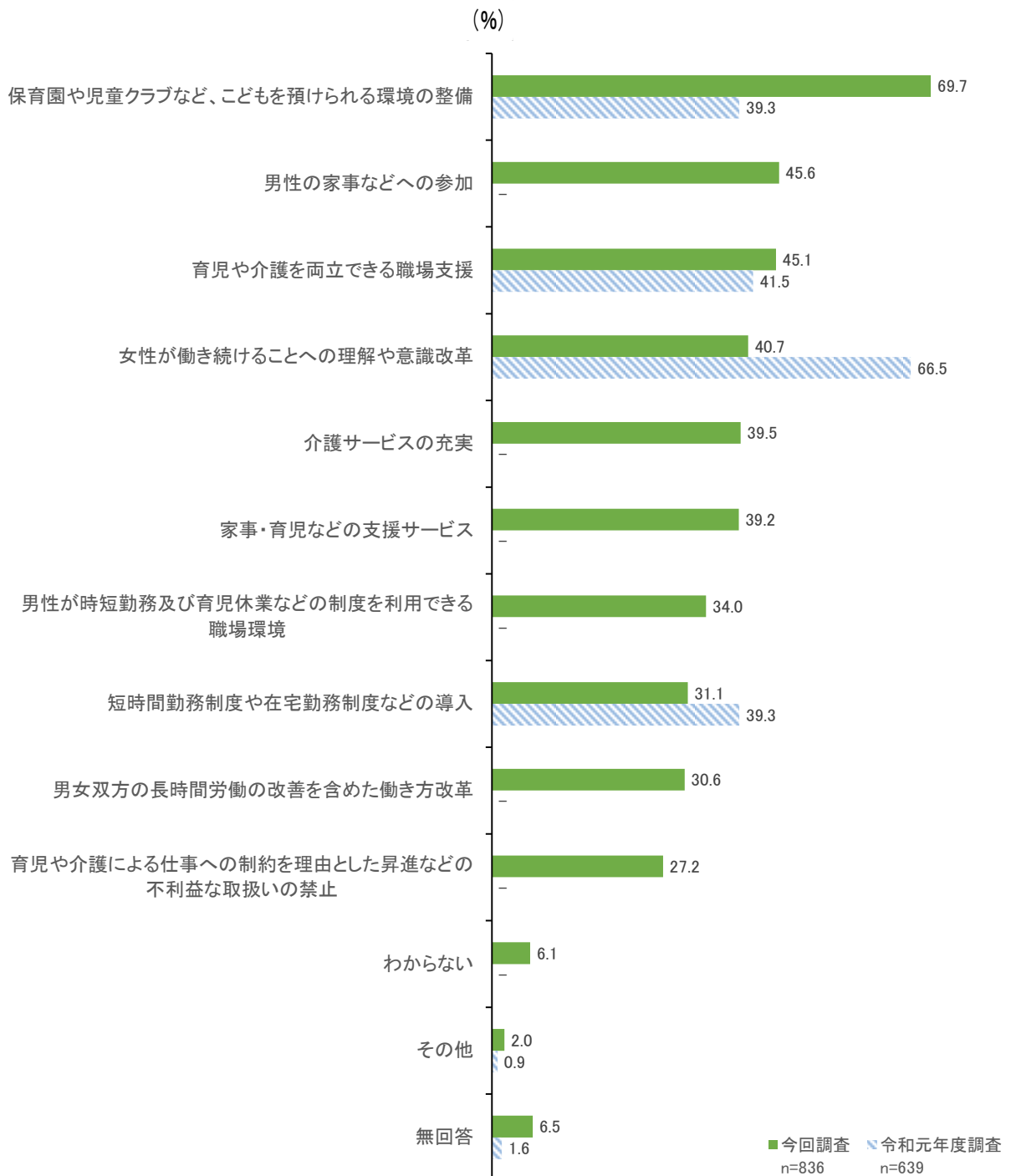
性別にみると、「子どもができたら産休・育休・時短勤務などを利用して仕事をずっと続けるのがよい」は女性の方が男性より4.2ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「子どもができたら産休・育休・時短勤務などを利用して仕事をずっと続けるのがよい」は、女性の「30～39歳」が63.9%と最も高く、次いで女性の「40～49歳」が55.9%、男性の「60～69歳」が54.2%となっています。

パートナーの有無別にみると、パートナーがいる人の方がパートナーがいない人より「子どもができたら産休・育休・時短勤務などを利用して仕事をずっと続けるのがよい」が9.2ポイント高くなっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「子どもができたら産休・育休・時短勤務などを利用して仕事をずっと続けるのがよい」が11.1ポイント高くなっています。

問 40 働くことを希望する女性が働き続けるために、家庭、仕事、地域などで特に必要と思うことについて、選んでください。(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数(件)	整備 こどもを預けられる環境の	男性の家事などへの参加	育児や介護を両立できる職場支援	女性が働き続けることへの理解や意識改革	介護サービスの充実	家事・育児などの支援サービス	職場環境	男性が時短勤務及び育児休業などの制度を利用できる	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	善を含めた働き方改革	男女双方の長時間労働の改善	の不利な取扱いの禁止	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などの	わからない	その他	無回答
全体	836	69.7	45.6	45.1	40.7	39.5	39.2	34.0	31.1	30.6	27.2	6.1	2.0	6.5			
女性	460	74.1	51.7	52.4	44.3	42.6	42.8	38.0	36.5	33.0	31.1	3.9	2.0	4.6			
男性	313	67.7	38.7	38.0	38.3	36.4	37.4	31.3	25.9	30.0	23.3	7.3	2.6	5.8			
答えたくない	15	60.0	26.7	33.3	40.0	20.0	33.3	6.7	26.7	26.7	20.0	0.0	26.7	6.7			
女性	18～29歳	43	83.7	55.8	46.5	44.2	39.5	55.8	46.5	46.5	32.6	44.2	4.7	2.3	2.3		
	30～39歳	36	88.9	66.7	75.0	77.8	27.8	44.4	61.1	58.3	47.2	38.9	0.0	8.3	0.0		
	40～49歳	59	69.5	57.6	47.5	42.4	40.7	47.5	33.9	45.8	44.1	39.0	3.4	3.4	1.7		
	50～59歳	93	76.3	55.9	54.8	46.2	44.1	43.0	39.8	36.6	31.2	25.8	0.0	1.1	3.2		
	60～69歳	84	77.4	54.8	53.6	40.5	46.4	45.2	40.5	29.8	34.5	29.8	2.4	2.4	1.2		
	70歳以上	145	66.2	40.0	48.3	37.9	44.8	35.2	29.0	28.3	25.5	26.2	8.3	0.0	10.3		
男性	18～29歳	23	73.9	56.5	56.5	39.1	39.1	47.8	47.8	47.8	43.5	30.4	13.0	0.0	0.0		
	30～39歳	24	62.5	33.3	12.5	37.5	20.8	20.8	20.8	20.8	33.3	33.3	8.3	8.3	4.2		
	40～49歳	38	71.1	44.7	47.4	39.5	34.2	42.1	39.5	31.6	28.9	13.2	0.0	5.3	2.6		
	50～59歳	67	67.2	40.3	37.3	34.3	31.3	44.8	35.8	31.3	35.8	22.4	9.0	1.5	6.0		
	60～69歳	59	66.1	35.6	42.4	37.3	47.5	35.6	25.4	28.8	30.5	23.7	3.4	3.4	3.4		
	70歳以上	101	68.3	34.7	34.7	40.6	37.6	33.7	27.7	14.9	22.8	23.8	9.9	1.0	9.9		
共働き	274	77.0	48.9	30.3	47.1	38.7	47.4	39.1	38.7	31.0	49.3	2.2	2.2	2.6			
共働きではない	225	69.8	47.1	27.1	41.8	44.0	38.7	33.8	27.1	32.0	43.1	4.0	1.8	6.2			

※令和元年度調査は「〇は3つまで」の設問となっている。

※令和元年度調査に「男性の家事などへの参加」「介護サービスの充実」「家事・育児などの支援サービス」「男性が時短勤務及び育児休業などの制度を利用できる職場環境」「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などの不利益な取扱いの禁止」「わからない」の選択肢なし

「女性が働き続けるために必要と思うこと」について、全体では「保育園や児童クラブなど、こどもを預けられる環境の整備」が 69.7%と最も高く、次いで「男性の家事などへの参加」が 45.6%、「育児や介護を両立できる職場支援」が 45.1%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「保育園や児童クラブなど、こどもを預けられる環境の整備」が増加傾向にあります。

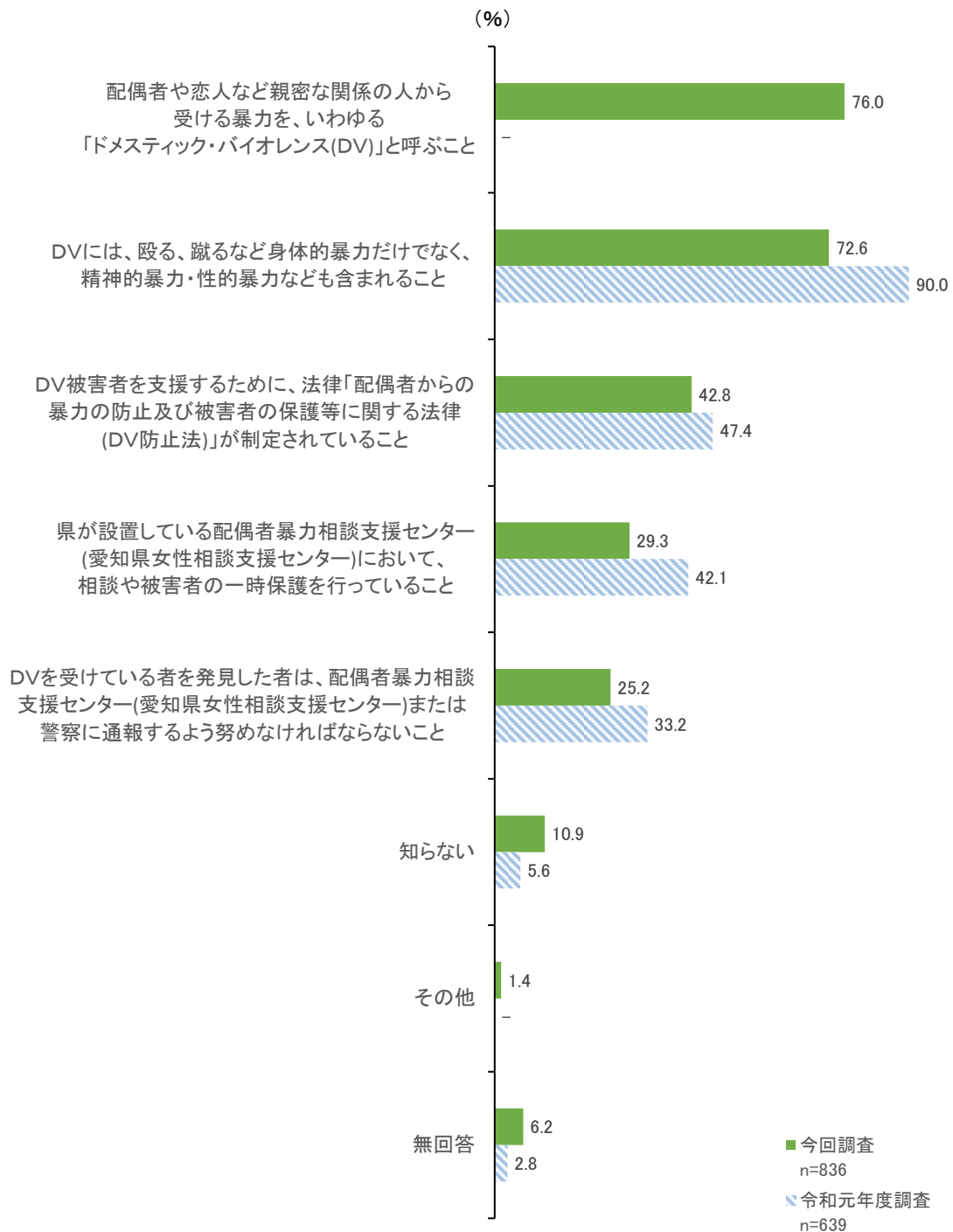
性別にみると、「保育園や児童クラブなど、こどもを預けられる環境の整備」は女性の方が男性より 6.4 ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「保育園や児童クラブなど、こどもを預けられる環境の整備」は、女性の「30～39歳」が 88.9%と最も高く、次いで女性の「18～29歳」が 83.7%、女性の「60～69歳」が 77.4%となっています。

共働きの有無別にみると、共働きをしている人の方が共働きをしていない人より「保育園や児童クラブなど、こどもを預けられる環境の整備」が 7.2 ポイント高くなっています。

#### (4) 配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)について

問 41 あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)に関する次のことについて知っていますか。(〇はいくつでも)「





	有効回答数 (件)	配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と呼ぶこと	DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的暴力・性的暴力なども含まれること	DV被害者を支援するために、法律「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」が制定されていること	県が設置している配偶者暴力相談支援センター(愛知県女性相談支援センター)について、相談や被害者の一時保護を行っていただくこと	支那センター(または警察)に通報するよう努めなければならないこと	DVを受けている者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センターに通報するよう努めなければならないこと	知らない	その他	無回答
全体	836	76.0	72.6	42.8	29.3	25.2	10.9	1.4	6.2	
女性	460	81.7	78.0	44.6	33.0	25.4	9.1	1.1	4.6	
男性	313	72.2	69.3	44.1	25.2	25.2	11.8	2.2	5.8	
答えたくない	15	60.0	46.7	13.3	13.3	6.7	0.0	26.7	6.7	
女性	18～29歳	43	90.7	83.7	27.9	23.3	14.0	7.0	0.0	0.0
	30～39歳	36	94.4	94.4	52.8	33.3	30.6	2.8	0.0	0.0
	40～49歳	59	86.4	89.8	57.6	50.8	45.8	6.8	1.7	0.0
	50～59歳	93	93.5	86.0	55.9	40.9	24.7	4.3	1.1	2.2
	60～69歳	84	83.3	83.3	44.0	35.7	27.4	6.0	0.0	2.4
	70歳以上	145	65.5	59.3	35.2	22.1	18.6	17.2	2.1	11.7
男性	18～29歳	23	73.9	60.9	34.8	17.4	17.4	26.1	0.0	0.0
	30～39歳	24	70.8	54.2	41.7	25.0	12.5	16.7	4.2	4.2
	40～49歳	38	92.1	84.2	47.4	13.2	23.7	0.0	0.0	2.6
	50～59歳	67	77.6	74.6	47.8	31.3	19.4	10.4	3.0	1.5
	60～69歳	59	79.7	84.7	55.9	33.9	37.3	6.8	1.7	1.7
	70歳以上	101	56.4	56.4	36.6	21.8	27.7	15.8	3.0	13.9

※令和元年度調査に「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と呼ぶこと」「その他」の選択肢なし

ドメスティック・バイオレンス(DV)に関する理解について、全体では「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティック・バイオレンス(DV)』と呼ぶこと」が76.0%と最も高く、次いで「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的暴力・性的暴力なども含まれること」が72.6%、「DV被害者を支援するために、法律「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」が制定されていること」が42.8%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「DV被害者を支援するために、法律「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」が制定されていること」が減少傾向にあります。

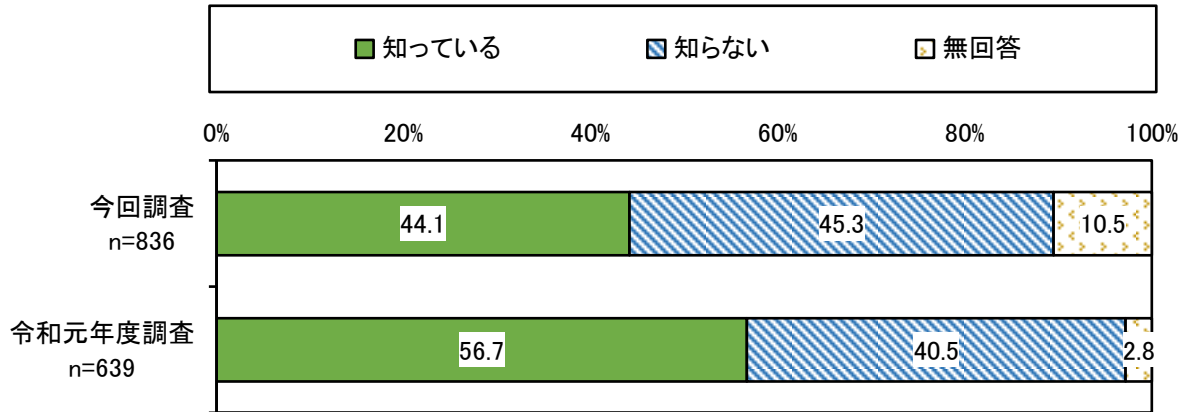
性別にみると、「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティック・バイオレンス(DV)』と呼ぶこと」は女性の方が男性より9.5ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティック・バイオレンス(DV)』と呼ぶこと」は、女性の「30～39歳」が94.4%と最も高く、次いで女性の「50～59歳」が93.5%、男性の「40～49歳」が92.1%となっています。

問 42 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

DVについて相談できる窓口の認知度について、全体では、「知らない」が45.3%、「知っている」が44.1%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「知っている」が減少傾向にあります。



(%)

	有効回答数 (件)	知っている (%)	知らない (%)	無回答 (%)	
全体	836	44.1	45.3	10.5	
女性	460	49.8	42.2	8.0	
男性	313	40.3	49.2	10.5	
答えたくない	15	13.3	66.7	20.0	
女性	18～29歳	43	37.2	60.5	2.3
	30～39歳	36	55.6	41.7	2.8
	40～49歳	59	64.4	33.9	1.7
	50～59歳	93	54.8	40.9	4.3
	60～69歳	84	58.3	35.7	6.0
	70歳以上	145	37.9	44.8	17.2
男性	18～29歳	23	34.8	65.2	0.0
	30～39歳	24	33.3	54.2	12.5
	40～49歳	38	36.8	52.6	10.5
	50～59歳	67	41.8	49.3	9.0
	60～69歳	59	52.5	44.1	3.4
	70歳以上	101	35.6	46.5	17.8

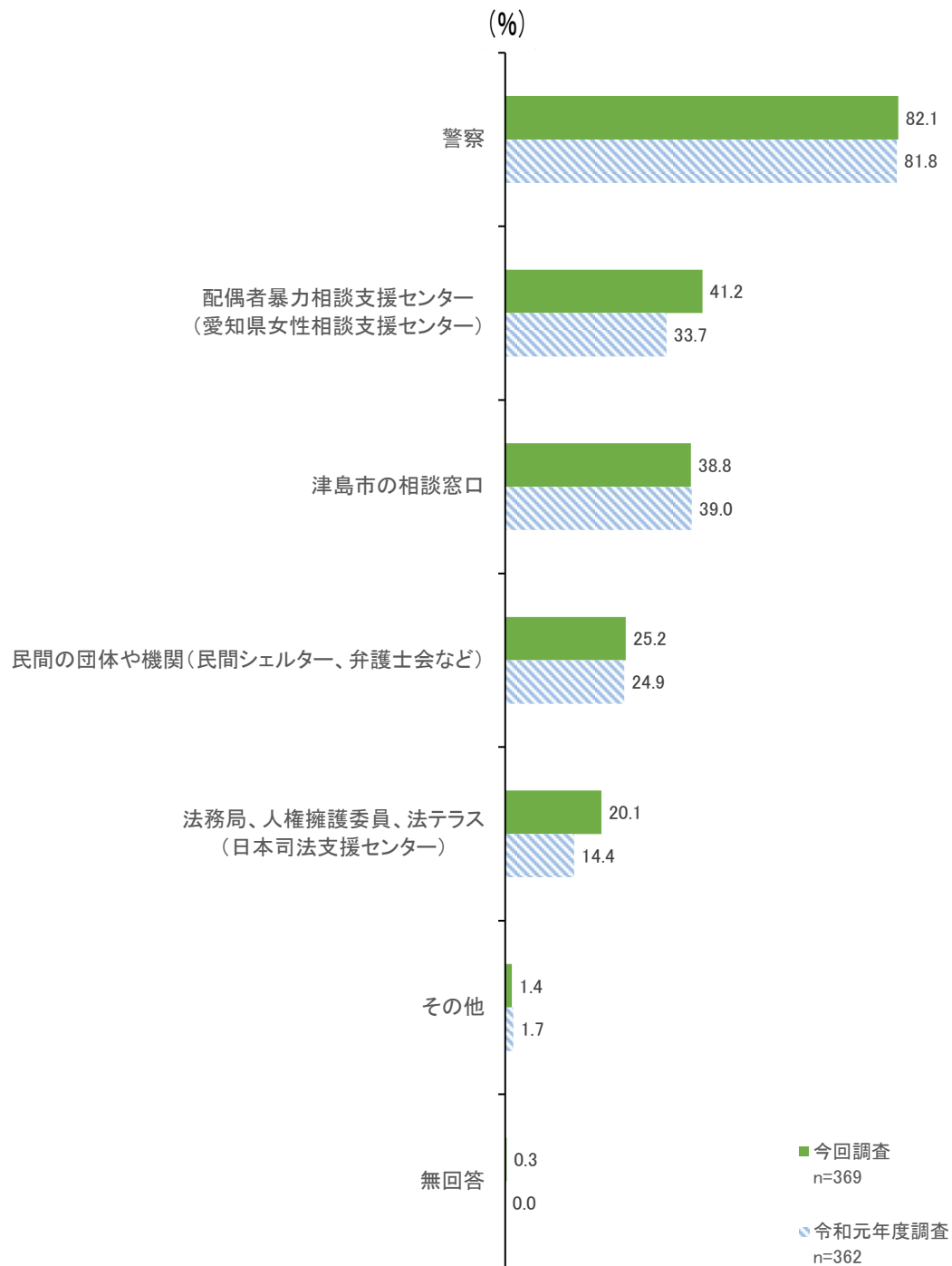
性別にみると「知らない」は、男性の方が女性より7.0ポイント高く、「知っている」は、女性の方が男性より9.5ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「知らない」は、男性の「18～29歳」が65.2%と最も高く、次いで女性の「18～29歳」が60.5%、男性の「30～39歳」が54.2%となっています。

「知っている」は、女性の「40～49歳」が64.4%と最も高く、次いで女性の「60～69歳」が58.3%、女性の「30～39歳」が55.6%となっています。

問 42 で「1. 知っている」と答えた方にお聞きします。

問 42-1 相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数 (件)	警察	配偶者暴力相談支援センター (愛知県女性相談支援センター)	津島市の相談窓口	民間の団体や弁護士会など (シェルター、弁護士会)	法務局、人権擁護委員、 法テラス(日本司法支援センター)	その他	無回答
全体	369	82.1	41.2	38.8	25.2	20.1	1.4	0.3
女性	229	80.8	38.9	34.5	27.1	16.6	1.3	0.4
男性	126	83.3	43.7	44.4	22.2	26.2	1.6	0.0
答えたくない	2	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18～29歳	25	80.0	36.0	24.0	36.0	8.0	0.0	0.0
30～39歳	29	82.8	41.4	37.9	24.1	27.6	3.4	0.0
40～49歳	52	80.8	46.2	34.6	26.9	23.1	1.9	0.0
50～59歳	79	77.2	32.9	30.4	35.4	17.7	1.3	0.0
60～69歳	80	85.0	41.3	36.3	17.5	22.5	1.3	0.0
70歳以上	91	84.6	44.0	52.7	19.8	18.7	1.1	1.1

DVの相談窓口として知っているところについて、全体では「警察」が82.1%と最も高く、次いで「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談支援センター）」が41.2%、「津島市の相談窓口」が38.8%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談支援センター）」と「法務局、人権擁護委員、法テラス（日本司法支援センター）」が増加傾向にあります。

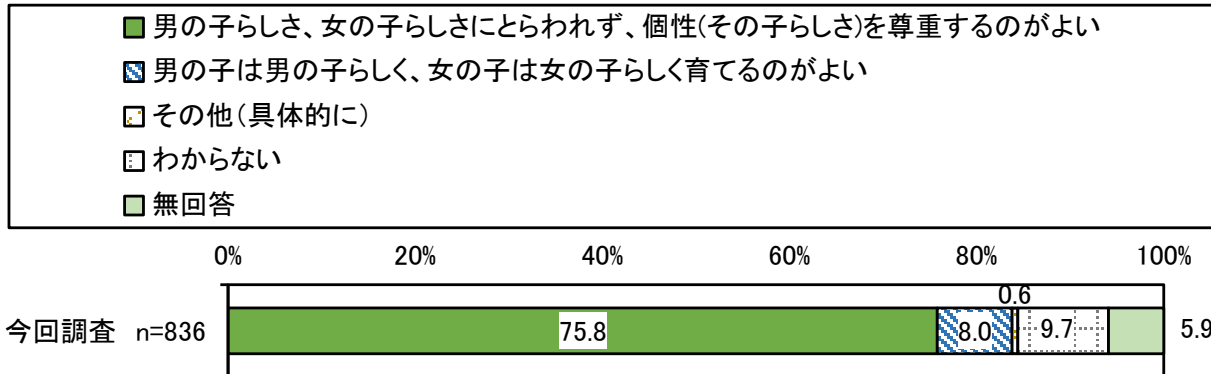
性別にみると、「津島市の相談窓口」は男性の方が女性より9.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「警察」は、「60～69歳」が85.0%と最も高く、次いで「70歳以上」が84.6%、「30～39歳」が82.8%となっています。

## (5) こどもへの男女共同参画教育について

問 43 子育ての方針について、どのように考えますか。次の中からあてはまるものを選んでください。(○は1つ)

子育ての方針について、全体では、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性(その子らしさ)を尊重するのがよい」が75.8%と最も高く、次いで「わからない」が9.7%、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」が8.0%となっています。

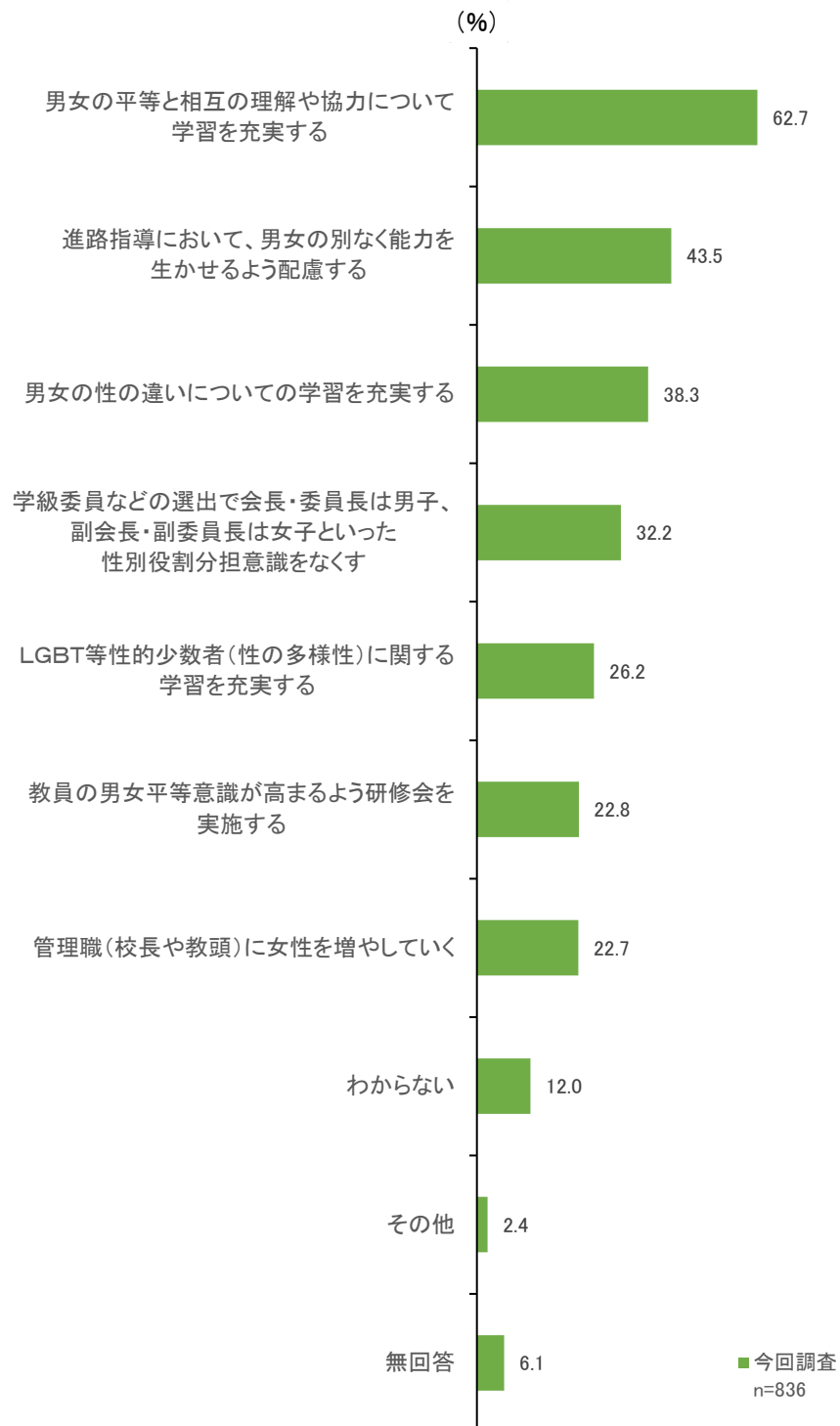


		有効回答数(件)	男の子らしさを尊重する(%)	男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい(%)	その他(具体的に)(%)	わからない(%)	無回答(%)
全体		836	75.8	8.0	0.6	9.7	5.9
女性		460	82.0	4.6	0.4	7.8	5.2
男性		313	71.6	13.1	1.0	9.6	4.8
答えたくない		15	53.3	0.0	0.0	40.0	6.7
女性	18~29歳	43	86.0	2.3	0.0	11.6	0.0
	30~39歳	36	91.7	0.0	0.0	8.3	0.0
	40~49歳	59	89.8	3.4	0.0	6.8	0.0
	50~59歳	93	87.1	4.3	0.0	5.4	3.2
	60~69歳	84	82.1	4.8	0.0	7.1	6.0
	70歳以上	145	71.7	6.9	1.4	9.0	11.0
男性	18~29歳	23	69.6	4.3	0.0	21.7	4.3
	30~39歳	24	79.2	4.2	4.2	12.5	0.0
	40~49歳	38	86.8	7.9	2.6	2.6	0.0
	50~59歳	67	77.6	7.5	0.0	9.0	6.0
	60~69歳	59	64.4	20.3	0.0	8.5	6.8
	70歳以上	101	65.3	17.8	1.0	9.9	5.9

性別にみると「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」は、男性の方が女性より8.5ポイント高く、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性(その子らしさ)を尊重するのがよい」は、女性の方が男性より10.4ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性(その子らしさ)を尊重するのがよい」は、女性の「30~39歳」が91.7%と最も高く、次いで女性の「40~49歳」が89.8%、女性の「50~59歳」が87.1%となっています。

問 44 男女平等の人間関係をつくるために学校教育の場で特に必要と思うものを次の中から選んでください。(〇はいくつでも)



(%)

	有効回答数（件）	男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	男女の性の違いについての学習を充実する	識は女子といたった性別役割分担意識をなくす	員長は男子、副会長・副委員長	学級委員などの選出で会長・委員長	様性）に関する学習を充実する	LGBT等性的少数者（性の多様性）に関する学習を充実する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	増やしていく（校長や教頭）に女性を	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	わからない	その他	無回答
全体	836	62.7	43.5	38.3	32.2	26.2	22.8	22.7	12.0	2.4	6.1				
女性	460	66.3	47.6	40.4	34.1	31.3	23.5	23.0	9.1	2.2	5.9				
男性	313	62.0	40.9	37.7	31.6	22.0	23.3	23.0	12.8	2.9	5.1				
答えたくない	15	20.0	6.7	6.7	13.3	0.0	0.0	6.7	6.7	46.7	6.7				
女性	18～29歳	43	74.4	46.5	53.5	37.2	48.8	30.2	25.6	7.0	2.3	0.0			
	30～39歳	36	83.3	52.8	58.3	38.9	61.1	41.7	41.7	8.3	5.6	2.8			
	40～49歳	59	69.5	47.5	37.3	37.3	30.5	32.2	25.4	11.9	3.4	0.0			
	50～59歳	93	68.8	40.9	36.6	24.7	35.5	15.1	20.4	12.9	0.0	3.2			
	60～69歳	84	61.9	46.4	34.5	36.9	29.8	16.7	16.7	7.1	2.4	8.3			
	70歳以上	145	59.3	51.7	39.3	35.2	17.2	22.8	22.1	7.6	2.1	11.0			
男性	18～29歳	23	65.2	17.4	39.1	30.4	30.4	17.4	17.4	26.1	0.0	4.3			
	30～39歳	24	62.5	20.8	37.5	25.0	16.7	25.0	0.0	25.0	4.2	0.0			
	40～49歳	38	68.4	39.5	31.6	34.2	21.1	18.4	31.6	2.6	2.6	0.0			
	50～59歳	67	56.7	40.3	40.3	29.9	25.4	17.9	19.4	11.9	3.0	6.0			
	60～69歳	59	64.4	42.4	35.6	30.5	27.1	25.4	23.7	11.9	3.4	8.5			
	70歳以上	101	60.4	50.5	39.6	34.7	16.8	28.7	28.7	11.9	3.0	5.9			

男女平等の人間関係をつくるために学校教育の場で必要なものについて、全体では「男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する」が 62.7%と最も高く、次いで「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が 43.5%、「男女の性の違いについての学習を充実する」が 38.3%となっています。

性別にみると、「LGBT等性的少数者（性の高様性）に関する学習を充実する」は女性の方が男性より 9.3 ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する」は、女性の「30～39歳」が 83.3%と最も高く、次いで女性の「18～29歳」が 74.4%、女性の「40～49歳」が 69.5%となっています。

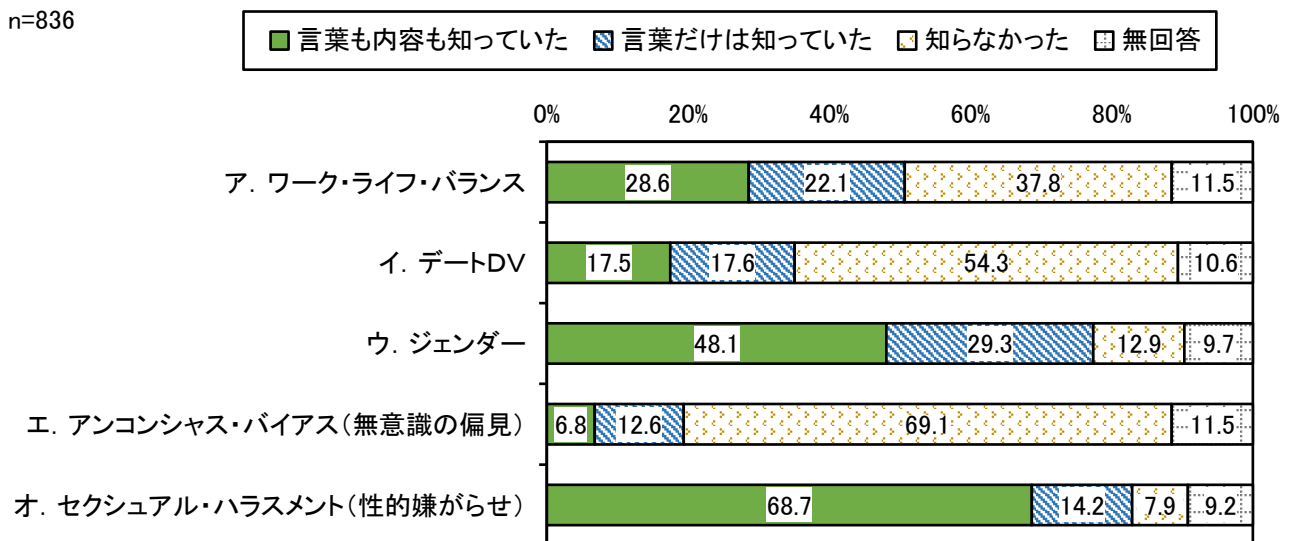
## (6) 男女共同参画社会について

問 45 あなたは、次の用語について知っていましたか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。(ア～オについてそれぞれ〇を1つ)

### ●全体結果

男女共同参画社会に関する用語について、設問全体では、「言葉も内容も知っていた」が最も高いのは「オ. セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)」(68.7%)、「言葉だけは知っていた」が最も高いのは「ウ. ジェンダー」(29.3%)、「知らなかった」が最も高いのは「エ. アンコンシャス・バイアス (無意識の偏見)」(69.1%) となっています。

n=836



### ☆ワーク・ライフ・バランスとは・・・

やりがいや充実感を感じながら働くとともに、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現でき、子育て、介護、自分自身の時間なども充実できることです。実現のためには、働き方などを見直していく必要があります。

### ☆デートDVとは・・・

特に交際中の相手から受ける暴力のことで、高校生、大学生など若年層の間にも被害が及んでいます。メールを頻繁に送るなど恋人を監視、束縛する行為もデートDVです。

### ☆ジェンダーとは・・・

生物学的な性別に対し、社会的・文化的につくられる性別のことで、男らしさ、女らしさといった言葉で表現されるものです。

### ☆アンコンシャス・バイアスとは・・・

人が無意識に持っている偏見や思い込みのことです。過去の経験や知識・価値観、信念に基づいて、何気ない言葉や行動として現れます。

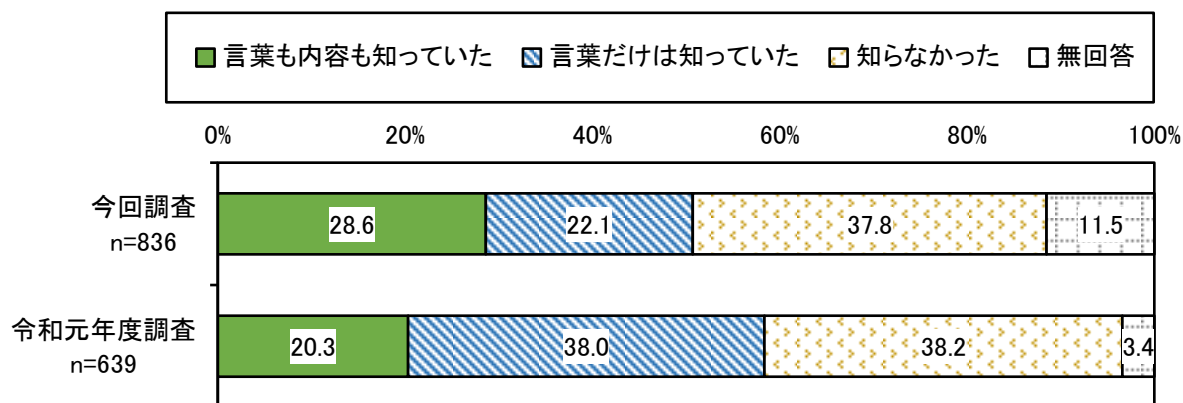
### ☆セクシュアル・ハラスメント (セクハラ) とは・・・

相手の意に反する性的言動によって、働くうえで不利益をこうむったり、性的な言動によって就業環境が妨げられることを言います。セクハラは男性から女性に行われるものに限らず、女性から女性、女性から男性、男性から男性に対して行われるものも対象になります。



## ア. ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス」という用語について、全体では「知らなかった」が 37.8%、「言葉も内容も知っていた」が 28.6%、「言葉だけは知っていた」が 22.1%となっています。今回調査と令和元年度調査を比較すると、「言葉も内容も知っていた」が増加傾向にあります。



(%)

	有効回答数 (件)	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった	無回答	
全体	836	28.6	22.1	37.8	11.5	
女性	460	27.4	22.2	39.8	10.7	
男性	313	31.6	21.7	35.8	10.9	
答えたくない	15	33.3	26.7	33.3	6.7	
女性	18～29歳	43	67.4	14.0	14.0	4.7
	30～39歳	36	55.6	25.0	16.7	2.8
	40～49歳	59	40.7	23.7	33.9	1.7
	50～59歳	93	20.4	30.1	43.0	6.5
	60～69歳	84	26.2	20.2	40.5	13.1
	70歳以上	145	8.3	19.3	53.1	19.3
男性	18～29歳	23	43.5	8.7	43.5	4.3
	30～39歳	24	45.8	16.7	33.3	4.2
	40～49歳	38	44.7	23.7	31.6	0.0
	50～59歳	67	38.8	26.9	23.9	10.4
	60～69歳	59	32.2	28.8	30.5	8.5
	70歳以上	101	15.8	16.8	47.5	19.8

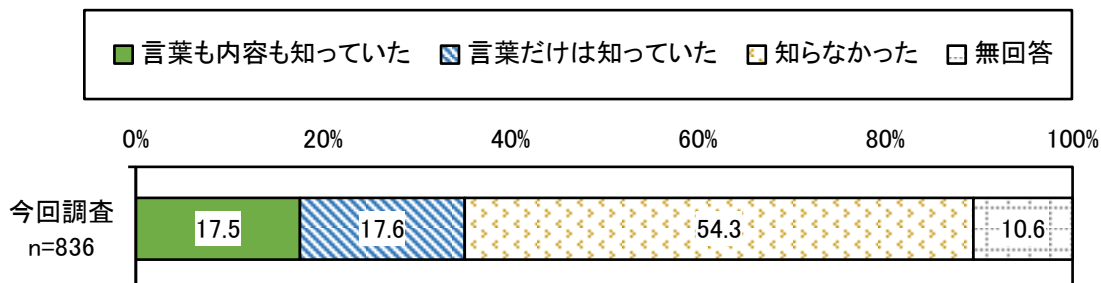
性別にみると「言葉も内容も知っていた」は、男性の方が女性より 4.2 ポイント高く、「知らなかった」は、女性の方が男性より 4.0 ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「知らなかった」は、女性の「70歳以上」が 53.1%と最も高く、次いで男性の「70歳以上」が 47.5%、男性の「18～29歳」が 43.5%となっています。

「言葉も内容も知っていた」は、女性の「18～29歳」が 67.4%と最も高く、次いで女性の「30～39歳」が 55.6%、男性の「30～39歳」が 45.8%となっています。

## イ. デートDV

「デートDV」という用語について、全体では「知らなかった」が54.3%、「言葉だけは知っていた」が17.6%、「言葉も内容も知っていた」が17.5%となっています。



		有効回答数 (件)	言葉も内容も知っていた (%)	言葉だけは知っていた (%)	知らなかった (%)	無回答 (%)
全体		836	17.5	17.6	54.3	10.6
女性		460	22.0	19.3	48.7	10.0
男性		313	12.8	15.7	61.7	9.9
答えたくない		15	13.3	20.0	60.0	6.7
女性	18~29歳	43	39.5	11.6	44.2	4.7
	30~39歳	36	30.6	19.4	47.2	2.8
	40~49歳	59	28.8	16.9	52.5	1.7
	50~59歳	93	22.6	26.9	44.1	6.5
	60~69歳	84	20.2	15.5	52.4	11.9
	70歳以上	145	12.4	20.0	49.7	17.9
男性	18~29歳	23	8.7	21.7	65.2	4.3
	30~39歳	24	12.5	25.0	62.5	0.0
	40~49歳	38	5.3	10.5	84.2	0.0
	50~59歳	67	13.4	4.5	71.6	10.4
	60~69歳	59	25.4	13.6	54.2	6.8
	70歳以上	101	8.9	21.8	50.5	18.8

性別にみると「知らなかった」は、男性の方が女性より13.0ポイント高く、「言葉も内容も知っていた」は、女性の方が男性より9.2ポイント高くなっています。

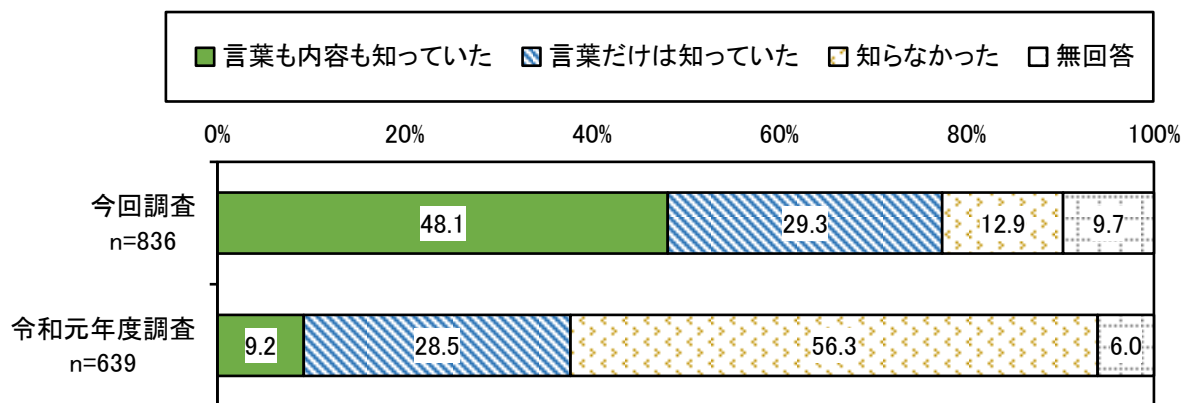
性年齢別にみると、「知らなかった」は、男性の「40~49歳」が84.2%と最も高く、次いで男性の「50~59歳」が71.6%、男性の「18~29歳」が65.2%となっています。

「言葉も内容も知っていた」は、女性の「18~29歳」が39.5%と最も高く、次いで女性の「30~39歳」が30.6%、女性の「40~49歳」が28.8%となっています。

### ウ. ジェンダー

「ジェンダー」という用語について、全体では「言葉も内容も知っていた」が48.1%、「言葉だけは知っていた」が29.3%、「知らなかった」が12.9%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「言葉も内容も知っていた」が増加傾向にあります。



(%)

	有効回答数 (件)	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった	無回答	
全体	836	48.1	29.3	12.9	9.7	
女性	460	52.8	27.2	11.1	8.9	
男性	313	45.7	30.7	14.4	9.3	
答えたくない	15	40.0	40.0	13.3	6.7	
女性	18～29歳	43	76.7	18.6	2.3	2.3
	30～39歳	36	69.4	22.2	5.6	2.8
	40～49歳	59	76.3	16.9	5.1	1.7
	50～59歳	93	62.4	25.8	7.5	4.3
	60～69歳	84	53.6	27.4	7.1	11.9
	70歳以上	145	25.5	35.9	22.1	16.6
男性	18～29歳	23	60.9	17.4	17.4	4.3
	30～39歳	24	62.5	25.0	8.3	4.2
	40～49歳	38	60.5	34.2	5.3	0.0
	50～59歳	67	49.3	34.3	6.0	10.4
	60～69歳	59	52.5	30.5	10.2	6.8
	70歳以上	101	26.7	30.7	26.7	15.8

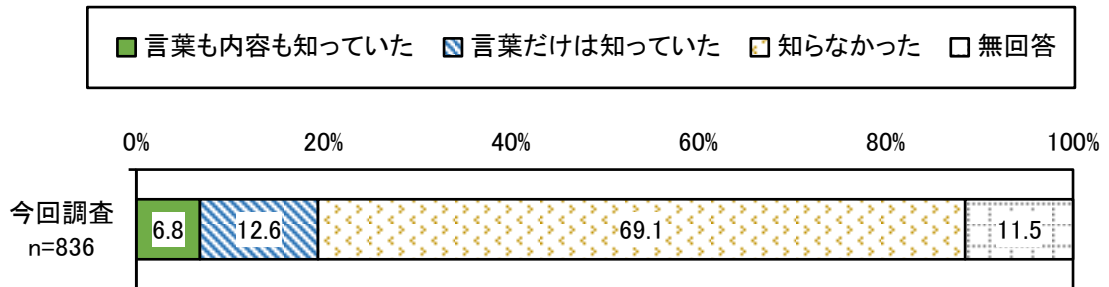
性別にみると「言葉だけは知っていた」は、男性の方が女性より3.5ポイント高く、「言葉も内容も知っていた」は、女性の方が男性より7.1ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「言葉も内容も知っていた」は、女性の「18～29歳」が76.7%と最も高く、次いで女性の「40～49歳」が76.3%、女性の「30～39歳」が69.4%となっています。

「知らなかった」は、男性の「70歳以上」が26.7%と最も高く、次いで女性の「70歳以上」が22.1%、男性の「18～29歳」が17.4%となっています。

## エ. アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）

「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」という用語について、全体では「知らなかった」が 69.1%、「言葉だけは知っていた」が 12.6%、「言葉も内容も知っていた」が 6.8%となっています。



(%)

		有効回答数 (件)	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった	無回答
全体		836	6.8	12.6	69.1	11.5
女性		460	5.7	14.1	69.3	10.9
男性		313	8.6	10.5	70.0	10.9
答えたくない		15	6.7	20.0	66.7	6.7
女性	18～29歳	43	11.6	18.6	65.1	4.7
	30～39歳	36	19.4	16.7	61.1	2.8
	40～49歳	59	8.5	15.3	74.6	1.7
	50～59歳	93	1.1	14.0	78.5	6.5
	60～69歳	84	4.8	10.7	72.6	11.9
	70歳以上	145	2.8	13.8	62.8	20.7
男性	18～29歳	23	8.7	17.4	69.6	4.3
	30～39歳	24	8.3	16.7	70.8	4.2
	40～49歳	38	15.8	5.3	78.9	0.0
	50～59歳	67	14.9	10.4	64.2	10.4
	60～69歳	59	6.8	15.3	69.5	8.5
	70歳以上	101	3.0	6.9	70.3	19.8

性別にみると「言葉も内容も知っていた」は、男性の方が女性より 2.9 ポイント高く、「言葉だけは知っていた」は、女性の方が男性より 3.6 ポイント高くなっています。

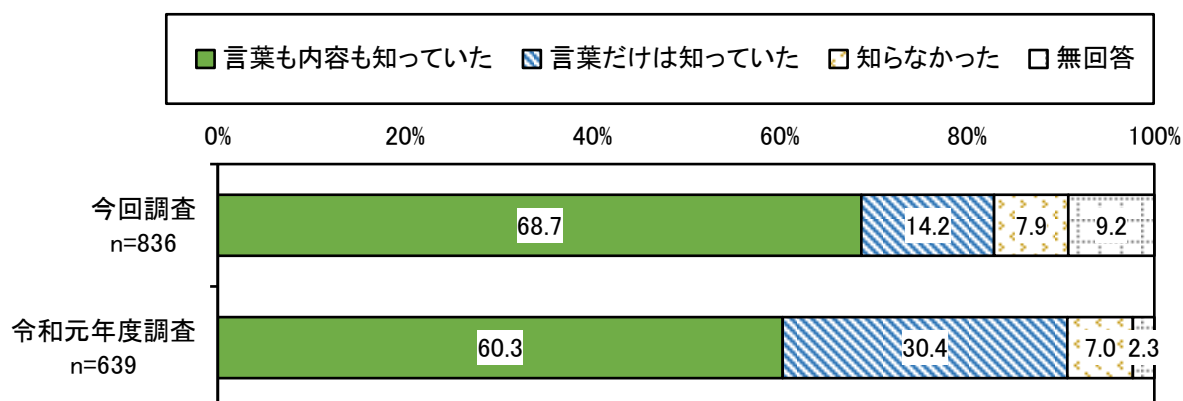
性年齢別にみると、「知らなかった」は、男性の「40～49歳」が 78.9%と最も高く、次いで女性の「50～59歳」が 78.5%、女性の「40～49歳」が 74.6%となっています。

「言葉も内容も知っていた」は、女性の「30～39歳」が 19.4%と最も高く、次いで男性の「40～49歳」が 15.8%、男性の「50～59歳」が 14.9%となっています。

オ. セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）

「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」という用語について、全体では「言葉も内容も知っていた」が 68.7%、「言葉だけは知っていた」が 14.2%、「知らなかった」が 7.9%となっています。

今回調査と令和元年度調査を比較すると、「言葉も内容も知っていた」が増加傾向にあります。



(%)

	有効回答数（件）	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった	無回答	
全体	836	68.7	14.2	7.9	9.2	
女性	460	72.2	13.0	6.7	8.0	
男性	313	67.7	14.1	8.6	9.6	
答えたくない	15	53.3	26.7	13.3	6.7	
女性	18～29歳	43	88.4	4.7	2.3	4.7
	30～39歳	36	88.9	2.8	5.6	2.8
	40～49歳	59	93.2	1.7	3.4	1.7
	50～59歳	93	80.6	10.8	4.3	4.3
	60～69歳	84	82.1	8.3	0.0	9.5
	70歳以上	145	43.4	26.9	15.2	14.5
男性	18～29歳	23	73.9	8.7	13.0	4.3
	30～39歳	24	70.8	16.7	12.5	0.0
	40～49歳	38	84.2	10.5	5.3	0.0
	50～59歳	67	77.6	10.4	1.5	10.4
	60～69歳	59	71.2	18.6	3.4	6.8
	70歳以上	101	50.5	15.8	15.8	17.8

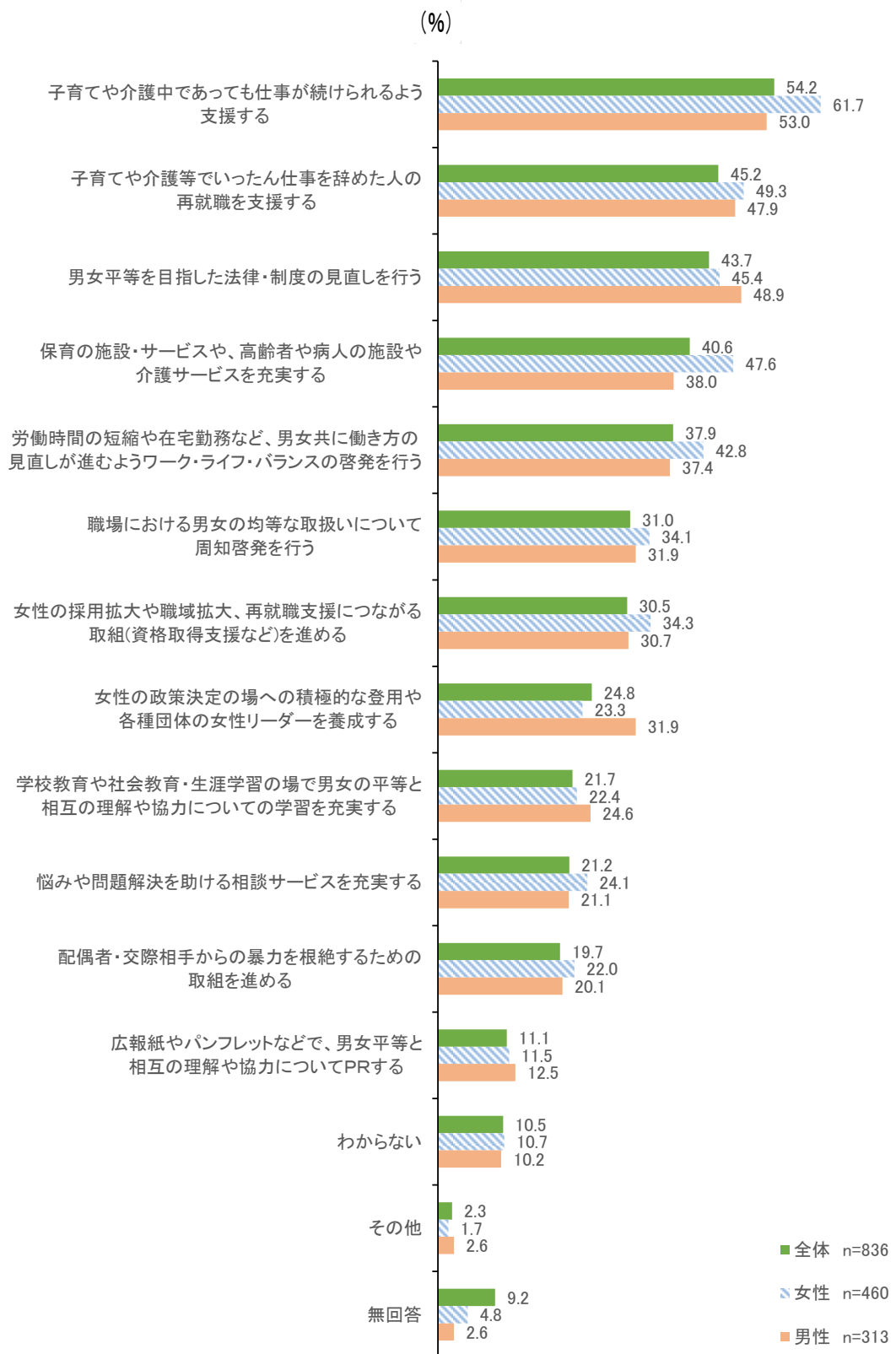
性別にみると「知らなかった」は、男性の方が女性より 1.9 ポイント高く、「言葉も内容も知っていた」は、女性の方が男性より 4.5 ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「言葉も内容も知っていた」は、女性の「40～49歳」が 93.2%と最も高く、次いで女性の「30～39歳」が 88.9%、女性の「18～29歳」が 88.4%となっています。

「知らなかった」は、男性の「70歳以上」が 15.8%と最も高く、次いで女性の「70歳以上」が 15.2%、男性の「18～29歳」が 13.0%となっています。

問 46 男女共同参画社会の実現のために、行政(国・県・市)は特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)





	有効回答数（件）	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働きやすい環境を整える
全体	836	54.2	45.2	43.7	40.6	37.9	31.0	30.5	24.8	21.7	21.2	19.7	11.1	10.5	2.3	9.2	
女性	460	61.7	49.3	45.4	47.6	42.8	34.1	34.3	23.3	22.4	24.1	22.0	11.5	10.7	1.7	4.8	
男性	313	53.0	47.9	48.9	38.0	37.4	31.9	30.7	31.9	24.6	21.1	20.1	12.5	10.2	2.6	2.6	
答えたくない	15	13.3	0.0	6.7	6.7	13.3	13.3	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0	46.7	6.7	
女性	18～29歳	43	72.1	60.5	51.2	46.5	58.1	37.2	44.2	18.6	30.2	27.9	41.9	11.6	7.0	7.0	2.3
	30～39歳	36	77.8	58.3	52.8	61.1	63.9	52.8	61.1	38.9	50.0	30.6	25.0	8.3	8.3	2.8	0.0
	40～49歳	59	62.7	55.9	45.8	47.5	49.2	30.5	33.9	30.5	30.5	27.1	27.1	11.9	11.9	5.1	1.7
	50～59歳	93	63.4	51.6	40.9	49.5	38.7	29.0	40.9	24.7	15.1	17.2	17.2	8.6	10.8	0.0	2.2
	60～69歳	84	67.9	45.2	47.6	57.1	38.1	35.7	26.2	20.2	17.9	22.6	25.0	13.1	4.8	0.0	3.6
	70歳以上	145	49.7	42.1	43.4	37.9	35.9	32.4	25.5	18.6	17.2	25.5	14.5	13.1	15.2	0.7	10.3
男性	18～29歳	23	60.9	60.9	56.5	39.1	52.2	30.4	43.5	26.1	34.8	34.8	34.8	21.7	8.7	0.0	0.0
	30～39歳	24	50.0	37.5	50.0	25.0	29.2	29.2	20.8	20.8	33.3	29.2	20.8	12.5	8.3	4.2	0.0
	40～49歳	38	55.3	52.6	52.6	39.5	31.6	13.2	34.2	39.5	15.8	15.8	18.4	5.3	7.9	2.6	0.0
	50～59歳	67	52.2	40.3	44.8	40.3	38.8	34.3	22.4	25.4	25.4	13.4	16.4	9.0	16.4	3.0	3.0
	60～69歳	59	54.2	50.8	55.9	30.5	39.0	35.6	33.9	28.8	27.1	25.4	22.0	18.6	5.1	1.7	0.0
	70歳以上	101	51.5	49.5	44.6	42.6	35.6	36.6	32.7	39.6	21.8	20.8	18.8	11.9	10.9	3.0	5.9

※令和元年度調査は「○は5つまで」の設問となっている。

男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れたほうがいいと思うことについて、全体では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が54.2%と最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が45.2%、「男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」が43.7%となっています。

性別にみると、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」は女性の方が男性より8.7ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」は、女性の「30～39歳」が77.8%と最も高く、次いで女性の「18～29歳」が72.1%、女性の「60～69歳」が67.9%となっています。



### 3 自由意見のまとめ

自由意見を内容別に集計しました。

項目	意見	件数 (件)
人権意識に関する意見 (47 件)	人権意識を高めること	15
	現代社会での問題や不安	10
	いたわり合う心の必要性	4
	行き過ぎた人権意識による逆差別	5
	考えと行動の不一致	1
	正しい知識の取得や理解の促進	6
	アンコンシャス・バイアスの存在	1
	行政・施策への要望	5
こどもの人権に関する意見 (5 件)	虐待に関すること	3
	こどもの人権保護対策、法律の重要性	1
	学校環境の改善	1
高齢者の人権に関する意見 (8 件)	独居老人対策	1
	ことばの暴力	1
	行政・施策への要望	6
障がいのある人の人権に関する意見 (3 件)	行政・施策への要望	3
外国人の人権に関する意見 (4 件)	差別の問題	1
	多文化共生の推進	1
	行政・施策への要望	2
部落差別 (同和問題) に関する意見 (11 件)	行政・施策への要望	4
	同和問題の正しい認識の重要性	7
性的少数者に関する意見 (3 件)	行政・施策への要望	3
人権尊重の取組及び啓発活動への参加、認知に関する意見 (13 件)	一人ひとりの意識向上	9
	学校での人権教育の重要性	3
	人権啓発に関するイベントの実施	1
家庭生活などに関する意見 (2 件)	男性の家事参加	2
女性が働くことに関する意見 (12 件)	企業における女性差別	1
	女性も男性も働きやすい職場環境の創出	5
	職場における女性の待遇向上	4
	妊娠・出産によるキャリアの中断	1
	こどものサポート	1

項目	意見	件数 (件)
子育て、介護などに関する意見 (3 件)	行政・施策への要望	3
男女の平等に関する意見 (7 件)	男女の本質的平等の実現	7
ドメスティック・バイオレンスに関する意見 (1 件)	行政・施策への要望	1
男女共同参画社会に関する意見 (2 件)	男女相互理解の重要性	1
	社会・政治への要望	1
その他の意見 (81 件)	行政・施策への要望	16
	社会・政治への要望	3
	男性の人権について	1
	職場における扱い (年齢等)	1
	地域、隣近所とのつながり強化	1
	意識調査に関する意見	19
	その他	40
合計		202

※1つの回答に複数の意見があった場合は、それぞれ別の意見として計上している

## Ⅲ調査票

### 令和6年度 人権・男女共同参画に関する市民意識調査

#### 《 人権に関する質問 》

日本国憲法では、社会的身分・家柄によって差別されない権利、職業を自由に選ぶ権利、教育を受ける権利等を人権として保障しています。

この人権に関して、あなたが日頃感じていること、考えていることをお答えください。

#### ※津島市人権施策推進プラン 2030

津島市では、第5次津島市総合計画及び平成30年4月制定の「津島市人権が尊重されるまちづくり条例」において、あらゆる偏見や差別を解消し、人権が尊重されるまちづくりを推進するため、部落差別（同和問題）をはじめ、あらゆる差別を解消し、全ての人の人権が尊重されるまちの実現を目指すこととしています。

市では、さまざまな人権施策を推進するとともに、人権施策の総合的・効果的な推進を図るため、令和3年3月に「津島市人権施策推進プラン 2030」を策定し、計画期間を令和3年度から令和12年度までの10年間として各人権施策事業に取り組んでいます。

#### ◇ 人権意識について

問1 今の日本は基本的な人権が尊重されている社会だと思いますか。（○は1つ）

- |         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 1. そう思う | 2. そう思わない | 3. わからない |
|---------|-----------|----------|

問2 人権についてあなたの考えに近いものはどれですか。（○は1つ）

- |                   |
|-------------------|
| 1. 非常に重要である       |
| 2. どちらかといえば重要である  |
| 3. どちらでもない        |
| 4. どちらかといえば重要ではない |
| 5. 重要でない          |
| 6. わからない          |

問3 日本社会における人権侵害や差別は、10年前（平成26年）に比べてどのようになってきていると思いますか。（○は1つ）

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 減ってきている | 2. あまり変わらない |
| 3. 増えてきている | 4. わからない    |

問 4 この 10 年ほどの間に、自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(○は 1 つ)

1. ある →問 4-1 へすすむ	2. ない	3. わからない
-------------------	-------	----------

問 4-1 問 4 で「1. ある」と答えた方にお聞きます。自分の人権を侵害されたと思ったのは、特にどんな場合であったかお聞かせください。(○はいくつでも)

1. あらぬうわさや悪口、落書き、インターネット情報などで名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された
2. 人種、国籍、民族、信条、年齢、性別、性的指向、性自認、社会的身分、門地、障がい、疾病等を理由に差別された
3. 地域や職場などにおいて仲間はずれやいじめなど不当な扱いを受けた
4. 学校において体罰やいじめなど不当な扱いを受けた
5. 家庭などで、虐待やドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）を受けるなど不当な扱いを受けた
6. 役所や医療機関、福祉施設などで不当な扱いを受けた
7. プライバシー（個人情報）を侵害された
8. セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）やストーカー（つきまとい）行為を受けた
9. その他（具体的に

### セクシュアリティ（性のカチ）を構成する要素とは

性には、複数の要素があると言われていいます。各要素の組み合わせは様々であり、一人ひとりの性のあり方は多様です。

**性 自 認**：自分自身の性別をどのように認識しているかという要素

**性的指向**：どのような性別の人を恋愛・性的対象とするかという要素

**生物学的性**：身体的構造の性。多くの場合、生まれ持った外性器・内性器などにより判断される。戸籍上の性別はこの要素により出生時に割り当てられる。

**性 表 現**：服や仕草、言葉遣い等をどのように表現するのかという要素

問5 人権にかかわる問題として、特に重要な問題は、どれだと思いますか。(〇はいくつでも)

- |  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 女性の人権                                       | 2. こどもの人権            |
| 3. 高齢者の人権                                      | 4. 障がいのある人の人権        |
| 5. 部落差別(同和問題)                                  | 6. 外国人の人権(ヘイトスピーチなど) |
| 7. エイズ患者及びHIV(エイズウイルス)感染者の人権                   |                      |
| 8. ハンセン病回復者等の人権                                | 9. 刑を終えて出所した人の人権     |
| 10. 犯罪被害者とその家族の人権                              |                      |
| 11. インターネット(パソコンや携帯電話(スマートフォン))による人権侵害         |                      |
| 12. ホームレスの人権                                   |                      |
| 13. トランスジェンダー(出生時に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人)にかかる人権 |                      |
| 14. 性的指向(異性愛、同性愛、両性愛等)にかかる人権                   |                      |
| 15. 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害                       |                      |
| 16. 職場における人権                                   | 17. 災害時における人権        |
| 18. その他(具体的に                                   | )                    |
| 19. 特にない                                       | 20. わからない            |

### ◇ 女性の人権について

問6 女性の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- |                                      |           |
|--------------------------------------|-----------|
| 1. 固定的な性別役割分担意識(男は仕事、女は家庭など)         |           |
| 2. 職場における差別待遇(採用、昇格、賃金など)            |           |
| 3. セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)             |           |
| 4. 結婚・出産などにより女性が仕事を続けにくい社会環境         |           |
| 5. ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力)    |           |
| 6. 家庭や職場、地域などで女性の意見が尊重されないこと         |           |
| 7. アダルトビデオやポルノ雑誌など、女性を性的対象物ととらえる社会風潮 |           |
| 8. 性犯罪や売春・買春                         |           |
| 9. ストーカー行為(特定の人にしつこくつきまとわれることなど)     |           |
| 10. その他(具体的に                         | )         |
| 11. 特にない                             | 12. わからない |

### ◇ こどもの人権について

問7 こどもの人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。(○はいくつでも)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 保護者によるこどもへの暴力や育児放棄（ネグレクト）などの虐待        |           |
| 2. 大人がこどもの意見を聞かず自分の意見をこどもに強制すること         |           |
| 3. 大人が「こどもだから」という理由で、こどものプライバシーを尊重しないこと  |           |
| 4. こどもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ               |           |
| 5. インターネット（パソコンや携帯電話（スマートフォン））を使ってのいじめ   |           |
| 6. 教師・保育士等による言葉の暴力や体罰                    |           |
| 7. 暴力や性など、こどもにとっての有害な情報が出回ること            |           |
| 8. 児童売春・児童ポルノ等の対象となること                   |           |
| 9. 貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかったりすること |           |
| 10. ヤングケアラー（家事や家族の世話などを日常的に行っているこども）の問題  |           |
| 11. その他（具体的に                             | ）         |
| 12. 特にない                                 | 13. わからない |

### ◇ 高齢者の人権について

問8 高齢者の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。(○はいくつでも)

- |   |          |
|---|----------|
| 1. 収入が少なく、経済的に自立できないこと                    |          |
| 2. 自分の能力を発揮する機会が少ないこと                     |          |
| 3. 高齢者の意見や行動が尊重されないこと                     |          |
| 4. 様々な生活の場面（病院や福祉施設等）で不当な扱いや嫌がらせ、虐待を受けること |          |
| 5. 交通機関などがバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること   |          |
| 6. 賃貸住宅等への入居が困難なこと                        |          |
| 7. その他（具体的に                               | ）        |
| 8. 特にない                                   | 9. わからない |

### ◇ 障がいのある人の人権について

問 9 障がいのある人の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
(○はいくつでも)

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. 結婚について周囲が反対すること                        |           |
| 2. 収入が少なく、経済的に自立できないこと                    |           |
| 3. 就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること               |           |
| 4. 障がいのある人だからという理由で、意見や行動が尊重されないこと        |           |
| 5. 障がいによって、情報の取得や意見の表明が十分にできないこと          |           |
| 6. 交通機関等がバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること    |           |
| 7. 個々の障がいの特性に応じた合理的配慮が受けられないこと            |           |
| 8. 様々な生活の場面（病院や福祉施設等）で不当な扱いや嫌がらせ、虐待を受けること |           |
| 9. 賃貸住宅等への入居が困難なこと                        |           |
| 10. スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと            |           |
| 11. じろじろと見られたり、避けられたりすること                 |           |
| 12. その他（具体的に                              | )         |
| 13. 特にない                                  | 14. わからない |

### ◇ 外国人の人権について

問 10 外国人の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
(○はいくつでも)

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. 地域社会での受入れが十分でないこと                              |           |
| 2. 賃貸住宅等を容易に借りることができないこと                          |           |
| 3. 保健、医療、防災、教育などの生活に必要な情報が十分に手に入りにくいこと            |           |
| 4. 就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること                       |           |
| 5. 学校の受験資格の取扱いや、受入れ体制が十分でないこと                     |           |
| 6. 文化・スポーツ施設、ショッピング施設などで外国語表示がなく、十分なサービスが受けられないこと |           |
| 7. 結婚問題で周囲から反対されること                               |           |
| 8. 国籍による偏見や差別があること                                |           |
| 9. ヘイトスピーチなど、不当な差別的言動を受けること                       |           |
| 10. その他（具体的に                                      | )         |
| 11. 特にない  | 12. わからない |

◇ **エイズ患者・H I V（エイズウイルス）感染者、ハンセン病回復者等の人権について**

問 11 エイズ患者・H I V（エイズウイルス）感染者の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。（○はいくつでも）

- |                       |          |
|-----------------------|----------|
| 1. 就職や職場で不利な取扱いを受けること |          |
| 2. 医療機関で治療や入院を断られること  |          |
| 3. 本人に無断でエイズ検査をされること  |          |
| 4. 偏見により差別的な言動を受けること  |          |
| 5. 賃貸住宅等への入居が困難なこと    |          |
| 6. 結婚について、周囲が反対すること   |          |
| 7. その他（具体的に           | ）        |
| 8. 特にない               | 9. わからない |

問 12 ハンセン病回復者等の人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。（○はいくつでも）

- |                                |          |
|--------------------------------|----------|
| 1. じろじろ見られたり、避けられたりすること        |          |
| 2. ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと |          |
| 3. 偏見により差別的な言動を受けること           |          |
| 4. 賃貸住宅等への入居が困難なこと             |          |
| 5. 旅館、ホテル等において、不当な扱いを受けること     |          |
| 6. 怖い病気といった誤解があること             |          |
| 7. その他（具体的に                    | ）        |
| 8. 特にない                        | 9. わからない |



## ◇ インターネットによる人権侵害について

問 13 インターネット上で、人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。

(○はいくつでも)

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. プライバシーに関する情報を掲載されること                         | 2. 他人を誹謗中傷する表現を掲載すること |
| 3. 差別を助長する表現を掲載すること                             |                       |
| 4. 出会い系サイト・コミュニティサイト・SNSなどが犯罪を誘発する場として利用されていること |                       |
| 5. 捜査対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること                 |                       |
| 6. わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること                  |                       |
| 7. フェイクニュース（真実ではない情報）や誤った情報が拡散されること             |                       |
| 8. その他（具体的に                                     | )                     |
| 9. 特にない   | 10. わからない             |

問 14 インターネット上の誹謗中傷等を防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1. インターネット上の誹謗中傷等を防止するための啓発を充実させる     |
| 2. 学校などにおいて、インターネットの正しい利用に関する教育を充実させる |
| 3. インターネット上の誹謗中傷等に対応する相談機関を充実させる      |
| 4. プロバイダ等に対し、情報の停止・削除を求める             |
| 5. 不当・違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する       |
| 6. 特に必要だと思うことはない                      |
| 7. その他（具体的に                           |
| 8. わからない                              |

問 15 インターネット上で、誹謗中傷等、人権侵害と思われるような投稿やウェブページを発見したとき、

あなたはどのようにしますか。(○は1つ)

- |  |
|--|
| 1. 自分とかがわかりがなければ、特に何も感じない  |
| 2. そのような投稿・ページは、無視する   |
| 3. 自分も同じような内容で書き込みをする  |
| 4. 反対意見を書き込む   |
| 5. プロバイダまたは関係機関（セーフライン <sup>※1</sup> 、インターネット・ホットラインセンター <sup>※2</sup> ）等に知らせる |
| 6. その他（具体的に  |
| 7. 見たことがない   |

※<sup>1</sup>セーフライン… インターネット企業有志による運営により、違法情報や有害な情報の通報を受け付け、国内外のサイトへの削除要請や、警察等への通報を行う。  
(一般社団法人セーフインターネット協会)

※<sup>2</sup>インターネット・ホットラインセンター… 違法情報や自殺誘引等情報、重要犯罪密接関連情報の通報を受けて、ガイドラインに基づいて該当性の判断を行い、警察への情報提供とサイトへの削除依頼を行う。  
(警察庁委託)

### ◇ 職場における人権について

問 16 職場における人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。（○はいくつでも）

1. 長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと
2. 正規雇用と非正規雇用に待遇の差があること
3. 職場内でパワー・ハラスメント（地位や権限を利用したいじめや嫌がらせ）があること
4. 職場内でセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）があること
5. 採用や昇進において本人の適正や能力以外の面で評価されること
6. 退職を勧奨されたり、不当に解雇されたりすること
7. 出産・育児・介護に関して、職場の配慮を受けられないこと
8. 障がいのある人、性的少数者に対して、十分な配慮がされていないこと
9. 国籍の違いにより、就職や職場で不利な扱いを受けること
10. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
11. 特にない
12. わからない

### ◇ 身元調査について

問 17 結婚相手を決めるとき、家柄を問題にすることについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

1. 当然だと思う
2. おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う
3. まちがっているから、なくしていかなければならないと思う

問 18 結婚にあたり、家柄や家族状況を調べる（身元調査、聞き合わせ）について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

1. 当然だと思う
2. おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う
3. まちがっているから、なくしていかなければならないと思う

問 19 企業が採用選考のとき本籍地や家庭環境等を身元調査することについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

1. 当然だと思う
2. おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う
3. まちがっているから、なくしていかなければならないと思う

## ◇ 部落差別（同和問題）について

問 20 あなたは、日本社会に「同和地区」、「被差別部落」などと呼ばれ、差別を受けてきた地区があること、あるいは「部落差別」「部落問題」「同和問題」といわれる問題があることを知っていますか。  
(○は1つ)

1. 知っている →問 21、22 へ進む

2. 知らない →問 23 へ進む

### 部落差別（同和問題）とは

「同和地区」や「被差別部落」と呼ばれる特定の地域の出身者であること等を理由にして、結婚や就職において不利な扱いを受けたり、差別的な言動を受けたりするという日本固有の人権問題です。

平成 28 年（2016 年）には、部落差別のない社会を実現することを目的とした「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されています。

≪問 21 から問 22 までは、問 20 で「1. 知っている」とお答えになった方にお聞きます。≫

問 21 あなたが、部落差別（同和問題）や同和地区について、はじめて知ったきっかけは、何（誰）からですか。(○は1つ)

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 家族から聞いた                 | 2. 親せきの人から聞いた   |
| 3. 近所の人から聞いた               | 4. 学校の友だちから聞いた  |
| 5. 学校の授業で教わった              | 6. 職場の人から聞いた    |
| 7. テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った      |                 |
| 8. 部落差別（同和問題）の集会や研修会などで知った |                 |
| 9. 県や市町村の広報紙や冊子などで知った      | 10. インターネットで知った |
| 11. その他（具体的に               | )               |
| 12. 覚えていない                 |                 |

問 22 部落差別（同和問題）について人権が尊重されていないと思うのは、特にどのようなことですか。  
(○はいくつでも)

- |   |                        |
|---|------------------------|
| 1. 結婚について、周囲から反対されること                       | 2. 就職や職場で、不利な取扱いを受けること |
| 3. 差別的な言動を受けること                             | 4. 差別的な貼り紙や落書きをされること   |
| 5. 結婚や就職において、身元調査をされること                     |                        |
| 6. インターネットに被差別部落を暴く（アウティング）など差別的な情報を掲載されること |                        |
| 7. 家や土地を購入したり、マンションを建設する際に、同和地区かどうか調べられること  |                        |
| 8. その他（具体的に                                 | )                      |
| 9. 特になし                                     | 10. わからない              |

「ここからは全ての方がお答えください。」

問 23 仮に、日ごろ親しくつき合っている隣近所の人が、なにかのことで、同和地区の人であることがわかった場合、あなたはどうしますか。(○は1つ)

- |                               |          |
|-------------------------------|----------|
| 1. これまでと同じように親しくつき合う          |          |
| 2. 表面的にはつき合うが、できるだけつき合いは避けていく |          |
| 3. つき合いはやめてしまう                |          |
| 4. 自分の方が住居を変える                | 5. わからない |

問 24 あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件を避けることがありますか。(○は1つ)

- |  |   |
|--|---|
| 1. 同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件は避けると思う            |   |
| 2. 同和地区にある物件は避けるが、同和地区と同じ小学校区にある物件は避けたいと思う |   |
| 3. いずれにあってもこだわらない                          |   |
| 4. その他(具体的に                                | ) |
| 5. わからない                                   |   |

問 25 **お子さんのいる方にお聞きます。**あなたのお子さんが結婚しようとする相手が同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうしますか。(○は1つ)

- |                                |          |
|--------------------------------|----------|
| 1. こどもの意志を尊重し、親が口を出すべきではない     |          |
| 2. 親としては反対するが、こどもの意志が強ければ仕方がない |          |
| 3. 家族の者や親せきの反対があれば、結婚を認めない     |          |
| 4. 絶対に結婚を認めない                  | 5. わからない |

問 26 **未婚の方にお聞きます。**あなたが同和地区の人と恋愛し、結婚しようとするとき、親や親せきから強い反対を受けたら、あなたはどうしますか。(○は1つ)

- |                                   |          |
|-----------------------------------|----------|
| 1. 自分の意志をつらぬいて結婚する                |          |
| 2. 親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志をつらぬいて結婚する |          |
| 3. 家族の者や親せきの反対があれば、結婚しない          |          |
| 4. 絶対に結婚しない                       | 5. わからない |

問 27 部落差別（同和問題）の解決に対するあなたの考えに最も近いのはどれですか。（○は1つ）

1. これは、同和地区の人だけの問題だから、自分とは直接関係ない問題だと思う
2. 自分ではどうしようもない問題だから、成り行きに任せるより仕方がないと思う
3. 自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人が解決してくれると思う
4. 基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
5. わからない

### ◇ 性的少数者の人権について

問 28 出生時に割り当てられた性別とは異なる性別を生きるトランスジェンダーに関する人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。（○はいくつでも）

1. トランスジェンダーに関する理解が足りないため、世間から好奇又は偏見の目で見られること
2. 学校や職場で、いじめや嫌がらせを受けること
3. 就職や職場で、不利な取扱いを受けること
4. 学校や職場に、トランスジェンダーに対応した設備（トイレ、更衣室など）が整っていないこと
5. 偏見により差別的な言動を受けること
6. 賃貸住宅等への入居が困難なこと
7. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
8. 性自認（自己の性別についての認識）について、本人に無断で他人に伝えられること（アウトティング）
9. その他（具体的に
10. 特にない
11. わからない

### 性的少数者（LGBT等）とSOGI（ソジ・ソギ）

多様な性のあり方の中で、同性愛や両性愛、トランスジェンダーの方等を総称して、性的少数者と表すことがあります。

レズビアン（女性同性愛者）・ゲイ（男性同性愛者）・バイセクシュアル（両性愛者）・トランスジェンダー（出生時に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人）の頭文字をとった「LGBT」は、性的少数者の総称の一つとして使用されている言葉です。

「SOGI」は、性的指向（Sexual Orientation）と性自認（Gender Identity）の頭文字をとった言葉です。性的少数者が持っているというものではなく、誰もが持つ性のあり方を総称する概念です。私たち一人ひとりがそれぞれの「SOGI」をもっています。

問 29 性的指向（異性愛、同性愛、両性愛等）※に関する人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。（〇はいくつでも）

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. 性的指向に関する理解が足りないため、世間から好奇又は偏見の目で見られること                                    |           |
| 2. 学校や職場で、いじめや嫌がらせを受けること  |           |
| 3. 就職や職場で、不利な取扱いを受けること  |           |
| 4. 同性カップルが互いの配偶者とみなされないことにより、社会生活上の様々な不利益（手術等の同意者になれない、生命保険の受取人になれない等）があること |           |
| 5. 偏見により差別的な言動を受けること  |           |
| 6. 賃貸住宅等への入居が困難なこと  |           |
| 7. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること  |           |
| 8. 性的指向について、本人に無断で他人に伝えられること（アウトティング）                                       |           |
| 9. その他（具体的に   | ）         |
| 10. 特にない  | 11. わからない |

※ 性的指向については、2ページの「セクシュアリティ（性のかたち）を構成する要素とは」をご覧ください。

問 30 性的指向及び性自認の多様性に対する理解を深めるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- |   |          |
|---|----------|
| 1. 性的指向及び性自認の多様性に対する理解を増進するための啓発を充実させる  |          |
| 2. 学校等において、性的指向及び性自認の多様性に関する教育を充実させる  |          |
| 3. 性的指向及び性自認に関する相談機関を充実させる  |          |
| 4. 公的機関への申請書やアンケートの性別欄を性自認の多様性に配慮したものにする  |          |
| 5. 公共施設や店舗等のトイレや更衣室等について、性的少数者が利用しやすい環境を整備する                                      |          |
| 6. パートナーシップ宣誓制度（地方自治体が同性のカップルを「婚姻に相当する関係」と認め、自治体独自の証明書を発行する制度）等、同性カップルを公認する制度をつくる |          |
| 7. その他（具体的に   | ）        |
| 8. 特にない   | 9. わからない |



◇ 人権尊重の取組及び啓発活動への参加、認知について

問 31 人権が尊重される社会を実現するには、特にどのような取組が必要だと思いますか。  
(○はいくつでも)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 人権意識を高めるための啓発を充実させる                                     |           |
| 2. 学校などにおいて人権教育を充実させる                                      |           |
| 3. 社会に見られる不合理な格差を解消させるための施策を充実させる                          |           |
| 4. 社会的に弱い立場にある人を救済、支援していく                                  |           |
| 5. 人権にかかわりがある職場に勤める人の人権意識を高める（行政職員、教職員、医療・福祉関係者、警察官、消防士など） |           |
| 6. 人権侵害に対する法的規制を強化する                                       |           |
| 7. 個人個人自らが人権意識を高めるように努める                                   |           |
| 8. 人権課題に対応する相談機関を充実させる                                     |           |
| 9. その他（具体的に  | ）         |
| 10. 特にない   | 11. わからない |

問 32 人権問題について県や市町村などが行っている取組について、あなたが実際に参加したり、見たり、聞いたりしたことがあるものはどれですか。

(1) 津島市人権が尊重されるまちづくり条例 (○は1つ)

- |             |             |         |
|-------------|-------------|---------|
| 1. 内容を知っている | 2. 名前は知っている | 3. 知らない |
|-------------|-------------|---------|

(2) 講演会、研修会、シンポジウム (○は1つ)

- |             |           |              |
|-------------|-----------|--------------|
| 1. よく参加している | 2. 1～2度参加 | 3. 参加したことはない |
|-------------|-----------|--------------|

(3) 啓発イベントや企画展示 (○は1つ)

- |             |           |              |
|-------------|-----------|--------------|
| 1. よく参加している | 2. 1～2度参加 | 3. 参加したことはない |
|-------------|-----------|--------------|

(4) その他 (○はいくつでも)

- |                   |                        |
|-------------------|------------------------|
| 1. 広報紙            | 2. テレビ、ラジオ             |
| 3. パンフレット、冊子等     | 4. 映画、ビデオ              |
| 5. 新聞、雑誌          | 6. 掲示物（ポスターなど）         |
| 7. 交通広告（電車車内広告など） | 8. インターネットのホームページやお知らせ |
| 9. その他（           | ）                      |
|                   | 10. 特にない               |

## 《 男女共同参画に関する質問 》

### ＊男女共同参画社会とは・・・

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参加する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」

(男女共同参画社会基本法第2条より)

### ＊津島市男女共同参画プラン 2030

津島市では、「津島市男女共同参画プラン 2030」を令和3年3月に策定し、「津島市女性活躍推進計画」、「津島市DV基本計画」を兼ねる計画として令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間としています。

令和6年度は、現在の社会情勢を考慮した人権・男女共同参画に関する市民意識調査を実施し、その調査結果を基に津島市人権施策推進プラン及び男女共同参画プラン 2030（改訂版）を策定する予定です。

## ◇ 男女の平等感について

問 33 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(ア～クについてそれぞれ○を1つ)

項目 \ 選択肢	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている どちらかといえば	平等	女性の方が優遇されている どちらかといえば	女性の方が優遇されている	わからない
ア. 家庭生活	1	2	3	4	5	6
イ. 職場	1	2	3	4	5	6
ウ. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
エ. 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
オ. 政治の場	1	2	3	4	5	6
カ. 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
キ. 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
ク. 社会全体として	1	2	3	4	5	6



問 34 「**現在結婚している方（又はパートナーと暮らしている方）**」にお聞きます。あなたの家庭では、次にあげる家事は主に誰が分担していますか。  
 （ア～キおよび子育て、介護中の方のみク・ケについてそれぞれ○を1つ）

項目 \ 選択肢	夫	妻	夫婦	家族全員	その他の人	わからない
ア. 家計の管理	1	2	3	4	5	6
イ. 掃除	1	2	3	4	5	6
ウ. 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
エ. 食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6
オ. 洗濯	1	2	3	4	5	6
カ. 買い物	1	2	3	4	5	6
キ. 自治会・町内会活動	1	2	3	4	5	6
<b>※子育て中、介護中の方はク、ケについてもお答えください。</b>						
ク. 育児、こどもの世話	1	2	3	4	5	6
ケ. 高齢者や病人の介護・世話	1	2	3	4	5	6

### ◇仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問 35 あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域活動・個人の生活<sup>\*</sup>で何を優先しますか。

<sup>\*</sup>家庭生活…家事、育児、介護など      個人の生活…学習、趣味、付き合いなど

(1) まず、あなたの希望にもっとも近いものはどれですか。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域活動・個人の生活」を優先させたい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先させたい
6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先させたい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をすべて優先したい
8. わからない

(2) それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（○は1つ）

- 1. 「仕事」を優先している
- 2. 「家庭生活」を優先している
- 3. 「地域活動・個人の生活」を優先している
- 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している
- 6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している
- 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をすべて優先している
- 8. わからない

問 36 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

- 1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- 3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重する
- 5. 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高める
- 6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める
- 7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心が高めるよう、啓発や情報提供を行う
- 8. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT（情報通信技術）を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 9. 県や市などの講座などにより、男性の家事や子育て、介護などの知識や技術を高める
- 10. 男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）作りを進める
- 11. 仕事と家庭の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設ける
- 12. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
- 13. 特に必要なことはない

◇男女の働き方について

問 37 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。（○は1つ）

- 1. 賛成  問 37-1 へすすむ
- 2. どちらかといえば賛成
- 3. どちらかといえば反対  問 37-2 へすすむ
- 4. 反対
- 5. わからない

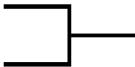
問 37-1 **問 37 で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。**問 37 で、そう思われるのはなぜですか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

1. 男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから
2. 家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから
3. こどもの頃からそうした教育をされているから
4. 男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから
5. 社会全体にそうした風潮があるから
6. その他 (具体的に )

問 37-2 **問 37 で「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方にお聞きします。**問 37 で、そう思われるのはなぜですか。次の中から特にあてはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

1. 男女平等に反すると思うから
2. 自分の両親も働いていたから
3. 夫も妻も働いたほうが多くの収入が得られるから
4. 妻が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
5. 固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから
6. 社会全体にそうした風潮があるから
7. その他 (具体的に )

問 38 男性が育児や介護で休みをとることについて、どのように思いますか。(○は1つ)

1. 積極的にとったほうがよい
  2. どちらかというと、とったほうがよい
  3. どちらかというと、とる必要はない
  4. とる必要はない
  5. わからない
-  **問 38-1 へすすむ**

問 38-1 問 38 で、「3. どちらかという、とる必要はない」「4. とる必要はない」と答えた方にお聞きします。そう思われるのはなぜですか。次の中から特にあてはまると思うものを選んでください。

(○はいくつでも)

- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 1. 職場の理解が得られないから                      |   |
| 2. 昇進や昇給に影響する恐れがあるから                  |   |
| 3. 取得後の職場復帰への不安があるから                  |   |
| 4. 仕事の量や責任が大きいため                      |   |
| 5. 休業補償が十分でなく、家計に影響するから               |   |
| 6. 女性のほうが育児・介護に向いているから                |   |
| 7. 男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔する」などの気持ちがあるから |   |
| 8. その他（具体的に                           | ) |
| 9. わからない                              |   |

問 39 女性が仕事をする事について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

- |  |   |
|--|---|
| 1. 女性は仕事をしない方がよい                           |   |
| 2. 結婚するまでは仕事をするのがよい                        |   |
| 3. こどもができるまでは仕事をするのがよい                     |   |
| 4. こどもができたなら産休・育休・時短勤務などを利用して仕事をずっと続けるのがよい |   |
| 5. 子育てを機に退職し、こどもが育ったらフルタイムの仕事に就くのがよい       |   |
| 6. 子育てを機に退職し、こどもが育ったらパートタイムの仕事に就くのがよい      |   |
| 7. その他（具体的に                                | ) |
| 8. わからない                                   |   |

問 40 働くことを希望する女性が働き続けるために、家庭、仕事、地域などで特に必要と思うことについて、選んでください。(○はいくつでも)

- |  |   |
|--|---|
| 1. 保育園や児童クラブなど、こどもを預けられる環境の整備          |   |
| 2. 介護サービスの充実                           |   |
| 3. 家事・育児などの支援サービス                      |   |
| 4. 男性の家事などへの参加                         |   |
| 5. 男性が時短勤務及び育児休業などの制度を利用できる職場環境        |   |
| 6. 女性が働き続けることへの理解や意識改革                 |   |
| 7. 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革              |   |
| 8. 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入                 |   |
| 9. 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などの不利益な取扱いの禁止 |   |
| 10. 育児や介護を両立できる職場支援                    |   |
| 11. その他（具体的に                           | ) |
| 12. わからない                              |   |

## ◇配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)について

問 41 あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)に関する次のことについて知っていますか。  
(○はいくつでも)

1. 配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と呼ぶこと
2. DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的暴力・性的暴力なども含まれること
3. DV被害者を支援するために、法律「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」が制定されていること
4. 県が設置している配偶者暴力相談支援センター(愛知県女性相談支援センター)において、相談や被害者の一時保護を行っていること
5. DVを受けている者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センター(愛知県女性相談支援センター)または警察に通報するよう努めなければならないこと
6. その他(具体的に )
7. 知らない

問 42 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 1. 知っている→問 42-1 へ進む | 2. 知らない |
|---------------------|---------|

問 42-1 問 42 で「1. 知っている」と答えた方にお聞きます。相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。(○はいくつでも)

1. 配偶者暴力相談支援センター(愛知県女性相談支援センター)
2. 津島市の相談窓口
3. 警察
4. 法務局、人権擁護委員、法テラス(日本司法支援センター)
5. 民間の団体や機関(民間シェルター、弁護士会など)
6. その他( )

### \*DV(ドメスティック・バイオレンス)とは・・・

配偶者や恋人などのパートナーから暴力を受けることをいいます。身体的暴力に限らず、精神的、経済的、性的等、あらゆる形の暴力が含まれます。特に恋人から暴力を受けることを「デートDV」といいます。

### ◇こどもへの男女共同参画教育について

問 43 子育ての方針について、どのように考えますか。次の中からあてはまるものを選んでください。  
(○は1つ)

1. 男の子らしさ、女の子らしさとらわれず、個性(その子らしさ)を尊重するのがよい
2. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい
3. その他(具体的に )
4. わからない

問 44 男女平等の人間関係をつくるために学校教育の場で特に必要と思うものを次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する
2. 男女の性の違いについての学習を充実する
3. L G B T等性的少数者(性の多様性)に関する学習を充実する
4. 進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する
5. 教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する
6. 管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく
7. 学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす
8. その他(具体的に )
9. わからない

## ◇男女共同参画社会について

問 45 あなたは、次の用語について知っていましたか。ア～オのそれぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。（ア～オについてそれぞれ○を1つ）

項目	選択肢	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった
ア. ワーク・ライフ・バランス		1	2	3
イ. デートDV		1	2	3
ウ. ジェンダー		1	2	3
エ. アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）		1	2	3
オ. セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）		1	2	3

### ＊ワーク・ライフ・バランスとは・・・

やりがいや充実感を感じながら働くとともに、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現でき、子育て、介護、自分自身の時間なども充実できることです。実現のためには、働き方などを見直していく必要があります。

### ＊デートDVとは・・・

特に交際中の相手から受ける暴力のことで、高校生、大学生など若年層の間にも被害が及んでいます。メールを頻繁に送るなど恋人を監視、束縛する行為もデートDVです。

### ＊ジェンダーとは・・・

生物学的な性別に対し、社会的・文化的につくられる性別のことで、男らしさ、女らしさといった言葉で表現されるものです。

### ＊アンコンシャス・バイアスとは・・・

人が無意識に持っている偏見や思い込みのことです。過去の経験や知識・価値観、信念に基づいて、何気ない言葉や行動として現れます。

### ＊セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）とは・・・

相手の意に反する性的言動によって、働くうえで不利益をこうむったり、性的な言動によって就業環境が妨げられることを言います。セクハラは男性から女性に行われるものに限らず、女性から女性、女性から男性、男性から男性に対して行われるものも対象になります。

問 46 男女共同参画社会の実現のために、行政(国・県・市)は特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

1. 男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う
2. 女性の政策決定の場への積極的な登用や各種団体の女性リーダーを養成する
3. 職場における男女の均等な取扱いについて周知啓発を行う
4. 女性の採用拡大や職域拡大、再就職支援につながる取組(資格取得支援など)を進める
5. 労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働き方の見直しが進むようワーク・ライフ・バランスの啓発を行う
6. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
7. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
8. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
9. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
10. 悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する
11. 配偶者・交際相手からの暴力を根絶するための取組を進める
12. 広報紙やパンフレットなどで、男女平等と相互の理解や協力について P R する
13. その他(具体的に )
14. わからない



《 回答を統計的に分析するために、あなた自身のことについてお聞かせください。 》

A あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 女性	2. 男性	3. その他	4. 答えたくない
-------	-------	--------	-----------

B あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

1. 18～19歳	2. 20～29歳	3. 30～39歳	4. 40～49歳
5. 50～59歳	6. 60～69歳	7. 70歳以上	

C あなたが現在住んでいるところの中学校区を教えてください。(○は1つ)

1. 天王中学校区	2. 藤浪中学校区	3. 神守中学校区
4. 暁中学校区	5. わからない方は町名 ( )	

D あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

1. 自営業	2. 公務員
3. 教員	4. 民間企業・団体の経営者、役員
5. 民間企業・団体の勤め人 (従業員 100 人未満)	6. 民間企業・団体の勤め人 (従業員 100 人以上)
7. 臨時雇、パート、アルバイト	8. その他の有業者
9. 家事専業	10. 学生
11. 無職 (求職中や定年後を含む)	12. その他 ( )

E あなたは配偶者またはパートナーはいますか。(○は1つ)

1. いる (事実婚や別居中を含む) →問 E-1、2へ進む	2. いない (死別や離婚を含む)
--------------------------------	-------------------

E-1 Eの質問で「1. いる (事実婚や別居中を含む)」と答えた方にお聞きます

あなたと配偶者またはパートナーの方は、共働きをしていますか。(○は1つ)

1. 共働きをしている (2人とも正社員)	2. 共働きをしている (一方が正社員)
3. 共働きをしている (2人とも正社員ではない)	4. 共働きをしていない

E-2 Eの質問で「1. いる (事実婚や別居中を含む)」と答えた方にお聞きます

お子さんはいらっしゃいますか。また、子育て中ですか。(○は1つ)

1. こどもがおり、子育て中である	2. こどもはいるが、子育て中ではない
3. こどもはいない	



## 人権・男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書

---

(発行日) 令和6年12月

(発行) 津島市

(編集) 市民生活部人権推進課

〒496-8686 津島市立込町2丁目21番地

電話 (0567) 24-1111 (代表)

URL <https://www.city.tsushima.lg.jp/>